

上尾市子どもの生活実態調査 結果報告書

令和3年12月

上 尾 市

目 次

第1部 アンケート調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	3
2. 調査対象及び調査方法・調査期間	3
3. 回収状況	3
4. 調査項目	4
5. 生活困難度の判定について	4
6. 報告書の記載上の留意点	6

第2章 調査の結果

I 保護者調査

1. 世帯のことについて	7
(1) 子どもの年齢	7
(2) 回答者の続柄	8
(3) 家族構成	9
(4) 居住形態	10
(5) 世帯人数	11
(6) 世帯の子どもの人数	12
(7) 親の婚姻状況	13
(8) 養育費の取り決めについて	14
(9) 居住地区	15
(10) 家庭における使用言語	16
2. 親の経歴と仕事について	17
(1) 親の最終学歴	17
(2) 親の就労状況	19
(3) 親の働いていない理由	21
(4) 日中以外の勤務時間	23
3. 現在の暮らしについて	25
(1) 世帯の年間収入	25
(2) 現在の暮らしの状況	27
(3) お金が足りなくて食料が買えなかった経験	28
(4) お金が足りなくて衣服が買えなかった経験	29

(5) フードパントリーの利用意向	30
(6) 公共料金等の未払い経験について	31
(7) 毎月の子どもにかかる費用額	37
(8) 習い事や塾に通わせることができなかった経験	39
(9) 教育費の準備	39
4. 子育て・教育について	40
(1) 保護者と子どもの関わり方	40
(2) 保護者の学校行事等への参加	46
(3) 子どもの学習状況	47
(4) 子どもが無料で勉強を教えてもらえる場所の利用意向	47
(5) 子どもの将来の進学段階の予想	48
(6) 子どもの将来の進学段階の理由	49
(7) 子どものことで悩んでいること	50
(8) 頼れる人の有無	52
(9) 子どもに関する悩みや困り事の相談先	53
5. 子どもの健康状況について	54
(1) 子どもを医療機関に連れていかなかったこと	54
(2) 子どもを医療機関に連れていかなかった理由	55
(3) 子どもの朝食の摂取	57
(4) 給食を除く食品の摂取状況	58
(5) 食事で特に気をつけていること	61
(6) 家族と一緒に食事をする	62
(7) 子どもが食事できる居場所の利用意向	63
(8) 保護者による子どもの歯の仕上げみがき	64
6. 回答者自身の状況や悩みと支援について	65
(1) 回答者自身の健康状態	65
(2) 回答者自身の気持ちについて	66
(3) 現在の悩みや不安	69
7. 相談や支援について	71
(1) 支援制度の利用	71
(2) 必要としている支援	75
8. 自由回答	79
(1) 就学前児童保護者	79
(2) 小5・中2児童生徒保護者	83

Ⅱ 児童生徒調査

1. 回答者属性	88
(1) 性別	88
2. 普段の生活について	88
(1) 物品の所有状況	88
(2) 平日放課後に過ごす人、場所	94
(3) 各活動にかける時間	97
(4) 休日に過ごす人、場所	100
3. 人とのかかわりについて	103
(1) 一番仲の良い友達	103
(2) 友人や先生との関係	104
(3) 家族や周りの人との会話	107
4. 食事や健康のことについて	112
(1) 平日の睡眠時間	112
(2) 平日の朝食の摂取	112
(3) 朝食を食べない理由	113
(4) 給食を除く食品の摂取状況	114
(5) 回答者の健康状態	117
(6) お風呂に入る頻度	117
(7) 体調について	118
(8) はみがきの頻度	120
(9) 歯の健康状況	121
5. 学校生活や勉強について	122
(1) 学校に行くのは楽しみか	122
(2) 学校の授業の理解度	122
(3) 勉強がわからないときに質問する相手	123
(4) 頑張っていること	124
(5) なりたい職業や夢の有無	125
(6) 進学希望	125
6. こころの状態について	126
(1) こころの状態や自己肯定感等	126
(2) 支援やサービスの利用意向	128

Ⅲ 中学卒業以降子ども調査

1. 回答者自身について	131
(1) 性別	131
(2) 年齢	131
(3) 居住地区	132
(4) 同居家族	132
(5) 学校の在籍状況	133
(6) 就労状況	133
(7) 現在の家の経済状況	134
2. 将来のことについて	135
(1) なりたい職業や夢の有無	135
(2) なりたい職業がない理由	135
(3) 進学希望	136
(4) 進学の予定	136
3. 普段の生活について	137
(1) 物品の所有状況	137
(2) 平日の放課後や自由時間に過ごす人	142
(3) 平日の放課後や自由時間に過ごす場所	143
(4) 休日の午後過ごす人	145
(5) 休日の午後過ごす場所	146
(6) ほっとできる場所	146
(7) 各活動にかける時間	147
4. 人とのかかわりについて	149
(1) 一番仲の良い友達	149
(2) 話す相手と頻度	150
5. 食事や健康のことについて	154
(1) 平日の睡眠時間	154
(2) 朝食の摂取状況	154
(3) 朝食を取らない理由	155
(4) 食品の摂取状況	156
(5) 回答者の健康状態	159
6. 学校のことや勉強について	160
(1) 在籍する学校の種類	160
(2) 在籍する学校に進学した理由	160
(3) 学校生活は楽しいか	161

(4) 学校の授業の理解度	162
(5) 授業が理解できなくなった時期	162
(6) 勉強がわからない時に質問する相手	163
(7) 授業以外の学習時間	164
(8) 学校をやめたくなるほど悩んだ経験	164
(9) 学校をやめたくなるほど悩んだ理由	165
7. アルバイトなど仕事について	166
(1) 収入を伴う仕事の有無	166
(2) 雇用形態	166
(3) 進学を選択しなかった理由	167
(4) 時給	167
(5) 1週間あたりの勤務時間	168
(6) 給料の使い途	168
8. 回答者自身の気持ちや考えについて	169
(1) こころの状況や自己肯定感等	169
(2) 回答者自身の気持ちについて	171
(3) サービス等の利用意向	173
9. 自由回答	178

第2部 関係団体等支援者調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的	183
2. 調査対象及び調査方法・調査期間	183
3. 調査項目	183

第2章 調査の結果

I グループヒアリング

1. 保護者や子どもの状況について	184
(1) 生活困難を抱える子どもや家庭との関わり	184
(2) 子どもの抱える困難等	186
(3) 家庭や保護者の抱える困難・課題等	187
(4) 生活困難とヤングケアラーとの関係	189
2. 支援・連携の内容や課題	190
(1) 子どもの貧困に対する組織的な支援	190
(2) 子どもの貧困に対する関係機関との連携	192
(3) 子どもの貧困対策として必要な取組	195

II ヒアリングシートによる意見聴取

1. 保護者や子どもの状況について…………… 198
 - (1) 生活困難を抱える子どもや家庭との関わり…………… 198
 - (2) 子どもの抱える困難の内容…………… 200
 - (3) 子どもの生活上の様子や特徴・課題…………… 203
 - (4) 保護者の抱える困難の内容…………… 205
 - (5) 生活困難とヤングケアラーとの関係…………… 207
 - (6) 生活困難家庭との関係…………… 208

2. 子どもの貧困への支援について…………… 212
 - (1) 必要だと思う支援策…………… 212
 - (2) 各機関で実際に行った支援・果たすべき役割と考えること…………… 219

第3部 調査結果のまとめ

I アンケート調査より

1. 生活困難層の保護者や家庭の傾向…………… 231
2. 支援に対する意向や相談相手…………… 234
3. 子どもの教育や進学について…………… 235
4. 子どもの生活や健康について…………… 237

II 関係団体等支援者調査より

1. 保護者や子どもの状況について…………… 239
2. 支援・連携の課題…………… 239

第1部
アンケート調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

子どもや保護者等の生活状況等の実態を把握するため、就学前児童保護者、本市の公立小中学校に在籍する小学5年生・中学2年生児童生徒及びその保護者、中学卒業以降18歳未満の子どもを対象に、アンケート調査を実施した。

2. 調査対象及び調査方法・調査期間

区 分	調査対象
①就学前児童保護者	住民基本台帳より無作為抽出した、就学前の子どものいる世帯の保護者 500 人
②小学5年生・中学2年生児童生徒	地区別に選定した市立小学校・市立中学校に在籍する計 1,984 人（小学5年生 998 人、中学2年生 986 人）
③小学5年生・中学2年生児童生徒保護者	調査②の保護者 1,984 人
④中学卒業以降の子ども	住民基本台帳より無作為抽出した、16～18歳（中学卒業以降年齢）の子ども 500 人

■調査方法

- ①就学前児童保護者及び④中学卒業以降の子ども調査は郵送による配布・回収。
- ②小学5年生・中学2年生児童生徒及び③保護者調査は、学校を経由した配布・回収。

■調査期間 令和3年6月中旬～7月7日(水)

3. 回収状況

区 分	対象者数	有効回収数（回収率）
①就学前児童保護者	500	351 (70.2%)
②小学5年生・中学2年生児童生徒	1,984	1,713 (86.3%)
③小学5年生・中学2年生児童生徒保護者	1,984	1,718 (86.6%)
④中学卒業以降の子ども	500	224 (44.8%)

4. 調査項目

調査項目については、令和2年3月に内閣府より示された「令和元年度 子供の貧困実態調査に関する研究」における「共通で調査することが望ましい項目」、平成30年度に埼玉県が実施した「子どもの生活に関する調査」における項目等を参考としている。

設問は、大きく「子供の貧困対策に関する大綱」（令和元年11月閣議決定）が掲げる重点施策である「教育」「生活環境」「保護者の就労」「経済状況」に関する項目のほか、「家族構成・家庭環境」「支援の状況・希望」の2分類を加えた計6分類の項目から構成した。

5. 生活困難度の判定について

(1) 判定の方法

生活困難度の判定については、埼玉県で平成30年度に実施された「子どもの生活に関する調査」における生活困難層の判定方法を参考とし、調査の各設問（要素1→世帯人員、世帯の年間手取り収入、要素2→ライフラインに関わる支払いの滞り等）により生活困難度を判定した。

生活困難度は「生活状況」と表現し、生活困難層（生活困難層Ⅰ～Ⅲ）、中間層（生活困難層Ⅳ・Ⅴ）、非該当層（非生活困難層）の3区分とする。

生活状況	生活困難層			中間層		非該当層		（参考） 国の生活 困難層の 基準と なる額
	生活困難層Ⅰ	生活困難層Ⅱ	生活 困難層Ⅲ +要素2が 2つ以上	生活 困難層Ⅳ +要素2が 1つ以下	生活困難層 Ⅴ	非生活 困難層	非生活 困難層	
2人	85万円未満	175万円未満	260万円未満	345万円未満	430万円未満	430万円以上	173万円	
3人	105万円未満	210万円未満	315万円未満	420万円未満	525万円未満	525万円以上	211万円	
4人	120万円未満	245万円未満	365万円未満	485万円未満	605万円未満	605万円以上	244万円	
5人	135万円未満	275万円未満	410万円未満	545万円未満	680万円未満	680万円以上	273万円	
6人	150万円未満	300万円未満	450万円未満	600万円未満	750万円未満	750万円以上	299万円	
7人	160万円未満	325万円未満	485万円未満	645万円未満	805万円未満	805万円以上	323万円	
8人	175万円未満	345万円未満	520万円未満	695万円未満	870万円未満	870万円以上	345万円	
9人	185万円未満	365万円未満	550万円未満	735万円未満	920万円未満	920万円以上	366万円	

同一の封筒により回収された保護者調査票と児童生徒調査票に対し、ナンバリングによる紐付けを行うことにより、児童生徒調査においても、生活状況別の分析を行っている。

【要素1】

世帯人員と世帯の手取り収入を県の示す基準に照らし合わせ、生活困難層と非生活困難層に振り分ける。

設問番号	内容
【就学前児童保護者】 問 5 【児童生徒保護者】 問 4	あなたとお子さんを含めた、家族全員の人数は何人ですか。 1. 2人 2. 3人 3. 4人 4. 5人 5. 6人 6. 7人 7. 8人 8. 9人 9. 10人以上
【就学前児童保護者】 問 15 【児童生徒保護者】 問 13	昨年1年間（令和2年1月から12月）のご家族の手取り収入（税金や保険料を引いた、実際に手元に入ってくるお金）の額を教えてください。（就労で得た収入のほか、公的な手当や援助による収入なども含めた1年間の手取り収入になります。） 1. 収入はない（0円） 2. 1～50万円未満 3. 50～100万円未満 4. 100～175万円未満 5. 175～210万円未満 6. 210～245万円未満 7. 245～275万円未満 8. 275～300万円未満 9. 300～350万円未満 10. 350～400万円未満 11. 400～500万円未満 12. 500～600万円未満 13. 600～700万円未満 14. 700～800万円未満 15. 800～900万円未満 16. 900～1000万円未満 17. 1000万円以上 ※P2の表の所得段階に近い選択肢（金額）の区分を適用。

【要素2】

生活困難層ⅢとⅣの区分に使用するもので、

過去1年間に購入できなかった経験、支払えなかった経験について、

①食料 ②衣服 ③電話料金 ④電気料金 ⑤ガス料金 ⑥水道料金 ⑦家賃

上記の7項目のうち、2項目以上に該当する人を生活困難層Ⅲ、1つ以下の人を生活困難層Ⅳと判定する。

設問番号	内容
【就学前児童保護者】 問 17 【児童生徒保護者】 問 15	過去1年間の家族が必要とする食料が買えなかった経験 「よくあった」「ときどきあった」のいずれかを選択
【就学前児童保護者】 問 18 【児童生徒保護者】 問 16	過去1年間の家族が必要とする衣服が買えなかった経験 「よくあった」または「ときどきあった」のいずれかを選択
【就学前児童保護者】 問 20 【児童生徒保護者】 問 18	過去1年間の料金未払い経験 「電話料金」「電気料金」「ガス料金」「水道料金」「家賃」のいずれかで「あった」を選択

(2) 各調査における生活困難層の割合

生活困難層の割合は、全体では 9.4%、就学前児童保護者調査では 7.9%、小5児童保護者調査では 8.5%、中2生徒保護者調査では 11.1%となっている。

各調査における生活困難層の割合（無回答を除く）

全体 (上段:実数、下段:%)

調査数	生活困難層	中間層	非該当層
1,849	174	416	1,259
100.0	9.4	22.5	68.1

就学前児童保護者調査

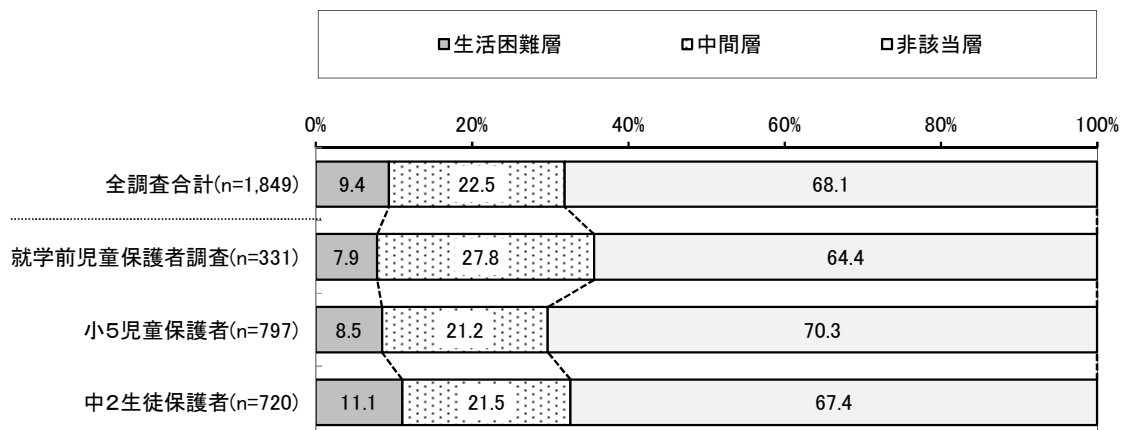
調査数	生活困難層	中間層	非該当層
331	26	92	213
100.0	7.9	27.8	64.4

小5児童保護者調査

調査数	生活困難層	中間層	非該当層
797	68	169	560
100.0	8.5	21.2	70.3

中2生徒保護者調査

調査数	生活困難層	中間層	非該当層
720	80	155	485
100.0	11.1	21.5	67.4



6. 報告書の記載上の留意点

- 図表中の「n=」は、回答者数を表す。
- 調査結果の比率は、その設問の回答者を基数として、小数点以下第2位を四捨五入して算出しているため、合計が100%にならない場合がある。
- 複数回答形式の場合、回答比率の合計は通常100%を超える。

第2章 調査の結果

I 保護者調査

1. 世帯のことについて

(1) 子どもの年齢

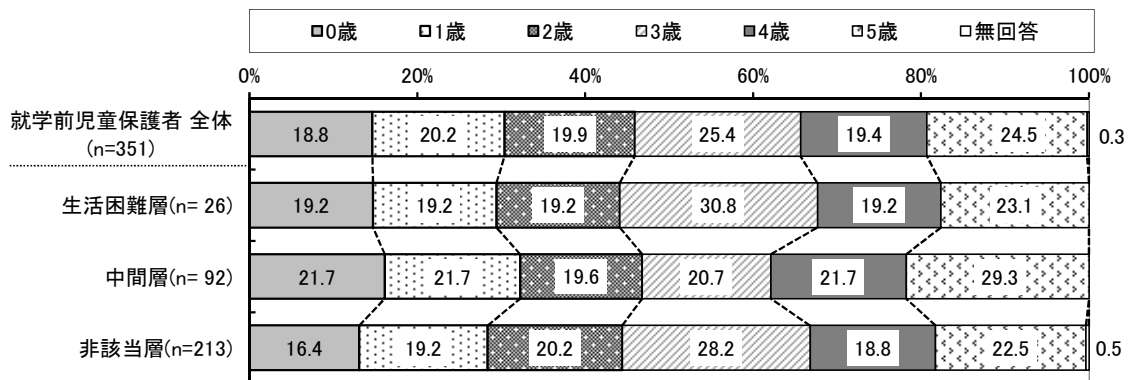
【就学前児童保護者 問1】

調査対象のお子さんの令和3年4月1日現在の年齢は次のどれにあたりますか。(あてはまるものすべてに○)

※就学前児童のお子さんが複数いる場合は、あてはまる年齢すべてに○を付けてください。

回答者の子どもの年齢は、就学前児童保護者では、「3歳」25.4%が最も多く、次いで「5歳」24.5%、「1歳」20.2%などの順となっている。生活状況別では、生活困難層で「3歳」、中間層で「5歳」の割合がやや多いが、生活状況による大きな差は見られない。

【就学前児童保護者・生活状況別】子どもの年齢



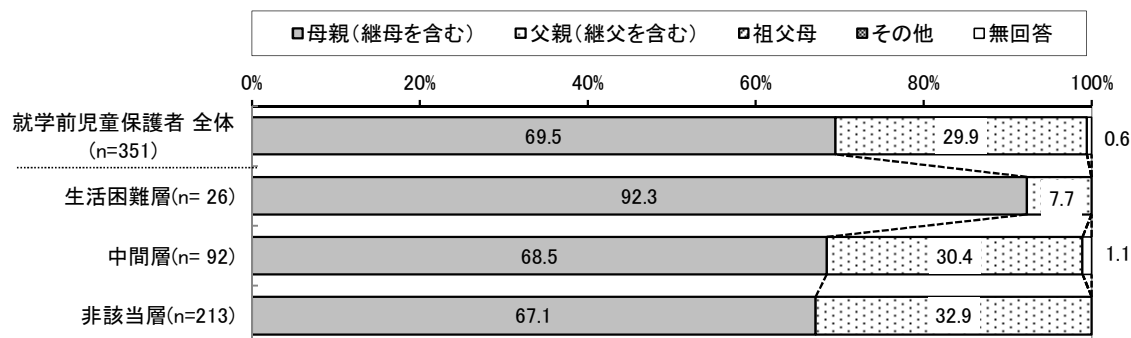
(2) 回答者の続柄

【就学前児童保護者 問2 / 小5・中2児童生徒保護者 問1】

お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

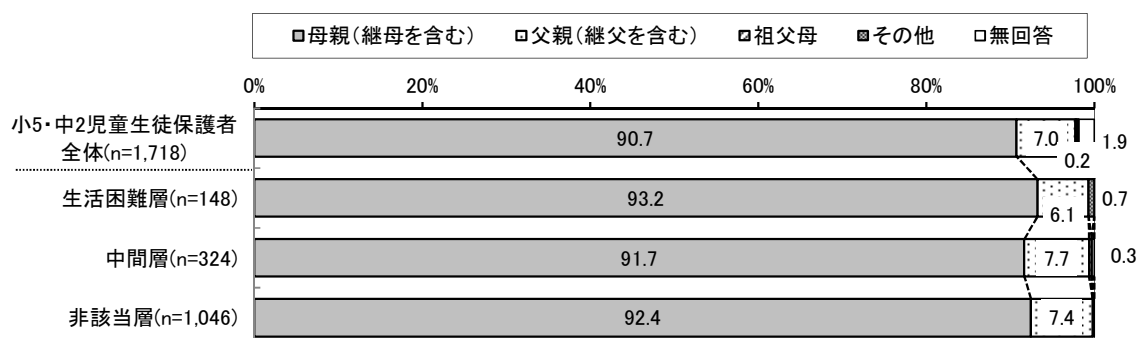
回答者の子どもとの関係は、就学前児童保護者では、「母親（継母を含む）」が69.5%、「父親（継父を含む）」が29.9%となっている。生活状況別では、生活困難層で「母親（継母を含む）」が9割以上と高く、中間層や非該当層を大きく上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】回答者の続柄



小5・中2児童生徒保護者では、「母親（継母を含む）」が90.7%、「父親（継父を含む）」が7.0%となっている。生活状況別では、いずれの層も「母親（継母を含む）」9割台であり、生活状況による大きな差は見られない。

【小5・中2保護者・生活状況別】回答者の続柄



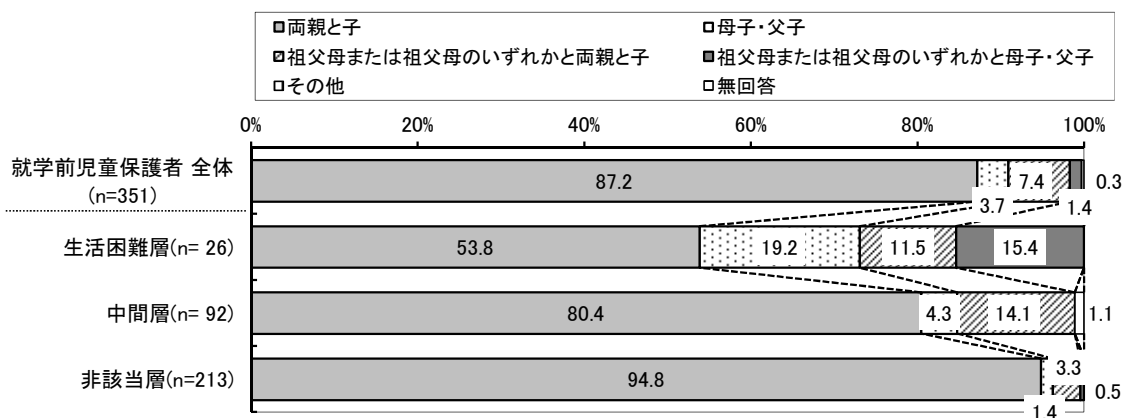
(3) 家族構成

【就学前児童保護者 問3 / 小5・中2児童生徒保護者 問2】

あなたの家族構成は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

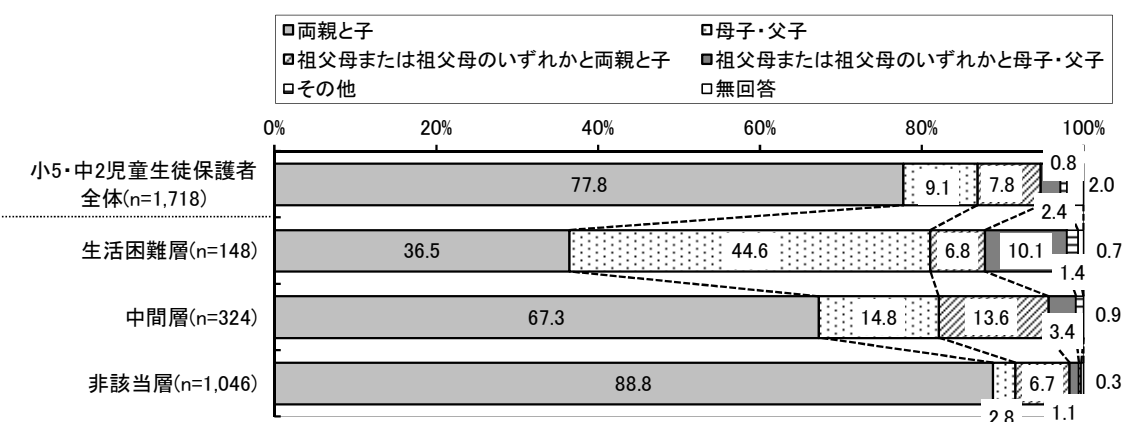
家族構成は、就学前児童保護者では、「両親と子」が87.2%、「祖父母または祖父母のいずれかと両親と子」が7.4%、「母子・父子」が3.7%となっている。生活状況別では、生活困難層で「母子世帯・父子世帯」が19.2%、「祖父母または祖父母のいずれかと母子・父子」が15.4%と高く、非該当層の各1.4%、3.3%を大きく上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】家族構成



小5・中2児童生徒保護者では、「両親と子」が77.8%、「母子・父子」が9.1%、「祖父母または祖父母のいずれかと両親と子」が7.8%となっている。生活状況別では、生活困難層で「母子・父子」が44.6%と高く、中間層の14.8%、非該当層の2.8%を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】家族構成



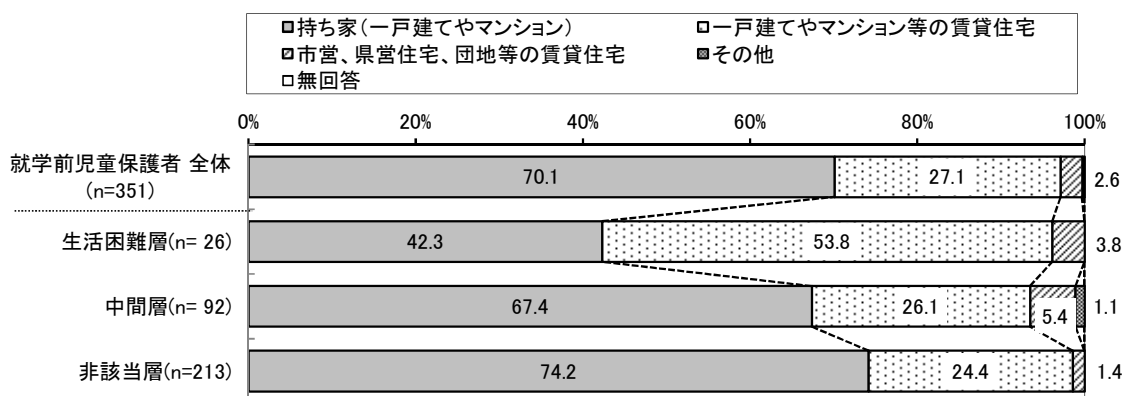
(4) 居住形態

【就学前児童保護者 問4 / 小5・中2児童生徒保護者 問3】

お住まいの形態について教えてください。(○は1つ)

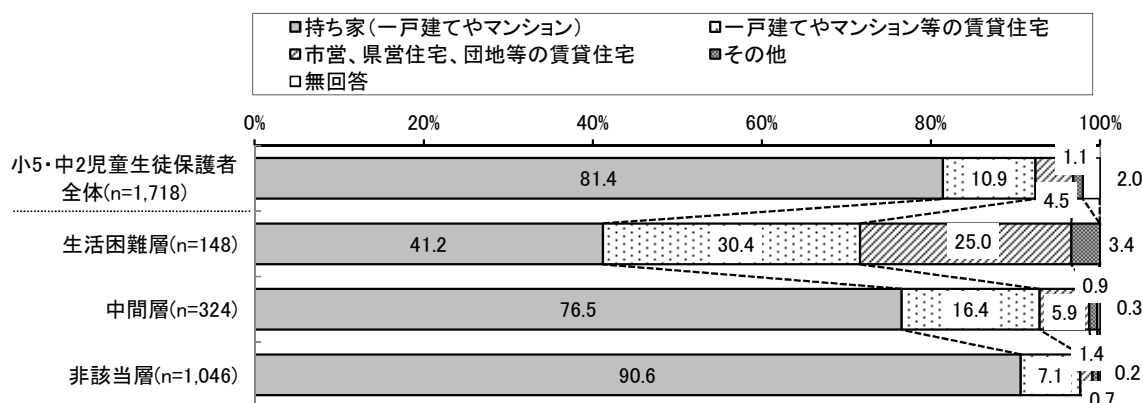
居住形態は、就学前児童保護者では、「持ち家（一戸建てやマンション）」が70.1%、「一戸建てやマンション等の賃貸住宅」が27.1%、「市営、県営住宅、団地等の賃貸住宅」が2.6%となっている。生活状況別では、生活困難層で「一戸建てやマンション等の賃貸住宅」が53.8%と高く、他の層を大きく上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】居住形態



小5・中2児童生徒保護者では、「持ち家（一戸建てやマンション）」が81.4%、「一戸建てやマンション等の賃貸住宅」が10.9%、「市営、県営住宅、団地等の賃貸住宅」が4.5%となっている。生活状況別では、生活困難層で「一戸建てやマンション等の賃貸住宅」が30.4%、「市営、県営住宅、団地等の賃貸住宅」が25.0%と高く、他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】居住形態



(5) 世帯人数

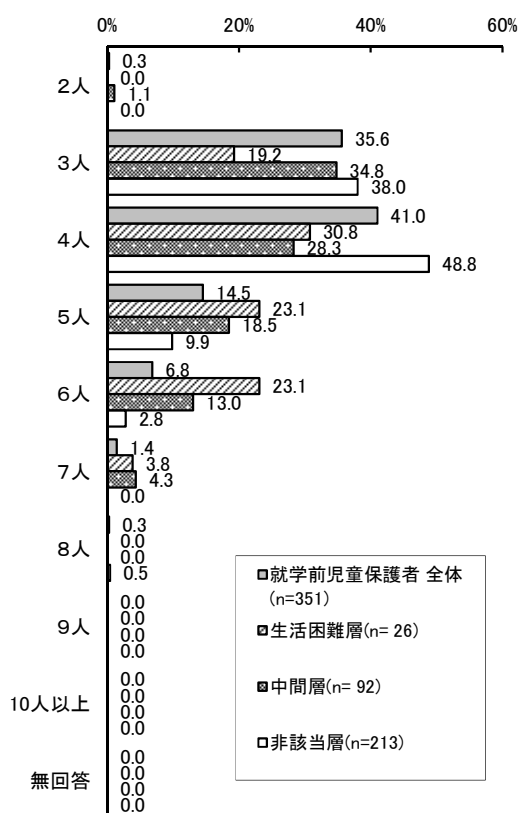
【就学前児童保護者／小5・中2児童生徒保護者 問3】

あなたとお子さんを含めた、家族全員の人数は何人ですか。(単身赴任やひとり暮らしのお子さんなど、別居していても生計を一緒にする方はすべて含みます。)(○は1つ)

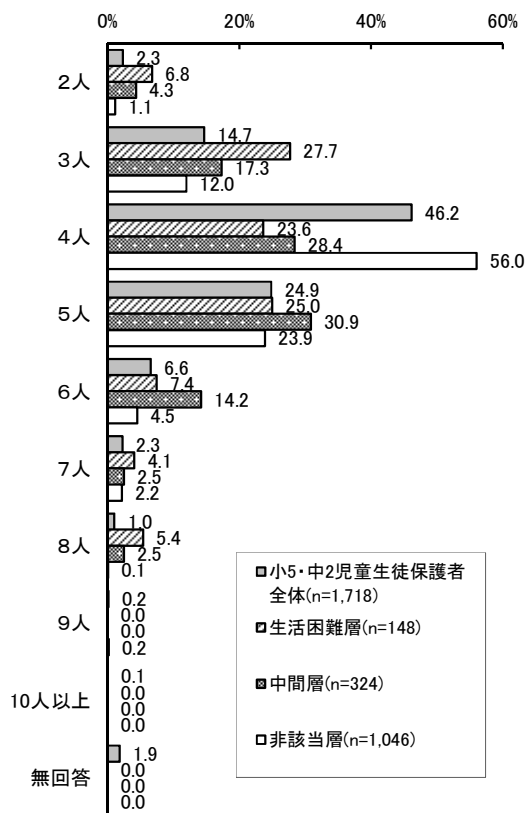
世帯人数は、就学前児童保護者では、「4人」が41.0%で最も高く、次いで「3人」が35.6%、「5人」が14.5%となっている。生活状況別では、生活困難層で「5人」「6人」がともに23.1%と高く、中間層及び非該当層を大きく上回る。

小5・中2児童生徒保護者では、「4人」が46.2%で最も高く、次いで「5人」が24.9%、「3人」が14.7%となっている。生活状況別では、生活困難層で「3人」との回答が多いのに対し、中間層は「5人」や「6人」、非該当層では「4人」との回答が他の層を大きく上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】



【小5・中2保護者・生活状況別】世帯人数



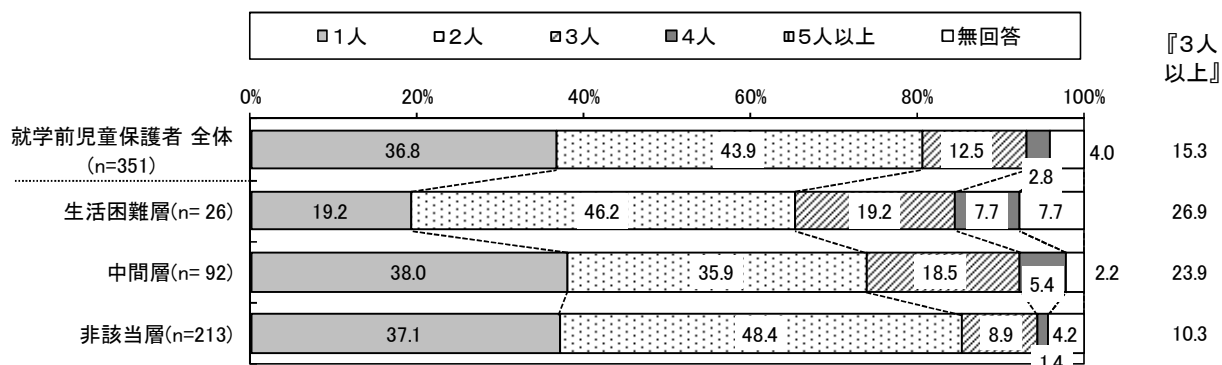
(6) 世帯の子どもの人数

【就学前児童保護者 問6 / 小5・中2児童生徒保護者 問5】

家族のうち、お子さん（令和4年1月1日までに18歳になる方まで）の人数は何人ですか。
（〇は1つ）

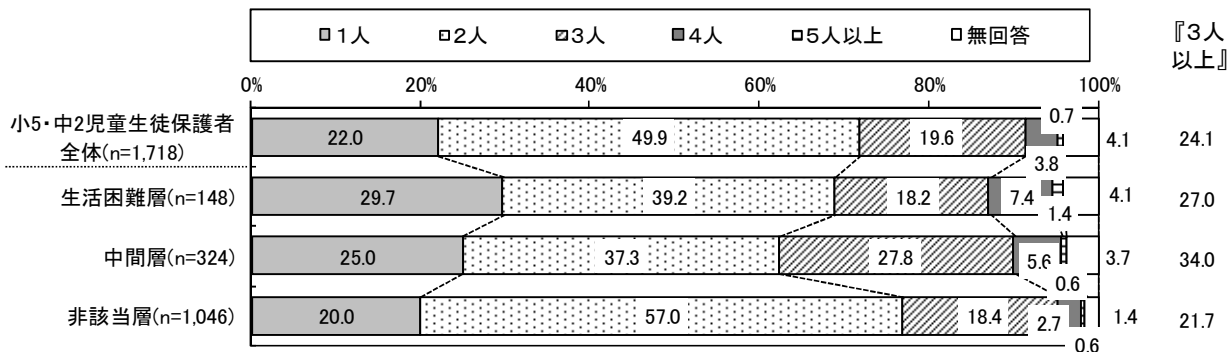
世帯の子どもの人数は、就学前児童保護者では、「2人」が43.9%で最も高く、次いで「1人」が36.8%、「3人」が12.5%となっている。生活状況別では、生活困難層と中間層で「3人」が各19.2%、18.5%と高くなっている。「3人」から「5人以上」を合計した『3人以上』は生活困難層で26.9%と最も高く、生活困難層ほど多子の傾向がみられる。

【就学前児童保護者・生活状況別】世帯の子どもの人数



小5・中2児童生徒保護者では、「2人」が49.9%で最も高く、次いで「1人」が22.0%、「3人」が19.6%となっている。生活状況別では、いずれの層も「2人」が最も多いが、生活困難層ほど「1人」との回答が多くなっている。『3人以上』は中間層で34.0%と最も高く、他の層を上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】世帯の子どもの人数



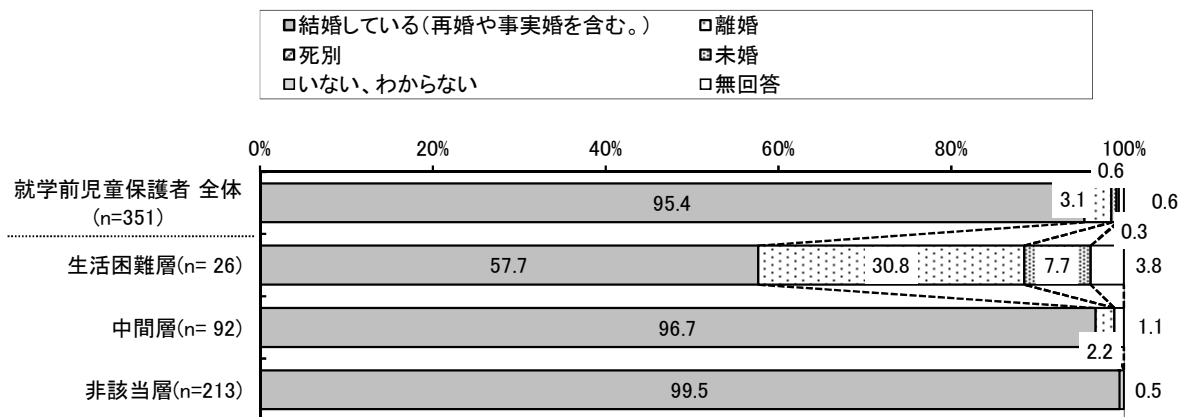
(7) 親の婚姻状況

【就学前児童保護者 問7 / 小5・中2児童生徒保護者 問6】

お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(○は1つ)

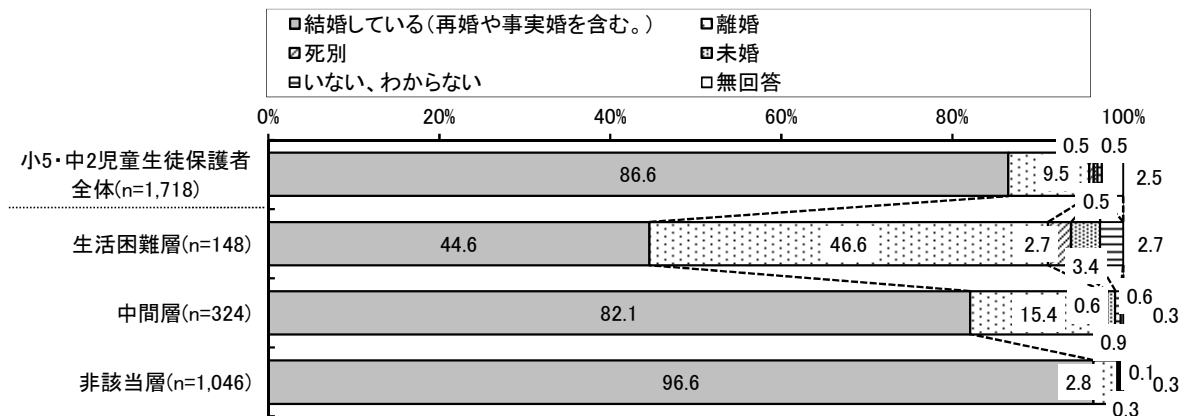
親の婚姻状況は、就学前児童保護者では、「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」が95.4%と大半を占める。生活状況別では、生活困難層で「離婚」が30.8%と他の層を大きく上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】親の婚姻状況



小5・中2児童生徒保護者では、「結婚している(再婚や事実婚を含む。)」が86.6%と大半を占める。生活状況別では、生活困難層で「離婚」が46.6%と他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】親の婚姻状況



(8) 養育費の取り決めについて

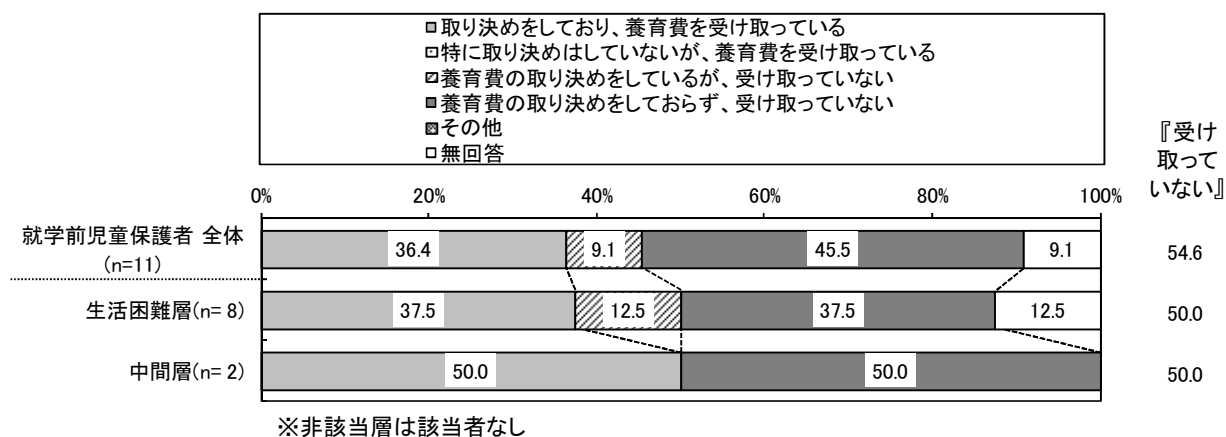
【就学前児童保護者 問8 / 小5・中2児童生徒保護者 問7】

【問7 / 問6で「2.離婚」と回答した方におうかがいします。】

離婚相手と子どもの養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(〇は1つ)

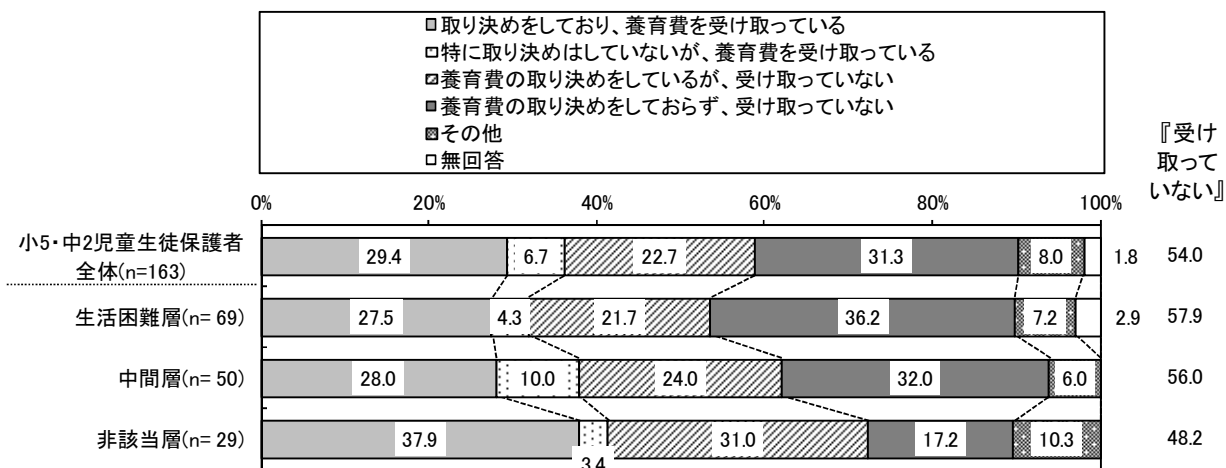
離婚した人の養育費の取り決めについて、就学前児童保護者では、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が45.5%で最も高く、次いで「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が36.4%、「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」が9.1%となっている。生活状況別では生活困難層、中間層ともに養育費を受け取っていない人が半数となっている。

【就学前児童保護者・生活状況別】養育費の取り決めについて



小5・中2児童生徒保護者では、「養育費の取り決めをしておらず、受け取っていない」が31.3%、「取り決めをしており、養育費を受け取っている」が29.4%、「養育費の取り決めをしているが、受け取っていない」が22.7%となっている。生活状況別ではいずれも養育費を受け取っていない人が半数近くを占めるが、その割合は生活困難層ほど高くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】養育費について



(9) 居住地区

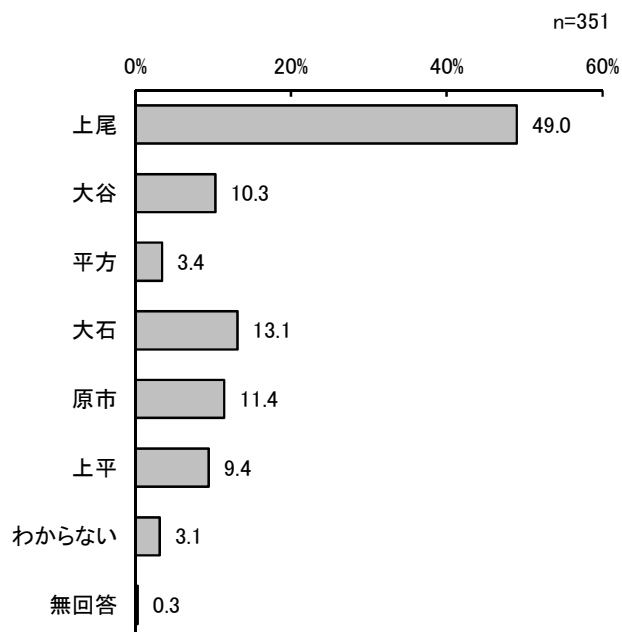
【就学前児童保護者 問9】

お住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

※地区名が分からない場合は、「7. わからない」を選択し、() 内に町名をご記入ください。

居住地区について、就学前児童保護者では、「上尾」が49.0%で最も高く、次いでやや差があり「大石」が13.1%、「原市」が11.4%、「大谷」が10.3%などの順となっている。

【就学前児童保護者・全体】居住地区



(10) 家庭における使用言語

【就学前児童保護者 問10／小5・中2児童生徒保護者 問9】

あなたのご家庭でよく使う言葉はどれですか。(あてはまるものすべてに○)

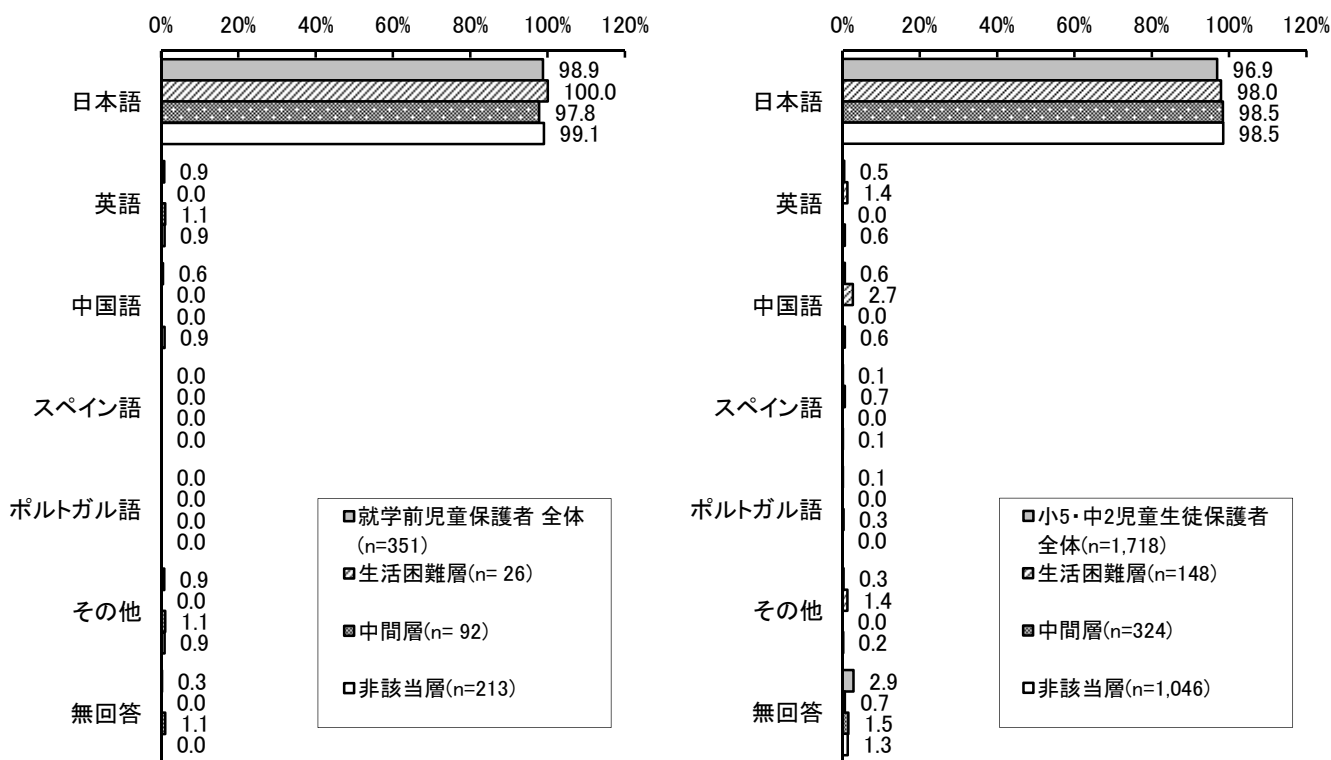
家庭における使用言語について、就学前児童保護者では、「日本語」が98.9%と大半を占め、外国語を使用している割合はわずかに数%となっている。生活状況別においても、生活困難層では「日本語」が100%となっている。

小5・中2児童生徒保護者においても、「日本語」が96.9%と大半を占める。生活状況別にみると、生活困難層で「中国語」や「英語」「スペイン語」などの日本語以外の回答が合計で6.2%ほど見られる。

【就学前児童保護者・生活状況別】

【小5・中2保護者・生活状況別】

家庭における使用言語



2. 親の経歴と仕事について

(1) 親の最終学歴

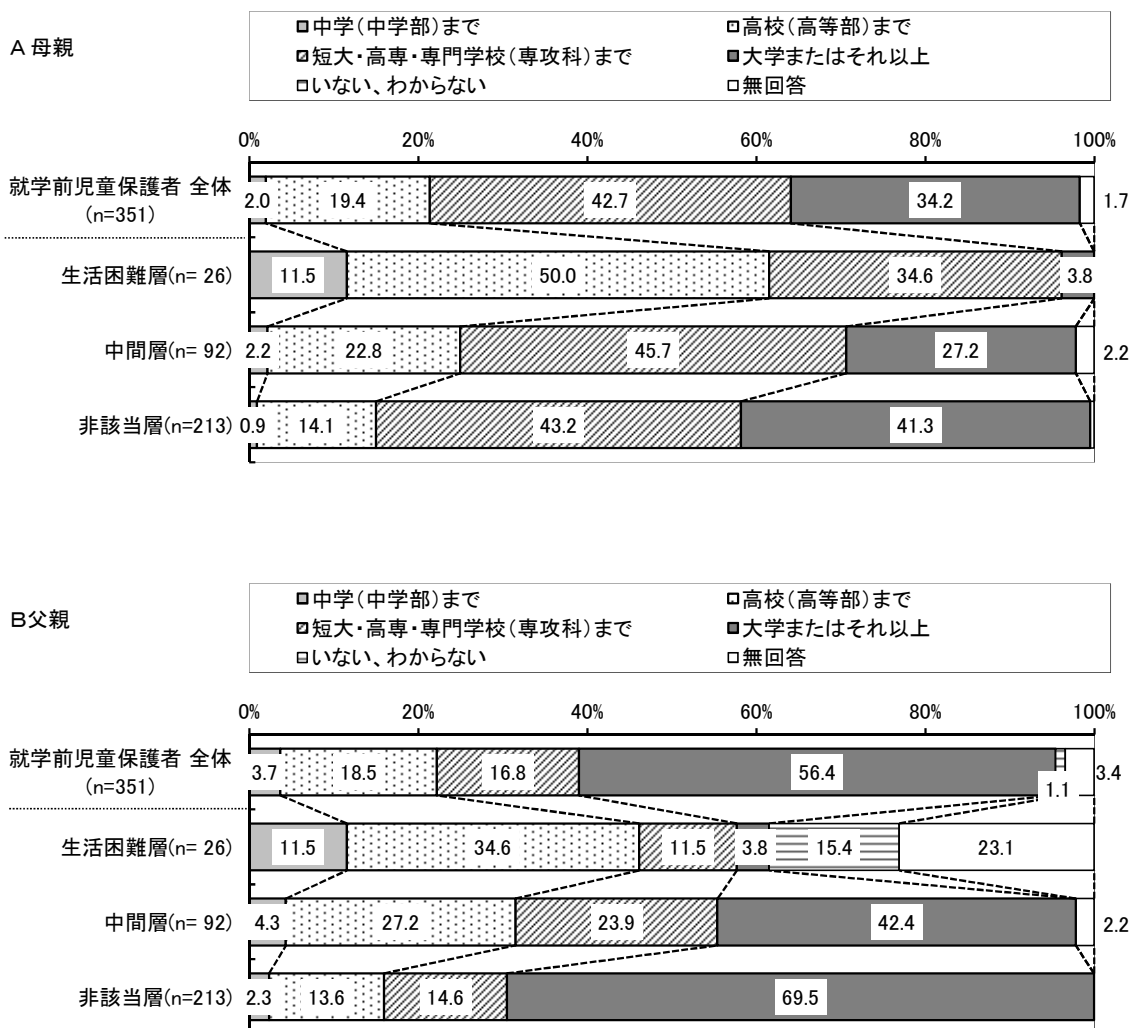
【就学前児童保護者 問11/小5・中2児童生徒保護者 問9】

お子さんのお母さんとお父さんの最終学歴（卒業した学校）をお答えください。（A・Bそれぞれについて、○は1つ）

親の最終学歴について、就学前児童保護者では、母親は「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が42.7%、「大学またはそれ以上」が34.2%、「高校（高等部）まで」が19.4%となっている。生活状況別では、生活困難層で「高校（高等部）まで」が50.0%、「中学（中学部）まで」が11.5%であり、中間層の各22.8%、2.2%、非該当層の各14.1%、0.9%を大きく上回る。

父親は「大学またはそれ以上」が56.4%、「高校（高等部）まで」が18.5%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が16.8%となっている。生活状況別では、生活困難層で「高校（高等部）まで」が34.6%、「中学（中学部）まで」が11.5%であり、中間層の各27.2%、4.3%、非該当層の各13.6%、2.3%を大きく上回る。また、生活困難層では「いない、わからない」割合も他の層に比べ高くなっている。

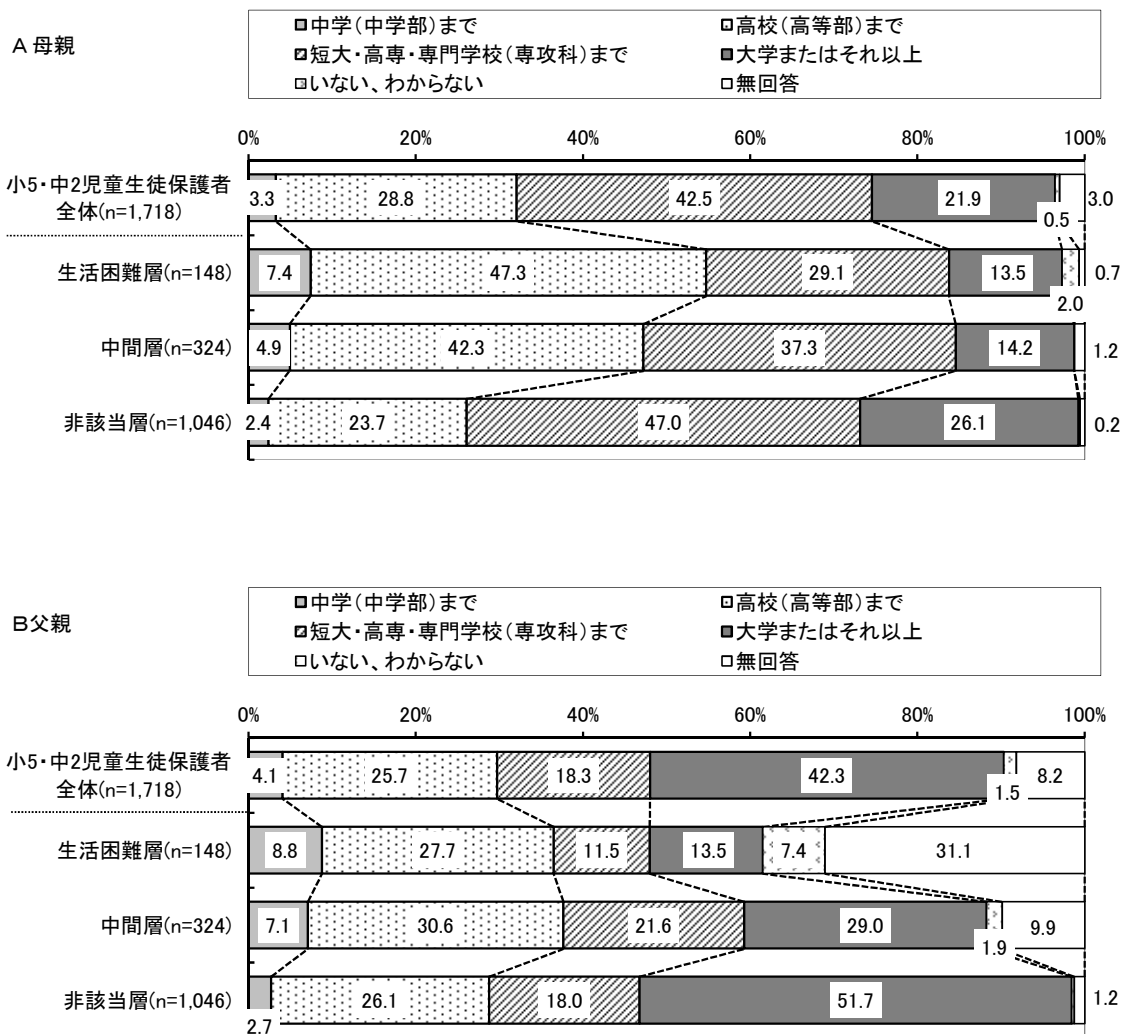
【就学前児童保護者・生活状況別】親の最終学歴



小5・中2児童生徒保護者では、母親は「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が42.5%、「高校（高等部）まで」が28.8%、「大学またはそれ以上」が21.9%となっている。生活状況別では、生活困難層ほど「高校（高等部）まで」「中学（中学部）まで」の割合が高くなっている。反対に、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」「大学またはそれ以上」の割合は、非該当層ほど高くなっている。

父親は「大学またはそれ以上」が42.3%、「高校（高等部）まで」が25.7%、「短大・高専・専門学校（専攻科）まで」が18.3%となっている。生活状況別では、生活困難層では「いない、わからない」割合が7.4%と、他の層を上回る。また、「中学（中学部）まで」の割合は、生活困難層ほど高くなっている。一方、非該当層では「大学またはそれ以上」の割合が半数を超える。

【小5・中2保護者・生活状況別】親の最終学歴



(2) 親の就労状況

【就学前児童保護者 問 12 / 小5・中2保護者 問 10】

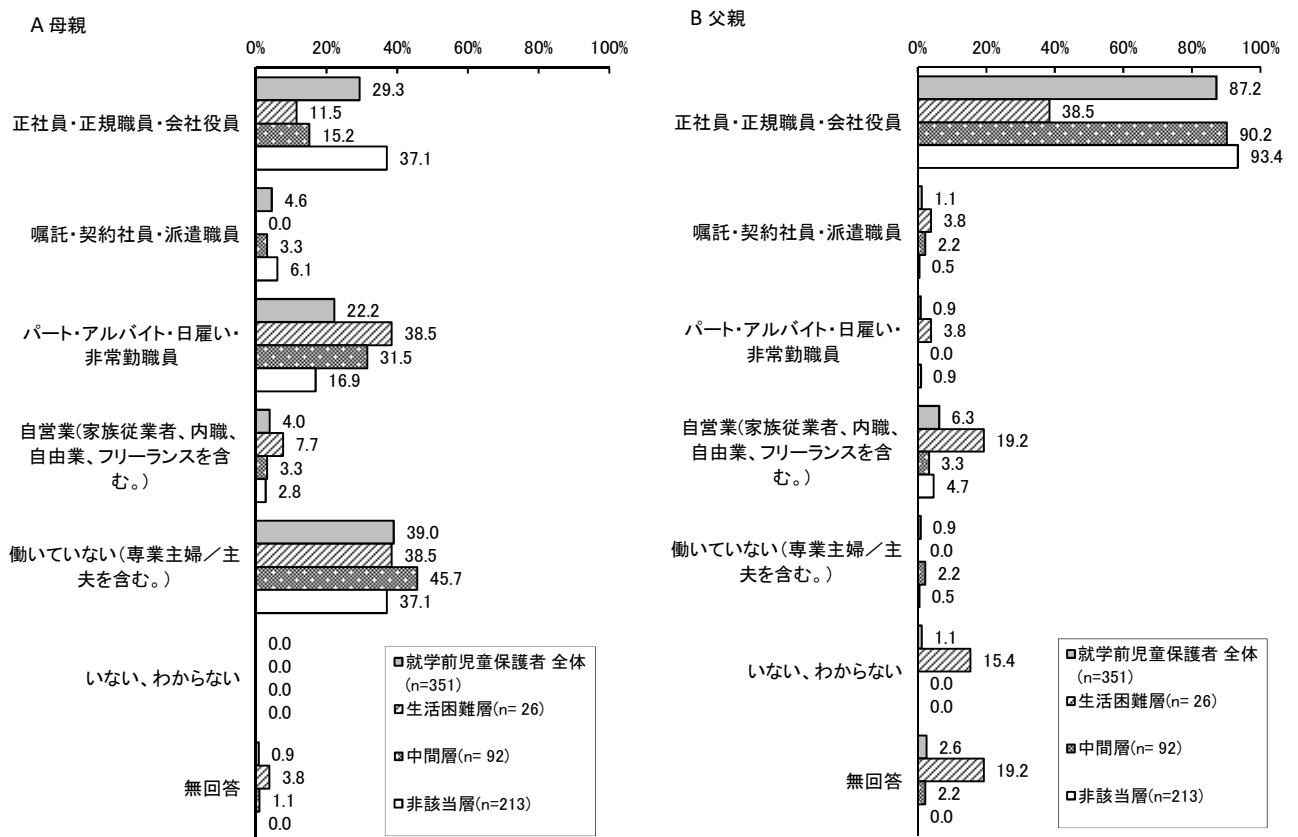
お子さんのお母さんとお父さんの現在の就業形態は次のどれにあてはまりますか。(A・B それぞれについて、○は1つ)

※複数の職業をお持ちの場合は主なものをお答えください。

親の就労状況について、就学前児童保護者では、母親は「働いていない(専業主婦/主夫を含む。)」が39.0%で最も多く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が29.3%、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が22.2%となっている。生活状況別では、生活困難層で「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が38.5%と中間層の31.5%、非該当層の16.9%を上回る。非該当層では「正社員・正規職員・会社役員」が37.1%であり、生活困難層の11.5%、中間層の15.2%を大きく上回る。

父親は「正社員・正規職員・会社役員」が87.2%と大半を占める。生活状況別では、生活困難層で「正社員・正規職員・会社役員」が38.5%と、中間層の90.2%、非該当層の93.4%を大きく下回る。また、「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)」が19.2%と他の層を上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】親の就労状況

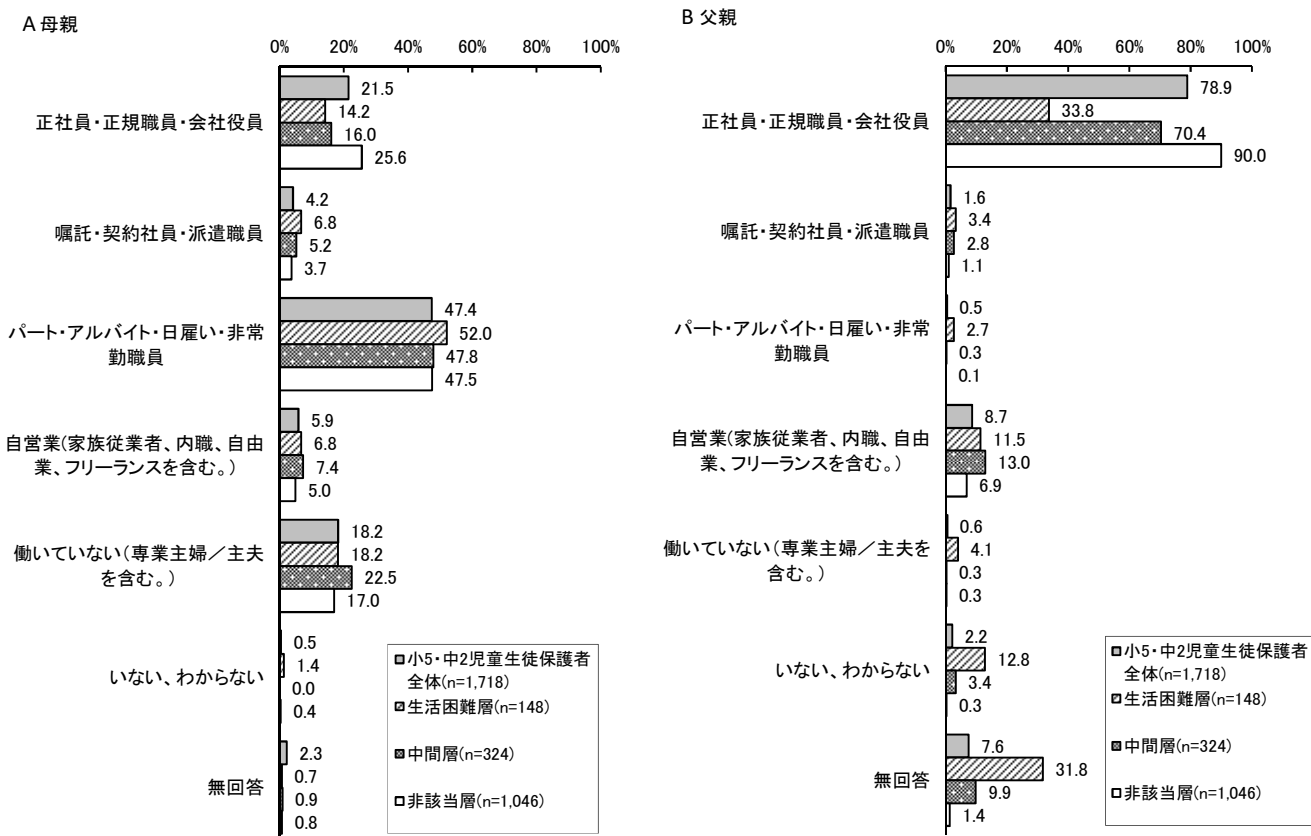


■ 第1部 アンケート調査 ■

小5・中2児童生徒保護者では、母親は「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が47.4%で最も多く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」が21.5%、「働いていない（専業主婦／主夫を含む）」が18.2%となっている。生活状況別では、生活困難層で「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」が52.0%で他の層を上回る。「正社員・正規職員・会社役員」の割合は、非該当層の25.6%が最も高く、非該当層ほど高くなっている。

父親は「正社員・正規職員・会社役員」が78.9%と大半を占める。生活状況別では、「正社員・正規職員・会社役員」の割合は生活困難層ほど低くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】親の就労状況



(3) 親の働いていない理由

【就学前児童保護者 問 13/小5・中2保護者 問 11】

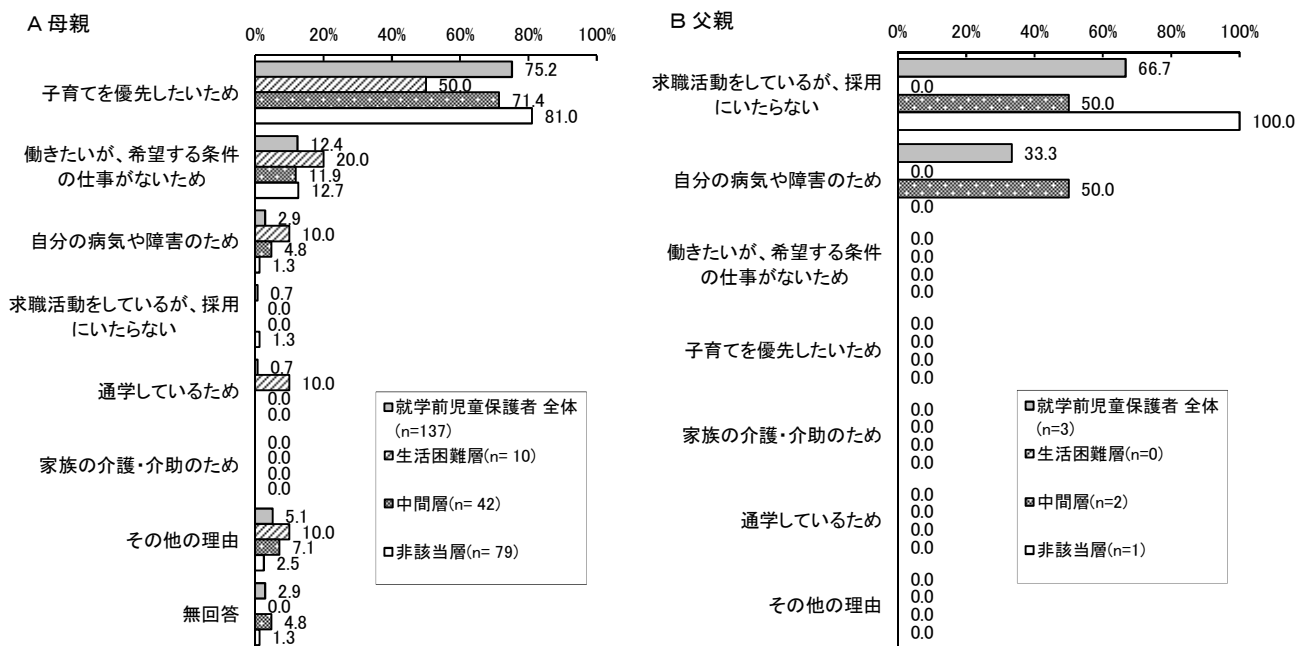
【問 12/問 10 で「1」～「4」と回答した方におうかがいします。】

働いていない最も主な理由を教えてください。(A・Bそれぞれについて、○は1つ)

親が働いていない理由について、就学前児童保護者では、母親は「子育てを優先したいため」が75.2%で最も高く、主な理由となっている。生活状況別でみると、生活困難層では、「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」が20.0%と他の層を大きく上回る。非該当層では「子育てを優先したいため」が81.0%であり特に高い。

父親で該当者は中間層に2人、非該当層に1人であり、中間層では、「求職活動をしているが、採用にいたらない」と「自分の病気や障害のため」が各50.0%（1人）、非該当層で「求職活動をしているが、採用にいたらない」が100%（1人）である。

【就学前児童保護者・生活状況別】働いていない理由

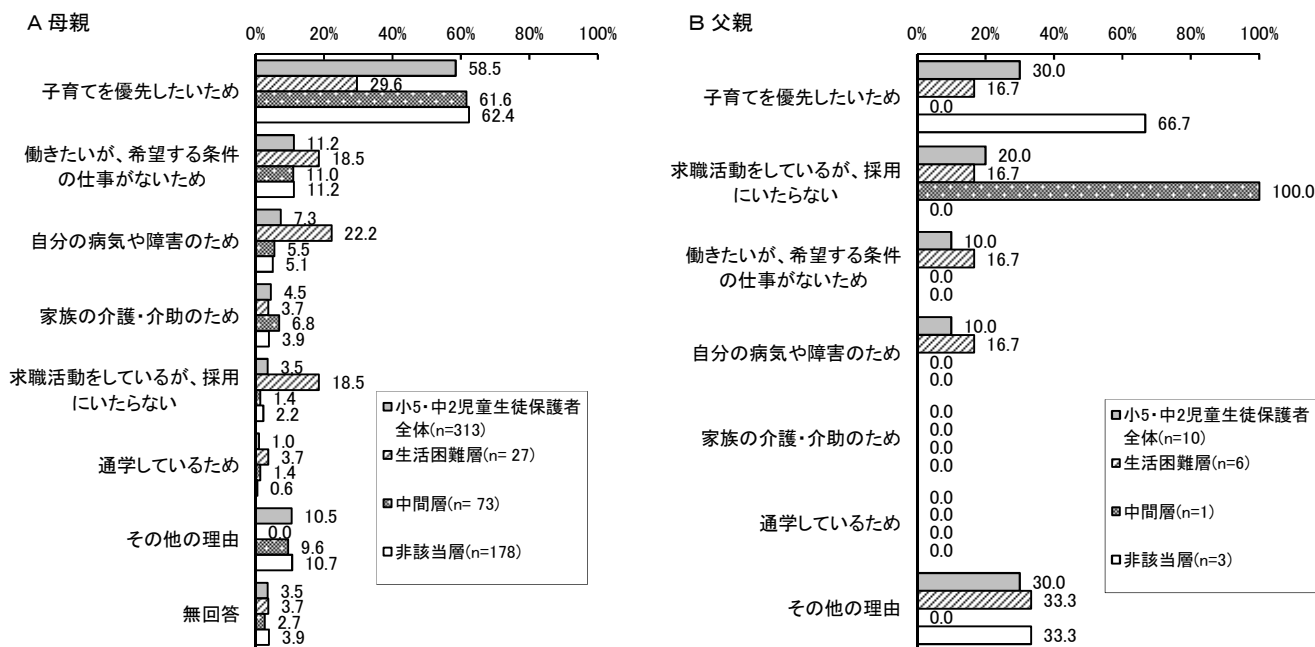


■ 第1部 アンケート調査 ■

小5・中2児童生徒保護者では、母親は「子育てを優先したいため」が58.5%で最も高く、主な理由となっている。生活状況別でみると、生活困難層では、「自分の病気や障害のため」の22.2%や「求職活動をしているが、採用にいたらない」「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」との回答が他の層を大きく上回る。中間層と非該当層では「子育てを優先したいため」がともに6割台となっている。

父親は、中間層で「求職活動をしているが、採用にいたらない」、非該当層で「子育てを優先したいため」が他の層を上回る。生活困難層は、「その他の理由」をはじめ、さまざまな理由をあげている。

【小5・中2保護者・生活状況別】働いていない理由



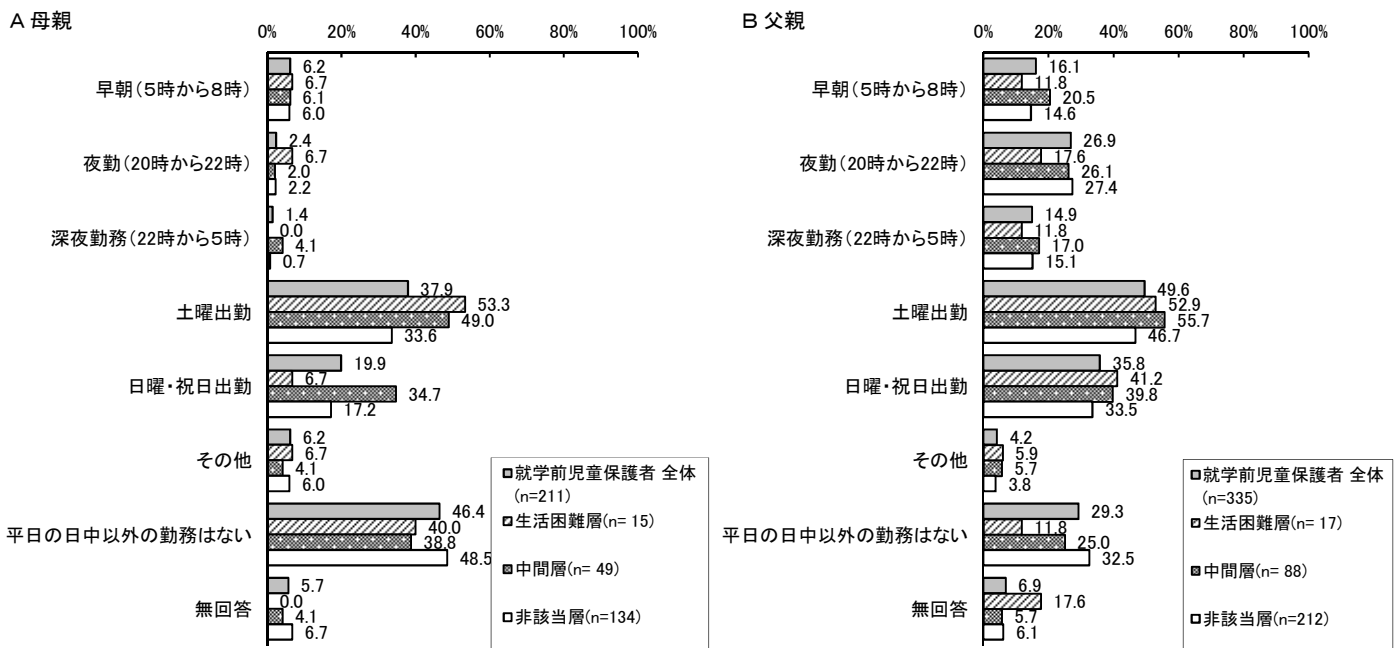
(4) 日中以外の勤務時間

【就学前児童保護者 問 14/小5・中2保護者 問 12】
 【問 10/問 12 で「1」～「4」と回答した方におうかがいします。】
 お子さんのお母さんとお父さんは、平日の日中以外の勤務時間がありますか。(A・Bそれぞれについて、あてはまるものすべてに○)

現在就労している人の日中以外の勤務時間について、就学前児童保護者では、母親は「平日の日中以外の勤務はない」が46.4%、「土曜出勤」は37.9%となっている。生活状況別でみると、生活困難層では「土曜出勤」が53.3%、中間層では「日曜・祝日出勤」が34.7%と他の層を大きく上回る。

父親は「土曜出勤」が49.6%、「日曜・祝日出勤」が35.8%、「平日の日中以外の勤務はない」が29.3%となっている。生活状況別でみると、中間層で「土曜出勤」が55.7%、非該当層で「平日の日中以外の勤務はない」が32.5%と他の層を上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】日中以外の勤務時間

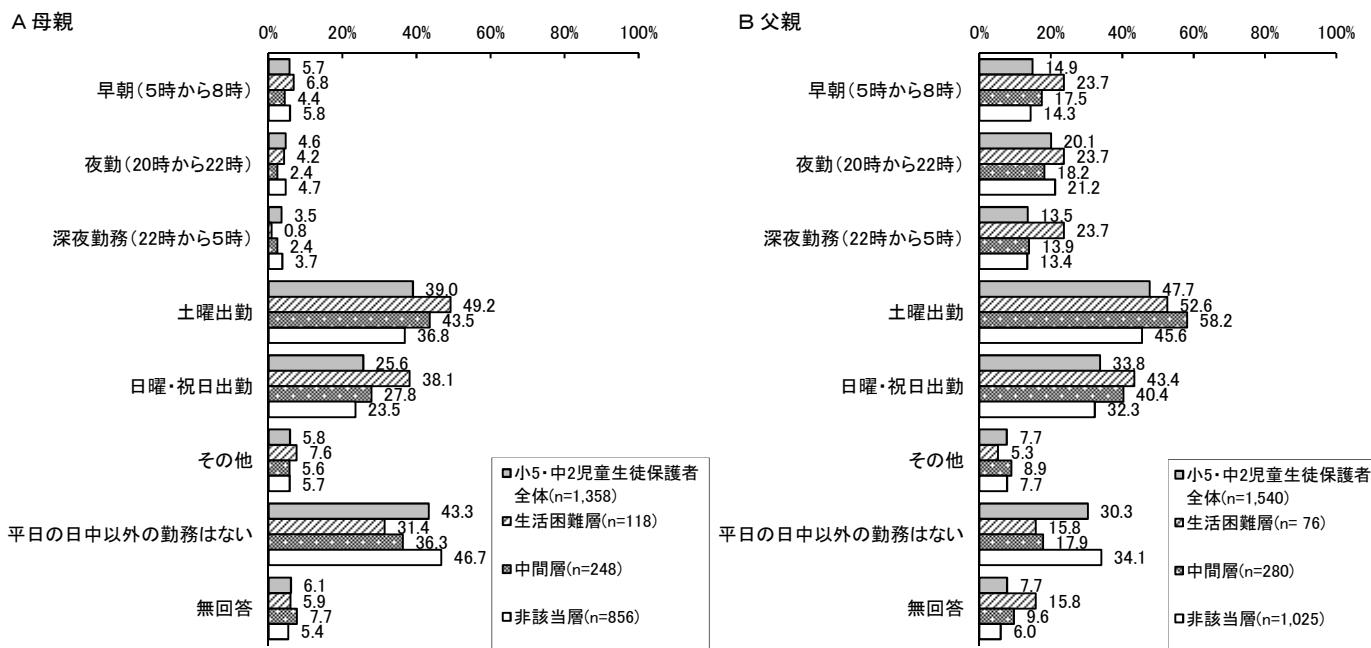


■ 第1部 アンケート調査 ■

小5・中2児童生徒保護者では、母親は「平日の日中以外の勤務はない」が43.3%、「土曜出勤」は39.0%、「日曜・祝日出勤」が25.6%となっている。生活状況別でみると、生活困難層では「土曜出勤」が49.2%、中間層では「日曜・祝日出勤」が38.1%と他の層を大きく上回る。反対に、「平日の日中以外の勤務はない」との回答は、非該当層ほど多くなっている。

父親は「土曜出勤」が47.7%、「日曜・祝日出勤」が33.8%、「平日の日中以外の勤務はない」が30.3%となっている。生活状況別でみると、生活困難層ほど「早朝（5時から8時）」や「夜勤（20時から22時）」、「深夜勤務（22時から5時）」といった不規則な勤務の回答の割合が高くなっている。また、中間層で「土曜出勤」が58.2%、非該当層で「平日の日中以外の勤務はない」が34.1%と他の層を上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】日中以外の勤務時間



3. 現在の暮らしについて

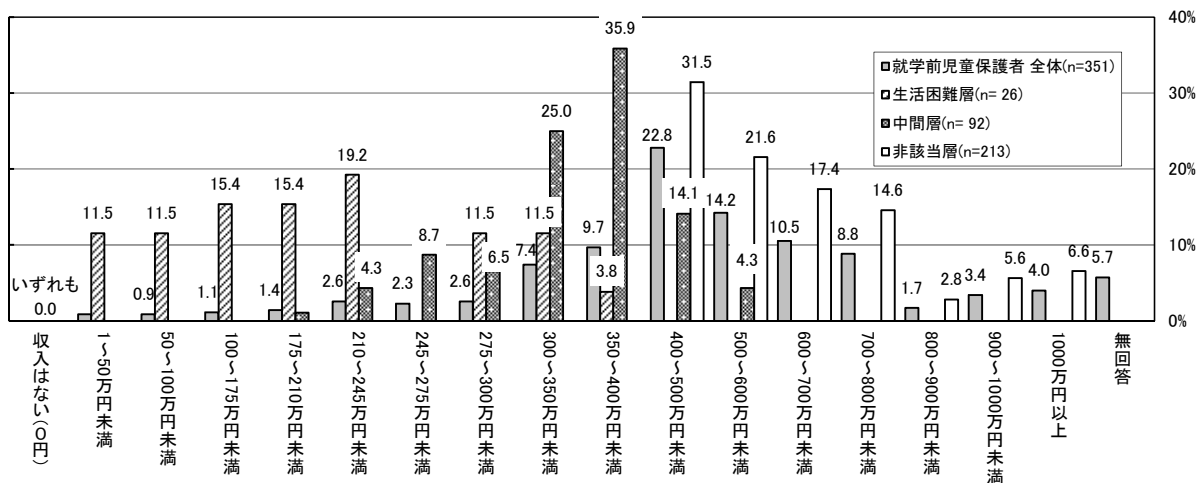
(1) 世帯の年間収入

【就学前児童保護者 問 15 / 小5・中2保護者 問 13】

昨年1年間（令和2年1月から12月）のご家族の手取り収入（税金や保険料を引いた、実際に手元に入ってくるお金）の額を教えてください。（就労で得た収入のほか、公的な手当や援助による収入なども含めた1年間の手取り収入になります。）（○は1つ）

世帯の年間収入について、就学前児童保護者では、「400～500万円未満」が22.8%で最も高く、次いで「500～600万円未満」が14.2%、「600～700万円未満」が10.5%、「700～800万円未満」が8.8%などの順となっている。生活状況別では、生活困難層では「210～245万円未満」が19.2%、「100～175万円未満」「175～210万円未満」がともに15.4%など、300万円未満の回答が8割を超える。中間層は「350～400万円未満」35.9%、「300～350万円未満」25.0%などの割合が高く、非該当層では、「400～500万円未満」が31.5%と最も高いものの、500万円以上の回答が7割近くを占める。

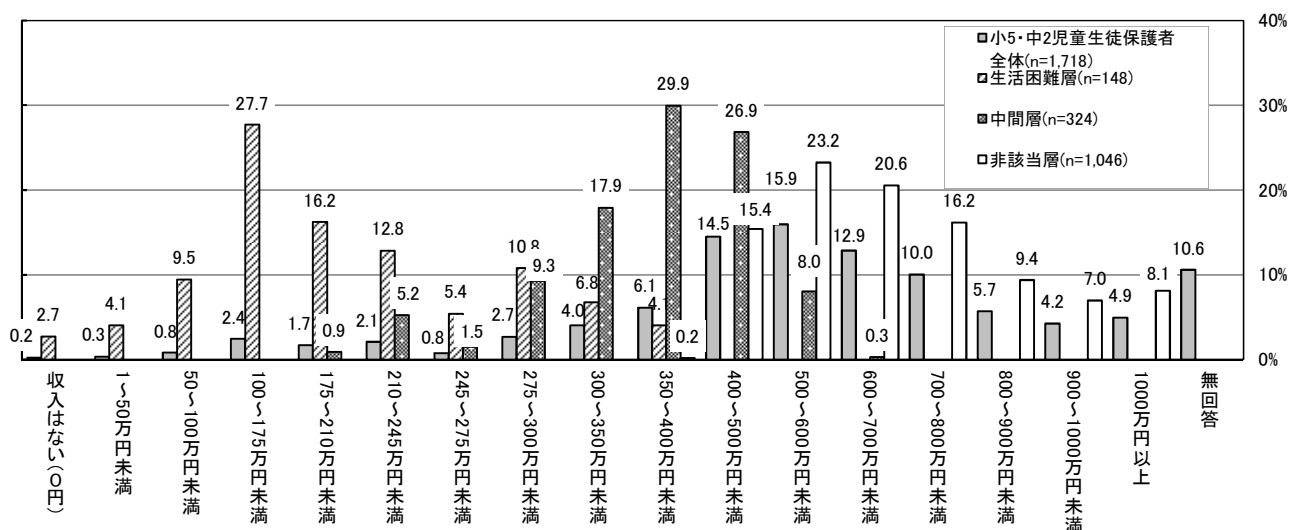
【就学前児童保護者・生活状況別】世帯の年間収入



■ 第1部 アンケート調査 ■

小5・中2児童生徒保護者では、「500～600万円未満」が15.9%で最も高く、次いで「400～500万円未満」が14.5%、「600～700万円未満」が12.9%、「700～800万円未満」が10.0%の順となっている。生活状況別では、生活困難層で「100～175万円未満」が27.7%、「175～210万円未満」が16.2%、「210～245万円未満」が12.8%など、300万円未満の回答が9割近くに達し、「収入はない(0円)」との回答も2.7%ながら存在する。中間層は「350～400万円未満」の29.9%、「400～500万円未満」の26.9%などの割合が高く、非該当層では、「500～600万円未満」の23.2%、「600～700万円未満」の20.6%などの回答の割合が高く、500万円以上の回答が8割を超える。

【小5・中2保護者・生活状況別】世帯の年間収入



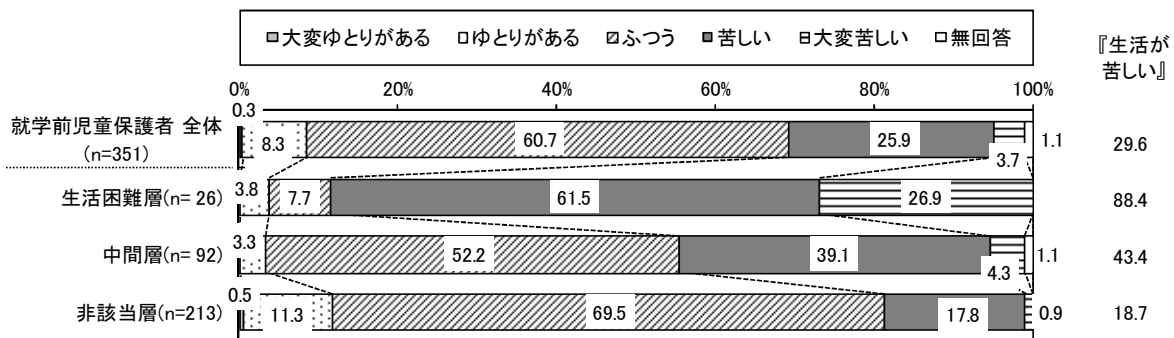
(2) 現在の暮らしの状況

【就学前児童保護者 問 16 / 小5・中2保護者 問 14】

あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。(○は1つ)

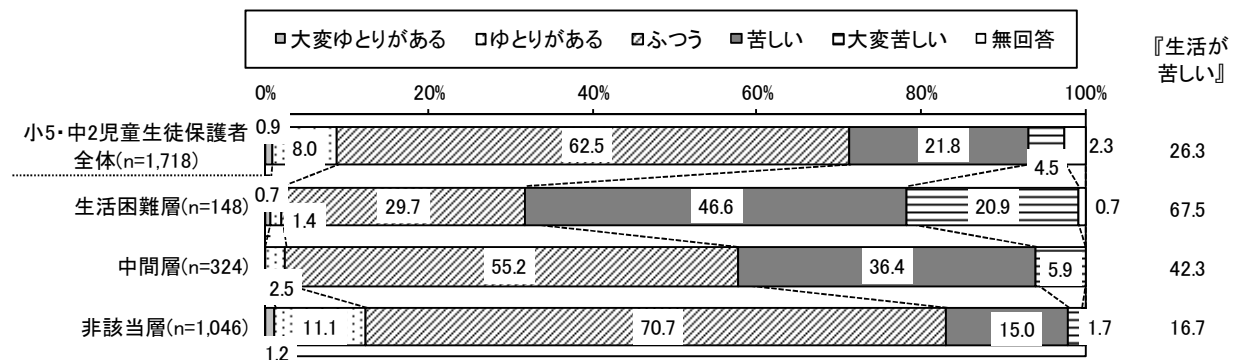
現在の暮らしの状況について、就学前児童保護者では、「ふつう」が60.7%で最も高く、次いでやや差があり、「苦しい」が25.9%となっている。生活状況別では、生活困難層で「苦しい」61.5%と「大変苦しい」26.9%を合わせた『生活が苦しい』が88.4%と9割近くを占めるなど、生活困難層ほど『生活が苦しい』割合が高くなっている。

【就学前児童保護者・生活状況別】現在の暮らしの状況



小5・中2児童生徒保護者では、「ふつう」が62.5%で最も高く、次いでやや差があり「苦しい」が21.8%となっている。生活状況別では、生活困難層で「苦しい」46.6%と「大変苦しい」20.9%を合わせた『生活が苦しい』は67.5%であり、生活困難層ほど『生活が苦しい』割合が高くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】現在の暮らしの状況



(3) お金が足りなくて食料が買えなかった経験

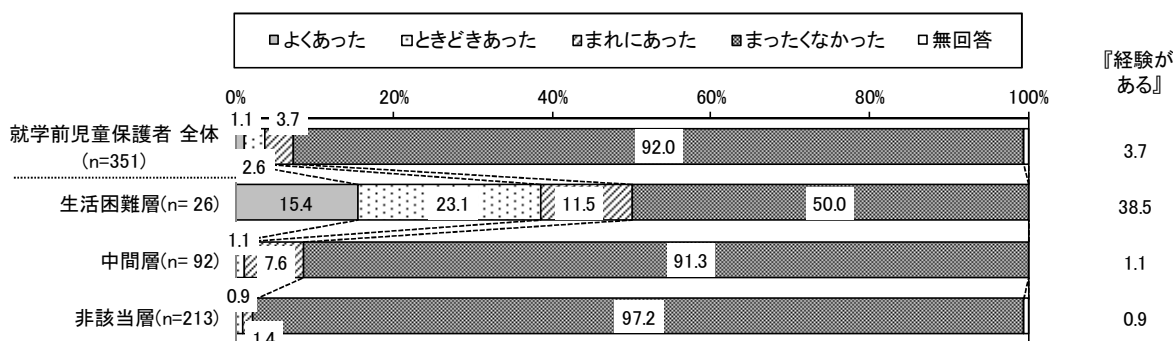
【就学前児童保護者 問 18 / 小5保護者・中2保護者 問 15】

あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品※は含みません。(○は1つ)

※お酒やたばこ、コーヒー、菓子類など

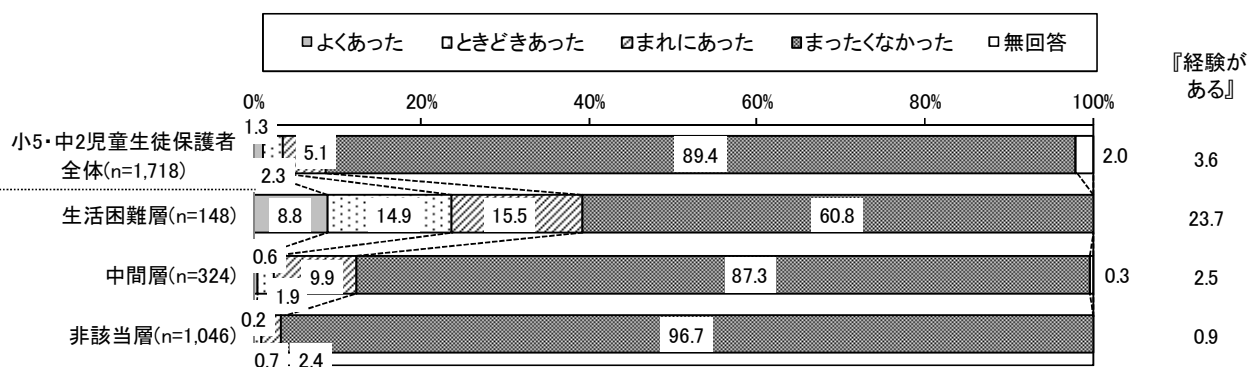
お金が足りなくて食料が買えなかった経験について、就学前児童保護者では、「まったくなかった」が92.0%と大半を占め、「よくあった」1.1%、「ときどきあった」2.6%などはいずれも数パーセントにとどまる。生活状況別では、生活困難層では「よくあった」15.4%、「ときどきあった」23.1%であり、それらを合計した『経験がある』割合は4割近くに達するなど、他の層を大きく上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】 お金が足りなくて食料が買えなかった経験



小5・中2児童生徒保護者では、「まったくなかった」が89.4%と大半を占め、「よくあった」1.3%、「ときどきあった」2.3%などはいずれも数パーセントにとどまる。生活状況別では、生活困難層では「よくあった」8.8%、「ときどきあった」14.9%であり、それらを合計した『経験がある』割合は2割台と、他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】 お金が足りなくて食料が買えなかった経験



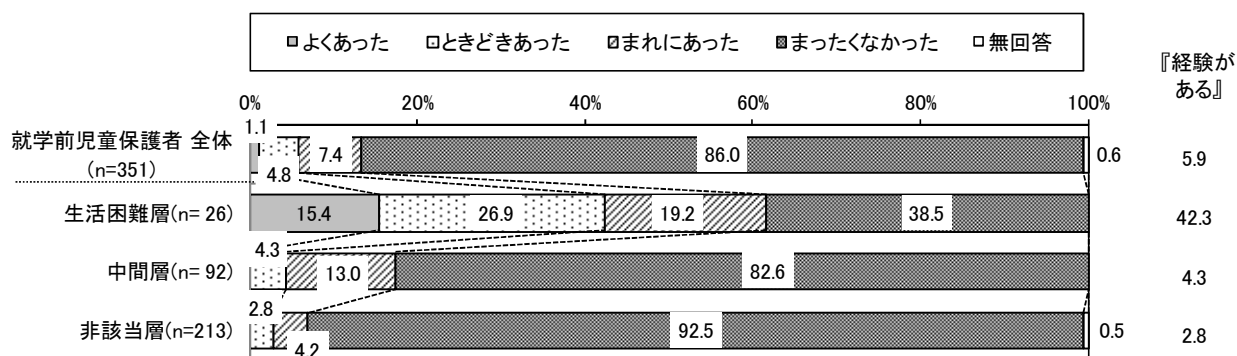
(4) お金が足りなくて衣服が買えなかった経験

【就学前児童保護者 問 18 / 小5・中2保護者 問 16】

あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つに○)

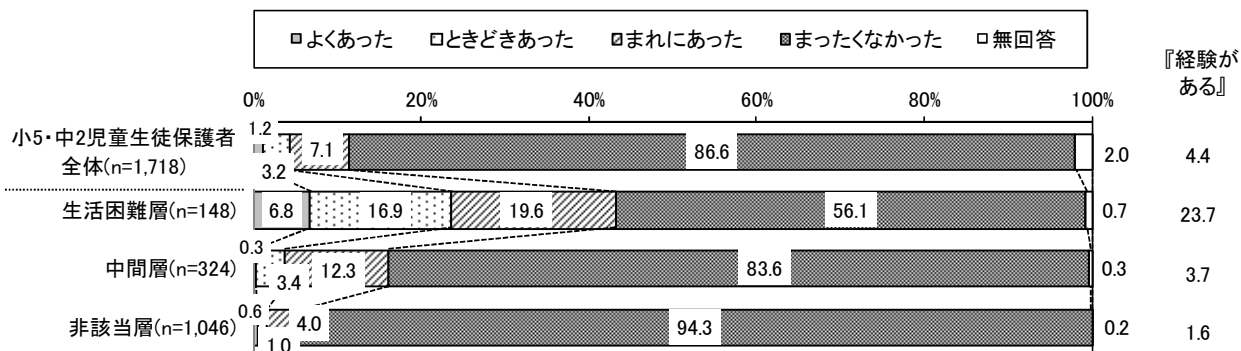
お金が足りなくて衣服が買えなかった経験について、就学前児童保護者では、「まったくなかった」が86.0%と大半を占める。生活状況別では、生活困難層では「よくあった」15.4%、「ときどきあった」26.9%であり、それらを合計した『経験がある』割合が4割を超えるなど、他の層を大きく上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】 お金が足りなくて衣服が買えなかった経験



小5・中2児童生徒保護者では、「まったくなかった」が86.6%と大半を占める。生活状況別では、生活困難層では「よくあった」6.8%、「ときどきあった」16.9%であり、それらを合計した『経験がある』割合は2割台と他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】 お金が足りなくて衣服が買えなかった経験



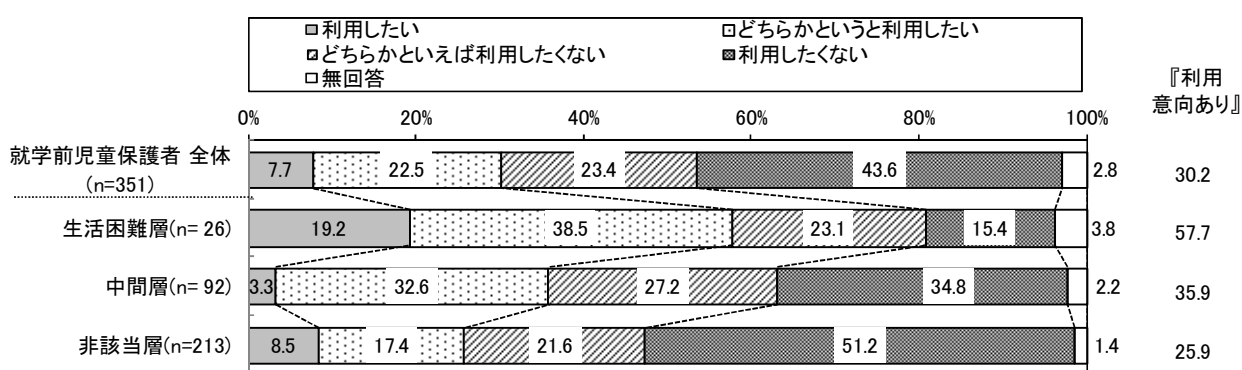
(5) フードパントリーの利用意向

【就学前児童保護者 問 19 / 小5・中2保護者 問 17】

市内にはボランティアを中心に、無償で食料を提供する「フードパントリー」という支援活動がありますが、利用したいと思いますか。(〇は1つ)

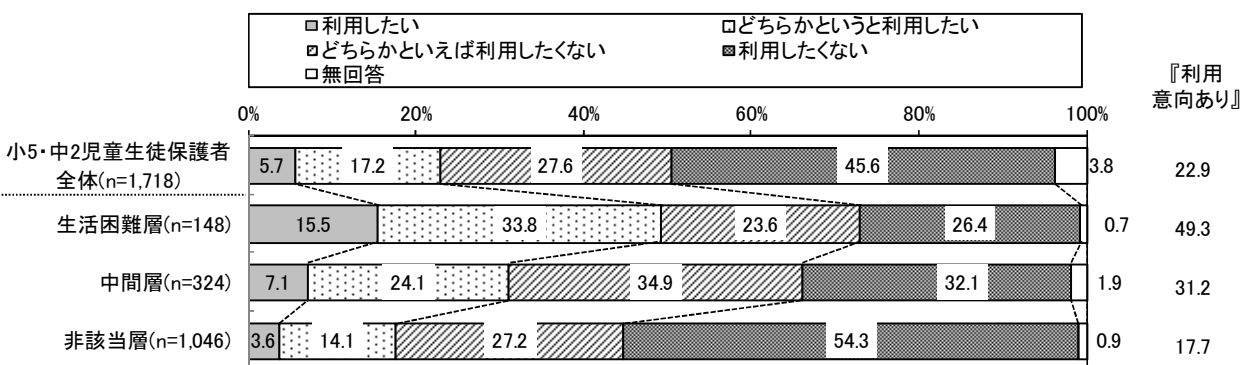
フードパントリーの利用意向について、就学前児童保護者では、「利用したくない」が43.6%、「どちらかといえば利用したくない」が23.4%、「どちらかというと利用したい」が22.5%、「利用したい」が7.7%となっている。生活状況別では、生活困難層で「利用したい」が19.2%、「どちらかというと利用したい」が38.5%であり、それらを合計した『利用意向あり』の割合は6割近くに達し、生活困難層ほど利用意向が高くなっている。

【就学前児童保護者・生活状況別】フードパントリーの利用意向



小5・中2児童生徒保護者では、「利用したくない」が45.6%、「どちらかといえば利用したくない」が27.6%、「どちらかというと利用したい」が17.2%、「利用したい」が5.7%となっている。生活状況別では、生活困難層で「利用したい」が15.5%、「どちらかというと利用したい」が33.8%であり、それらを合計した『利用意向あり』の割合は5割近くに達し、生活困難層ほど利用意向が高くなっている。

【就学前児童保護者・生活状況別】フードパントリーの利用意向



(6) 公共料金等の未払い経験について

【就学前児童保護者 問 20／小5・中2保護者 問 18】

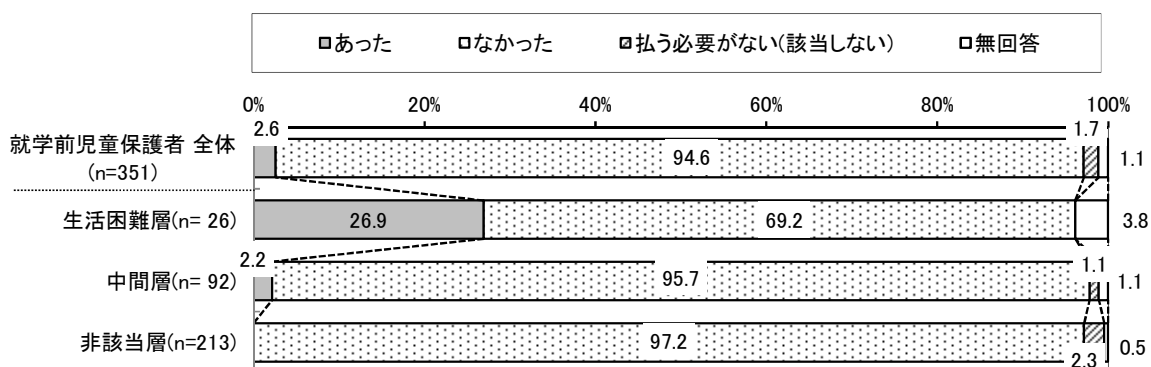
あなたの家庭では、過去1年の間に、経済的な理由のために以下のA～Fの費用を支払えないことがありましたか。(A～Fそれぞれについて、○は1つ)

① 電話料金

電話料金の未払い経験については、就学前児童保護者では、「なかった」が94.6%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が26.9%であり、他の層を大きく上回る。

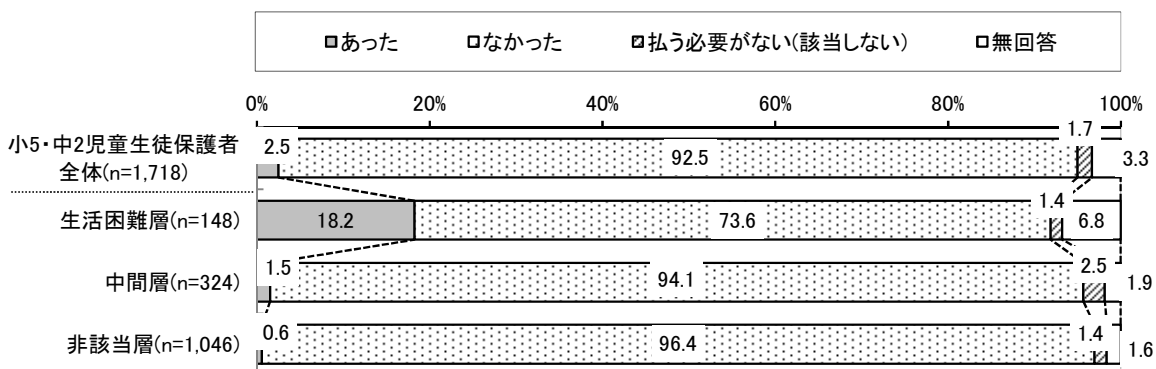
【就学前児童保護者・生活状況別】電話料金の未払い経験



小5・中2児童生徒保護者では、「なかった」が92.5%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が18.2%であり、他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】電話料金の未払い経験

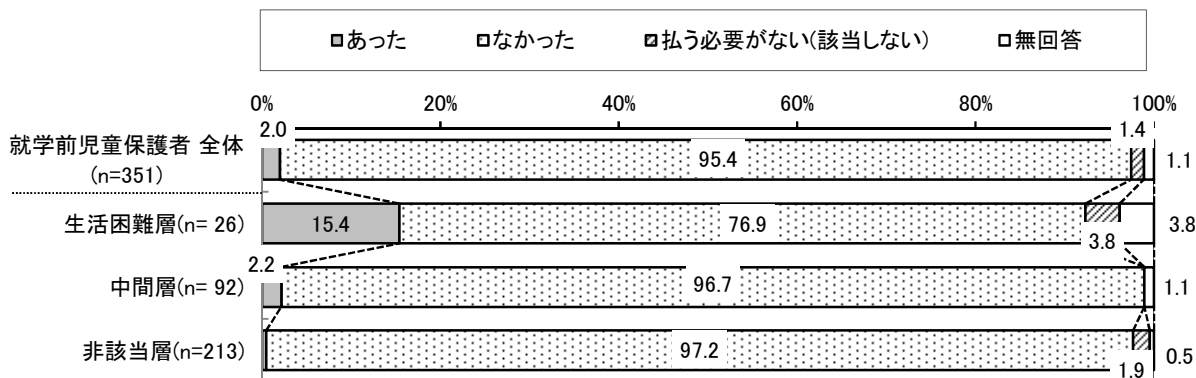


② 電気料金

電気料金の未払い経験については、就学前児童保護者では、「なかった」が95.4%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が15.4%であり、他の層を大きく上回る。

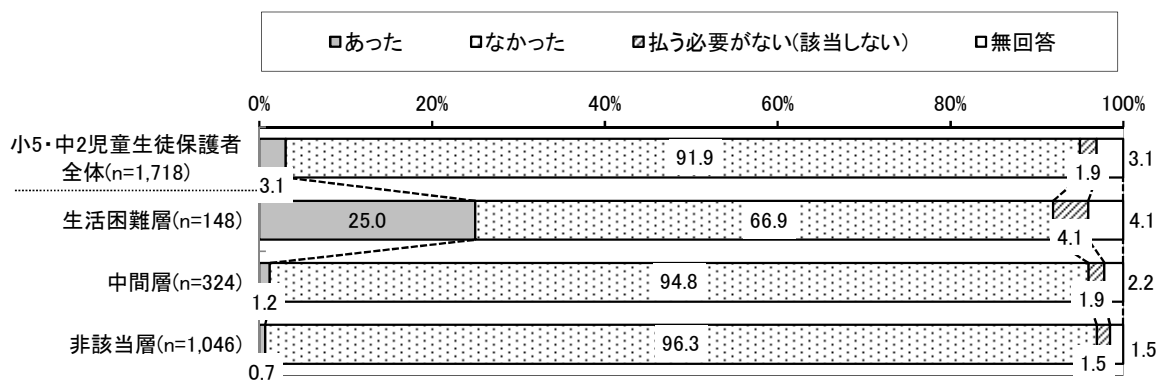
【就学前児童保護者・生活状況別】電気料金の未払い経験



小5・中2児童生徒保護者では、「なかった」が91.9%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が25.0%であり、他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】電気料金の未払い経験

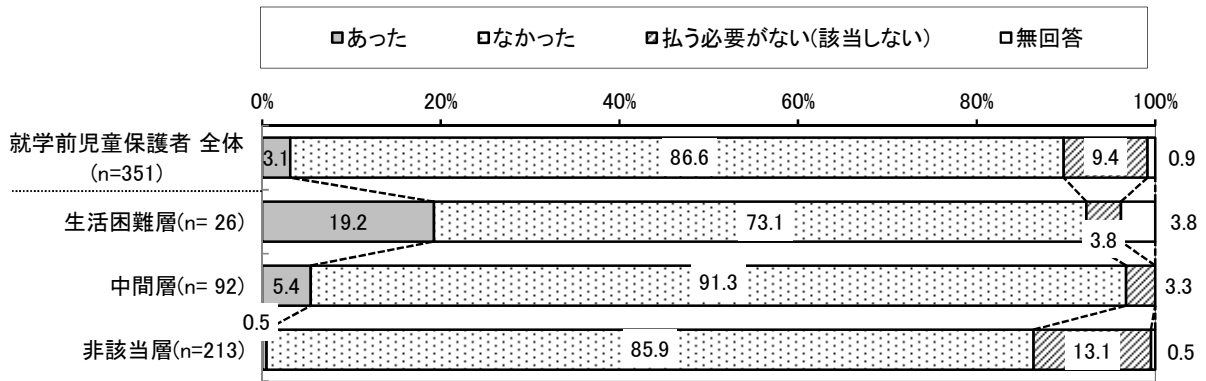


③ ガス料金

ガス料金の未払い経験については、就学前児童保護者では、「なかった」が86.6%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が19.2%であり、他の層を大きく上回る。

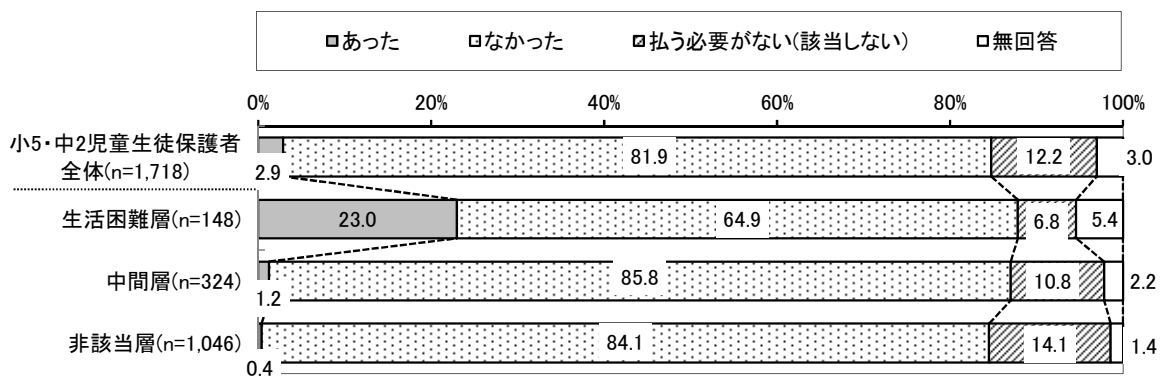
【就学前児童保護者・生活状況別】ガス料金の未払い経験



小5・中2児童生徒保護者では、「なかった」が81.9%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が23.0%であり、他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】ガス料金の未払い経験

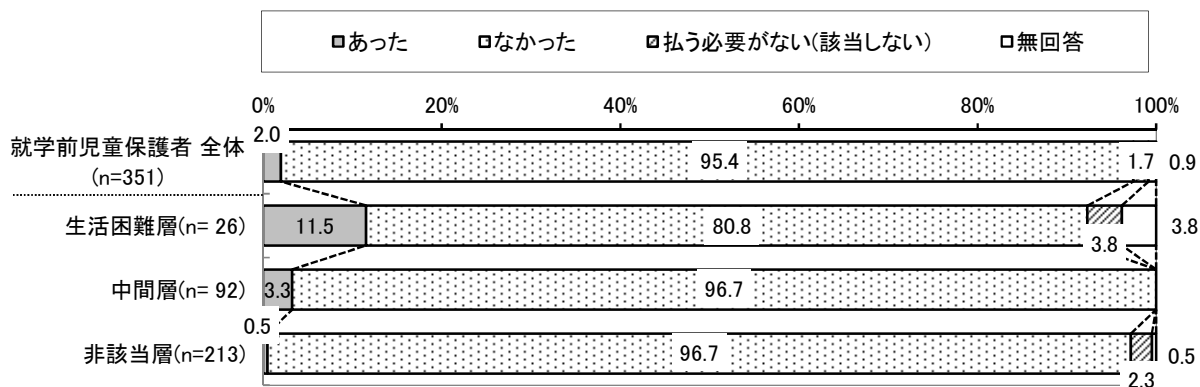


④ 水道料金

水道料金の未払い経験については、就学前児童保護者では、「なかった」が95.4%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が11.5%であり、他の層を大きく上回る。

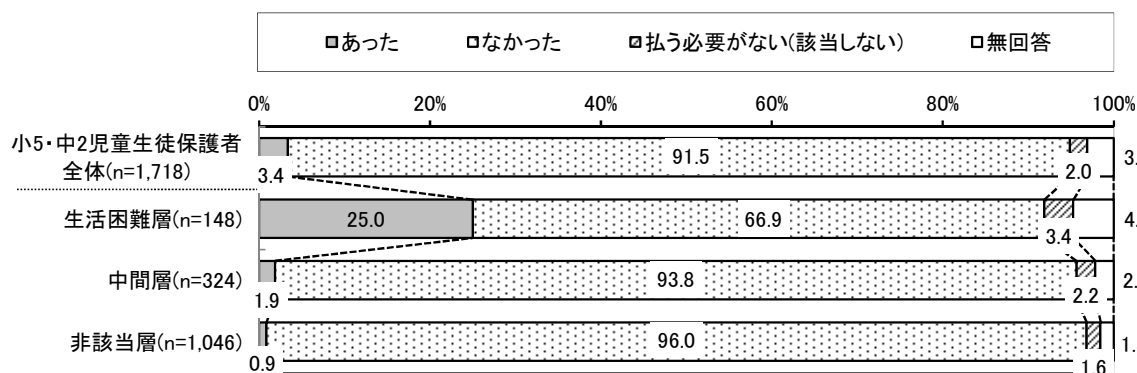
【就学前児童保護者・生活状況別】水道料金の未払い経験



小5・中2児童生徒保護者では、「なかった」が91.5%と大半を占める。

生活状況別でみると、生活困難層では「あった」が25.0%であり、他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】水道料金の未払い経験

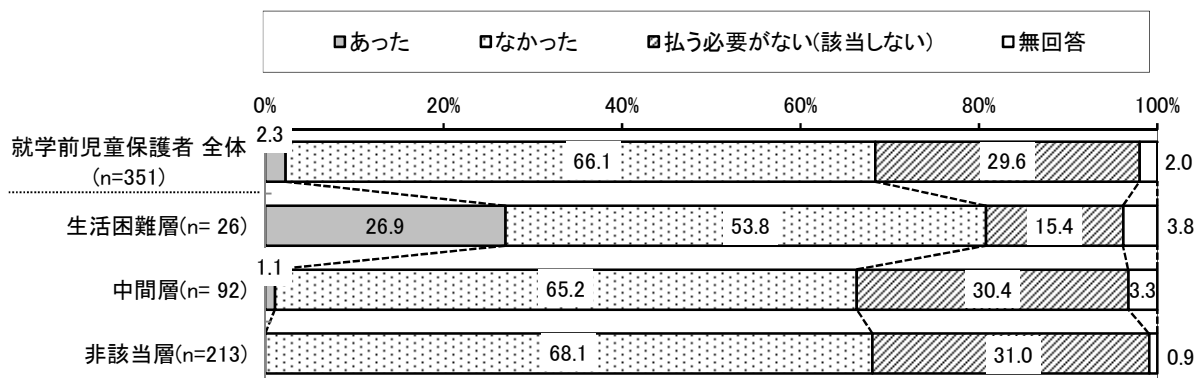


⑤ 家賃

家賃の未払い経験については、就学前児童保護者では、「なかった」が66.1%、「払う必要がない(該当しない)」が29.6%となっている。

生活状況別で見ると、生活困難層では「あった」が26.9%であり、他の層を大きく上回る。持ち家の割合が高い中間層、非該当層では「払う必要がない(該当しない)」がともに3割台となっている。

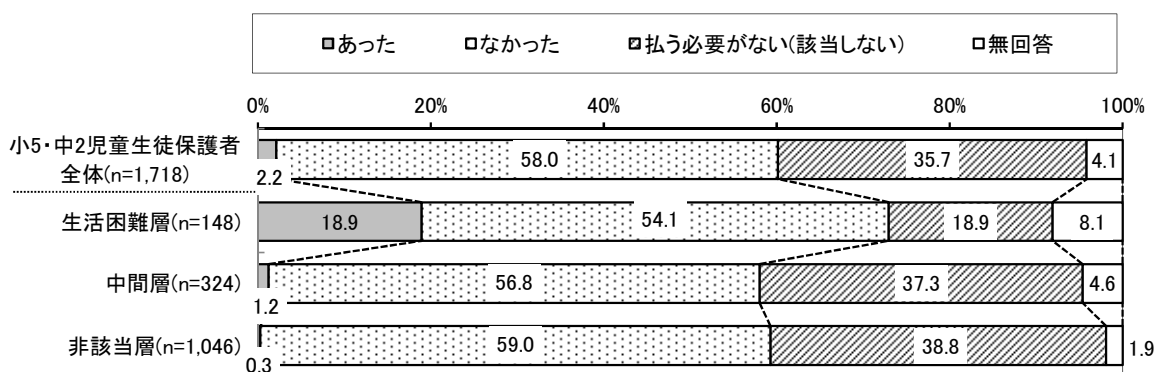
【就学前児童保護者・生活状況別】家賃の未払い経験



小5・中2児童生徒保護者では、「なかった」が58.0%、「払う必要がない(該当しない)」が35.7%となっている。

生活状況別で見ると、生活困難層では「あった」が18.9%であり、他の層を大きく上回る。持ち家の割合が高い中間層、非該当層では「払う必要がない(該当しない)」がともに3割台後半となっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】家賃の未払い経験

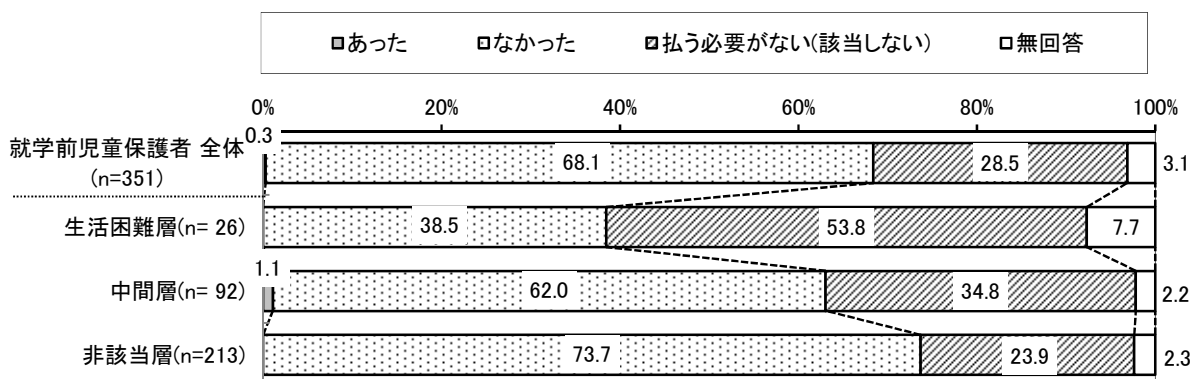


⑥ 住宅ローン

住宅ローンの未払い経験については、就学前児童保護者では、「なかった」が68.1%、「払う必要がない(該当しない)」が28.5%となっている。

生活状況別でみると、持ち家の割合が低い生活困難層では「払う必要がない(該当しない)」が53.8%、「なかった」が38.5%となっている。

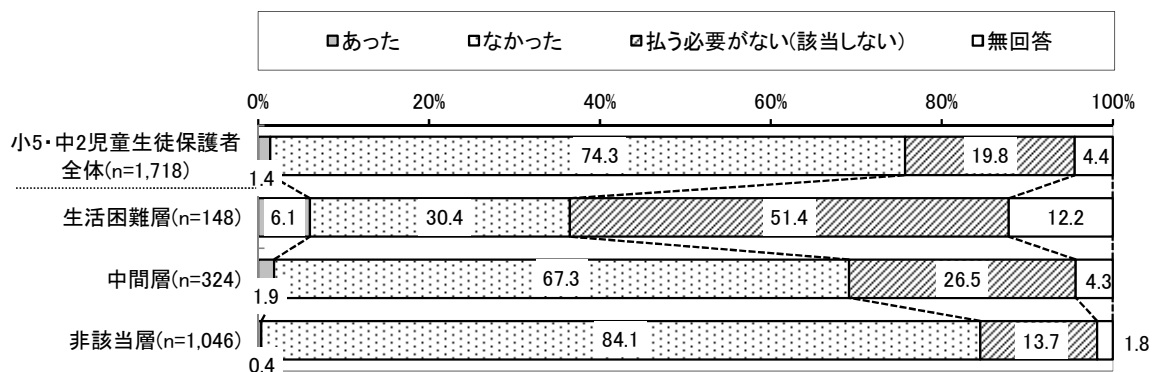
【就学前児童保護者・生活状況別】住宅ローンの未払い経験



小5・中2児童生徒保護者では、「なかった」が74.3%、「払う必要がない(該当しない)」が19.8%となっている。

生活状況別でみると、持ち家の割合が低い生活困難層では「払う必要がない(該当しない)」が51.4%で最も高いものの、「あった」割合は、生活困難層の6.1%が他の層を上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】住宅ローンの未払い経験



(7) 毎月の子どもにかかる費用額

【就学前児童保護者 問 21 / 小5・中2保護者 問 19】

あなたの家庭のすべてのお子さんの保育料や学校教育（給食費・教材費等）と学習塾・習い事等にかかる毎月のおおよその金額を教えてください。（A・Bそれぞれの枠内にあてはまる番号を記入）

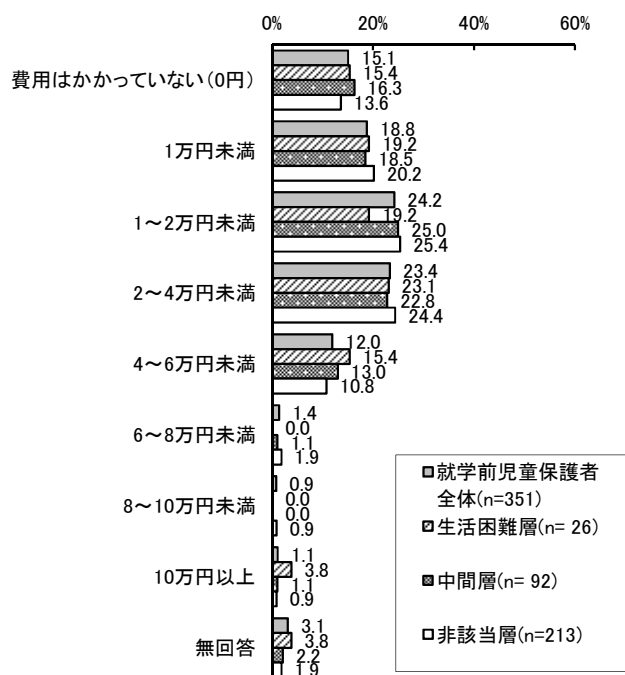
保育料や学校教育にかかる費用について、就学前児童保護者では、「1～2万円未満」24.2%、「2～4万円未満」23.4%などの割合が高くなっている。生活状況別では大きな差は見られない。

学習塾・習い事にかかる費用について、全体では「費用はかかっていない（0円）」37.9%、「1万円未満」23.6%との回答が多くなっている。

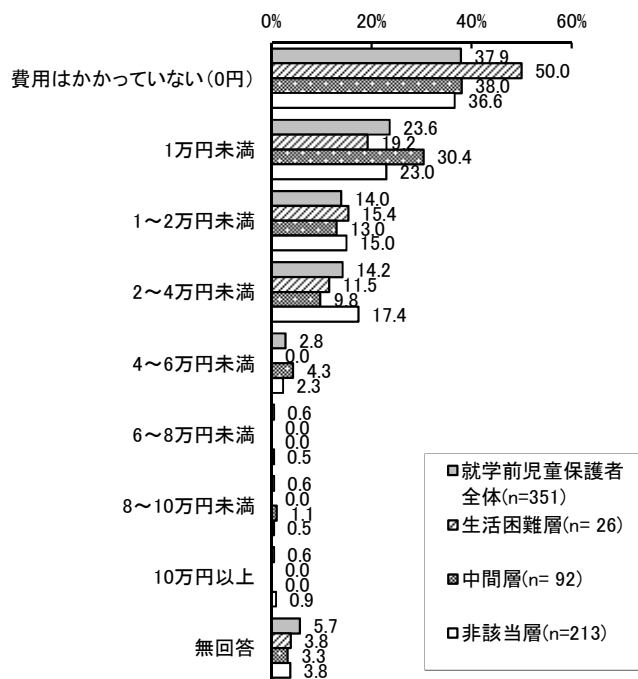
生活状況別では、生活困難層で「費用はかかっていない（0円）」が50.0%であり、他の層を上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】毎月の子どもにかかる費用額

A 保育料や学校教育にかかる費用



B 学習塾・習い事にかかる費用



保育料や学校教育にかかる費用について、小5・中2児童生徒保護者では、「1～2万円未満」31.7%、「2～4万円未満」23.0%などの割合が高くなっている。

生活状況別では大きな差は見られないが、生活困難層で「費用はかかっていない(0円)」の割合が他の層に比べ高い一方、「8～10万円未満」についても他の層を上回る。

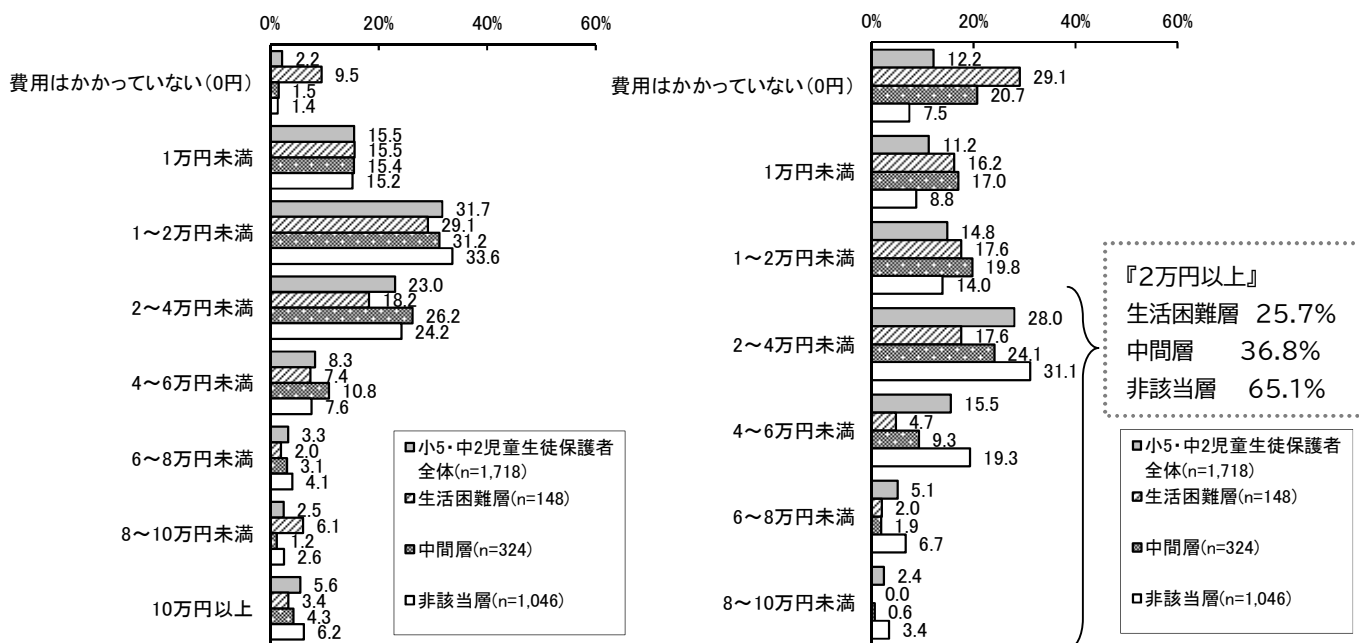
学習塾・習い事にかかる費用について、全体では「2～4万円未満」28.0%、「4～6万円未満」15.5%、「1～2万円未満」14.8%などの回答が多くなっている。

生活状況別では、生活困難層で「費用はかかっていない(0円)」が29.1%で他の層を大きく上回る。一方で、「2～4万円未満」から「10万円以上」を合わせた『2万円以上』の割合は生活困難層が2割台に対し、非該当層が6割台であり、生活状況により大きな差がみられる。

【小5・中2保護者・生活状況別】毎月の子どもにかかる費用額

A 保育料や学校教育にかかる費用

B 学習塾・習い事にかかる費用



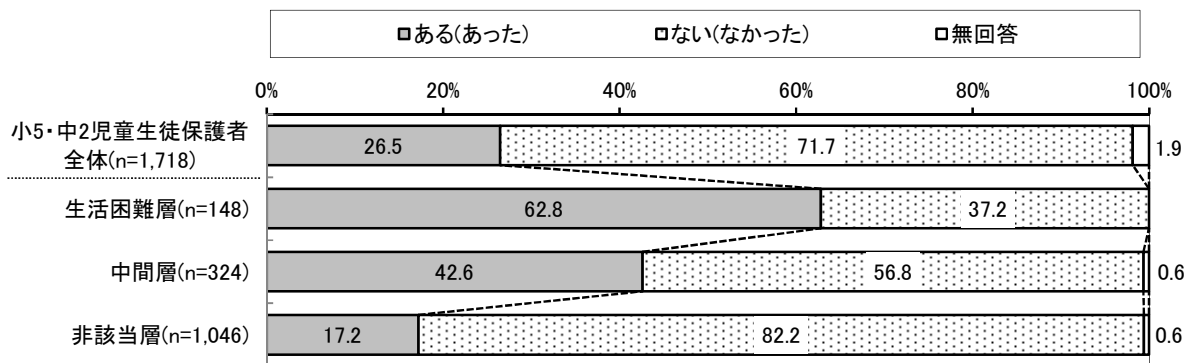
(8) 習い事や塾に通わせることができなかった経験

【小5・中2保護者 問20】
 あなたの世帯では、経済的な理由により、お子さんを習い事や塾に通わせることができなかったことがありますか。(○は1つ)

習い事や塾に通わせることができなかった経験について、小5・中2児童生徒保護者では、「ない(なかった)」が71.7%、「ある(あった)」が26.5%となっている。

生活状況別でみると、生活困難層では「ある(あった)」が62.8%であり、中間層の42.6%、非該当層の17.2%を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】習い事や塾に通わせることができなかった経験



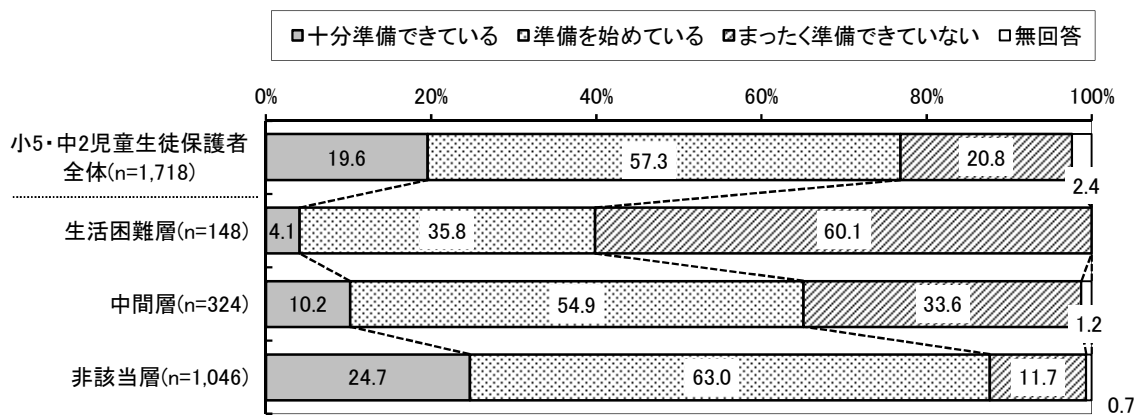
(9) 教育費の準備

【小5・中2保護者 問21】
 今後、教育を受けさせるための、お金の準備はできていますか。(○は1つ)

教育費の準備について、小5・中2児童生徒保護者では、「準備を始めている」が57.3%、「まったく準備できていない」が20.8%、「十分準備できている」が19.6%となっている。

生活状況別でみると、生活困難層ほど「まったく準備できていない」割合が高く、非該当層ほど「十分準備できている」割合が高くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】教育を受けさせるための貯蓄



4. 子育て・教育について

(1) 保護者と子どもの関わり方

【就学前児童保護者 問 22】

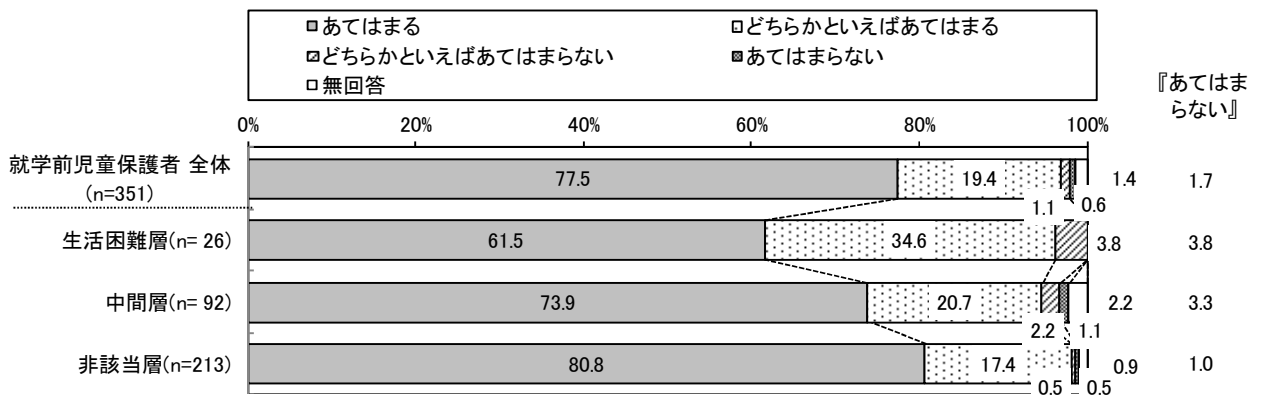
保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(A～Fそれぞれについて、○は1つ)

※お子さんの発達段階に合わせて、回答できる設問にお答えください。

① お子さんと身体的なふれあいをしながら、認めたり励ましたりする

子どもと身体的なふれあいをしながら、認めたり励ましたりすることについては、就学前児童保護者では、「あてはまる」が77.5%、「どちらかといえばあてはまる」が19.4%となっている。生活状況別でみると、生活困難層では中間層、非該当層に比べ「あてはまる」が低く、「どちらかといえばあてはまる」が高くなっている。「どちらかといえばあてはまらない」と「あてはまらない」を合計した『あてはまらない』について、生活状況による大きな差は見られない。

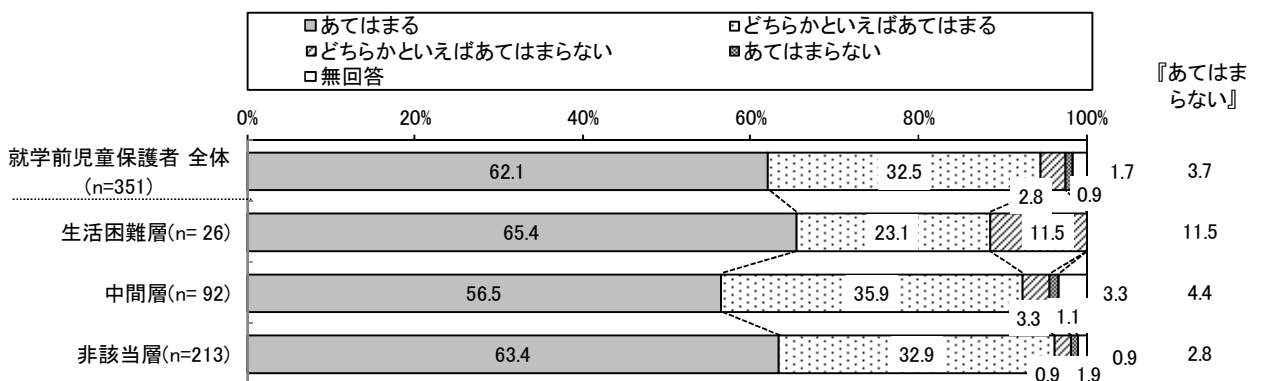
【就学前児童保護者・生活状況別】 子どもと身体的なふれあいをしながら、認めたり励ましたりする



② お子さんの気持ちを言葉にする

子どもの気持ちを言葉にすることについては、就学前児童保護者では、「あてはまる」が62.1%、「どちらかといえばあてはまる」が32.5%となっている。生活状況別でみると、『あてはまらない』は生活困難層で11.5%であり、他の層を上回る。

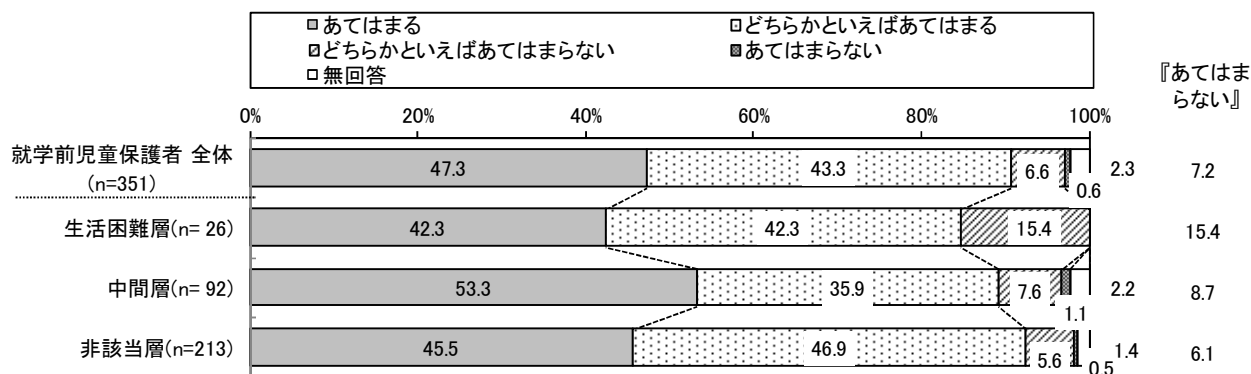
【就学前児童保護者・生活状況別】 子どもの気持ちを言葉にする



③ お子さんの語りかけに、じっくり耳を傾けて応じる

子どもの語りかけに、じっくり耳を傾けて応じることについては、就学前児童保護者では、「あてはまる」が47.3%、「どちらかといえばあてはまる」が43.3%となっている。生活状況別でみると、『あてはまらない』は生活困難層で15.4%であり、他の層を大きく上回る。

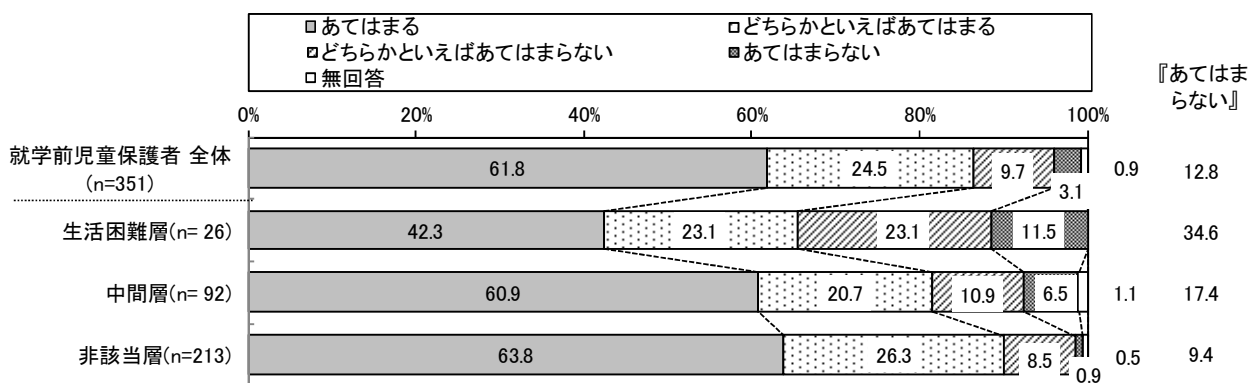
【就学前児童保護者・生活状況別】子どもの語りかけに、じっくり耳を傾けて応じる



④ お子さんと一緒に絵本を見たり、読み聞かせをする

子どもと一緒に絵本を見たり、読み聞かせをすることについては、就学前児童保護者では、「あてはまる」が61.8%、「どちらかといえばあてはまる」が24.5%となっている。生活状況別でみると、『あてはまらない』は生活困難層で34.6%であり、生活困難層ほど多い傾向にある。

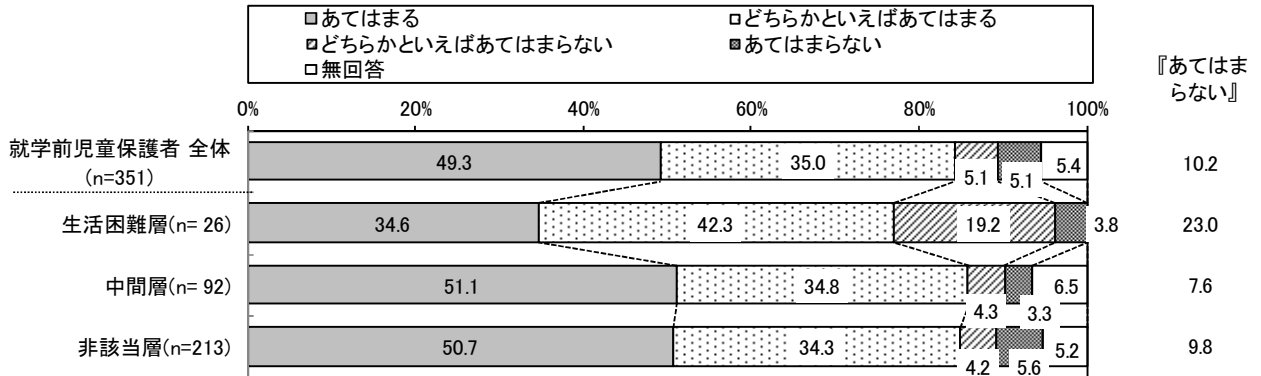
【就学前児童保護者・生活状況別】子どもと一緒に絵本を見たり、読み聞かせをする



⑤ お子さんが興味を持ったことを一緒に調べる

子どもが興味を持ったことを一緒に調べることについては、就学前児童保護者では、「あてはまる」が49.3%、「どちらかといえばあてはまる」が35.0%となっている。生活状況別で見ると、『あてはまらない』は生活困難層で23.0%であり、他の層を大きく上回る。

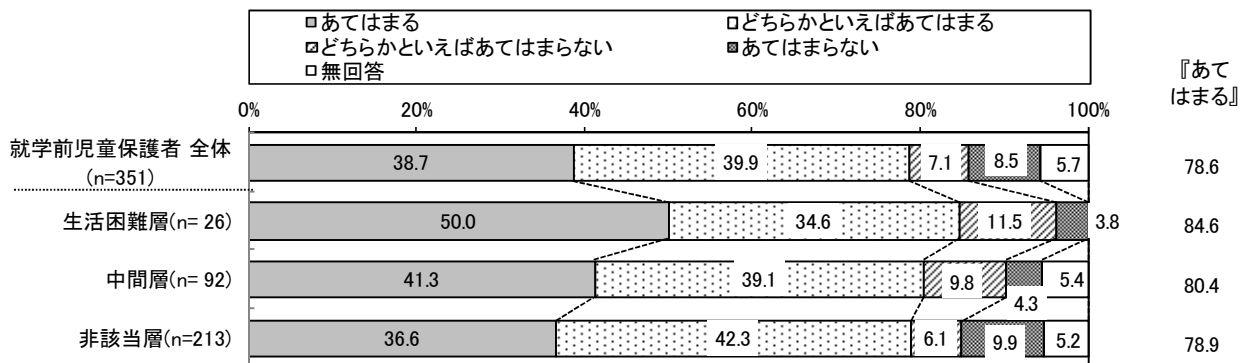
【就学前児童保護者・生活状況別】子どもが興味を持ったことを一緒に調べる



⑥ お子さんに家でお手伝いをさせる

子どもに家でお手伝いをさせることについては、就学前児童保護者では、「あてはまる」が38.7%、「どちらかといえばあてはまる」が39.9%となっている。生活状況別で見ると、『あてはまる』は生活困難層で84.6%であり、生活困難層ほど多い傾向にある。

【就学前児童保護者・生活状況別】子どもに家でお手伝いをさせる



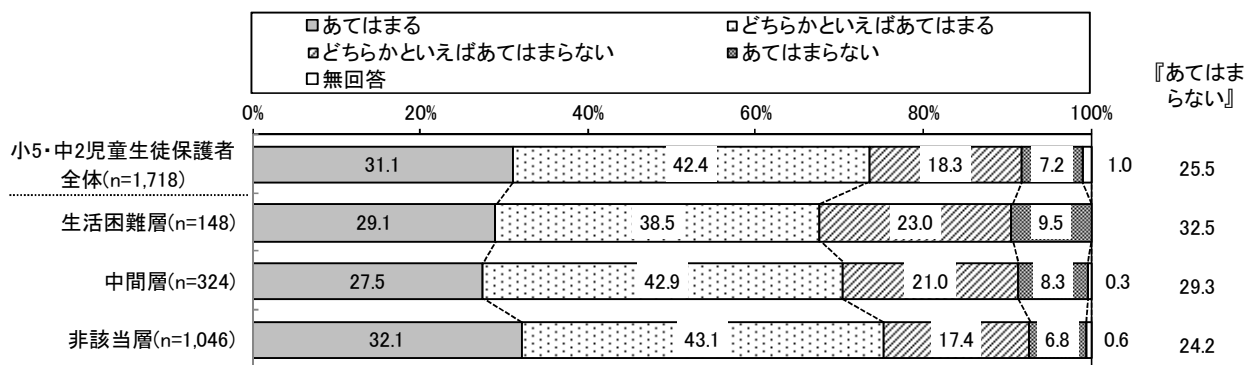
【小5・中2保護者 問22】

保護者の方とお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(A~Eそれぞれについて、○は1つ)

① テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている

テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めているかについて、小5・中2児童生徒保護者では、「どちらかといえばあてはまる」が42.4%で最も高く、次いで「あてはまる」が31.1%となっている。生活状況別でみると、「あてはまらない」と「どちらかといえばあてはまらない」を合計した『あてはまらない』は生活困難層の32.5%が最も高く、他の層を上回る。

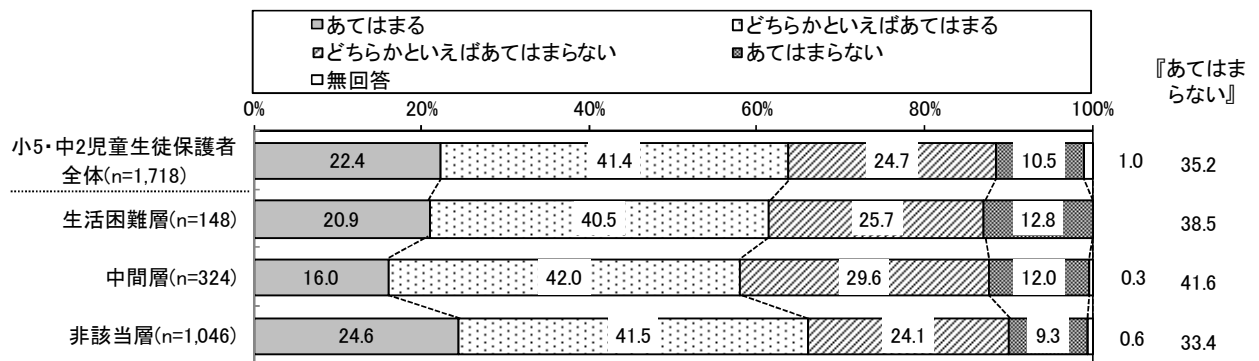
【小5・中2保護者・生活状況別】テレビ等のルールを決めている



② お子さんに本や新聞を読むように勧めている

子どもに本や新聞を読むように勧めているかについて、小5・中2児童生徒保護者では、「どちらかといえばあてはまる」が41.4%で最も高く、「どちらかといえばあてはまらない」が24.7%、「あてはまる」が22.4%となっている。生活状況別でみると、『あてはまらない』は中間層で最も高く41.6%となっている。

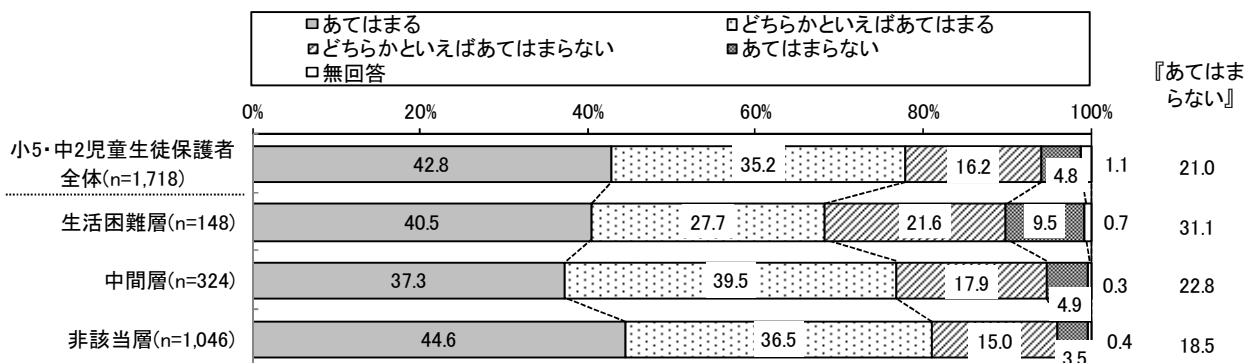
【小5・中2保護者・生活状況別】子どもに本や新聞を読むよう勧めている



③ お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

子どもが小さいころ絵本の読み聞かせをしていたかについて、小5・中2児童生徒保護者では、「あてはまる」が42.8%、「どちらかといえばあてはまる」が35.2%となっている。生活状況別でみると、『あてはまらない』は生活困難層ほど多い傾向にある。

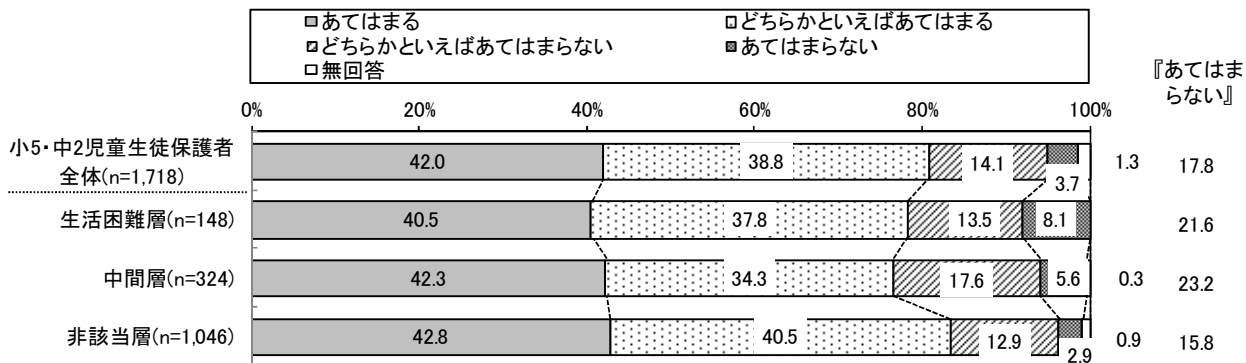
【小5・中2保護者・生活状況別】子どもが小さいころ絵本の読み聞かせをしていた



④ お子さんから勉強や成績のことについて話をしてくれる

子どもから勉強や成績のことについて話をしてくれるかについて、小5・中2児童生徒保護者では、「あてはまる」が42.0%、「どちらかといえばあてはまる」が38.8%となっている。生活状況別でみると、『あてはまらない』は生活困難層と中間層で2割台であり、非該当層を上回る。

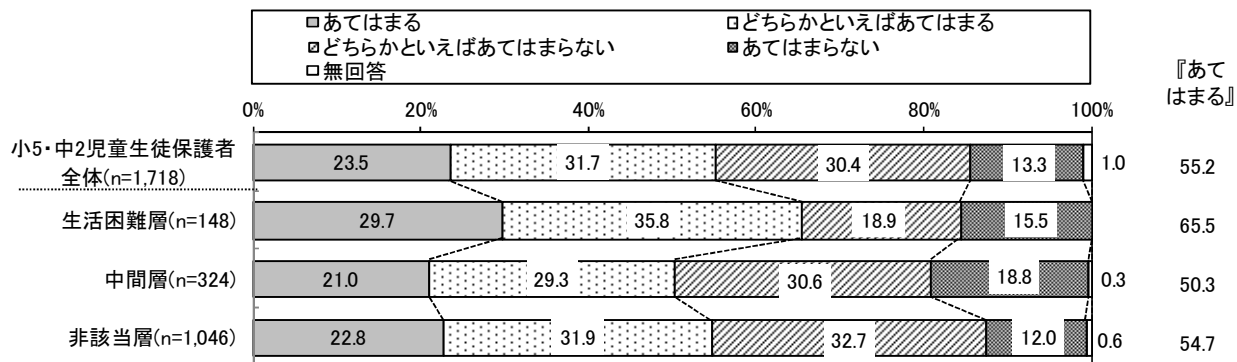
【小5・中2保護者・生活状況別】子どもから勉強や成績について話をしてくれる



⑤ お子さんに家事の一部を任せている

子どもに家事の一部を任せているかどうかについて、小5・中2児童生徒保護者では、「どちらかといえばあてはまる」が31.7%、「あてはまる」が23.5%となっている。生活状況別で見ると、「あてはまる」と「どちらかといえばあてはまる」を合計した『あてはまる』は生活困難層のみ6割を超えており、他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもに家事の一部を任せている



(2) 保護者の学校行事等への参加

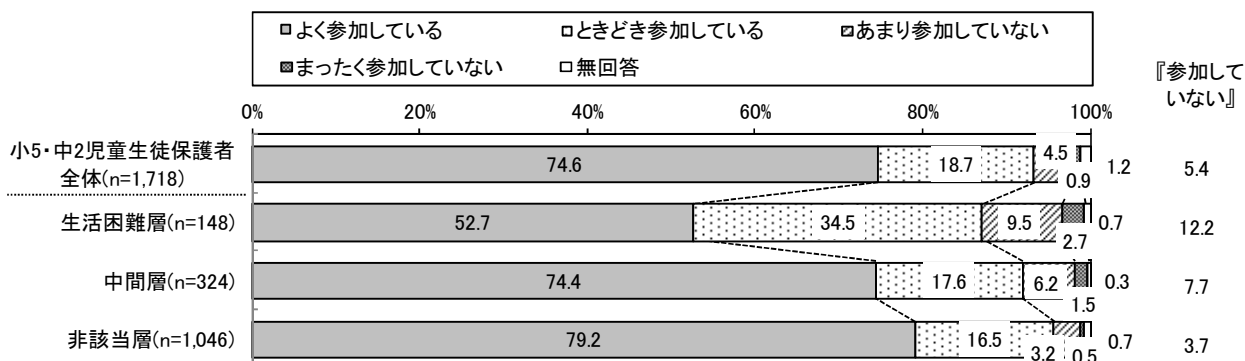
【小5・中2保護者 問23】

あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(A・Bそれぞれについて、○は1つ)

① 授業参観や運動会などの学校行事への参加

授業参観や運動会などの学校行事への参加については、小5・中2児童生徒保護者では、「よく参加している」が74.6%、「ときどき参加している」が18.7%となっている。生活状況別で見ると、生活困難層では中間層、非該当層に比べ「よく参加している」が低く、「ときどき参加している」割合が高くなっている。「あまり参加していない」と「まったく参加していない」を合計した『参加していない』については、生活困難層ほど多い傾向にある。

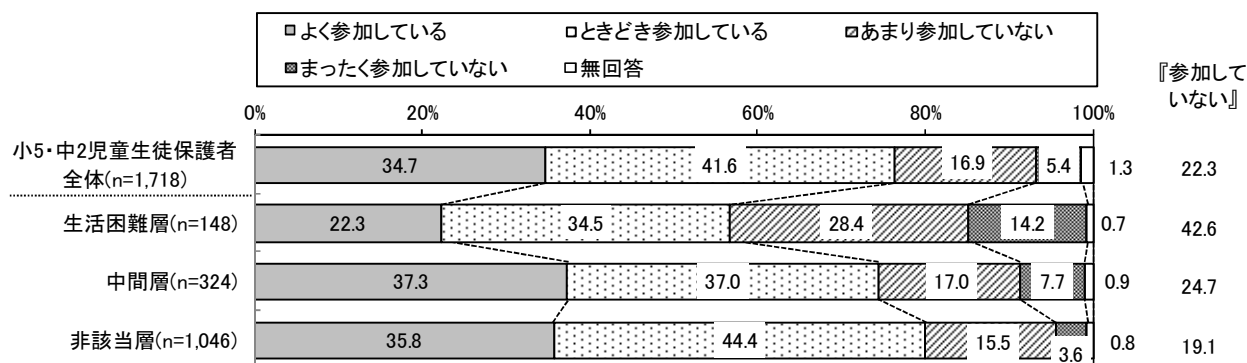
【小5・中2保護者・生活状況別】授業参観や運動会などの学校行事への参加



② PTA 活動や保護者会、学校応援団等のボランティアなどへの参加

PTA 活動や保護者会、学校応援団等のボランティアなどへの参加については、小5・中2児童生徒保護者では、「ときどき参加している」が41.6%、「よく参加している」が34.7%となっている。生活状況別で見ると、生活困難層では中間層、非該当層に比べ「よく参加している」が低く、「あまり参加していない」割合が高くなっている。『参加していない』については、生活困難層ほど多い傾向にある。

【小5・中2保護者・生活状況別】授業参観や運動会などの学校行事への参加



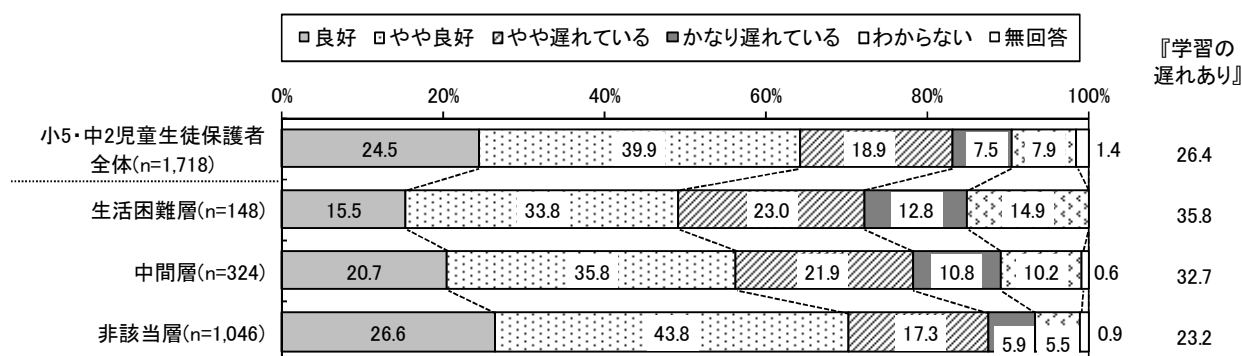
(3) 子どもの学習状況

【小5・中2保護者 問24】

調査対象のお子さんの学校での学習状況についてどう思っていますか。(○は1つ)

子どもの学習状況について、小5・中2児童生徒保護者では、「やや良好」が39.9%、「良好」が24.5%、「やや遅れている」が18.9%となっている。生活状況別でみると、「やや遅れている」と「かなり遅れている」を合計した『学習の遅れあり』は生活困難層ほど多い傾向にある。また、生活困難層では「わからない」割合も高くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもの学習状況



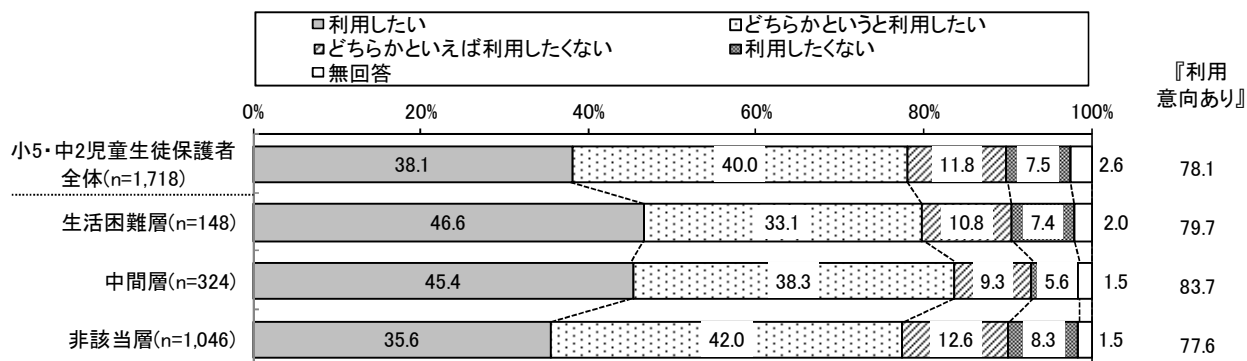
(4) 子どもが無料で勉強を教えてもらえる場所の利用意向

【小5・中2保護者 問25】

自宅や学校以外の場所で、無料で、お子さんが大人や大学生のボランティアなどから教えてもらいながら勉強ができる場所があったら利用したいと思いますか。(○は1つ)

子どもが無料で勉強を教えてもらえる場所の利用意向について、小5・中2児童生徒保護者では、「利用したい」38.1%と「どちらかという利用させたい」40.0%を合わせた『利用意向あり』は78.1%となっている。生活状況別でみると、『利用意向あり』は、中間層の83.7%が最も高くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもが無料で勉強を教えてもらえる場所の利用意向



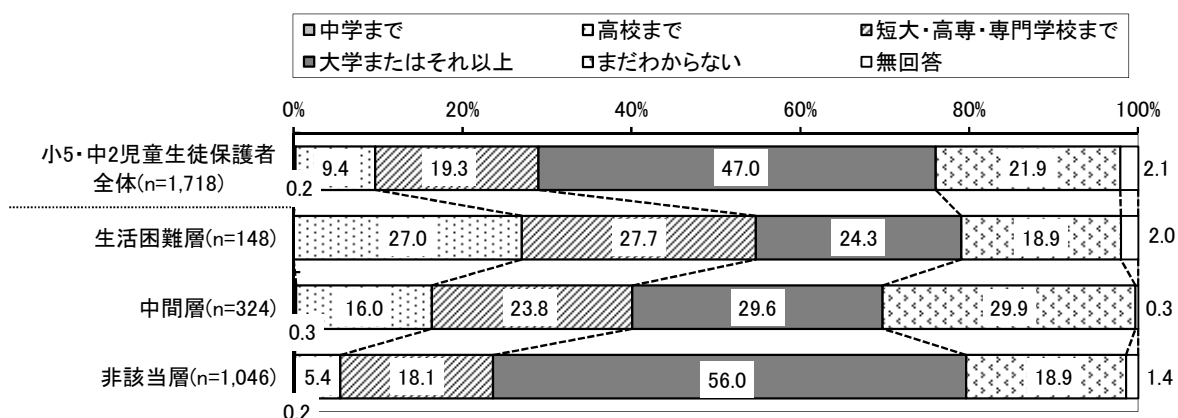
(5) 子どもの将来の進学段階の予想

【小5・中2保護者 問26】

調査対象のお子さんは将来、現実的に見てどの段階まで進学すると思いますか。(○は1つ)

子どもの将来の進学段階の予想について、小5・中2児童生徒保護者では、「大学またはそれ以上」が47.0%で最も高く、次いで「まだわからない」が21.9%、「短大・高専・専門学校まで」19.3%となっている。生活状況別でみると、生活困難層で「高校まで」が27.0%と、生活困難層ほどその割合が高くなっている。反対に、非該当層では、「大学またはそれ以上」が56.0%と他の層を大きく上回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもの将来の進学段階の予想



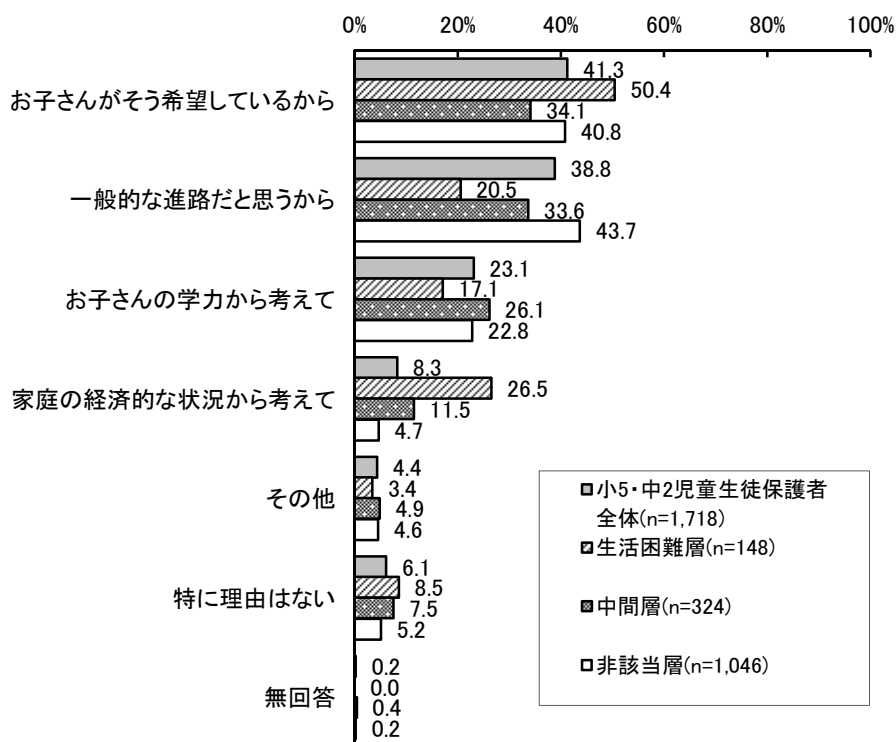
(6) 子どもの将来の進学段階の理由

【小5・中2保護者 問27】

【問26で「1（中学まで）」～「4（大学またはそれ以上）」と回答した方におうかがいします。】前問で1～4を選んだ場合、その理由は何ですか。（あてはまるものすべてに○）

子どもの将来の進学段階の予想の理由について、小5・中2児童生徒保護者では、「お子さんがそう希望しているから」が41.3%で最も高く、次いで「一般的な進路だと思うから」が38.8%、「お子さんの学力から考えて」が23.1%となっている。生活状況別でみると、生活困難層では、「お子さんがそう希望しているから」50.4%や「家庭の経済的な状況から考えて」26.5%が他の層を大きく上回る。「一般的な進路だと思うから」は非該当層の43.7%が最も高く、他の層を大きく上回っている。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもの将来の進学段階の理由



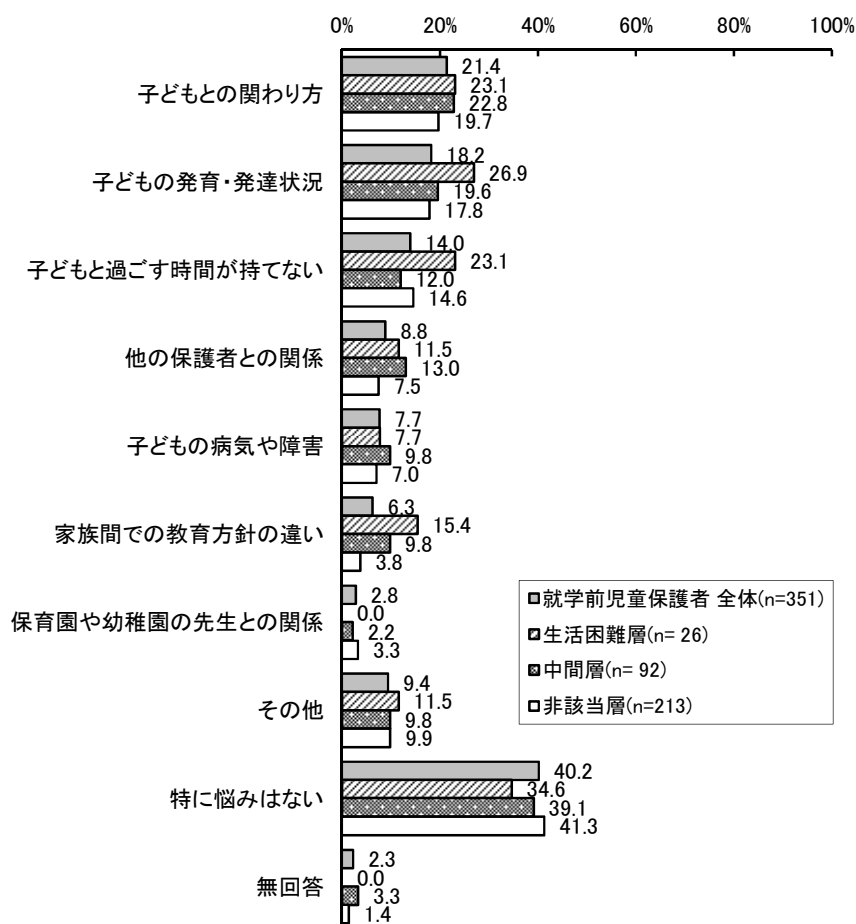
(7) 子どものことで悩んでいること

【就学前児童保護者 問 23 / 小5・中2保護者 問 28】

あなたは、お子さんのことについて悩んでいることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

子どものことで悩んでいることについて、就学前児童保護者では、「特に悩みはない」が40.2%で最も高く、次いでやや差があり「子どもとの関わり方」が21.4%となっている。生活状況別でみると、いずれの層でも「特に悩みはない」が最も高くなっているが、生活困難層では、「子どもの発育・発達状況」「子どもと過ごす時間が持てない」「家族間での教育方針の違い」などが、他の層を上回る。

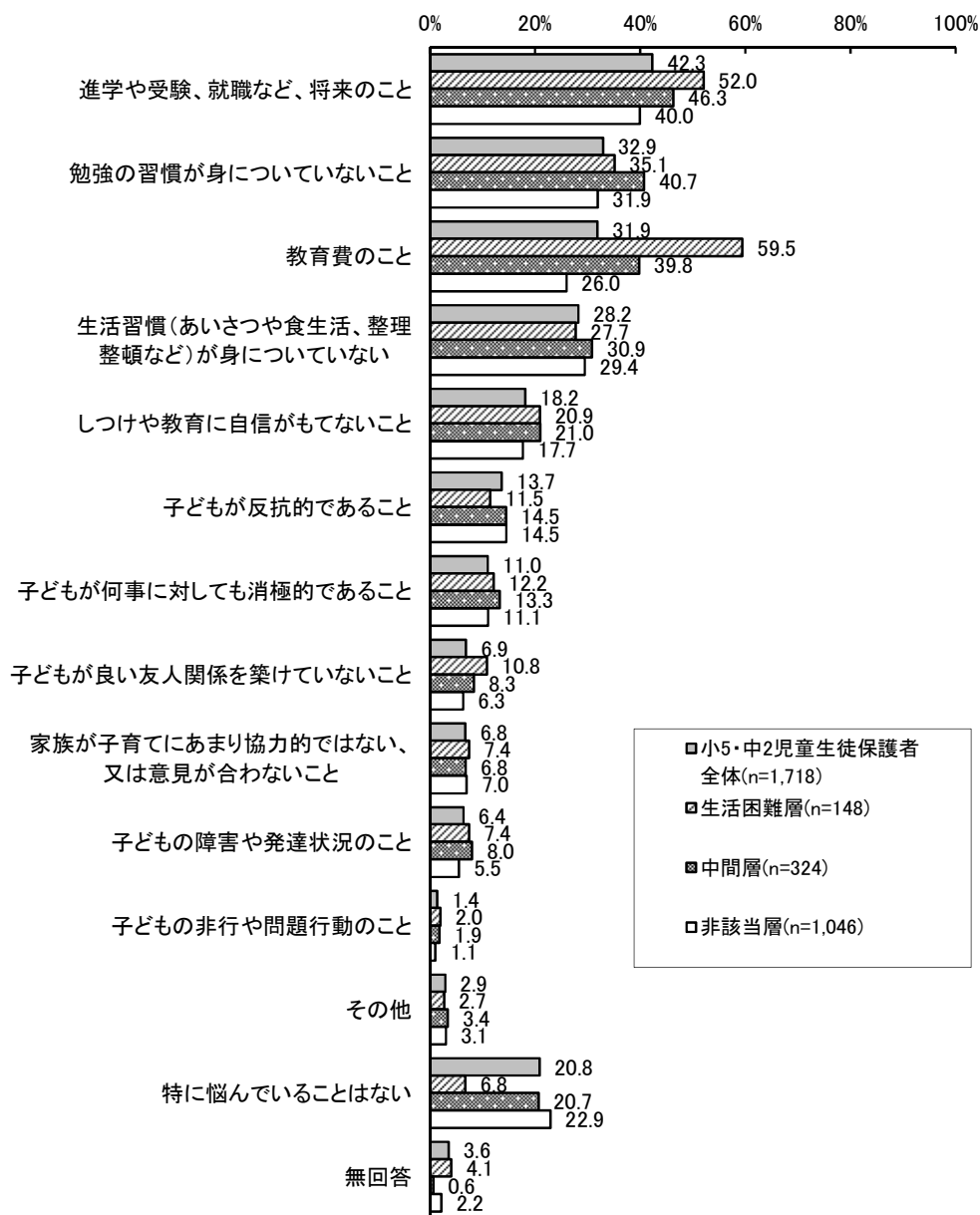
【就学前児童保護者・生活状況別】子どものことで悩んでいること



小5・中2児童生徒保護者では、「進学や受験、就職など、将来のこと」が42.3%で最も高く、次いで「勉強の習慣が身についていないこと」が32.9%、「教育費のこと」が31.9%となっている。生活状況別でみると、生活困難層で「教育費のこと」や「進学や受験、就職など、将来のこと」などの回答が他の層を上回るが、特に「教育費のこと」は生活困難層の59.5%が突出して高くなっている。

また、「特に悩んでいることはない」は、中間層、非該当層が2割台であるのに対し、生活困難層は6.8%にとどまる。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どものことで悩んでいること



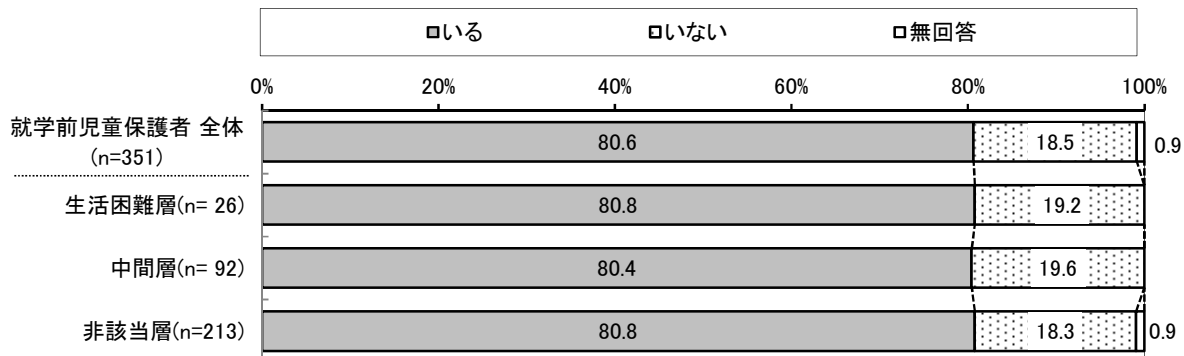
(8) 頼れる人の有無

【就学前児童保護者 問 24】

お子さんの具合が悪いときや、あなたに用事があるときに、頼ることができる親せきや友人はいますか。(○は1つ)

頼ることができる親せきや友人がいるかどうかについては、就学前児童保護者では、「いる」が80.6%と最も高くなっている。生活状況別でも差は見られない。

【就学前児童保護者・生活状況別】頼れる人の有無



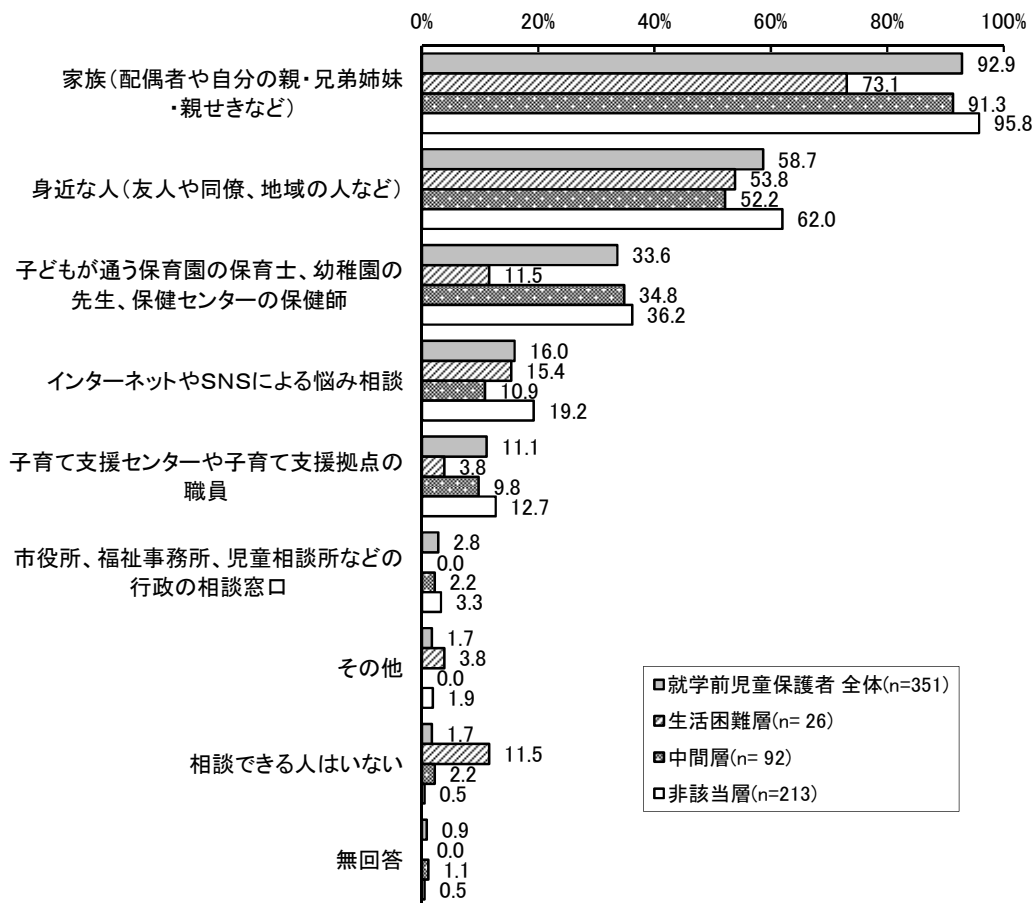
(9) 子どもに関する悩みや困り事の相談先

【就学前児童保護者 問 25】

あなたはお子さんに関する悩みや困り事がある時、どこに相談しますか。(あてはまるものすべてに○)

子どもに関する悩みや困り事の相談先について、就学前児童保護者では、「家族（配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど）」が92.9%で最も高く、次いで「身近な人（友人や同僚、地域の人など）」が58.7%、「子どもが通う保育園の保育士、幼稚園の先生、保健センターの保健師」が33.6%などの順となっている。生活状況別でみると、いずれの層でも「家族（配偶者や自分の親・兄弟姉妹・親せきなど）」が最も高くなっているが、中間層と非該当層で9割台であるのに対し、生活困難層では7割台にとどまる。また、生活困難層のみ「相談できる人はいない」が1割を超え多くなっている。

【就学前児童保護者・生活状況別】子どもに関する悩みや困り事の相談先



5. 子どもの健康状況について

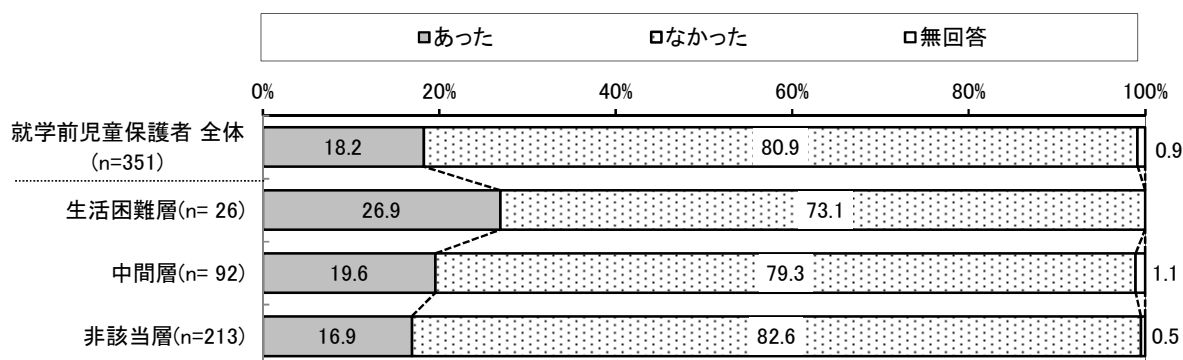
(1) 子どもを医療機関に連れていかなかったこと

【就学前児童保護者 問 26 / 小5・中2保護者 問 29】

これまでに、お子さんを医療機関に連れていった方がよいと思ったが、実際には連れていかなかったことがありますか。(○は1つ)

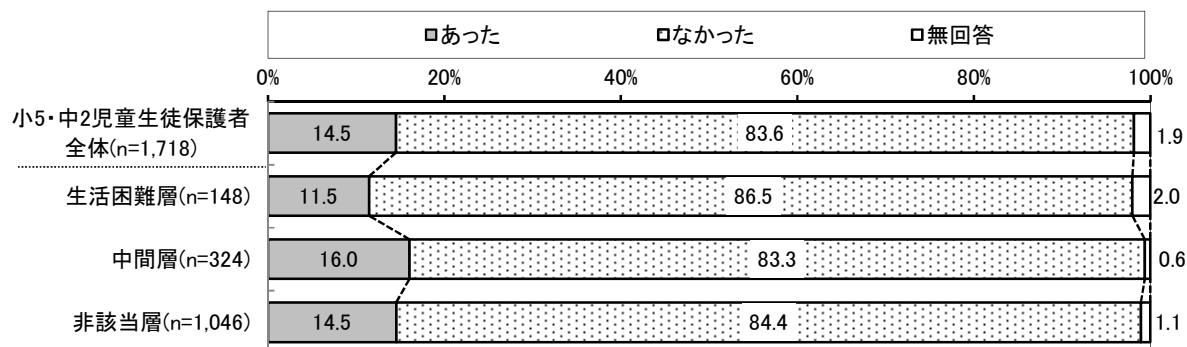
子どもを医療機関に連れていかなかったことについて、就学前児童保護者では、「なかった」80.9%が、「あった」18.2%を大きく上回る。生活状況別でみると、「あった」は生活困難層の26.9%が他の層を上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】子どもを医療機関に連れていかなかったこと



小5・中2児童生徒保護者では、「なかった」83.6%が、「あった」14.5%を大きく上回る。生活状況別でも差は見られない。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもを医療機関に連れていかなかったこと



(2) 子どもを医療機関に連れていかなかった理由

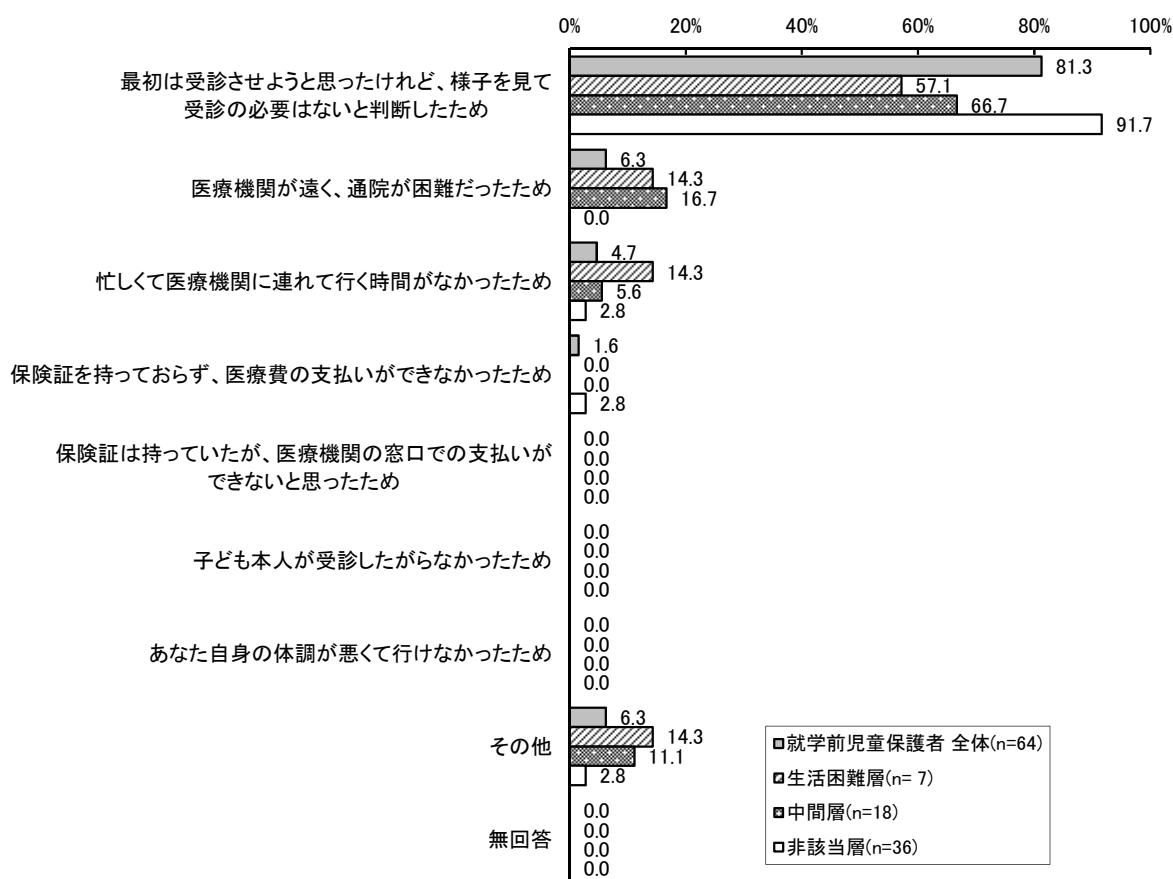
【就学前児童保護者 問 27／小5・中2保護者 問 30】

【問 27／問 29 で「1. あった」と回答した方におうかがいします。】

最も近いものに○をつけてください。(○は1つ)

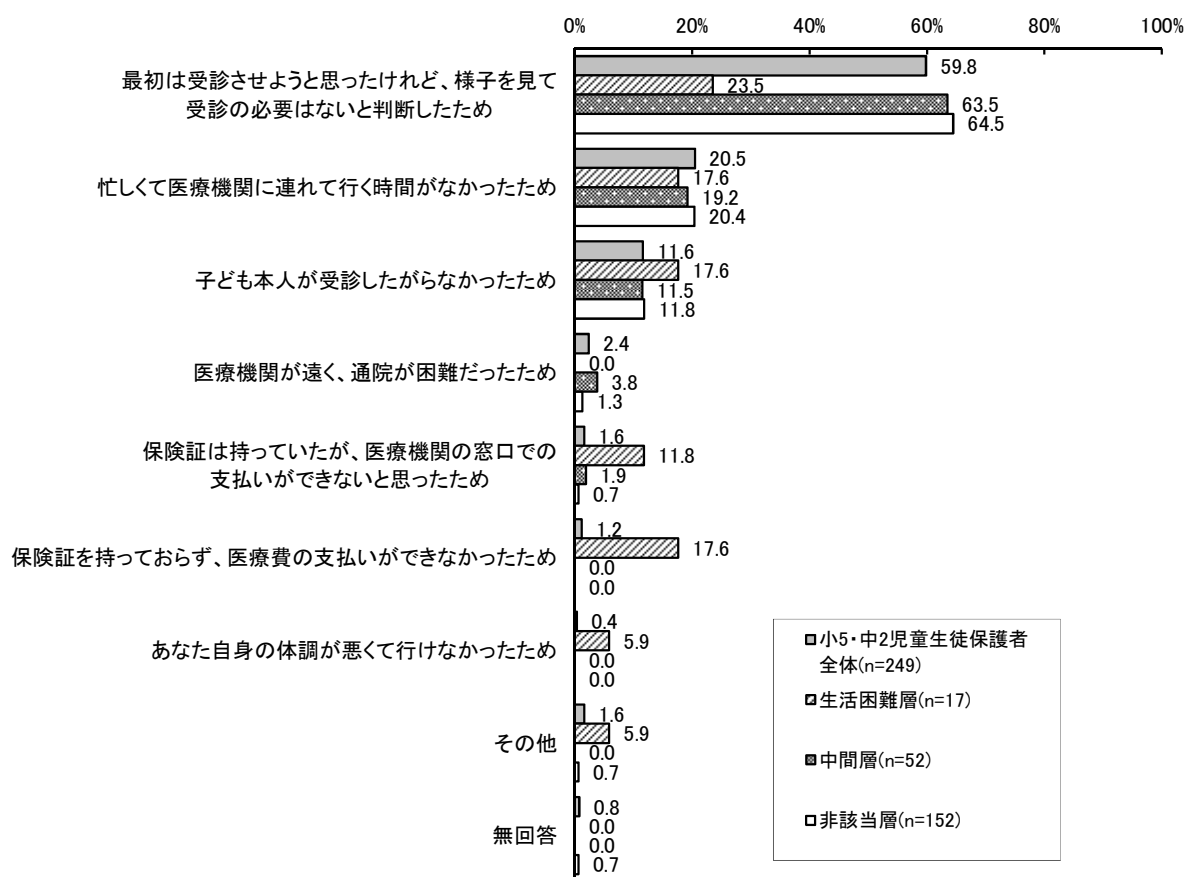
子どもを医療機関に連れていかなかったことがあると回答した人にその理由をたずねたところ、就学前児童保護者では、「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」の81.3%が主な回答である。生活状況別でみると、いずれの層も「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」が最も高くなっているが、非該当層が9割台であるのに対し、生活困難層では5割台にとどまる。また、「忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため」は生活困難層ほど多い傾向にある。

【就学前児童保護者・生活状況別】子どもを医療機関に連れていかなかった理由



小5・中2児童生徒保護者では、「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」の59.8%が主な回答である。生活状況別でみると、中間層と非該当層で「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」が6割台であるのに対し、生活困難層では23.5%にとどまる。また、生活困難層で「保険証を持っておらず、医療費の支払いができなかったため」や「保険証は持っていたが、医療機関の窓口での支払いができないと思ったため」との回答がそれぞれ1割～2割程度見られる。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもを医療機関に連れていかなかった理由



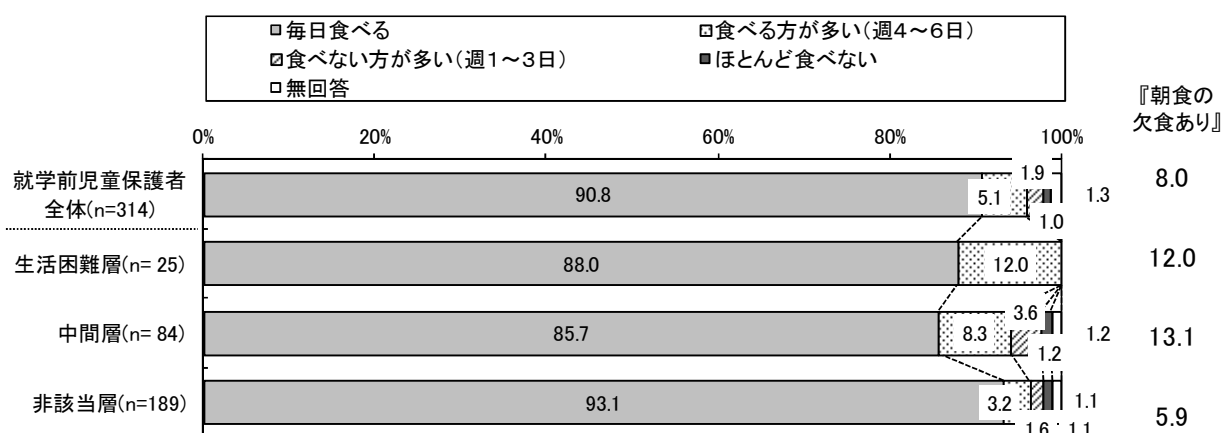
(3) 子どもの朝食の摂取

【就学前児童保護者 問 28 / 小5・中2保護者 問 31】

おさんは、普段、朝食を食べていますか。この1カ月を振り返って、最もあてはまる番号を選んでください。(〇は1つ)

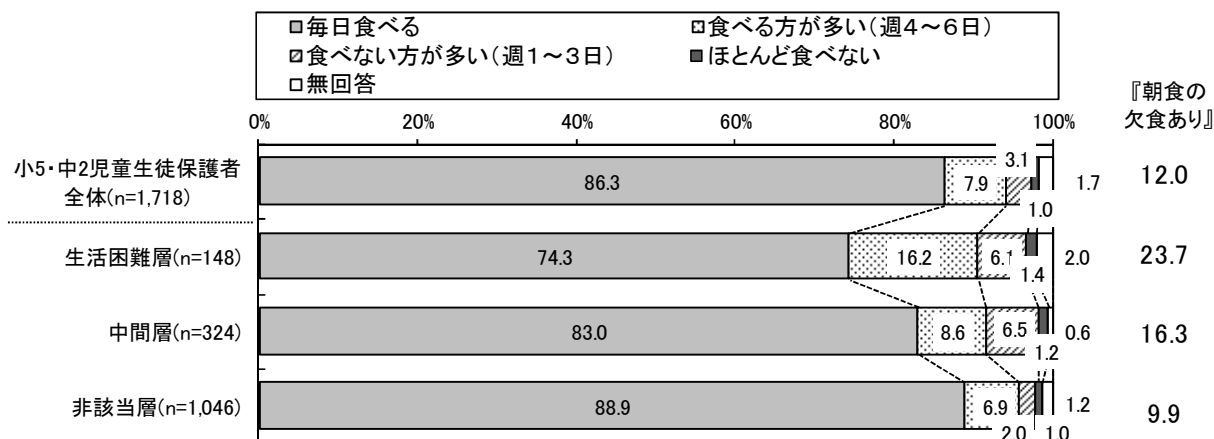
子どもの朝食の摂取について、就学前児童保護者では、「毎日食べる」が90.8%、「食べる方が多い(週4~6日)」が5.1%、「食べない方が多い(週1~3日)」が1.9%、「ほとんど食べない」が1.0%となっている。生活状況別では、「毎日食べる」は非該当層の93.1%が最も高い。「食べる方が多い(週4~6日)」と「食べない方が多い(週1~3日)」と「ほとんど食べない」を合計した『朝食の欠食あり』は生活困難層と中間層で1割台となっている。

【就学前児童保護者・生活状況別】子どもの朝食摂取



小5・中2児童生徒保護者では、「毎日食べる」が86.3%、「食べる方が多い(週4~6日)」が7.9%、「食べない方が多い(週1~3日)」が3.1%、「ほとんど食べない」が1.0%となっている。生活状況別では、「毎日食べる」は非該当層の88.9%が最も高い。『朝食の欠食あり』は生活困難層ほど高く、生活困難層では2割を超える。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもの朝食摂取

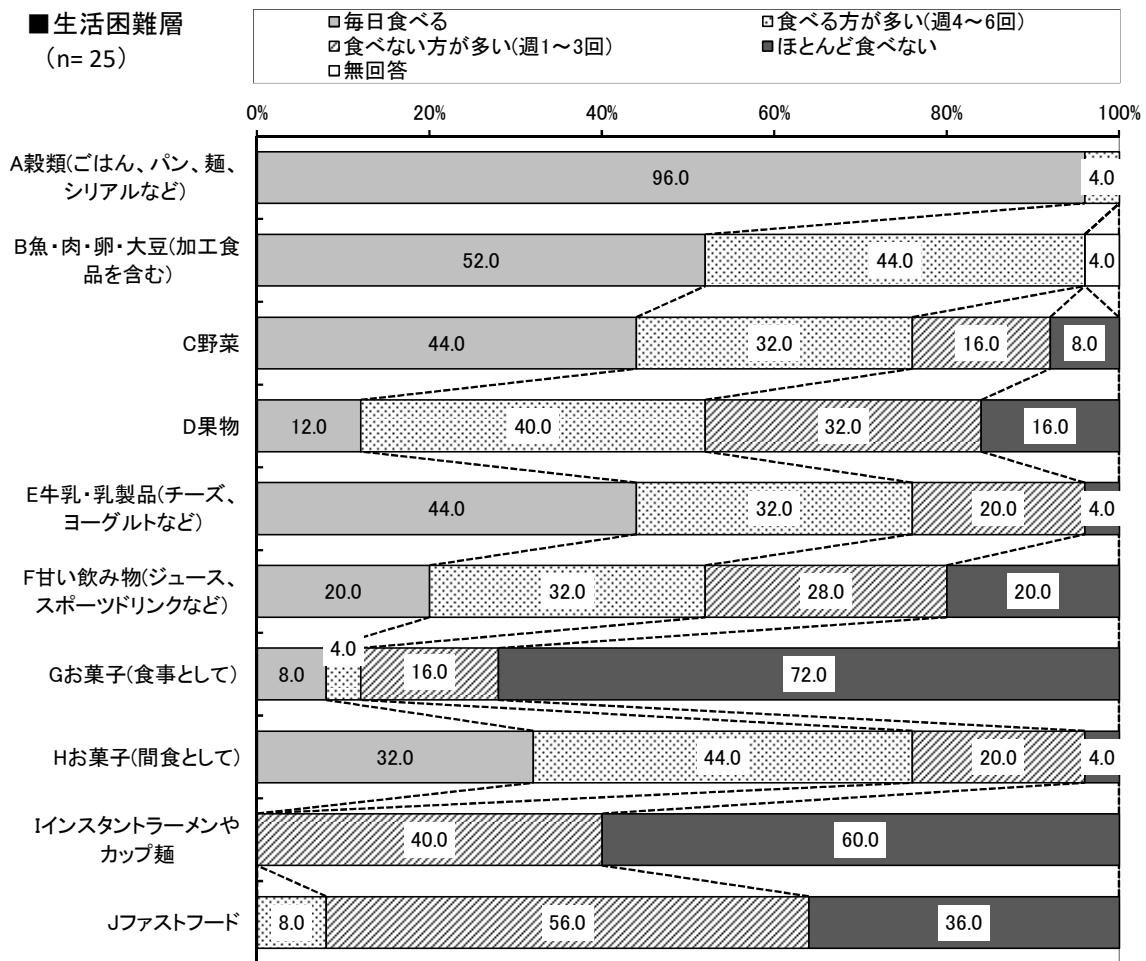


(4) 給食を除く食品の摂取状況

【就学前児童保護者 問 29】
 お子さん、普段、保育園や幼稚園で出される給食を除いて、次の食品をどのくらいの頻度で食べますか。この1か月を振り返って、最も当てはまる番号を選んでください。(A～Jそれぞれについて、○は1つ)

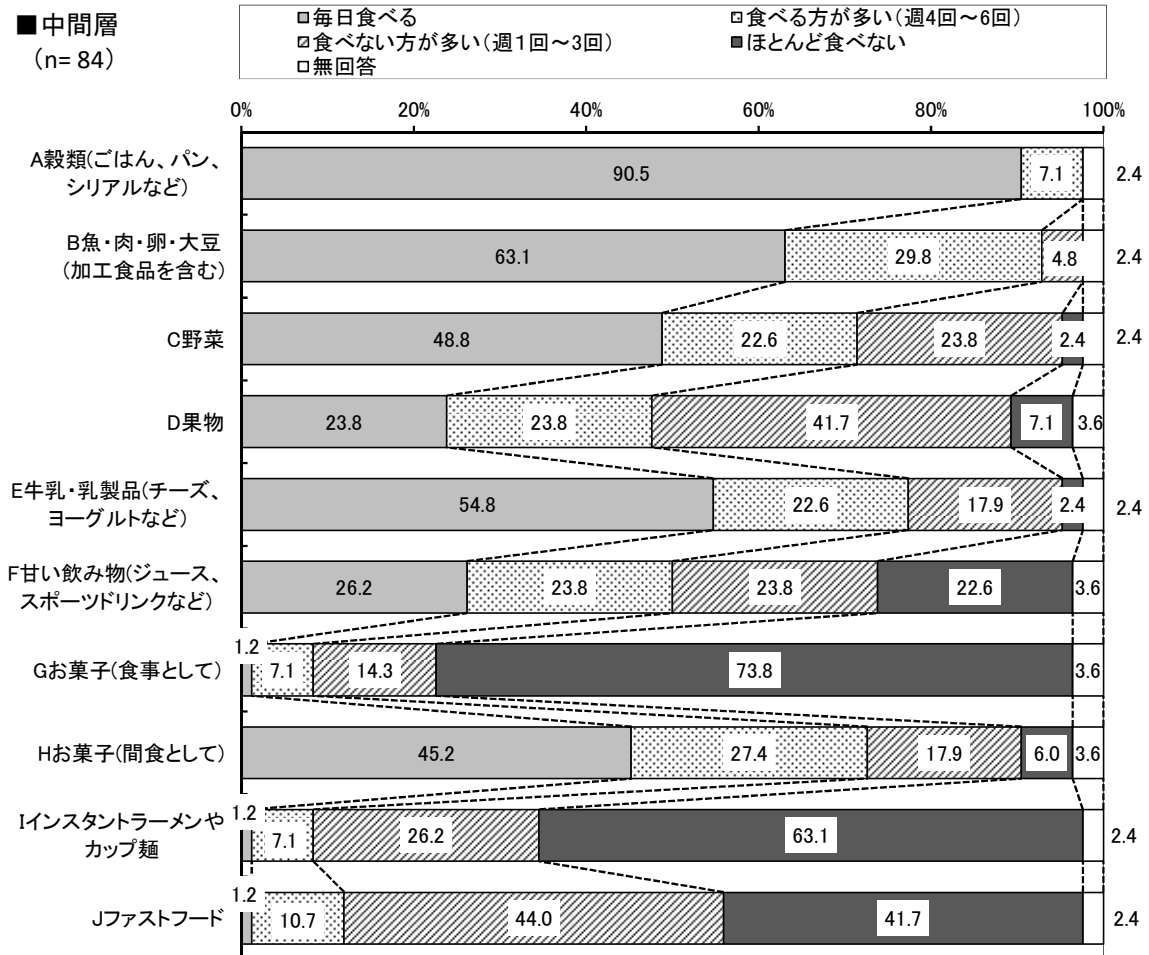
食品の摂取状況について、生活状況で差が見られるものは、「魚・肉・卵・大豆(加工食品を含む)」「野菜」「果物」であり、「毎日食べる」割合は、非該当層ほど高くなっている。

【就学前児童保護者・生活困難層】給食を除く食品の摂取状況

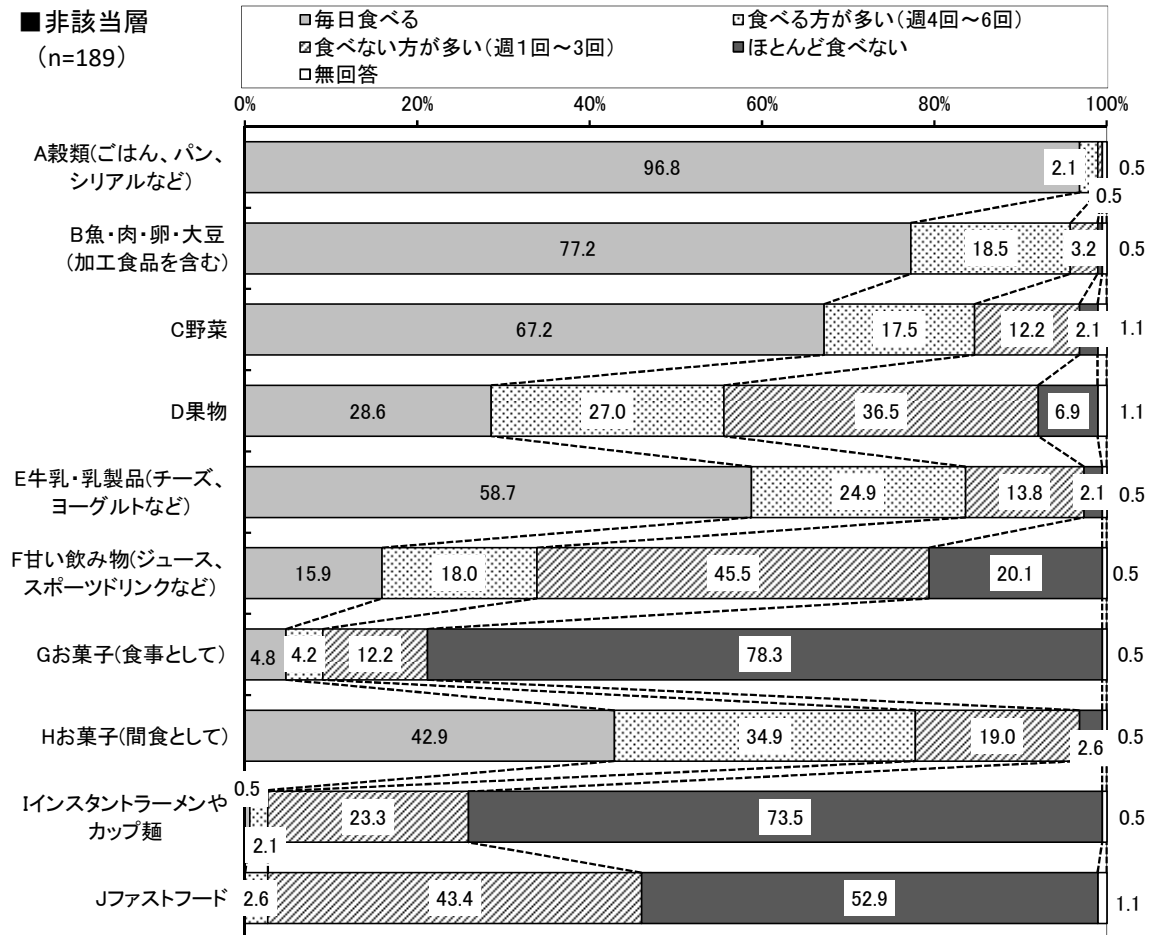


【就学前児童保護者・中間層】給食を除く食品の摂取状況

■ 中間層
(n=84)



【就学前児童保護者・非該当層】給食を除く食品の摂取状況



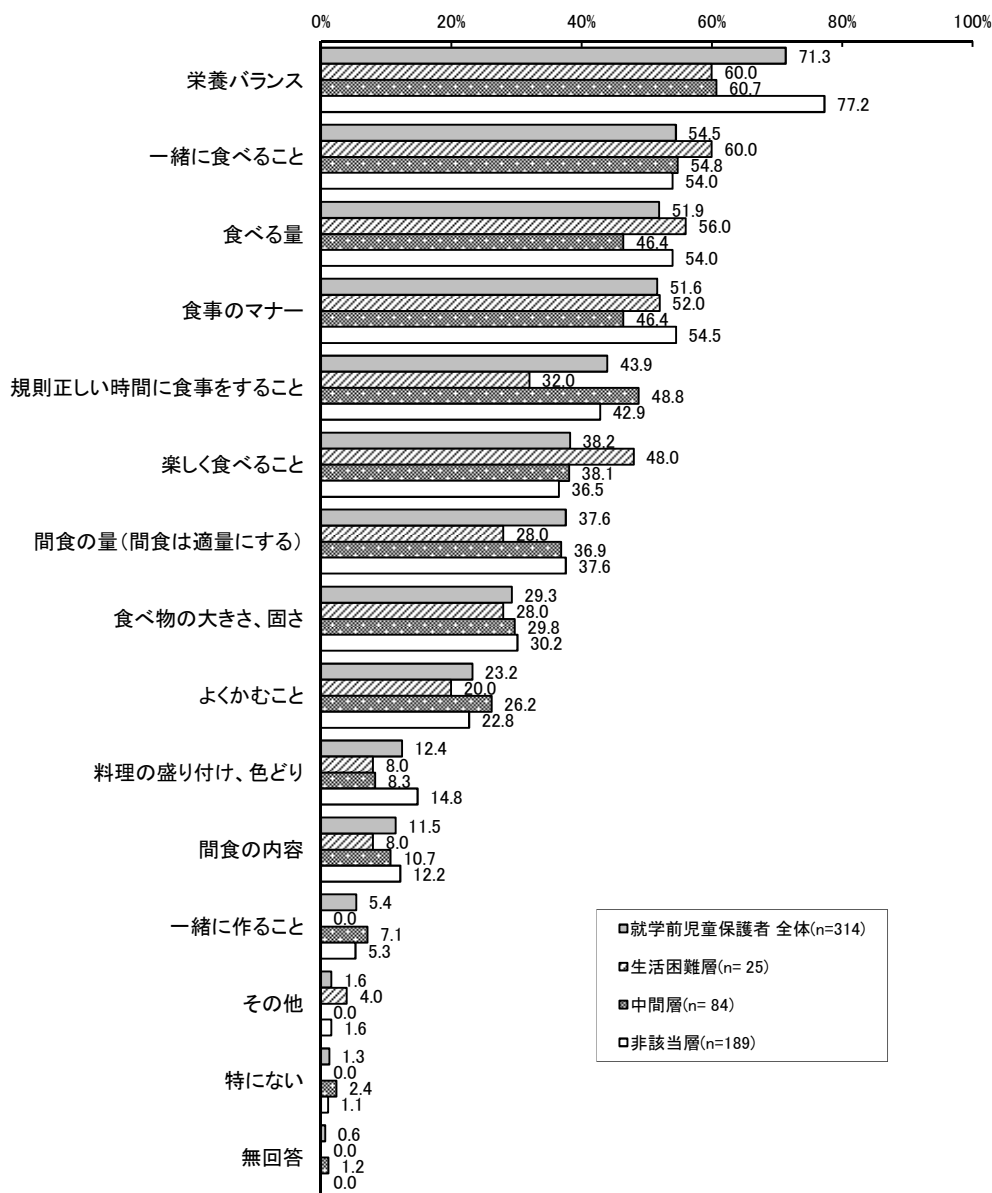
(5) 食事で特に気をつけていること

【未就学児童保護者 問30】

お子さんの食事で特に気をつけていることはありますか。(あてはまるものすべてに○)

食事で特に気をつけていることについて、就学前児童保護者では、「栄養バランス」が71.3%で最も高く、次いで「一緒に食べること」が54.5%、「食べる量」51.9%、「食事のマナー」51.6%、「規則正しい時間に食事をする事」43.9%などの順となっている。生活状況別でみると、いずれの層でも「栄養バランス」が最も高くなっているが、非該当層が他の層を上回る。そのほか、生活困難層では「楽しく食べる事」、中間層では「規則正しい時間に食事をする事」が他の層を上回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】食事で特に気をつけていること



(6) 家族と一緒に食事をする事

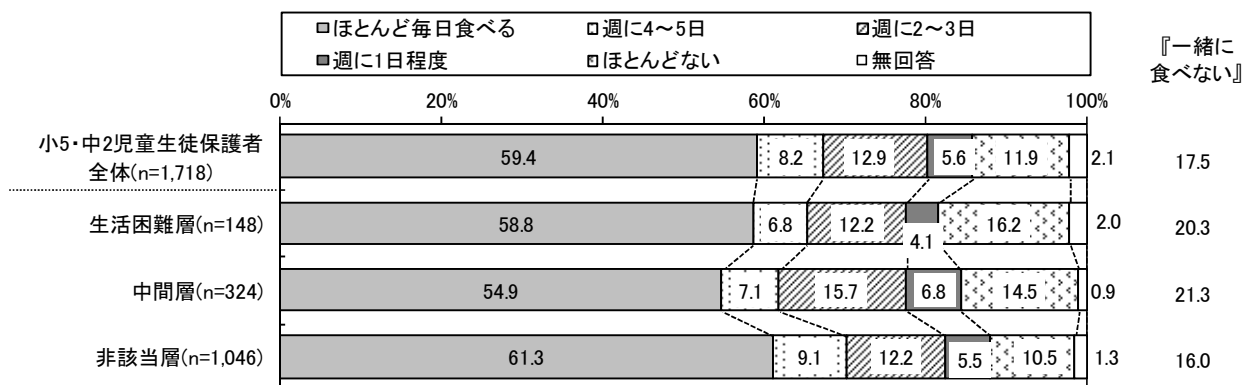
【小5・中2保護者 問32】

お子さんは、家族と一緒に食べることがどのくらいありますか。朝食、夕食それぞれについてお答えください。(それぞれ○は1つ)

① 子どもが家族と一緒に朝食を食べているか

子どもが家族と一緒に朝食を食べているかについて、小5・中2児童生徒保護者では、「ほとんど毎日食べる」が59.4%、「週に2~3日」が12.9%、「ほとんどない」が11.9%となっている。生活状況別でみると、生活困難層ほど「ほとんどない」の割合が高く、「週に1日程度」と「ほとんどない」を合計した『一緒に食べない』は生活困難層と中間層で約2割となっている。

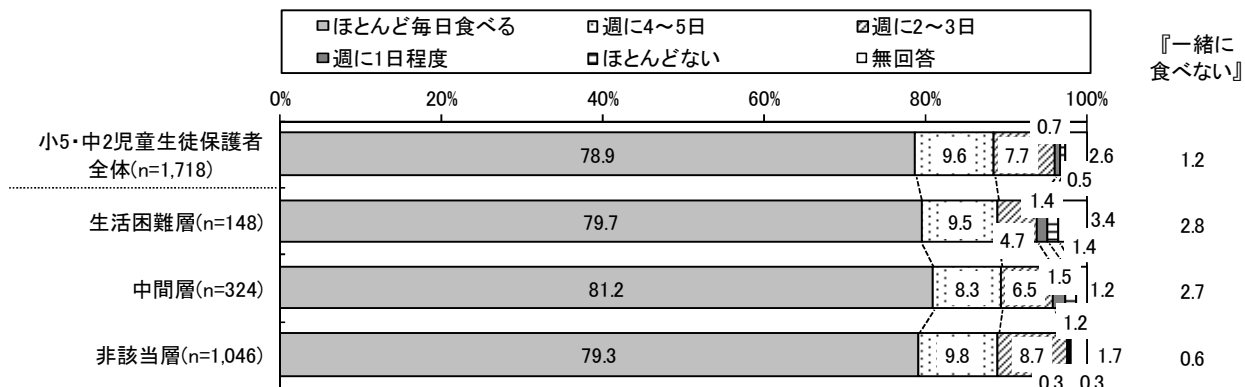
【小5・中2保護者・生活状況別】家族一緒にの食事（朝食）



② 子どもが家族と一緒に夕食を食べているか

子どもが家族と一緒に夕食を食べているかについて、小5・中2児童生徒保護者では、「ほとんど毎日食べる」が78.9%であり、主な回答となっている。生活状況別でも、『一緒に食べない』はいずれの層も数%であり、大きな差は見られない。

【小5・中2保護者・生活状況別】家族一緒にの食事（夕食）



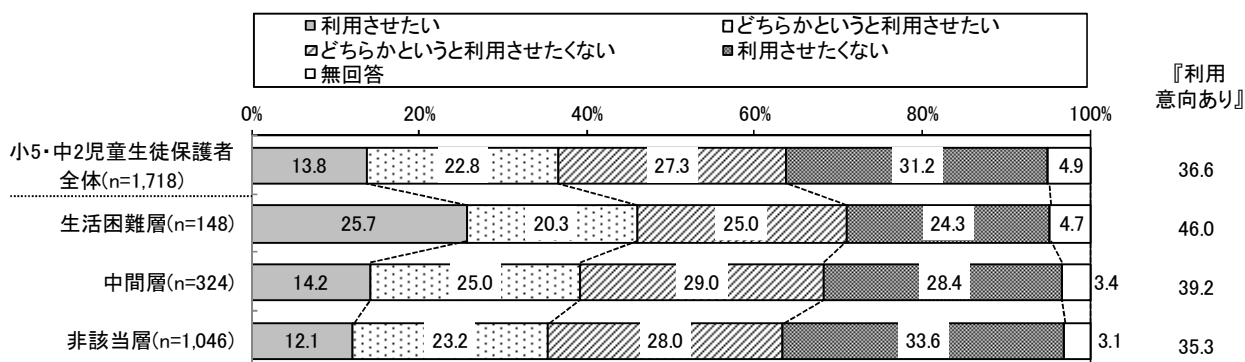
(7) 子どもが食事できる居場所の利用意向

【小5・中2保護者 問33】

子どもたちだけ、あるいは、一人で食事をするような居場所があれば、利用させたいと思いますか。(○は1つ)

子どもが食事できる居場所の利用意向について、小5・中2児童生徒保護者では、「利用させたくない」31.2%、「どちらかという util させたい」27.3%、「どちらかといえば利用させたい」22.8%の順となっている。生活状況別でみると、生活困難層で「利用させたい」が25.7%と他の層を大きく上回り、「利用させたい」と「どちらかという util させたい」を合計した『利用意向あり』の割合は、生活困難層ほど高くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】子どもが食事できる居場所の利用意向



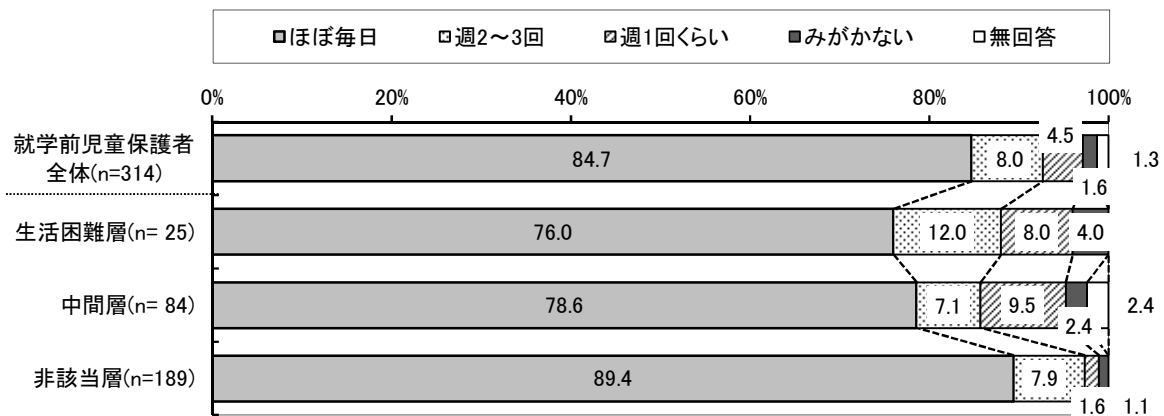
(8) 保護者による子どもの歯の仕上げみがき

【就学前児童保護者 問31】

お子さんの歯みがきの際には、仕上げみがきはしますか。(○は1つ)

保護者による子どもの歯の仕上げみがきについて、就学前児童保護者では、「ほぼ毎日」が84.7%と大半を占める。生活状況別では、「ほぼ毎日」は非該当層の89.4%が最も高く、生活困難層ほど頻度が低い傾向が見られる。

【就学前児童保護者・生活状況別】保護者による子どもの歯の仕上げみがき



6. 回答者自身の状況や悩みと支援について

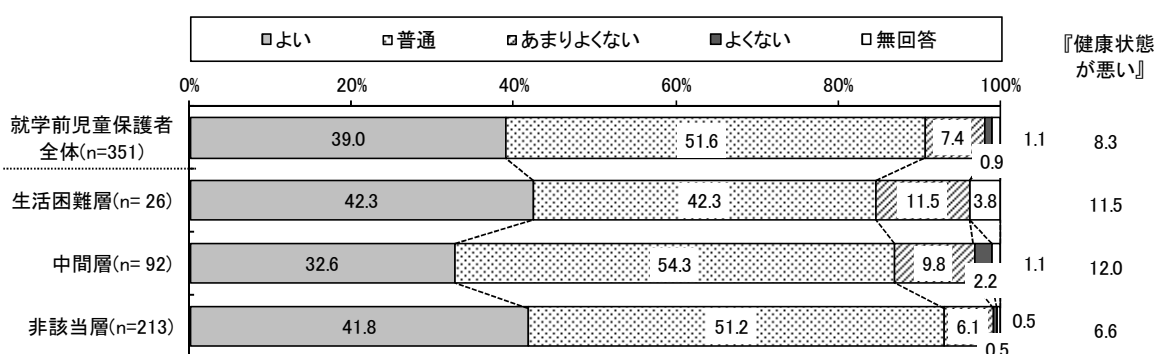
(1) 回答者自身の健康状態

【就学前児童保護者 問 32 / 小5・中2保護者 問 34】

あなたの現在の健康状態はいかがですか。(○は1つ)

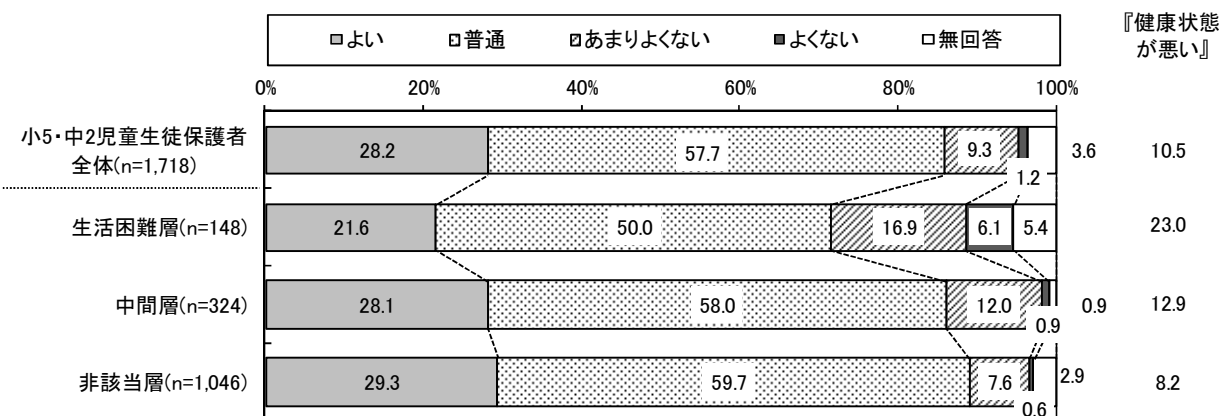
回答者自身の健康状態について、就学前児童保護者では、「普通」が51.6%、「よい」が39.0%となっている。生活状況別では、「あまりよくない」と「よくない」を合計した『健康状態が悪い』割合は、生活困難層と中間層で1割程度となっている。

【就学前児童保護者・生活状況別】回答者自身の健康状態



回答者自身の健康状態について、小5・中2児童生徒保護者では、「普通」が57.7%、「よい」が28.2%となっている。生活状況別では、『健康状態が悪い』割合は、生活困難層ほど高くなっており、生活困難層で2割を超える。

【小5・中2保護者・生活状況別】回答者自身の健康状態



(2) 回答者自身の気持ちについて

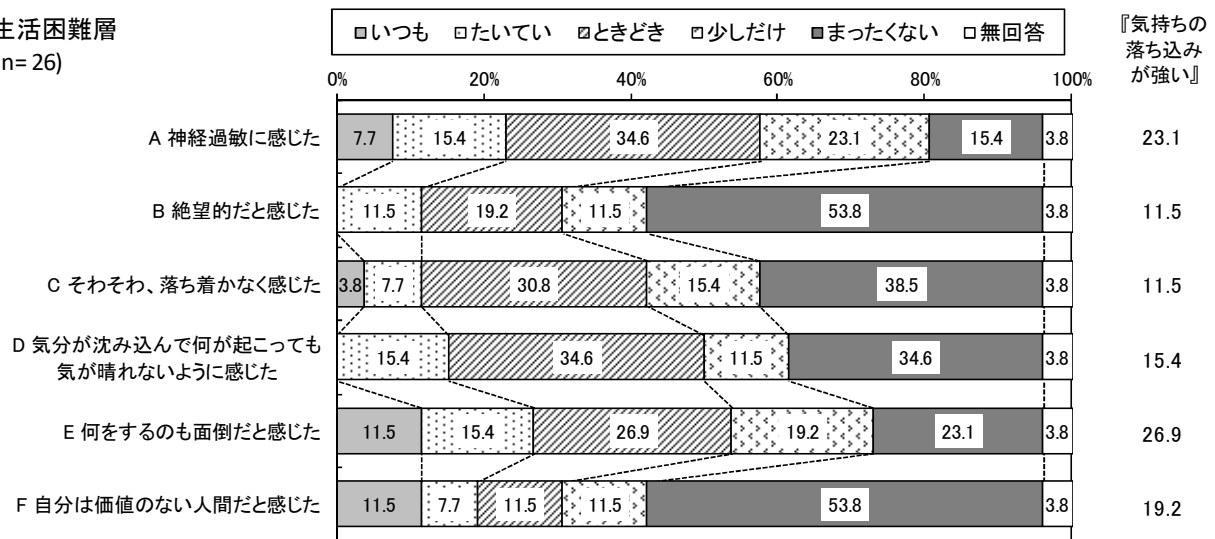
【就学前児童保護者 問 33 / 小5保護者・中2保護者 問 35】

次のA～Fの質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。(A～Fそれぞれについて、○は1つ)

回答者自身の気持ちについて、就学前児童保護者の生活状況別では、ほとんどの項目で「いつも」「たいてい」を合わせた『気持ちの落ち込みが強い』割合は、生活困難層ほど高い傾向が見られる。一方、非該当層ではすべての項目で「まったくない」割合が他の層を上回る。

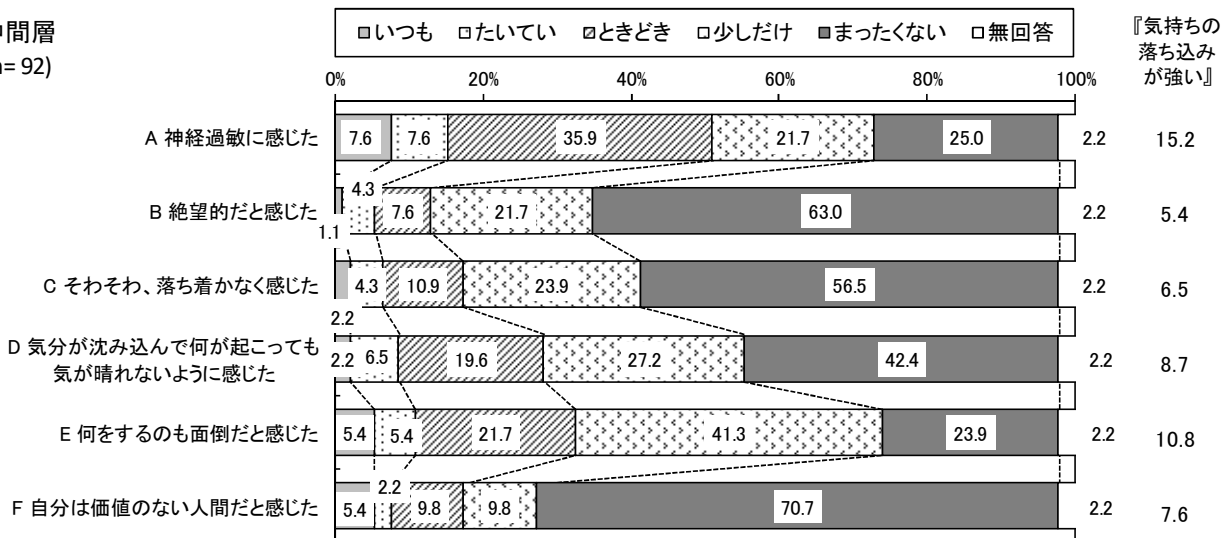
【就学前児童保護者・生活困難層】回答者自身の気持ちについて

■生活困難層
(n=26)

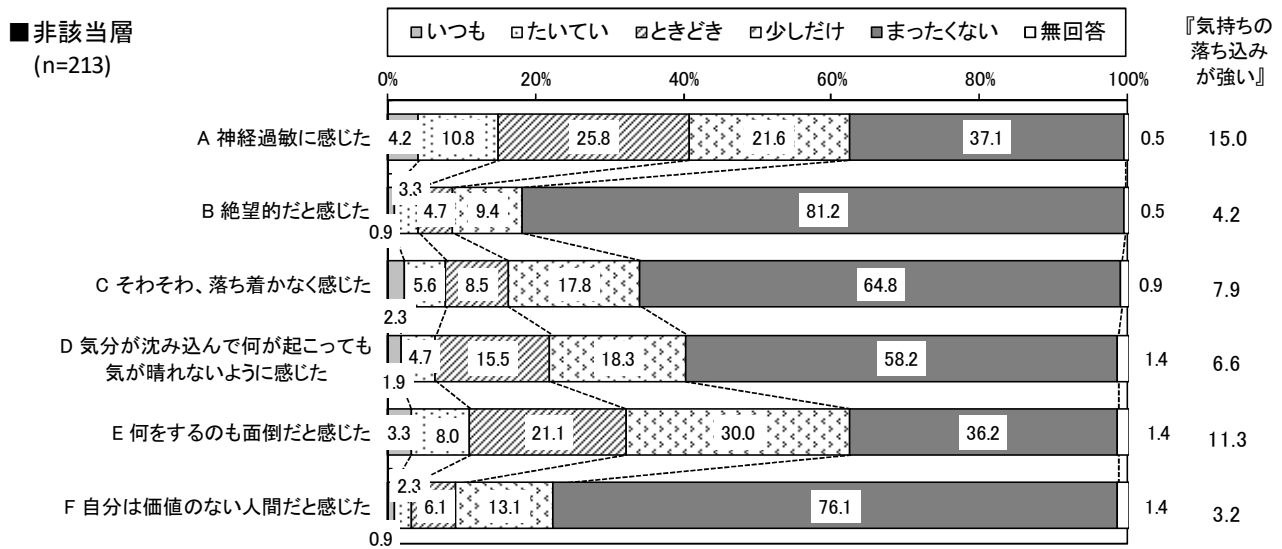


【就学前児童保護者・中間層】回答者自身の気持ちについて

■中間層
(n=92)

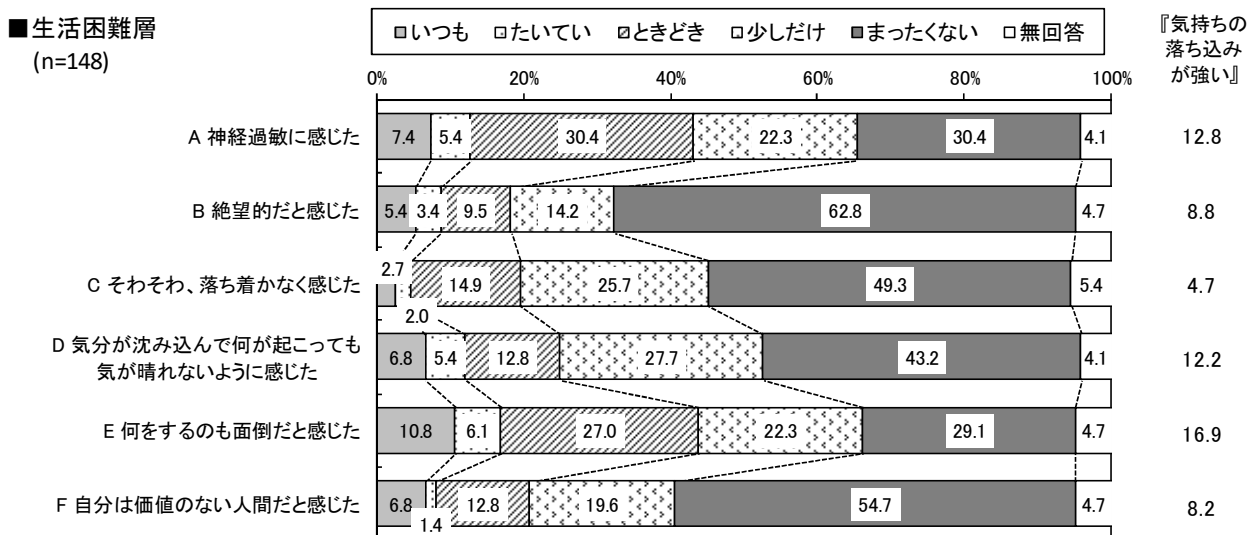


【就学前児童保護者・非該当層】回答者自身の気持ちについて



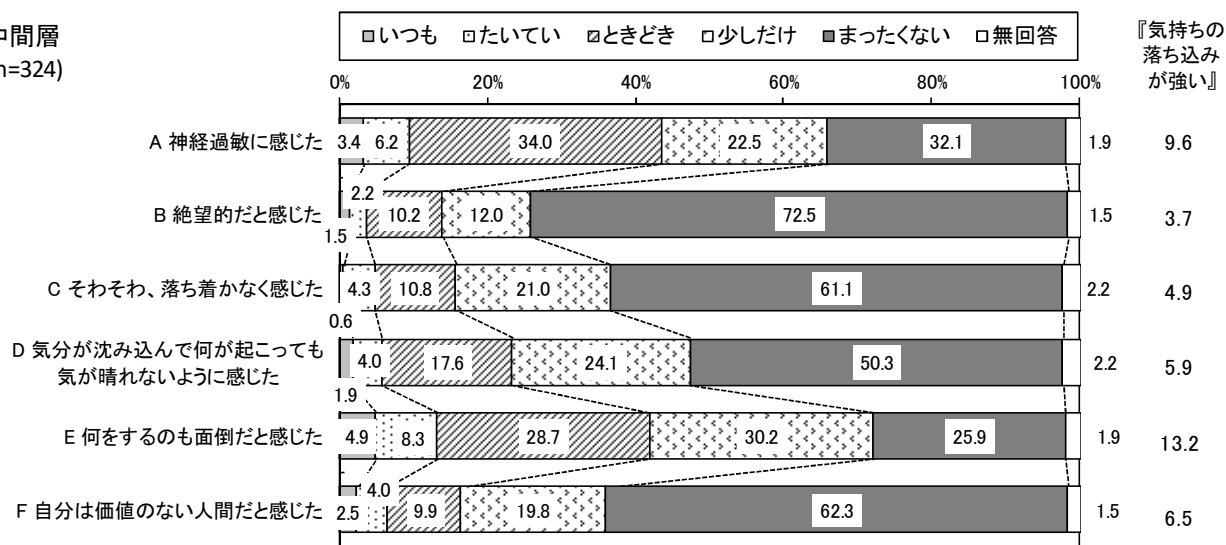
回答者自身の気持ちについて、小5・中2児童生徒保護者の生活状況別では、ほとんどの項目で『気持ちの落ち込みが強い』割合は、生活困難層ほど高い傾向が見られる。一方、非該当層ではすべての項目で「まったくない」割合が他の層を上回る。

【小5・中2保護者・生活困難層】回答者自身の気持ちについて



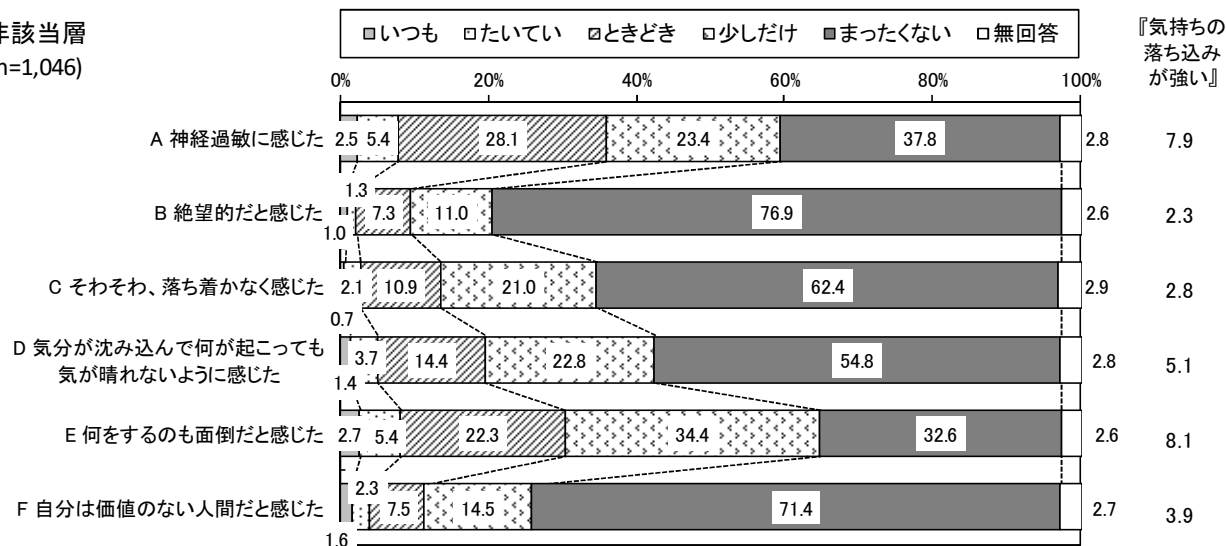
【小5・中2保護者・中間層】回答者自身の気持ちについて

■ 中間層
(n=324)



【小5・中2保護者・非該当層】回答者自身の気持ちについて

■ 非該当層
(n=1,046)



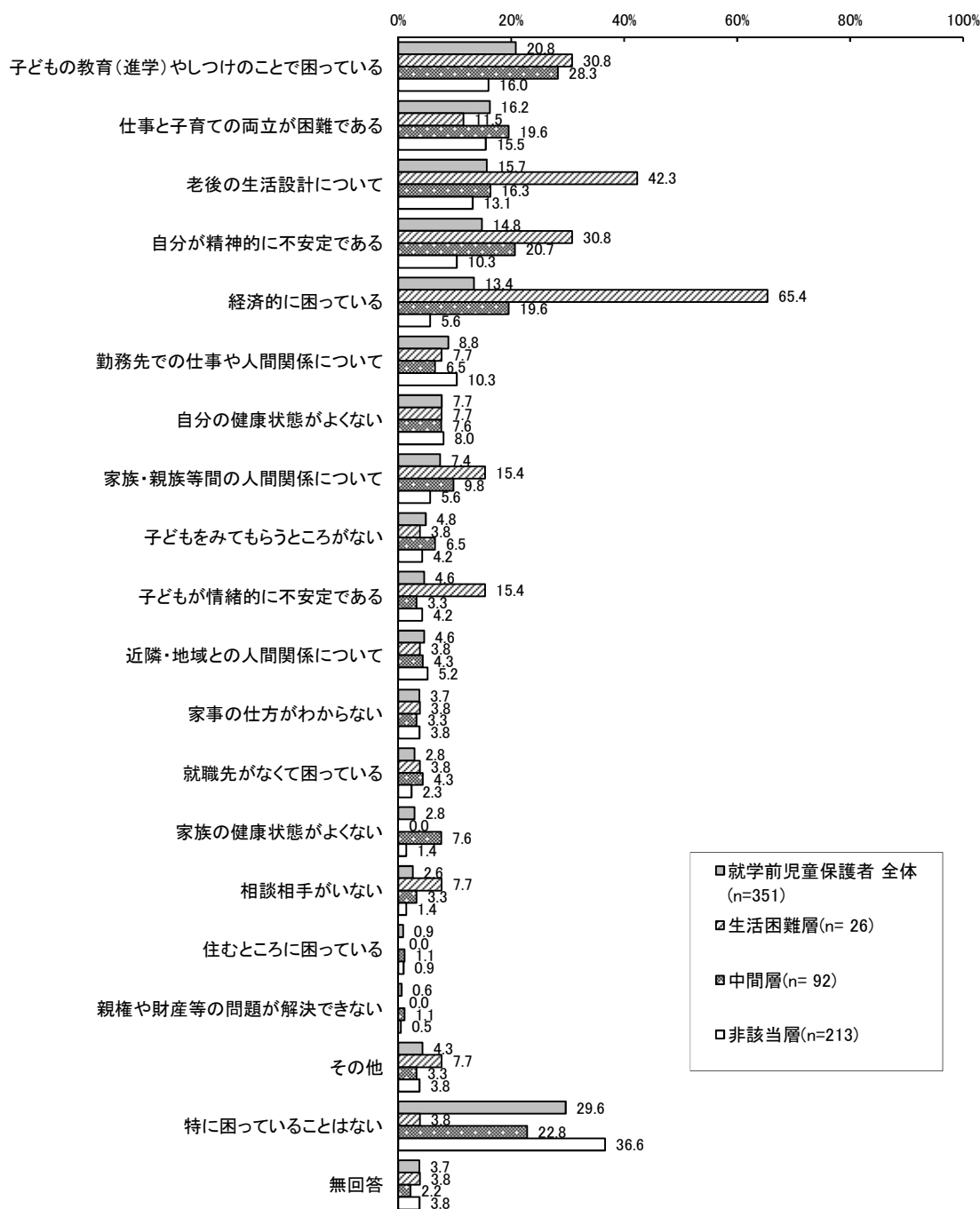
(3) 現在の悩みや不安

【就学前児童保護者 問 34／小5保護者・中2保護者 問 36】

あなたは、現在、どのような悩みや不安を感じていますか。(あてはまるものすべてに○)

現在の悩みや不安について、就学前児童保護者の生活状況別では、生活困難層の「経済的に困っている」が65.4%と最も高く、非該当層の5.6%を大きく上回る。生活困難層では、次いで「老後の生活設計について」が42.3%、「子どもの教育（進学）やしつけのことで困っている」「自分が精神的に不安定である」がともに30.8%、「家族・親族等間の人間関係について」「子どもが情緒的に不安定である」がともに15.4%と多くの項目で他の層の割合を上回る。また、「特に困っていることはない」はわずかに3.8%であり、中間層の22.8%、非該当層の36.6%を大きく下回る。

【就学前児童保護者・生活状況別】現在の悩みや不安

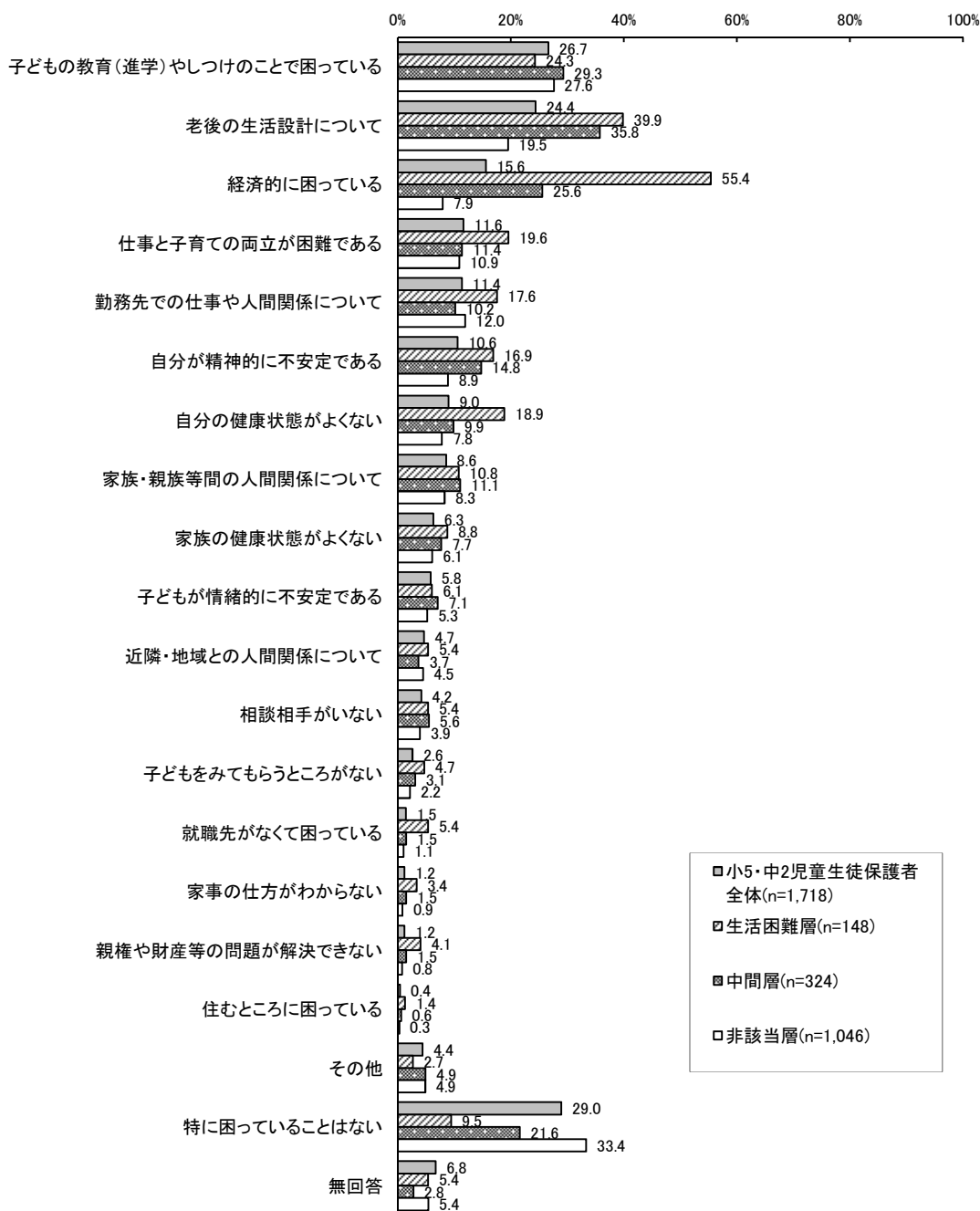


■ 第1部 アンケート調査 ■

小5・中2児童生徒保護者の生活状況別では、生活困難層の「経済的に困っている」が55.4%と突出して高く、非該当層の7.9%を大きく上回る。生活困難層では、次いで「老後の生活設計について」39.9%、「子どもの教育（進学）やしつけのことで困っている」24.3%をはじめ、「仕事と子育ての両立が困難である」「自分の健康状態がよくない」「勤務先での仕事や人間関係について」「自分が精神的に不安定である」などの項目で、他の層の割合を上回っている。

また、「特に困っていることはない」は9.5%であり、中間層の21.6%、非該当層の33.4%を大きく下回る。

【小5・中2保護者・生活状況別】現在の悩みや不安



7. 相談や支援について

(1) 支援制度の利用

【就学前児童保護者 問 35 / 小5・中2保護者 問 37】

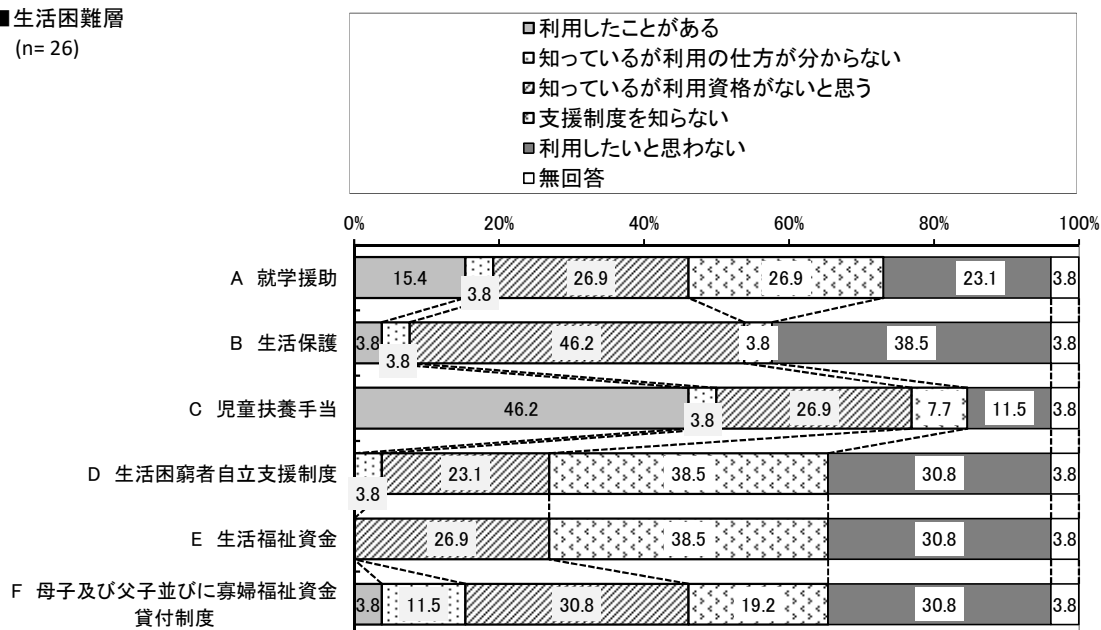
あなたは、生活をしていく上でこれまでに以下の支援制度を利用したことはありますか。
(A～Fそれぞれについて、○は1つ)

支援制度の利用について、就学前児童保護者の生活状況別では、生活困難層で「利用したことがある」割合が児童扶養手当で46.2%、就学援助で15.4%であり、他の層を大きく上回る。また、生活困窮者自立支援制度は、生活困難層ほど「支援制度を知らない」割合が高くなっている。母子及び父子並びに寡婦福祉資金貸付制度についても、「知っているが利用の仕方が分からない」は生活困難層のみ1割を超える。

一方で、「知っているが利用資格がない」や「利用したいと思わない」割合は、非該当層ほど高い傾向にある。

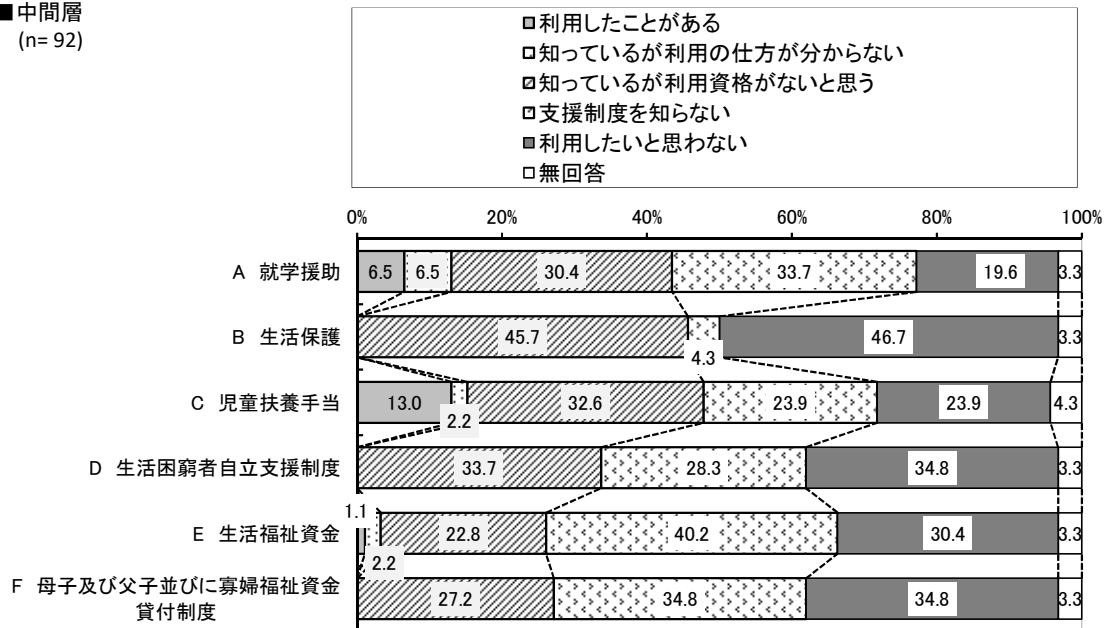
【就学前児童保護者・生活困難層】支援制度の利用

■生活困難層
(n=26)



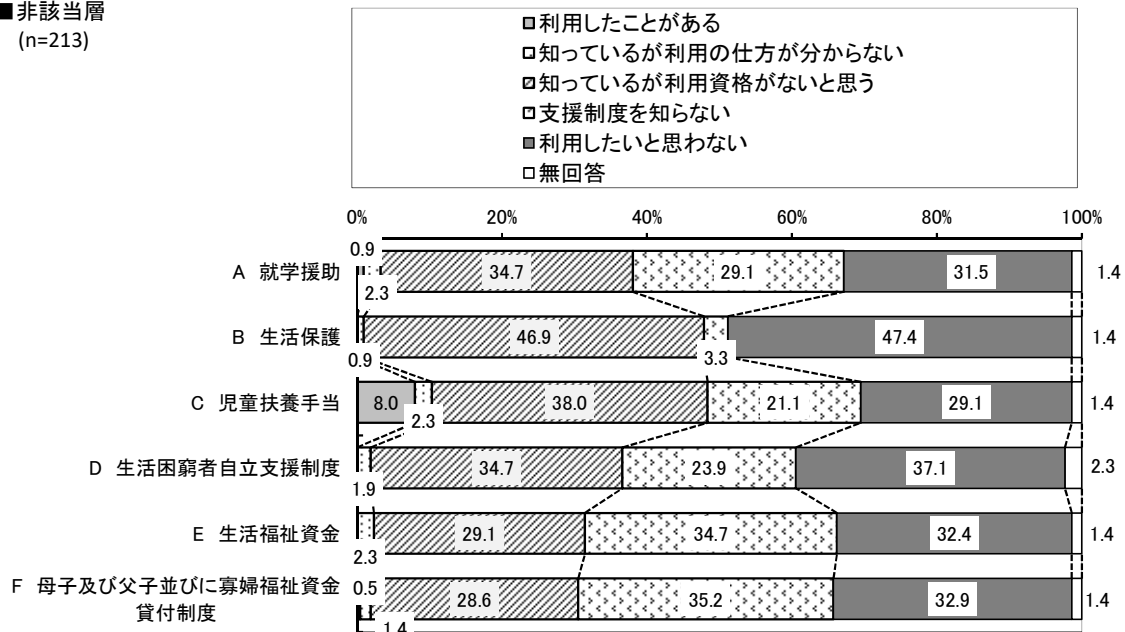
【就学前児童保護者・中間層】支援制度の利用

■ 中間層
(n=92)



【就学前児童保護者・非該当層】支援制度の利用

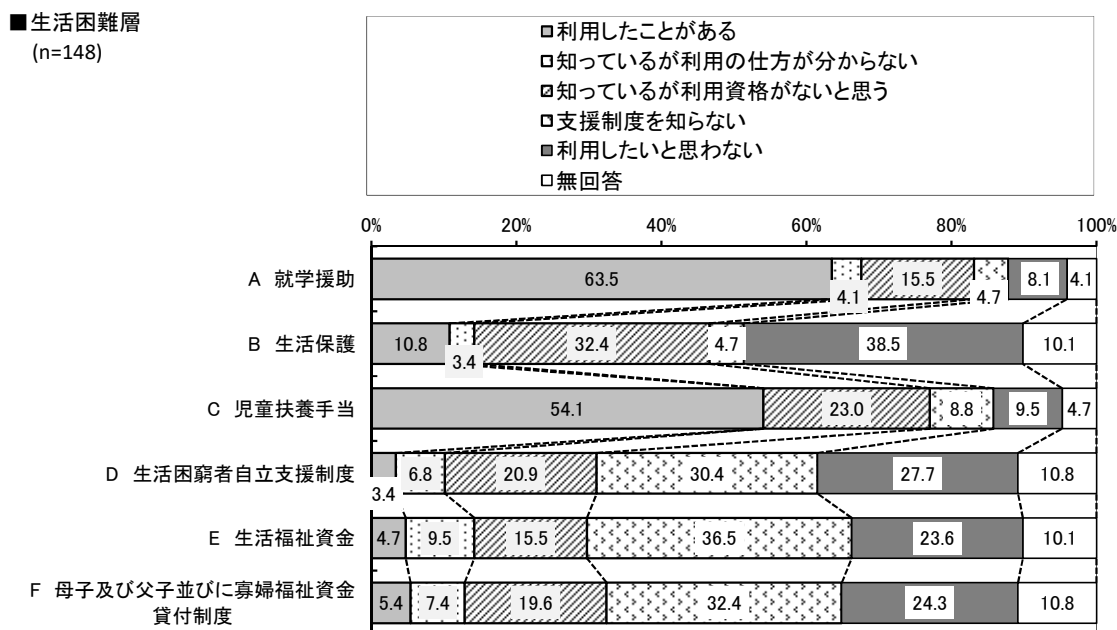
■ 非該当層
(n=213)



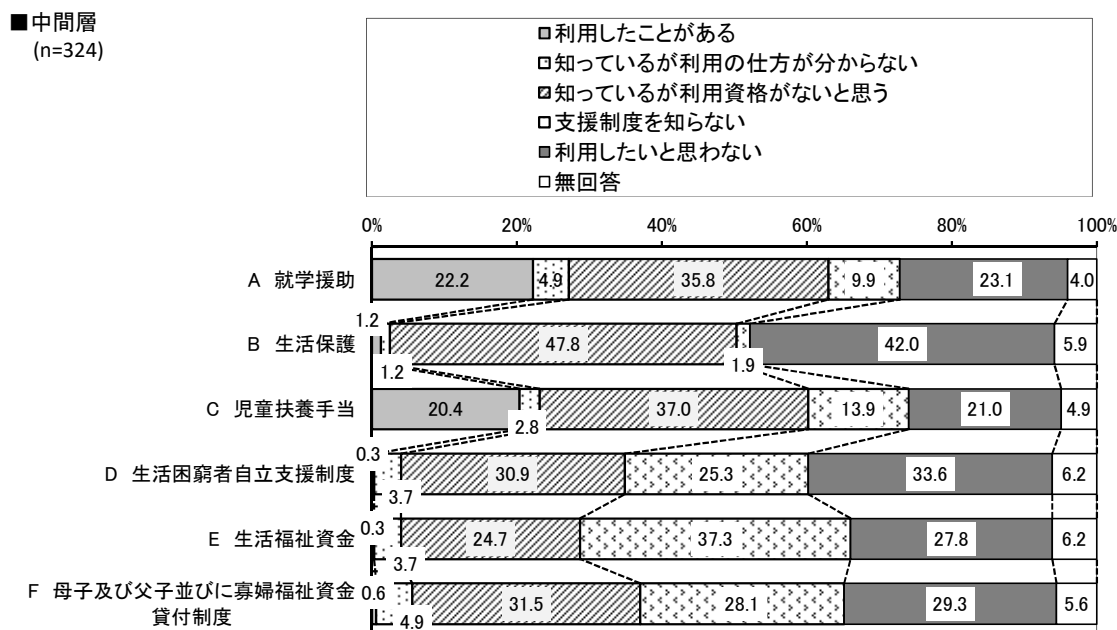
小5・中2児童生徒保護者の生活状況別では、生活困難層で「利用したことがある」割合が就学援助で63.5%、児童扶養手当で54.1%であり、他の層を大きく上回る。また、生活困窮者自立支援制度や生活福祉資金、母子及び父子並びに寡婦福祉資金貸付制度については、生活困難層ほど「支援制度を知らない」割合が高い傾向が見られる。

一方で、「知っているが利用資格がない」や「利用したいと思わない」割合は、非該当層ほど高い傾向にある。

【小5・中2保護者・生活困難層】支援制度の利用



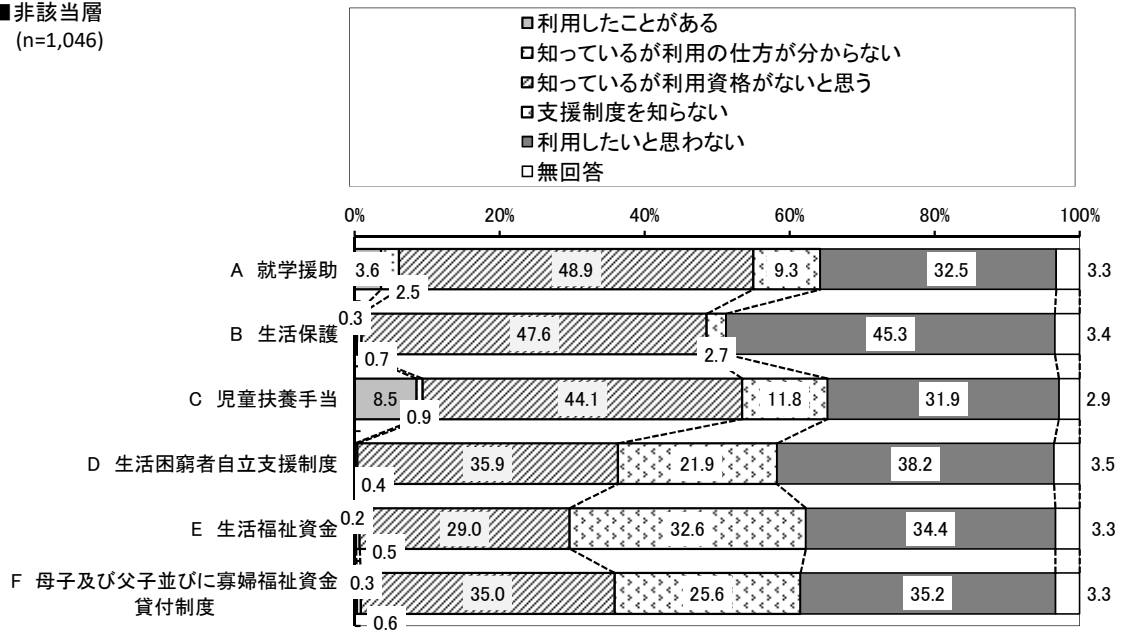
【小5・中2保護者・中間層】支援制度の利用



■ 第1部 アンケート調査 ■

【小5・中2保護者・非該当層】支援制度の利用

■非該当層
(n=1,046)



(2) 必要としている支援

【就学前児童保護者 問 36／小5・中2保護者 問 38】

あなたが現在必要としていること、重要だと思う支援等はどのようなものですか。(あてはまるものすべてに○)

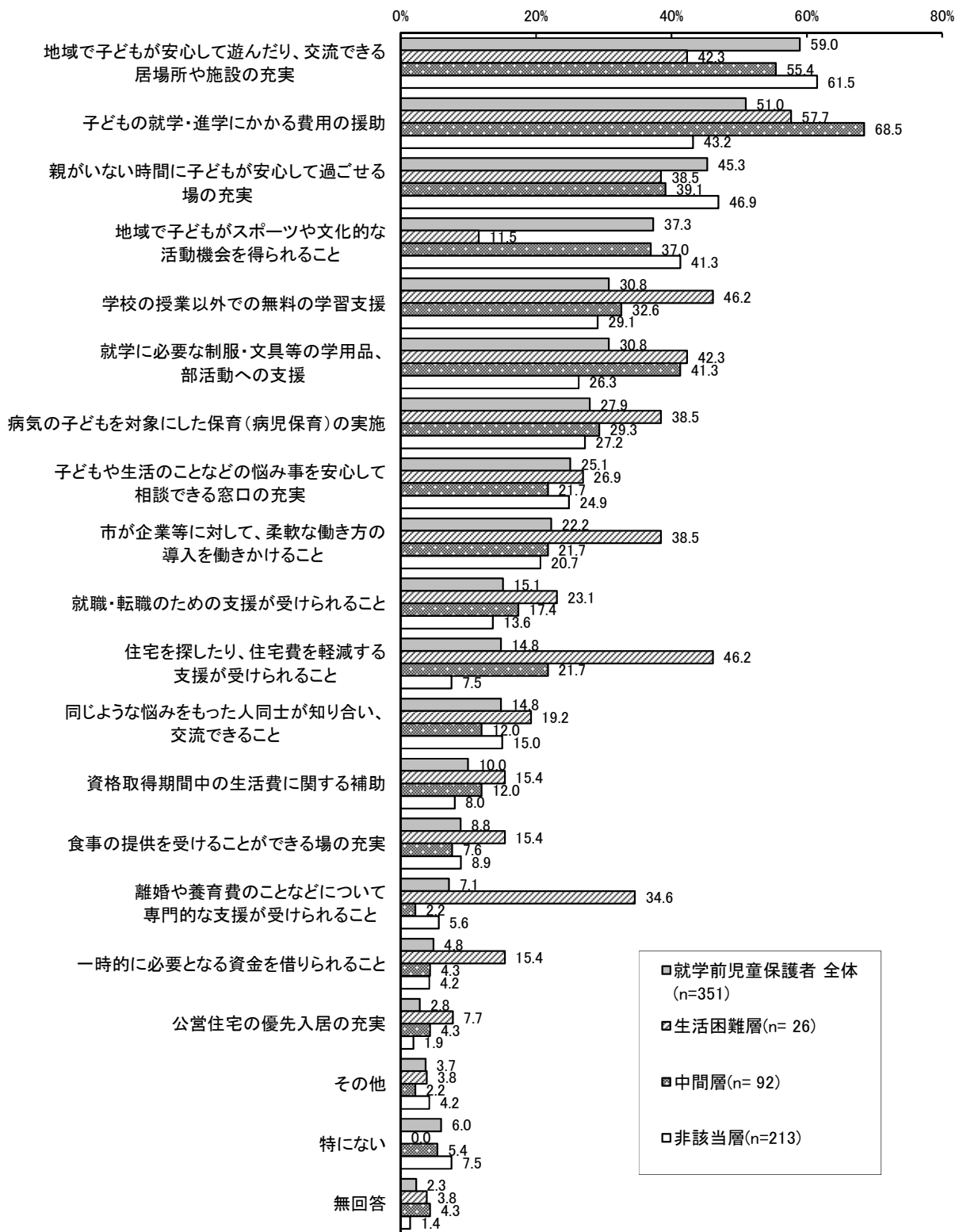
必要としている支援について、就学前児童保護者の生活状況別にみると、生活困難層では「学校の授業以外での無料の学習支援」「住宅を探したり、住宅費を軽減する支援が受けられること」「病気の子どもの対象にした保育（病児保育）の実施」「市が企業等に対して、柔軟な働き方の導入を働きかけること」「離婚や養育費のことなどについて専門的な支援が受けられること」など多くの項目の割合が、他の層を大きく上回る。

そのほか、中間層では「子どもの就学・進学にかかる費用の援助」、非該当層では「地域で子どもが安心して遊んだり、交流できる居場所や施設の充実」や「親がいない時間に子どもが安心して過ごせる場の充実」などが多くあげられている。

【就学前児童保護者・生活状況別】必要としている支援（上位5項目）

生活状況別	1位	2位	3位	4位	5位
生活困難層 (n= 26)	子どもの就学・ 進学にかかる費 用の援助 57.7	学校の授業以外 での無料の学習 支援 46.2	住宅を探した り、住宅費を軽 減する支援が受 けられること 46.2	地域で子どもが 安心して遊んだ り、交流できる 居場所や施設の 充実 42.3	就学に必要な制 服・文具等の学 用品、部活動へ の支援 42.3
中間層 (n= 92)	子どもの就学・ 進学にかかる 費用の援助 68.5	地域で子どもが 安心して遊んだ り、交流できる 居場所や施設の 充実 55.4	就学に必要な制 服・文具等の学 用品、部活動へ の支援 41.3	親がいない時間 に子どもが安心 して過ごせる 場の充実 39.1	地域で子どもが スポーツや文化 的な活動機会を 得られること 37.0
非該当層 (n=213)	地域で子どもが 安心して遊んだ り、交流できる 居場所や施設の 充実 61.5	親がいない時間 に子どもが安心 して過ごせる 場の充実 46.9	子どもの就学・ 進学にかかる 費用の援助 43.2	地域で子どもが スポーツや文化 的な活動機会を 得られること 41.3	学校の授業以外 での無料の学習 支援 29.1

【就学前児童保護者・生活状況別】必要としている支援



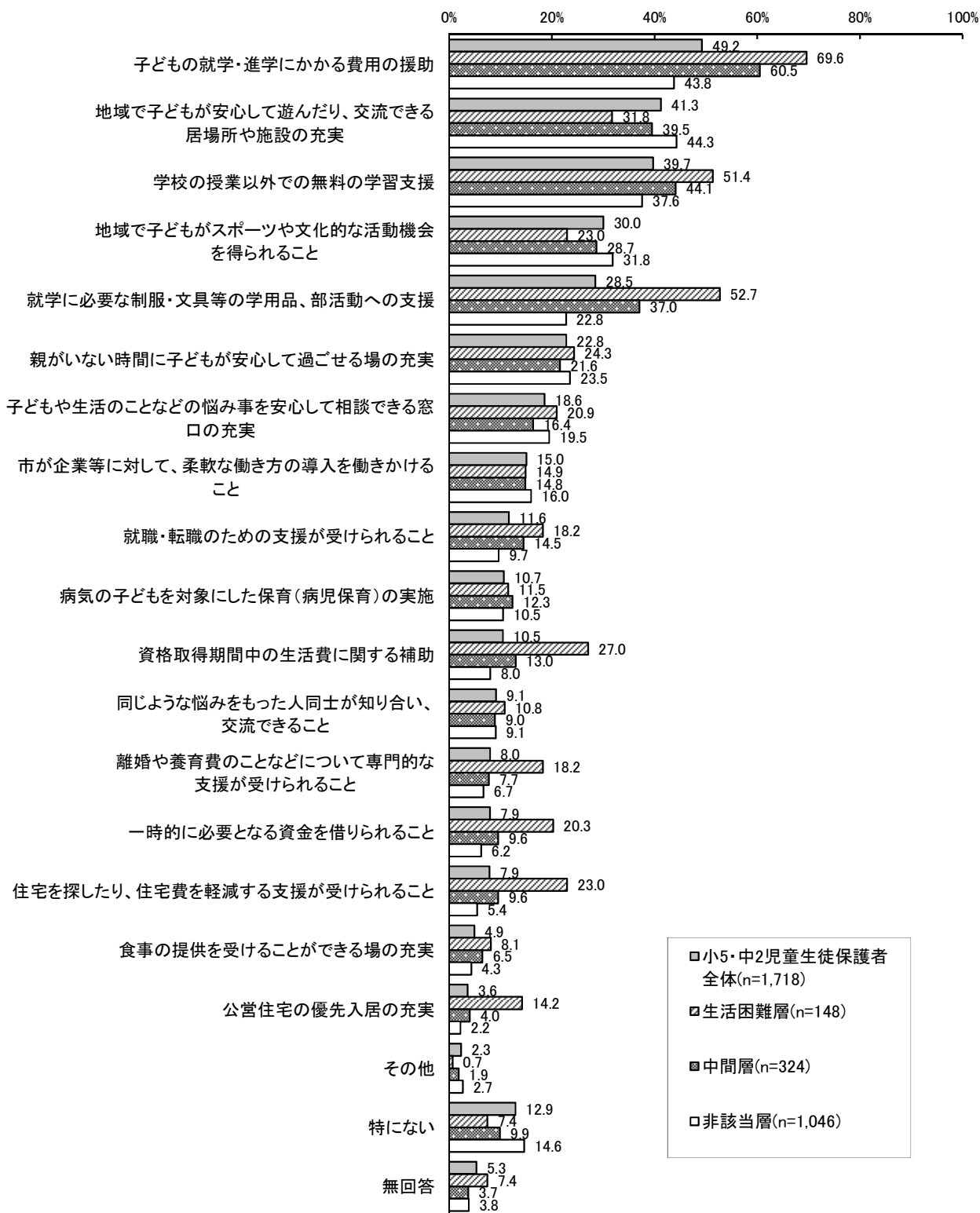
小5・中2児童生徒保護者の生活状況別にみると、生活困難層では「子どもの就学・進学にかかる費用の援助」「就学に必要な制服・文具等の学用品、部活動への支援」「学校の授業以外での無料の学習支援」をはじめ多くの項目でその割合が、他の層を大きく上回るとともに、必要とする支援の上位5項目中4項目が経済的支援に関連する内容となっている。

一方で、「地域で子どもが安心して遊んだり、交流できる居場所や施設の充実」や「地域で子どもがスポーツや文化的な活動機会を得られること」の割合は、非該当層ほど高くなっている。

【小5・中2保護者・生活状況別】必要としている支援（上位5項目）

生活状況別	1位	2位	3位	4位	5位
生活困難層 (n=148)	子どもの就学・ 進学にかかる費 用の援助 69.6	就学に必要な制 服・文具等の学 用品、部活動へ の支援 52.7	学校の授業以外 での無料の学習 支援 51.4	地域で子どもが 安心して遊んだ り、交流できる 居場所や施設の 充実 31.8	資格取得期間中 の生活費に関す る補助 27.0
中間層 (n=324)	子どもの就学・ 進学にかかる 費用の援助 60.5	学校の授業以外 での無料の学習 支援 44.1	地域で子どもが 安心して遊んだ り、交流できる 居場所や施設の 充実 39.5	就学に必要な制 服・文具等の学 用品、部活動へ の支援 37.0	地域で子どもが スポーツや文化 的な活動機会を 得られること 28.7
非該当層 (n=1,046)	地域で子どもが 安心して遊んだ り、交流できる 居場所や施設の 充実 44.3	子どもの就学・ 進学にかかる 費用の援助 43.8	学校の授業以外 での無料の学習 支援 37.6	地域で子どもが スポーツや文化 的な活動機会を 得られること 31.8	親がいない時間 に子どもが安心 して過ごせる場 の充実 23.5

【小5・中2保護者・生活状況別】必要としている支援



8. 自由回答

(1) 就学前児童保護者

いま悩んでいることや心配なこと、困っていること、誰かに相談したいこと、子育てに関する市への要望などについて、自由記入方式でたずねたところ、103名の方から123件のご意見を頂いた。以下の表はその内容を分類したものである。

	項目	件数 (件)
1	経済的支援について	15
2	公園の充実について	15
3	保育・子育ての悩みについて	14
4	教育費・保育料について	8
5	保育所(園)について	6
6	医療機関の充実について	6
7	家庭内の悩みについて	6
8	子どもの教育・学習・教育環境について	5
9	歩道・道路の整備について	5
10	就労・収入・ワークライフバランスについて	5
11	障がい児への支援・対応について	5
12	乳幼児等健診について	4
13	相談体制について	4
14	一時預かりについて	3
15	学童保育所・放課後児童クラブについて	3
16	遊び場について	3
17	子育て環境について	3
18	市政について	2
19	交通手段の充実について	2
20	病児・病後児保育について	2
21	その他	7
	合計	123

【回答の内容】

経済的支援について (15件)

- ・子どもの医療費を高校生まで無料にしたいです。
- ・子どもが小さい間の期間しか使用しないものについて、金額はともかくとして補助金が出ると嬉しいです。ベビーベッド、チャイルドシート、子ども乗せ自転車、木柵等のちょっと高いものの購入費用やレンタル料金に対するサポート。
- ・将来への資金形成、学費等の貯蓄。二人目が生まれたときの経済状況。子育て支援、出産祝い金等、育児をするにあたり金銭的な援助を手厚くしてほしい。 等

公園の充実について（15件）
<ul style="list-style-type: none"> ・上尾駅東口側に小さい子どもが遊べるような公園が少ないため、自分も近所の人でも西口側までベビーカーで行っている。1・2歳の子どもと母親だと徒歩しか移動手段がないという人がかなり多いので、東口側にももう少し公園が出来たら良いと思う。 ・新しい家ばかり建ち、子どもが遊べる公園が少ない。遊具の老朽化（30～40年も前の物が多い）、高さがない安全な遊具を設置してほしい。 ・公園が少なく、あっても草がすごくて整備されていない。子どもが安心して遊べる場所を増やしてほしい。 等
保育・子育ての悩みについて（14件）
<ul style="list-style-type: none"> ・だっこがひどくて家事が出来ないことがある。チャイルドシートにちゃんと座ってくれない。 ・この春越してきたばかりでコロナ禍で子ども達も近所にお友達が出来たがどこまで一緒に遊ばせてあげればいいのか加減がわからず自宅にこもりがち。子どもは遊びたい様子で困ってしまう。 ・ママ友がほしいです。そのような交流の場を設けてほしいです。コロナ禍なので定員制限等をして。 等
教育費・保育料について（8件）
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが多い程教育にお金がかかる。 ・学童保育所の料金が他市に比べて高いと感じる。保育料が減免になったが小学生以降の負担がかなり増える。切れ目のない子育て支援を希望します。 ・上尾市は学童保育の料金が高すぎるので幼稚園のように無償化にすべきだと思う。せめて補助がないと割高になってしまう。 等
保育所（園）について（6件）
<ul style="list-style-type: none"> ・希望する保育園に空きがないので幼稚園に通っている。平日8時から17時まで預けているので預かり料金が高額になってしまう。保育園に入れたい。 ・保育園・幼稚園がもう少し遅くまでやってくれること。保育園に関しては、母親が仕事を休みの日でもこころよく預かってほしい。今の日本経済の中で企業が柔軟な働き方を導入したりするのは難しいのではないのでしょうか。もっと母親がゆとりを持てるようにしてほしい。 等
医療機関の充実について（6件）
<ul style="list-style-type: none"> ・都内や川口市と比較して小児科・小児皮膚科等子ども向けの病院が少なすぎて全く子育てに適していない。 ・子どもの病院も自分が発熱の時も、いつも違う市の病院を利用している。体調が悪く足元のふらつく中、遠くの病院に通うことが辛い。 等
家庭内の悩みについて（6件）
<ul style="list-style-type: none"> ・離婚した時に養育費の取り決めをしていないので、実際どうなるのかわからず不安に思います。 等
子どもの教育・学習・教育環境について（5件）
<ul style="list-style-type: none"> ・学校とは他に習い事のような子どもが学べる施設を市全体で出来れば有難いです。習い事の月の2～3万の出費が抑えられたらと思います。 等

歩道・道路の整備について（5件）
<ul style="list-style-type: none"> ・国道沿いの通行の安全を守るように、特に自転車と歩行者の通路の明確な区画を行って欲しい。街灯の少ない場所が散見されるので子どもの夕方の通行のためにも整備してほしい。 ・ベビーカーや小さな子どもが安心して歩ける、通れる道路の整備。等
就労・収入・ワークライフバランスについて（5件）
<ul style="list-style-type: none"> ・本当は保育の仕事がしたいが、子どもとの時間を考えると難しく、早退や当日休みやすいパートをしている。ブランク後の保育の仕事をする不安。 ・就職したいが仕事と子育ての両立が可能なか不安。子どもが双子で手がかかるのと、頼れる両親等は遠方に住んでいるので病気の際など仕事の調整がつか不安。等
子どもの障がいや発達の遅れについて（5件）
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障がいの疑いで0才のころから発達支援相談センター等、色々相談させていただき、ともに子どもの成長を見守ってもらえました。小学生になり、継続した支援を受けられないのは不安です。 ・子どもの発達が不安。なるべく外出し公園等で毎日遊ばせているが、落ち着きなくあちこち行くため、毎日こちらも疲れます。療育にも通っていて夫も協力してくれるので頑張っています。今は少しの時間でもいいので、子どもと離れられる時間が欲しいです。等
乳幼児等健診について（4件）
<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の検診について、午後の昼寝時間帯だと子どもの機嫌も悪く大変なので午前中にしてほしい。 ・子どもの健診の場所など上尾市中心部に偏りすぎていて、市の境付近に住んでいるものは非常に不便。公共の施設を中心部以外にも充実させてください。等
相談体制について（4件）
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談をしても傾聴のみで具体的な解決策や支援の提供がない。結局自分で解決するしかないと思った。傾聴だけなら専門職でなくても出来る。保健師の質が向上してほしいと思っています。 ・公的な機関に相談する事はなんとなくマイナスなイメージがある。皆が積極的に頼れる雰囲気だったり、もっと分かりやすい窓口があると嬉しい。例えば「#7119」は良く知られ、周りも良く利用している。ほとんどの人が利用しやすい告知が必要だと思う。等
一時預かりについて（3件）
<ul style="list-style-type: none"> ・母親が仕事をもつ上で長期休業中の預かり場所が学童以外にもあるといいと思います。平日は子どもの帰宅時間に間に合う仕事が出来ても、長期休業中の預け先がない家庭は仕事選びが難しい。 ・第二子不妊治療中のため、2歳の子どもの預け先に困る時がある。両親は離れた場所に住んでいるため預けることが難しく、病院へ行く日がわかるのも2日前にならないとわからないので、一時保育は予約がいっぱいで断られることがある。旦那も仕事を休めず。一時保育料も高い園が多く、気軽にお問い合わせすることが出来ない。等
学童保育所・放課後児童クラブについて（3件）
<ul style="list-style-type: none"> ・まだ小学生ではないですが、夏期休暇などの時のみ利用出来る学童のようなものがあるといいなと思います。 ・様々な施設が充実していれば子どもを預けて仕事につける。学童が校内敷地であれば安心して学童に預けて仕事出来る。近くの小学校は歩いて移動するので事故がないか不安。等
遊び場について（3件）
<ul style="list-style-type: none"> ・子ども達が安心して楽しく遊べる場所がもっと増えると嬉しいです。例えば、小さくてもいいので最低限の遊具のある公園等。コロナ禍で小さい子のいる家庭は日々どのように子どもを遊ばせるか大変頭を悩ませている。気軽に行けて体を動かせる場所さえあれば人々の救いになるのではと思います。市内にはこどもの城やアップीलランド等がありますが、さらに魅力のある施設があれば上尾市の魅力や価値も上がるのではないかと思います。等

■ 第1部 アンケート調査 ■

子育て環境について（3件）
・都内で生活していた頃より過ごしやすく安心して子育てが出来ていると感じています。ありがとうございます。等
市政について（2件）
・市政が高齢者に向いていることが多い。図書館の建て替え、バリアフリー化が頓挫する等、これから上尾市を支えていく層に対しての投資が少ない。児童館等良い部分をこれからも伸ばしてほしい。老人だらけで若者が出ていく上尾市では最終的に双方が困ることになるはず。等
交通手段の充実について（2件）
・駅までの市内バスの拡充。ベビーカーでも移動しやすい交通経路の拡充。等
病児・病後児保育について（2件）
・病児保育を拡充してほしい。等
その他（7件）
<ul style="list-style-type: none"> ・公立保育所を利用しています。災害時、緊急時（火災・不審者など）の報告手段としてメール配信を希望します。現在はアプリも充実していますので、どちらかのサービスを利用するのも良い手段と考えます。ぜひご検討下さい。 ・コロナの関係で保育園のイベントや先生方や親同士の交流がほとんどないことが心配です。 ・神経質な隣人がいて、生活音でも気になるようでこちらも気をつけて生活しており、子どもに音を出されないようにして生活することに疲れる。等

(2) 小5・中2児童生徒保護者

いま悩んでいることや心配なこと、困っていること、誰かに相談したいこと、子育てに関する市への要望などについて、自由記入方式でたずねたところ、208名の方から243件のご意見を頂いた。以下の表はその内容を分類したものである。

	項目	件数(件)
1	子どもの教育・学習・教育環境について	36
2	就労・収入・ワークライフバランスについて	29
3	自身や家族の健康について	27
4	教育費について	25
5	経済的支援・経済的困窮について	23
6	子育ての悩み	22
7	P T A活動の負担について	15
8	市の対応・支援策について	12
9	学童保育所・放課後児童クラブについて	10
10	子どもの障害について	10
11	子どもの遊び場について	9
12	夫婦関係・家族の問題について	7
13	安全・住環境について	3
14	老後について(年金等)	3
15	その他	13
	合 計	243

【回答の内容】

子どもの教育・学習・教育環境 (36件)

- ・子どもの勉強を見てあげたいが、平日7時～20時は出勤しており、帰宅してからも家事に追われ、時間が作れない。詰め込み教育の現在ではゆとりから比べると勉強が(2学年繰り下がり)難しくなっており、コロナの影響で授業数も減り子ども達が理解しなくてもどんどん進めていかなければならない状態。学力の差が将来の貧困の子を増やす。悪循環になっていると思います。【小学生保護者】
- ・同じ埼玉県内でも、学習面での進捗や充実度にバラつきがあり、特に上尾市の学習面での取り組みや支援が遅れていると感じます。共働きで日中子どもとの生活面での話し合いの時間をとるだけで精一杯で学習面での相談や指導する時間は全くという程とれず、隣の市のさいたま市と比べると学習支援制度に不安があります。学習面で公的サービスが充実、または公立中学校での授業内容の見直し等あれば幸いです。【小学生保護者】
- ・タブレット学習についてしっかりとした教育につながるのか不安である。【中学生保護者】
- ・子どもの学校に拘束されている時間が長すぎて、帰宅してからの家庭での時間の余裕がない。友達と遊ぶ時間や家でゆっくりする時間がない。授業のペースが速く、理解していないまま次に進んでしまう。その為、結局親が宿題や子どもの勉強を見なければいけなくなる。塾に通わせるとなると、更に自由な時間がなくなり、子どもがかわいそう。親も勉強を見るのに限界がある。【中学生保護者】 等

<p>就労・収入・ワークライフバランスについて (29 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・パート(母)がしたいが、精神的・体力的に無理があると言われ、辞めることになってしまった。家計に貢献できず、負い目がある。【小学生保護者】 ・年収は普通だと思うが、税金が多い為生活は楽ではない。(同居している年寄りもいる。)市が支援している対象の条件が厳しいため、全く当てはまらないが決して楽に暮らしている訳ではないので、もう少し子どもの教育資金など援助してほしいと思います。【小学生保護者】 ・収入があっても市民税に所得税、固定資産税と税金でお金が消えてしまう。小学校給食費と教材費で1万円、中学生は同じく1.5万円。3人いるわが家は月に4万+住宅ローン、仕事で使う車のローン…とても貯蓄は出来ないの子どもをもつ事がこんなにも苦しいとは思わなかったと後悔してしまう事があります。少子化対策として、子ども(かわいいけど…)がいて良かったと思える何か欲しい。【中学生保護者】 ・現在パートとして働いています。シフト制で比較的自由に働けるのはよいのですが本来やりたい仕事とは違います。子育てしながらムリなく働ける仕事のあっせん、紹介などしてもらえたらいいと思っています。子どもの出産後、夫の協力を得られなかったため正社員の会社を退職しました。今でも後悔しています。子どもに罪はないのですが、もし子どもがいなければ、夫がもっと協力してくれたら、今も正社員としてキャリアを積めたのと思うことがよくあります。【中学生保護者】 等
<p>自身や家族の健康について (27 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実家に父親がひとりきりで高齢なので心配です。今、介護保険制度を利用して支援してもらうかを検討しています。【小学生保護者】 ・12才以上の子にコロナウィルスのワクチン接種をして大丈夫なのだろうか?また、同じ中学校内で、ワクチン接種の有無による差別などが発生しないかどうか心配。【小学生保護者】 ・地元を離れ生活しているため、子の祖父母や親せきなど、何かあったときに頼る人がいないため、体調を崩した時助けを求められない。【中学生保護者】 ・母子家庭で、2人の子どもの歯の矯正が必要と言われていますが、費用が高額で治療したくてもできません。全額でなくともある程度のサポートが欲しいと思っています。【中学生保護者】 等
<p>教育費について (25 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高校受験、大学受験にむけての金銭面の相談(特に大学)。国立を目指しているが私立になってしまった時の金銭面の不安がかなり大きい。【小学生保護者】 ・大学生の授業料を払うのが難しい。奨学金も借りているが卒業後子ども達が払っていけるのか、就活も思うように進んでいない中、不安。【小学生保護者】 ・子どもの高校進学へ向けてのお金の心配。進路に向けての相談。近くの高校など、学校が全くわからないので、中学入学(1年生)から少しずつ教えてほしい。(子どもが)「中卒でもいい」と言う事がたまにあるので。【中学生保護者】 ・子ども3人に平等に習い事をさせたいと思っているが、今通っている習い事は兄弟割引がどれも無い為、かなりの金額になってしまっている。高学年(中学2年~3年)の塾や大学の費用など考えると不安になる。【中学生保護者】 等
<p>経済的支援・経済的困窮について (23 件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親でも実家に住んでいることで一人親の支援が受けられず、自身の給料で足りない時は家族から借りている。家族とはいえ、借りにくいこともあるので、少しでも支援が受けられるとありがたいです。養育費も取り決めの金額で入ったのは何か月かくらいで、今現在は滞っているため、金銭面で苦しいことがあります。【小学生保護者】 等

- ・児童手当、高校無償化など、子どもに関わるお金所得制限をかけないで、平等にして欲しい。父親が忙しく働いている為、子育てに協力が得られず母親一人で育児をしてきた。また働けば働くほど恩恵が受けられない事が理解できない。【小学生保護者】
- ・子どもの医療費は成人まで無料にしてほしい。高校・大学など子どもの希望があれば無料化。母子家庭への金銭的援助の上限を引き上げてほしい。両親働いている家庭との収入差が大きい。【中学生保護者】
- ・子どもが3人いて、学費がとてめにかかるが、共働きで援助が得られる世帯年収を超えてしまい、支援が受けられない。実家の援助がなく、親2人で稼ぐには限界がある。教育費の援助がもっと充実することを希望している。【中学生保護者】 等

子育ての悩み (22 件)

- ・子育て相談の電話などの案内があるが、電話しても話中でつながらなかつたりする。LINEとかZoomとかで気軽にスムーズに連絡つくところがあると良いと思う。【小学生保護者】
- ・1人っ子なので、子どもの成長について知識が足らず、今の子どもの状況が正しいのか分からない時に気軽に知れる方法が欲しいと思ってしまう。ネットなどは情報が多すぎて調べても分からなくなってしまう。1人でもやもやしている事が良くあるので、そういう時は正直気分が上がらず、しんどくなる時があります。【中学生保護者】
- ・不登校となり、居場所や支援が市内に少なく当事者同士話したり子ども同士知り合える場が欲しい。【中学生保護者】
- ・一般的な子どもの反抗期、落ちつくまで仕方がないがしんどい。ゲーム時間の制限（決めてはいるが、決めないといつまでもやってしまうと思う。）【中学生保護者】 等

P T A 活動の負担について (14 件)

- ・P T A 活動や子ども会の役員があり、仕事と子育ての両立が困難です。また、働いても、子どもの事で休みをいられる日はせいぜい1日、2日(パートでも)で有休も使わせてもらえないのに、子どものイベントで、月に4回も集まる必要があるので、転職したり1年仕事をあきらめたりしています。【小学生保護者】
- ・小学校と中学校に通う子どもがおります。P T A をなくしてほしいです。そもそもP T A 役員って何ですか？【小学生保護者】
- ・P T A (小中学校+高校(上尾市の管轄ではないと思いますが…))は任意加入にすべき。非加入、脱退の選択肢を開示すべき。選択の自由がないのはおかしい。【中学生保護者】
- ・学童の役員、P T A 役員など平日の集まりが多くまだまだ母親が出ていく場面が多いです。働きながらだと中々難しい。また子ども1人につきP T A 役員が1回となると子どもを多く持つのは難しいです。P T A については多少費用がかかっても外注できる所は考えてほしいです。また、金銭面での協力が難しければ今のように実務で協力と選べるようにしてほしいです。P T A 参加は任意ですが、現状では入会しない選択肢を選ぶ機会是与えられていません。活動には賛成しますが、外注できるものはしていただき、保護者や先生方の負担を減らすことも考えていただきたい。もちろんそのために新たに金銭的負担が増えてもかまいません。【中学生保護者】 等

<p>市の対応・支援策について（12件）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て、福祉に関することがまだまだ足りないと思う。産み育てやすい環境になってほしいと思う。もっと充実していいと思う。子どもが多くても少なくても受けられる支援が同じということに納得いかない。【小学生保護者】 ・ひとり親（特に母子家庭）だと情報にうとい方もいるように感じる。支援をもっとわかりやすく。【中学生保護者】 ・フードパントリー e t c は利用したくないのではなく必要とする方に利用していただいた方が良くという考えから回答した。様々な公的サービスがあっても、困っている人にその情報が届けられているか、安心して困ったとカミングアウトできる環境をつくれるか、困難な状況を抜けだせる思考・行動のポイントを再教育することはなかなか難しいと課題として気になっている。特にグループ活動はしていないが、保護者同士のよもやま話から転職相談や発達障害の親子への対応などの相談にのることもある。ボランティア活動の方々の意見も参考にしつつ、実態に合った施策や伝達をしていただけるとありがたい。LINEをもっと活用しても良いと思います。（子育て世代のコミュニケーションインフラのため）【中学生保護者】 等
<p>学童保育所・放課後児童クラブについて（10件）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育について。長期休み(春夏冬休み) 中のみの利用ができない現状に困っています。身内が近くにいない世帯にとっては子ども（低学年）を留守番させる、もしくは母が出勤日、時間を減らすなど支障をきたしています。近隣の市町村の月極保育についての対応を参考にさせていただきたいです。【小学生保護者】 ・以前は学童保育を利用していましたが、両親共働きで大変なのにも関わらず、行事への強制参加や夜の集まりがあり、子どもや預け先の祖父母、何より私達保護者の負担が大きかったため利用をやめました。働いている保護者の負担が増えないような、子ども達を預けられる場があれば利用したいです。【中学生保護者】 ・上尾学童を利用しているが費用が高い。上尾市で運営してほしい。働いているのに保護者に行事を計画、実行させようとしているのがイヤだが、子どもを預けるためにがまんしている。学童の保護者関係の雑務を子どもとの時間にあてたい。【中学生保護者】 等
<p>子どもの障害について（10件）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達に不安があるので、W I S C を受けたがその後受診ができる医療機関が少なく、長期間の診察待ちなどの話も聞くので医療機関を増やして頂きたいです。【小学生保護者】 ・基礎疾患のある子どもを育てながら働く事はとても理解のある企業さんでないと難しく、内部障害であると預かる事も断られる。様々なディスアビリティに対してフォローしてくださる体制があったらいいなと思います。また、ディスアビリティにもっと理解のある世の中であってほしいと願っています。【中学生保護者】 ・息子はADHD・LDがあり読み書き障害があります。教育センターに相談などし、かすかな情報をたよりに上尾市の「はなみずき」という読み書き障害の支援をして下さる所にたどりつき救われました。このような障害は分かり易いものと違い、知識のある方につながりづらいと思いますが、本人も家族も深く悩みます。どうか、読み書き障害についてももう少し広く認知され、しかるべき支援を受けられる機会が与えられるよう進めて下さい。【中学生保護者】 等
<p>子どもの遊び場について（9件）</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・住宅や倉庫などが空き地に建ってしまい、子どもたちがのびのびボールやサッカー、野球など遊べる場所がなく、自宅から離れた場所まで危険な思いをして行くこともある。住宅がたくさんできるわりに公園の数が少ない。【小学生保護者】 ・子ども達が元気に外遊びをしていると、「うるさい」と通報されてしまう事。コロナで、外遊び時間も短く、時間を決めて遊んでいるのに、団地公園、家の周辺で遊んでも通報されてしまう。遊ぶ場所がない。もっと子ども達を自由に遊ばせてあげたい。【中学生保護者】 等

夫婦関係・家族の問題について（7件）
・離婚したいが、子どもと生活できるかどうか不安があるので実行できず、悩んでいる。この先の人生に希望が持てない。【中学生保護者】 等
安全・住環境について（3件）
・通学路含め、子どもたちの行動範囲にちゃんとした歩道のある道が少ないので、放課後子どもたちだけで遊びに出かけるのも心配。【中学生保護者】
・交通量が多いのに、ガードレールや押しボタン信号のない道路が多い。【中学生保護者】 等
老後について(年金等)（3件）
・老後にもらえる年金について（自分達の年代の人達の時にはきちんと受け取れるのだろうか）【小学生保護者】 等
その他（13件）
・子育てもようやく半分終わった感じがしていて、これからどういうふうにご過ごすということを話しあえる友達、人生これからは楽しんでいこうと考えている友達や情報共有ができる場がほしいと思っている。夫婦のあり方、高齢の方の生き方など、年齢が違う人同士の交流の場があるとよい。【小学生保護者】
・アンケートや調査に協力しても（時間をとられる）どこに改善されているのか前向きな取り組みがされているのか見えない事が心配。【小学生保護者】 等

Ⅱ 児童生徒調査

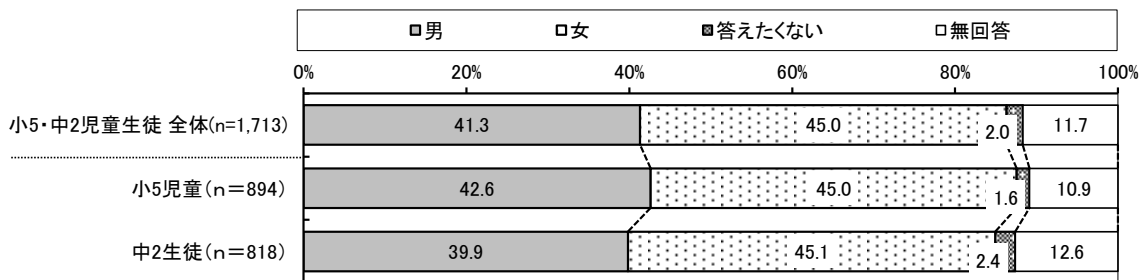
1. 回答者属性

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つだけ)

児童生徒の性別について、全体では「男」41.3%、「女」45.0%である。学年別でも大きな差は見られない。

【学年別】性別



2. 普段の生活について

(1) 物品の所有状況

問2 あなたがもっているもの、使うことができるものを教えてください。

「もっている」場合は1に○をつけてください。

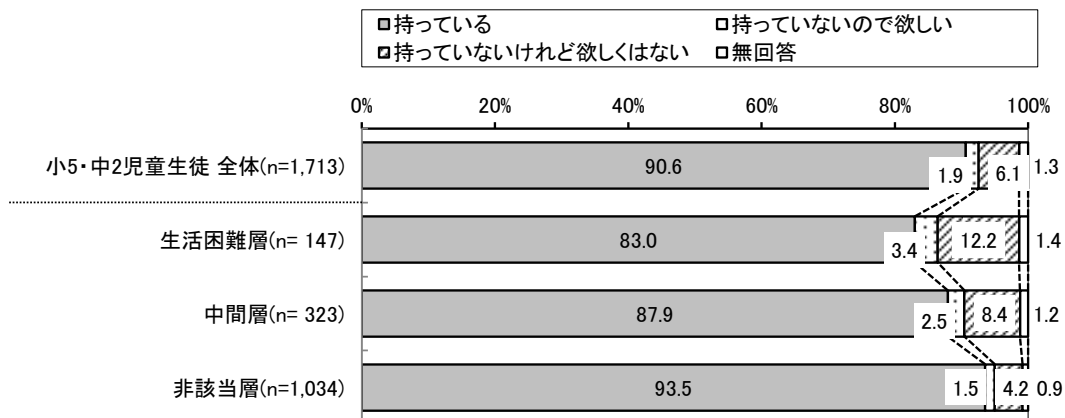
「ないのでほしい」場合は2に○をつけてください。

「ないけれどもほしくない」場合は3に○をつけてください。

① 本

本の所有状況について、全体では、「持っている」が90.6%と大半を占める。生活状況別にみると、「持っている」がいずれの層も8割を超えるが、生活困難層ほど「持っていないけれど欲しい」割合が高くなっている。

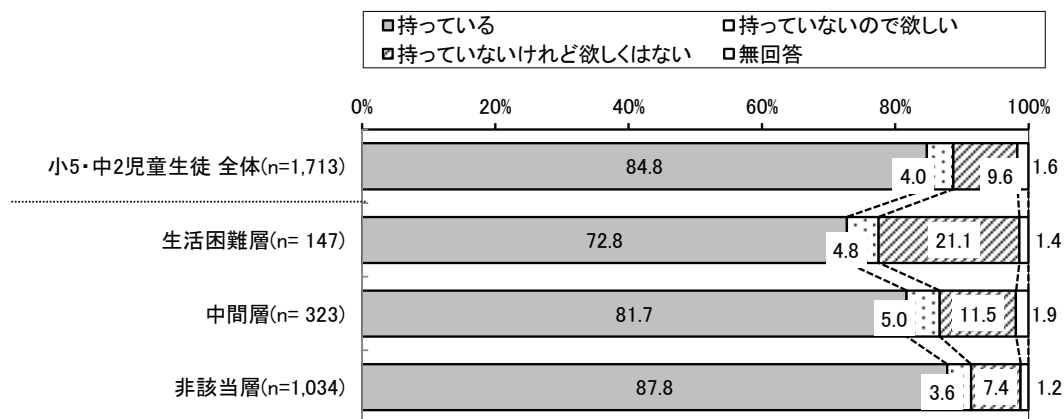
【生活状況別】本の所有状況



② マンガや雑誌

マンガや雑誌の所有状況について、全体では、「持っている」が84.8%で大半を占める。生活状況別にみると、いずれの層でも「持っている」が最も高くなっているが、生活困難層で「持っていないけれど欲しくはない」が21.1%と他の層を大きく上回る。

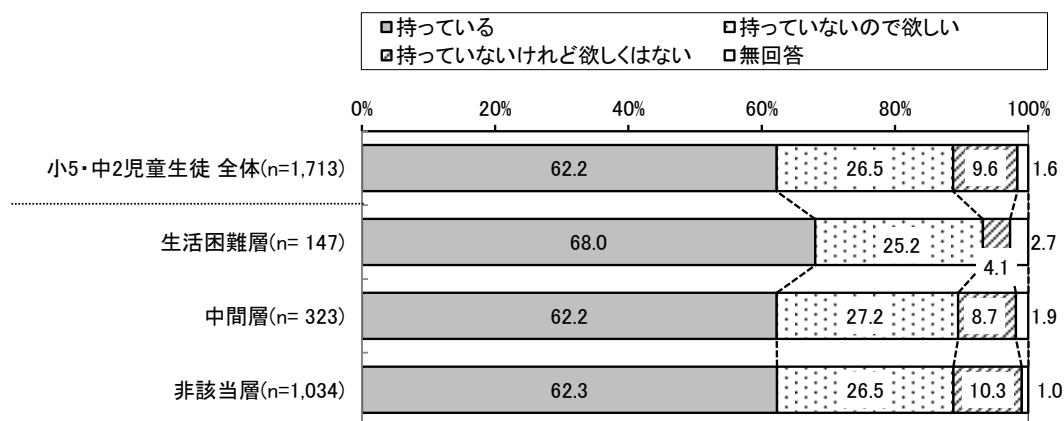
【生活状況別】マンガや雑誌の所有状況



③ 自分の使う部屋（兄弟姉妹と一緒に使っている場合も含む）

自分の使う部屋の所有状況について、「持っている」が77.6%で最も高く、次いでやや差があり「持っていないけれど欲しい」が15.2%である。生活状況別にみると、生活困難層ほど「持っていないけれど欲しい」割合が高くなっている。

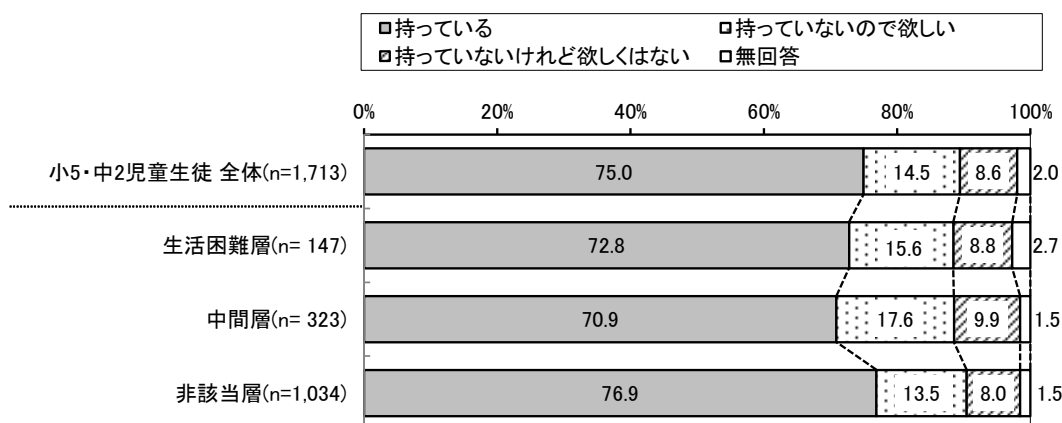
【生活状況別】自分の使う部屋の所有状況



④ インターネットにつながるパソコンやタブレット（兄弟姉妹と一緒に使っている場合も含む）

インターネットにつながるパソコンやタブレットの所有状況について、全体では、「持っている」が75.0%で最も高く、次いでやや差があり「持っていないので欲しい」が14.5%である。生活状況別にみると、いずれの層も「持っている」が7割台と大きな差はみられない。

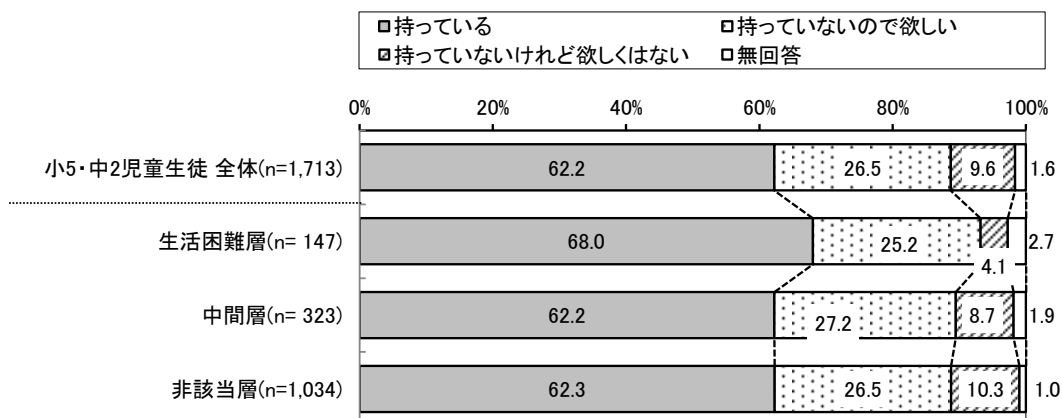
【生活状況別】インターネットにつながるパソコンやタブレットの所有状況



⑤ 自分用の携帯電話やスマートフォン

自分用の携帯電話やスマートフォンの所有状況については、全体では、「持っている」が62.2%で最も高く、次いで「持っていないので欲しい」が26.5%である。生活状況別でみると、生活困難層で「持っている」割合が他の層に比べやや高くなっている。

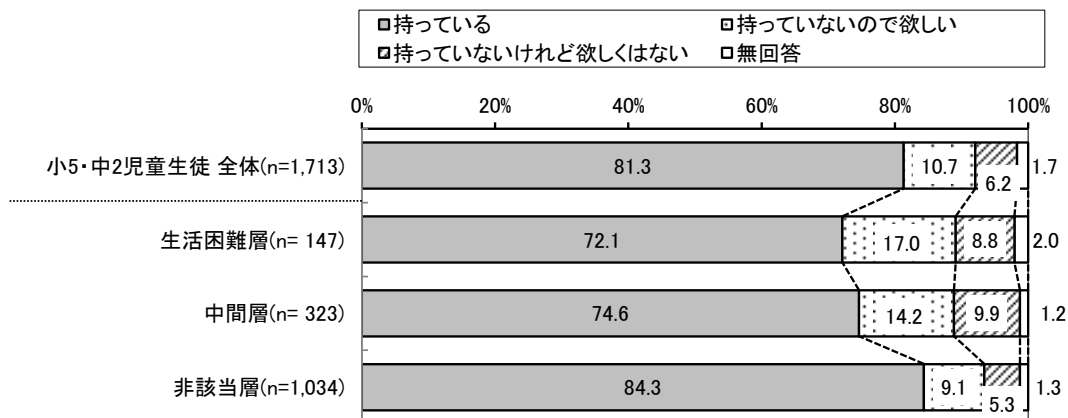
【生活状況別】自分用の携帯電話やスマートフォンの所有状況



⑥ 勉強机

勉強机の所有状況について、全体では、「持っている」が81.3%と大半を占め、「持っていないので欲しい」は10.7%となっている。生活状況別にみると、非該当層ほど「持っている」割合が高い傾向にある。

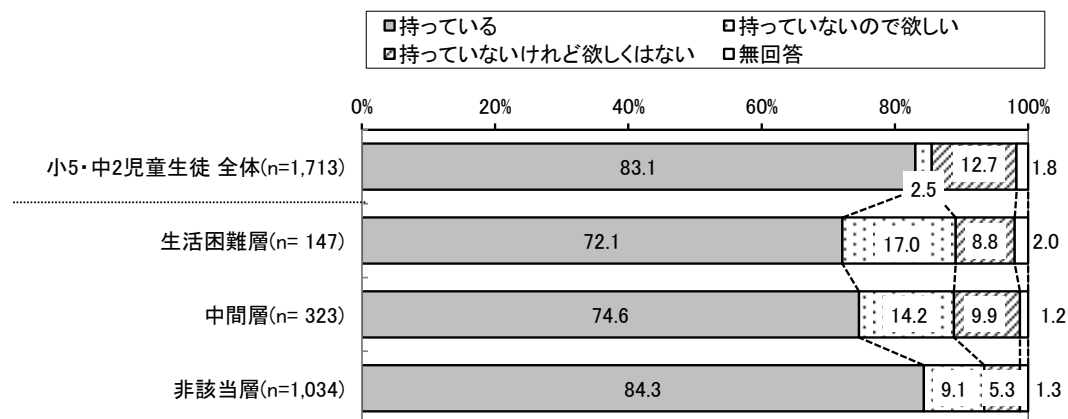
【生活状況別】勉強机の所有状況



⑦ スポーツ用品

スポーツ用品の所有状況について、全体では、「持っている」が83.1%と大半を占め、「持っていないけれど欲しくない」は12.7%となっている。生活状況別にみると、生活困難層ほど、「持っていないので欲しい」割合が高くなっている。

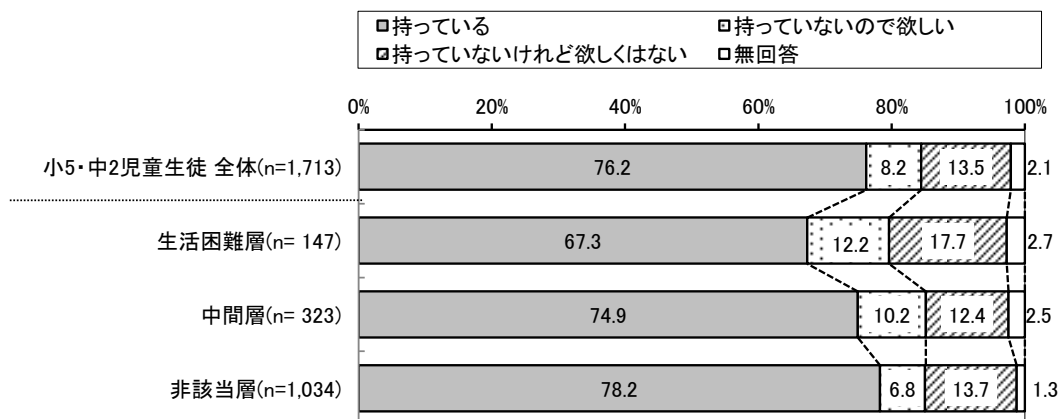
【生活状況別】スポーツ用品の所有状況



⑧ おもちゃ・ゲーム

おもちゃ・ゲームの所有状況について、全体では、「持っている」が76.2%、次いでやや差があり「持っていないけれど欲しくはない」が13.5%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「持っている」割合が最も高いものの、生活困難層でその割合が低く、「持っていないけれど欲しくはない」が他の層を上回る。

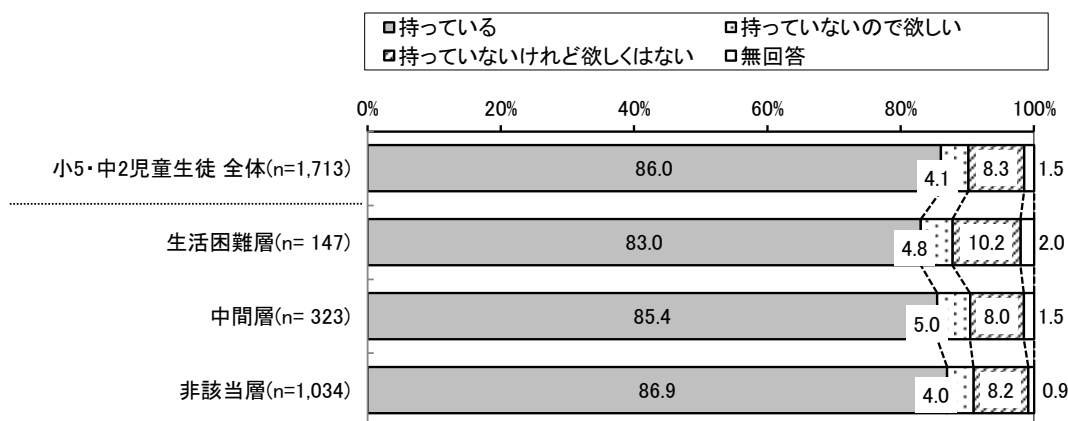
【生活状況別】おもちゃ・ゲームの所有状況



⑨ 自分で選んだ服

自分で選んだ服の所有状況について、全体では、「持っている」が86.0%と大半を占める。生活状況別にみると、いずれの層も「持っている」が8割を超え最も高く、生活状況による差はみられない。

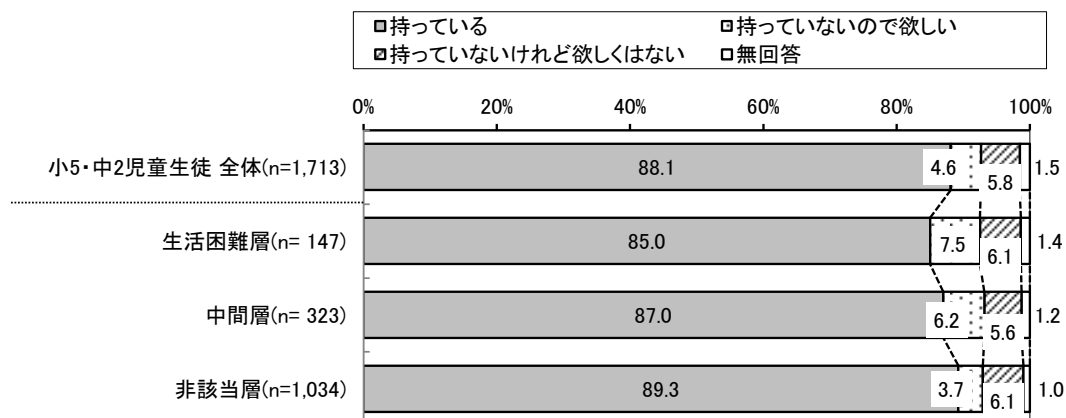
【生活状況別】自分で選んだ服の所有状況



⑩ 複数のくつ

複数のくつの所有状況について、全体では、「持っている」が 88.1%で最も多く、次いで「持っていないけれど欲しくはない」が 5.8%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「持っている」が8割を超え最も高くなっている。

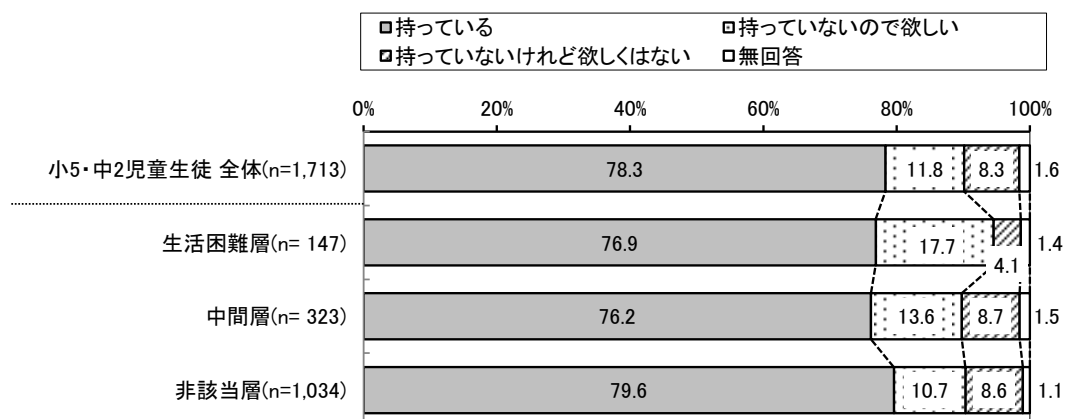
【生活状況別】複数のくつの所有状況



⑪ おこづかい

おこづかいの所有状況について、全体では、「持っている」が 78.3%で最も高く、次いでやや差があり「持っていないので欲しい」が 11.8%となっている。生活状況別にみると、生活困難層で「持っていないのでほしい」割合が他の層を上回る。

【生活状況別】おこづかいの所有状況



(2) 平日放課後に過ごす人、場所

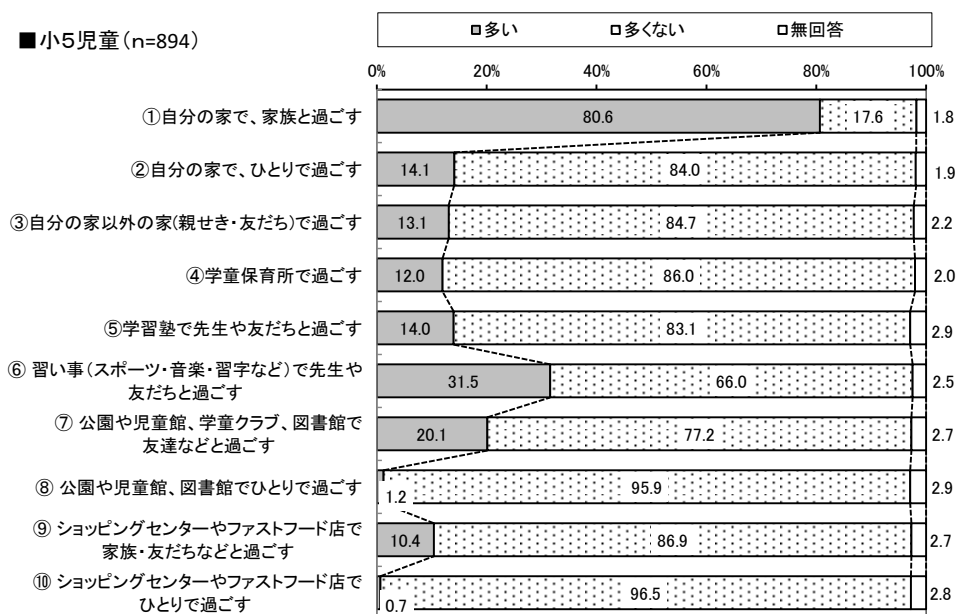
問3 あなたは、学校からの帰宅後は、どこで誰と過ごしていますか。

「多い」と思う場合は1に○をつけてください。

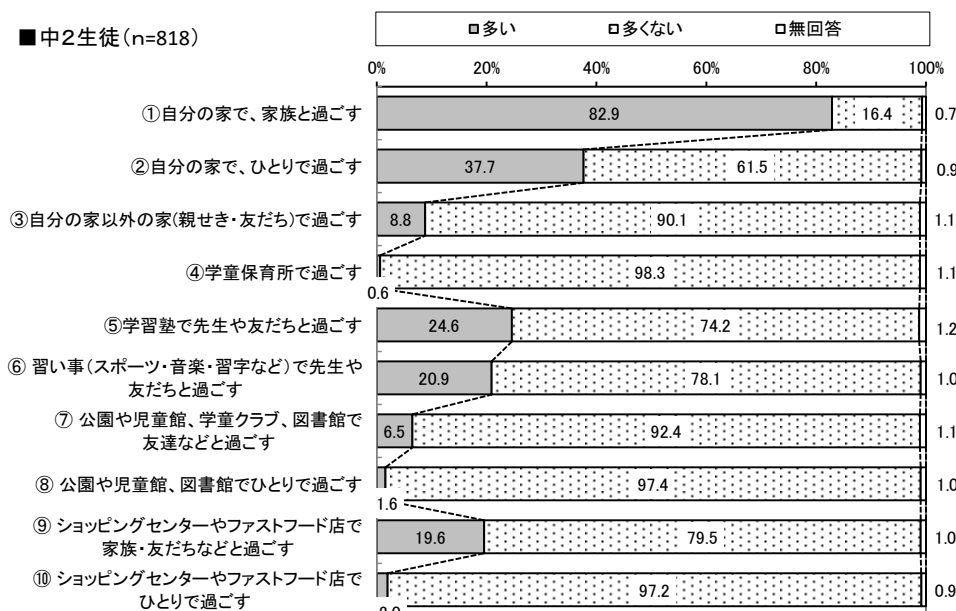
「多くない」「まったくない」と思う場合は2に○をつけてください。

平日放課後に過ごす人や場所について、学年別でみると、「多い」との回答は、小5児童では「① 自分の家で、家族と過ごす」80.6%が他を大きく上回る。次いで、「⑥ 習い事(スポーツ・音楽・習字など)で先生や友だちと過ごす」31.5%、「⑦ 公園や児童館、学童クラブ、図書館で友達などと過ごす」20.1%となっている。中2生徒では、「②自分の家で、ひとりで過ごす」や「⑤ 学習塾で先生や友だちと過ごす」、「⑨ ショッピングセンターやファストフード店で家族・友だちなどと過ごす」割合が小5児童に比べ高くなっている。

【学年別・小5児童】平日放課後に過ごす人、場所

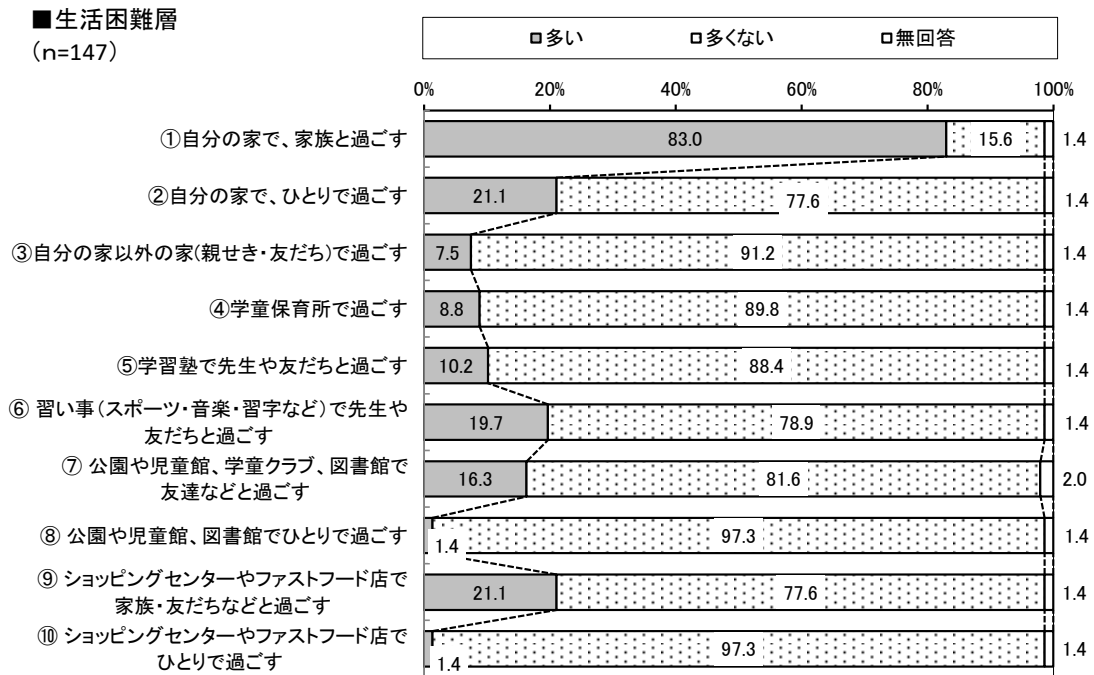


【学年別・中2生徒】平日放課後に過ごす人、場所

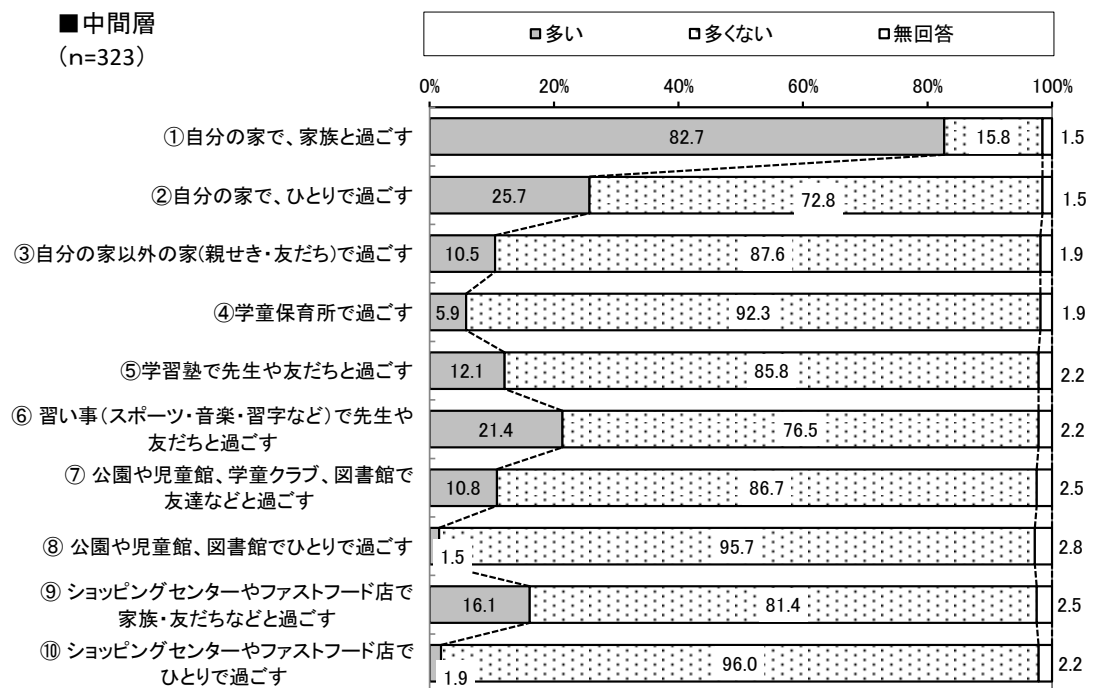


生活状況別でみると、非該当層ほど「⑥ 習い事（スポーツ・音楽・習字など）で先生や友だちと過ごす」や「⑤ 学習塾で先生や友だちと過ごす」割合が高く、生活困難層ほど「⑨ ショッピングセンターやファストフード店で家族・友だちなどと過ごす」割合が高くなっている。

【生活状況別・生活困難層】平日放課後に過ごす人、場所

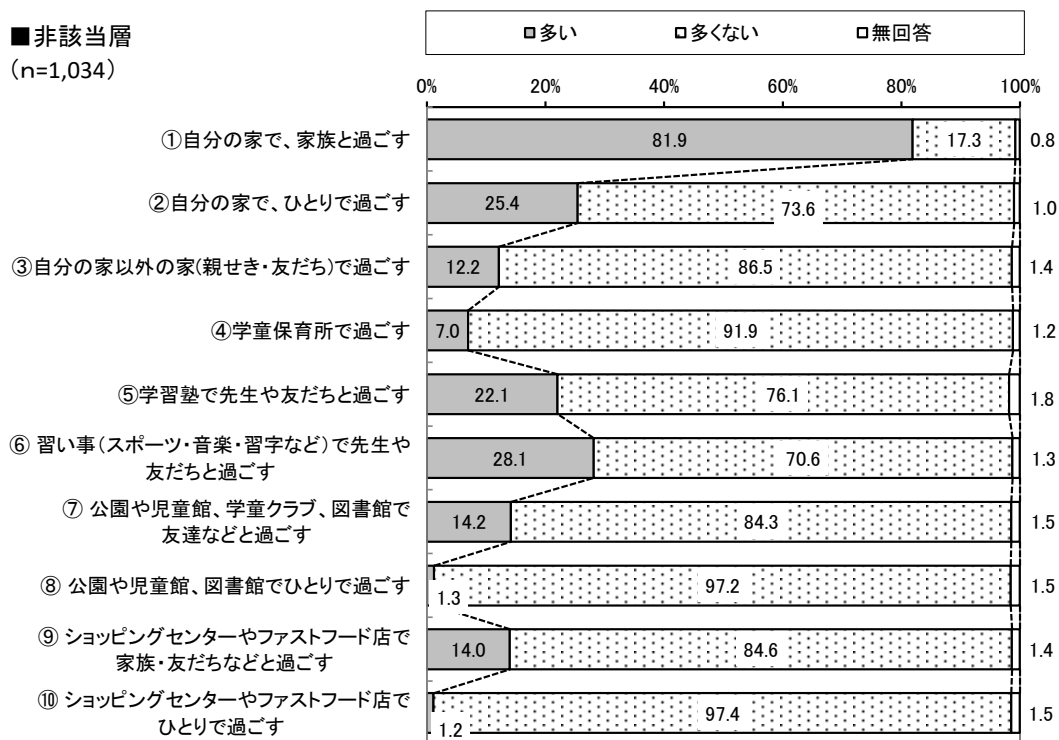


【生活状況別・中間層】平日放課後に過ごす人、場所



【生活状況別・非該当層】平日放課後に過ごす人、場所

■非該当層
(n=1,034)

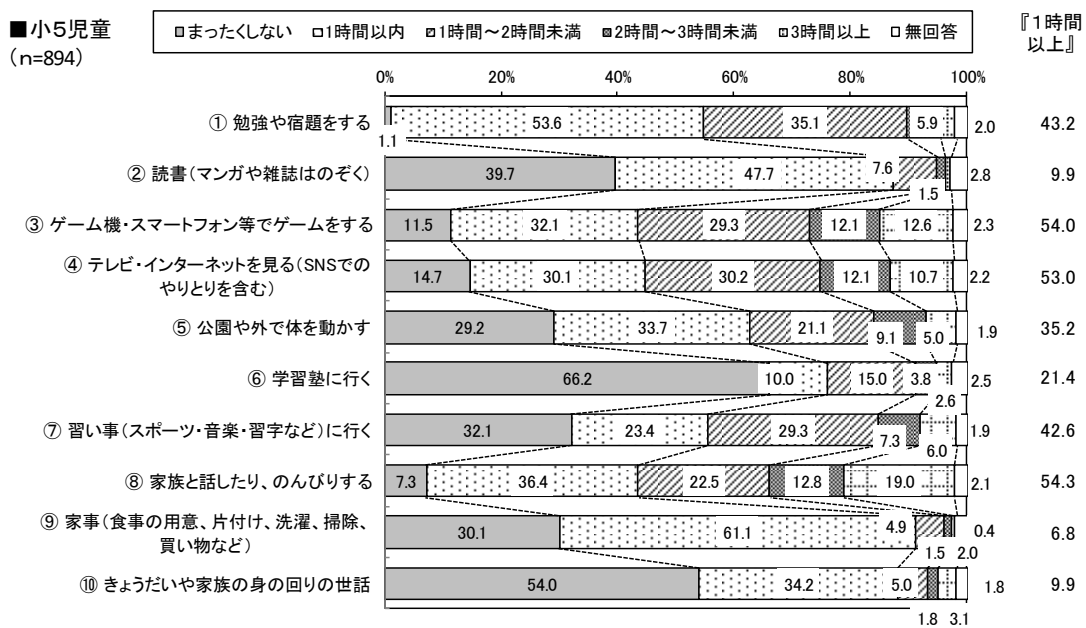


(3) 各活動にかかる時間

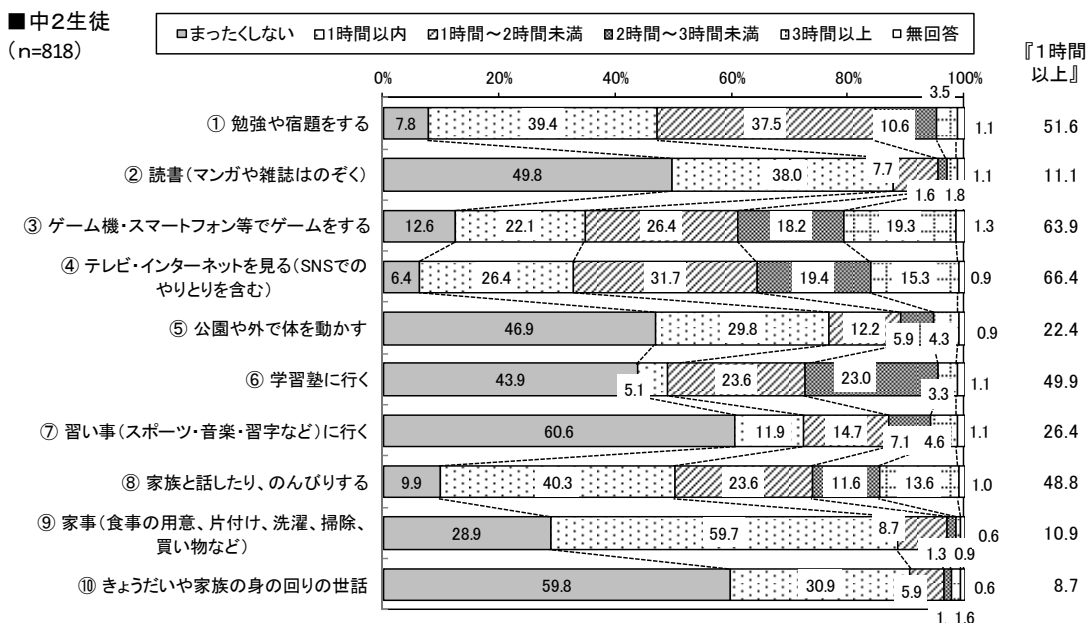
問4 あなたは学校からの帰宅後、①から⑩について、1回あたりどのくらい時間をかけますか。

各活動にかかる時間について、学年別でみると、「1時間～2時間未満」から「3時間以上」を合わせた『1時間以上』が5割を超える項目は、小5児童では「⑧ 家族と話したり、のんびりする」「③ ゲーム機・スマートフォン等でゲームをする」「④ テレビ・インターネットを見る」、中2生徒では、「テレビ・インターネット」「ゲーム」の他、「① 勉強や宿題をする」となっている。「テレビ・インターネット」「ゲーム」の『1時間以上』の割合は小5児童に比べ中2生徒で高くなっている。

【学年別・小5児童】各活動にかかる時間

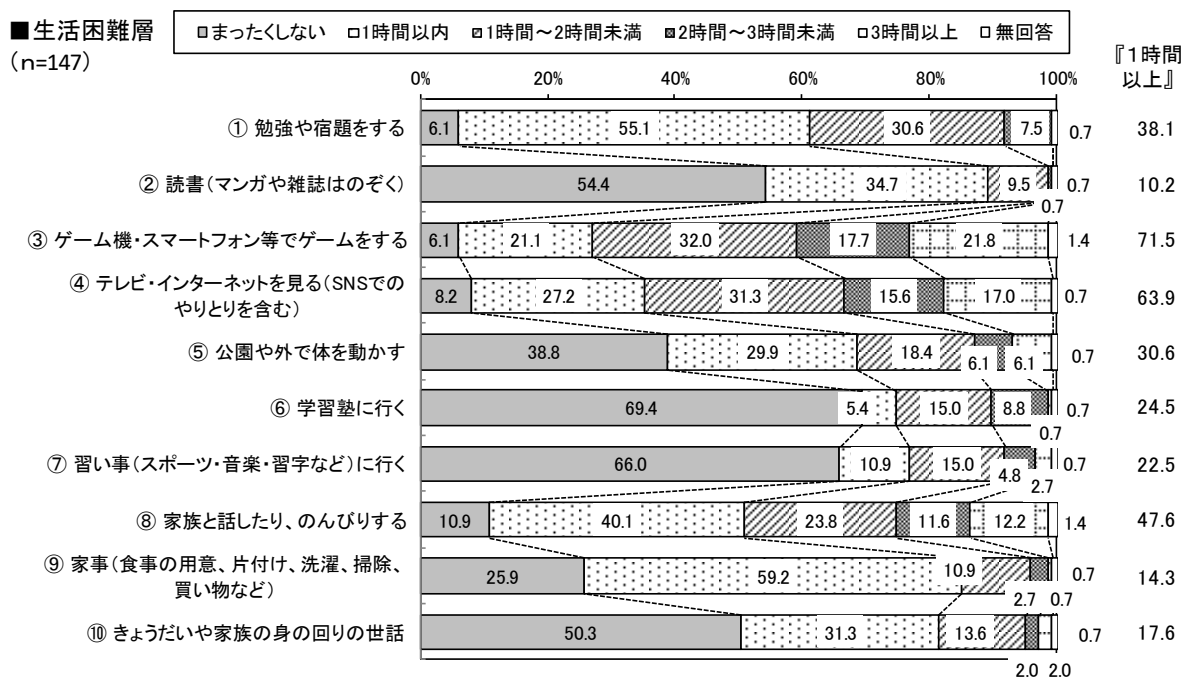


【学年別・中2生徒】各活動にかかる時間

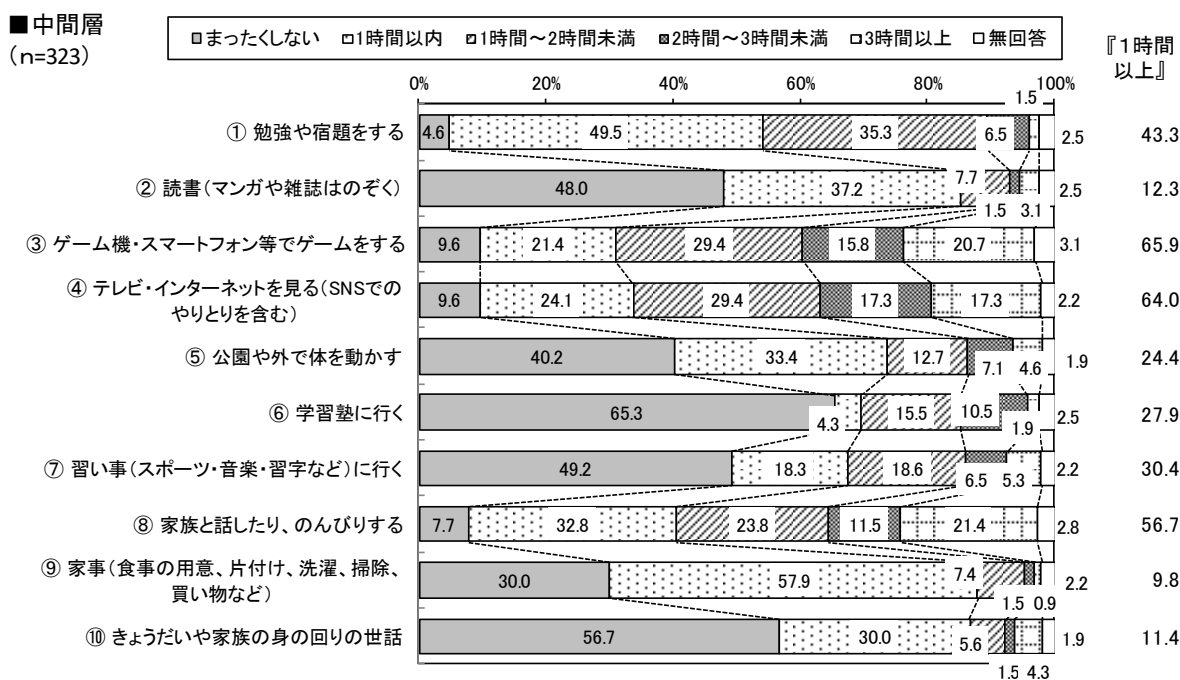


生活状況別でみると、『1時間以上』の割合は、非該当層ほど「① 勉強や宿題をする」「⑥学習塾に行く」「⑦習い事（スポーツ・音楽・習字など）に行く」で高く、生活困難層ほど「③ ゲーム機・スマートフォン等でゲームをする」「④ テレビ・インターネットを見る」が高い傾向にある。また、生活困難層では「⑩ きょうだいや家族の身の回りの世話」「⑨ 家事（食事の用意、片付け、洗濯、掃除、買い物など）」の『1時間以上』の割合が他の層を上回る。

【生活状況別・生活困難層】各活動にかかる時間

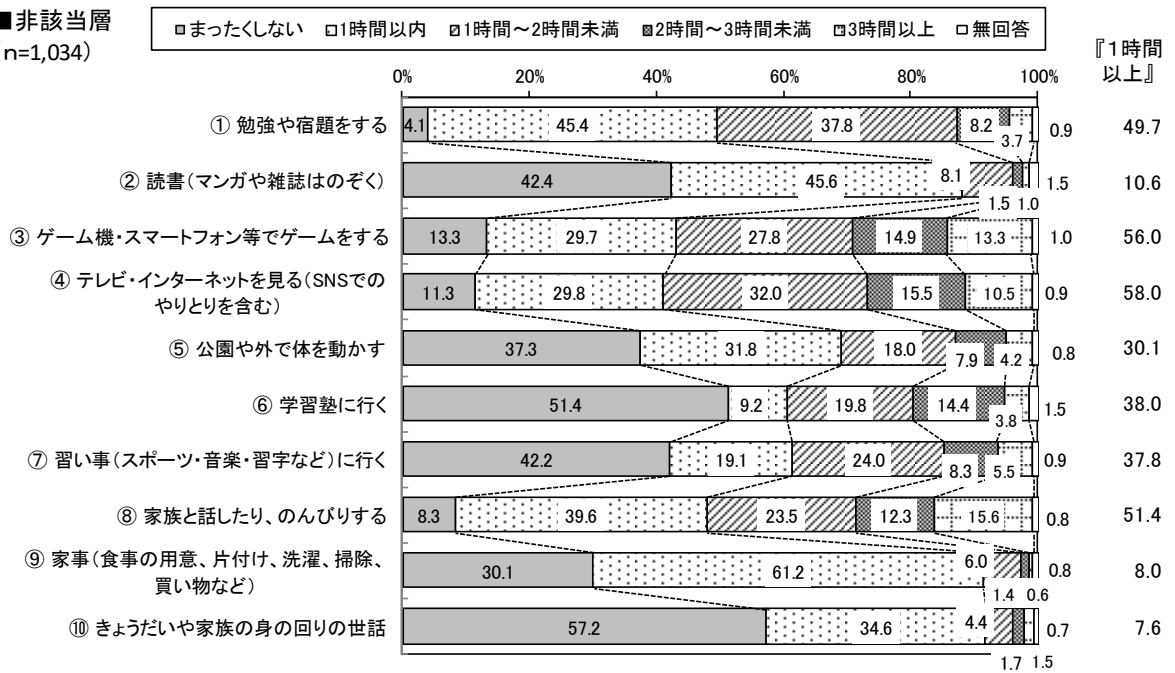


【生活状況別・中間層】各活動にかかる時間



【生活状況別・非該当層】各活動にかかる時間

■非該当層
(n=1,034)



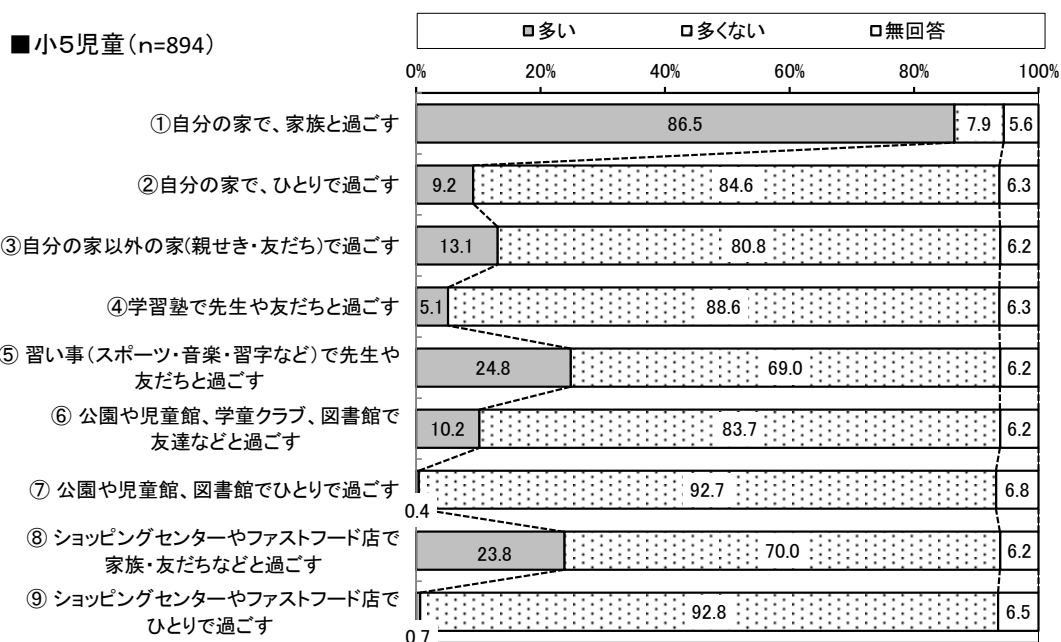
(4) 休日に過ごす人、場所

問5 あなたは、休日、学校が休みの日は、どこで誰と過ごしていますか。

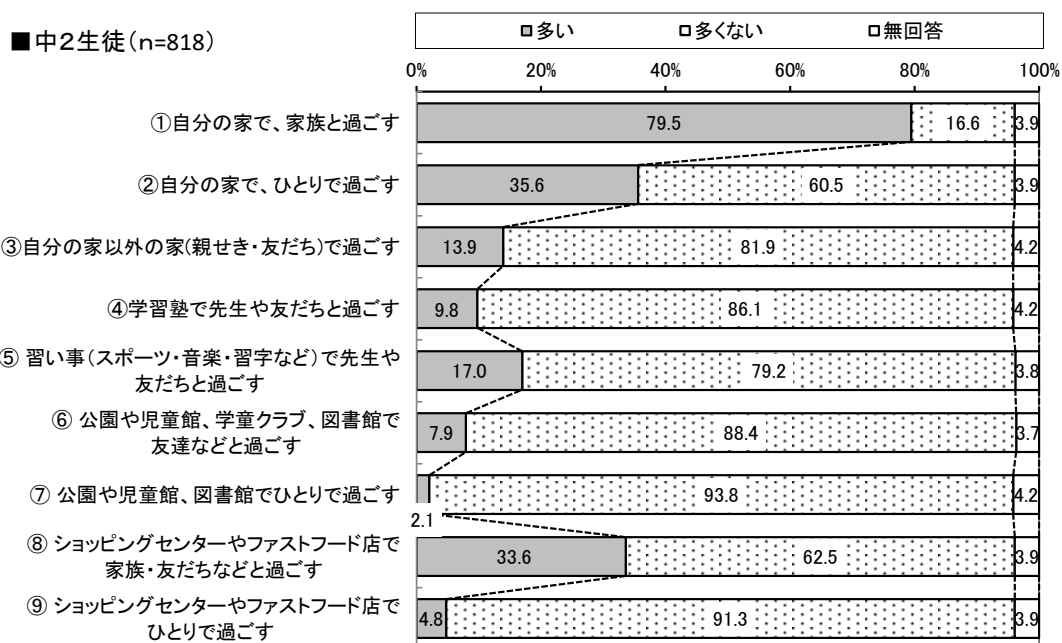
休日に過ごす人や場所について、学年別でみると、「多い」との回答は、小5児童では「① 自分の家で、家族と過ごす」が8割を超え、他の項目を大きく上回る。次いで、「⑥ 習い事(スポーツ・音楽・習字など)で先生や友だちと過ごす」、「⑨ ショッピングセンターやファストフード店で家族・友だちなどと過ごす」が2割台である。

中2生徒では、「②自分の家で、ひとりで過ごす」や「⑨ ショッピングセンターやファストフード店で家族・友だちなどと過ごす」割合が小5児童に比べ高くなっている。

【学年別・小5児童】休日に過ごす人、場所

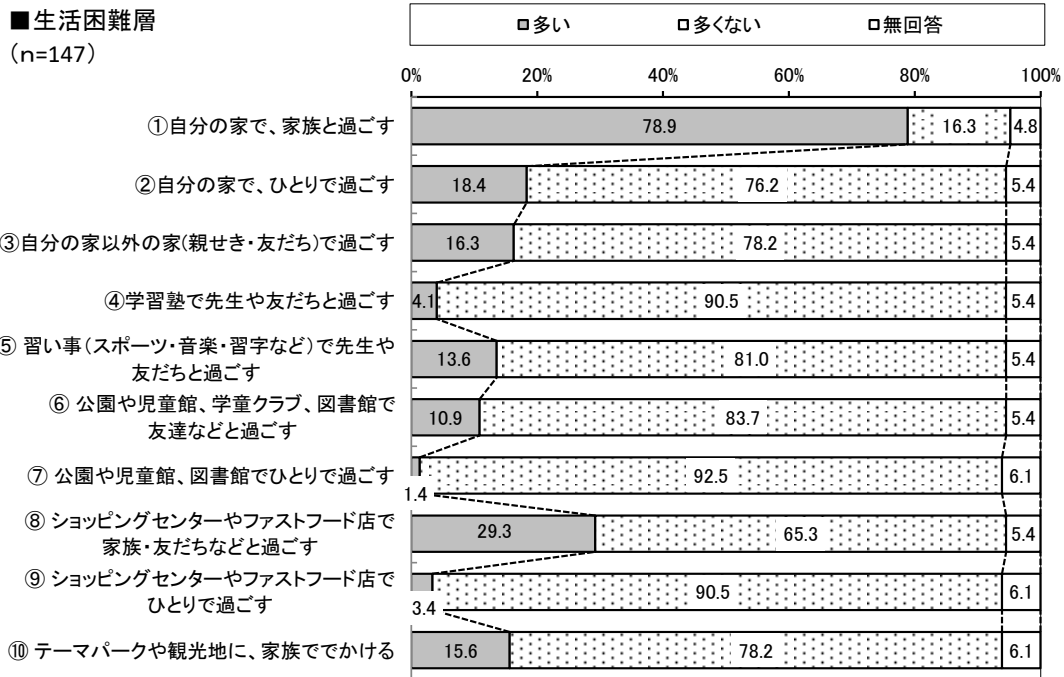


【学年別・中2生徒】休日に過ごす人、場所

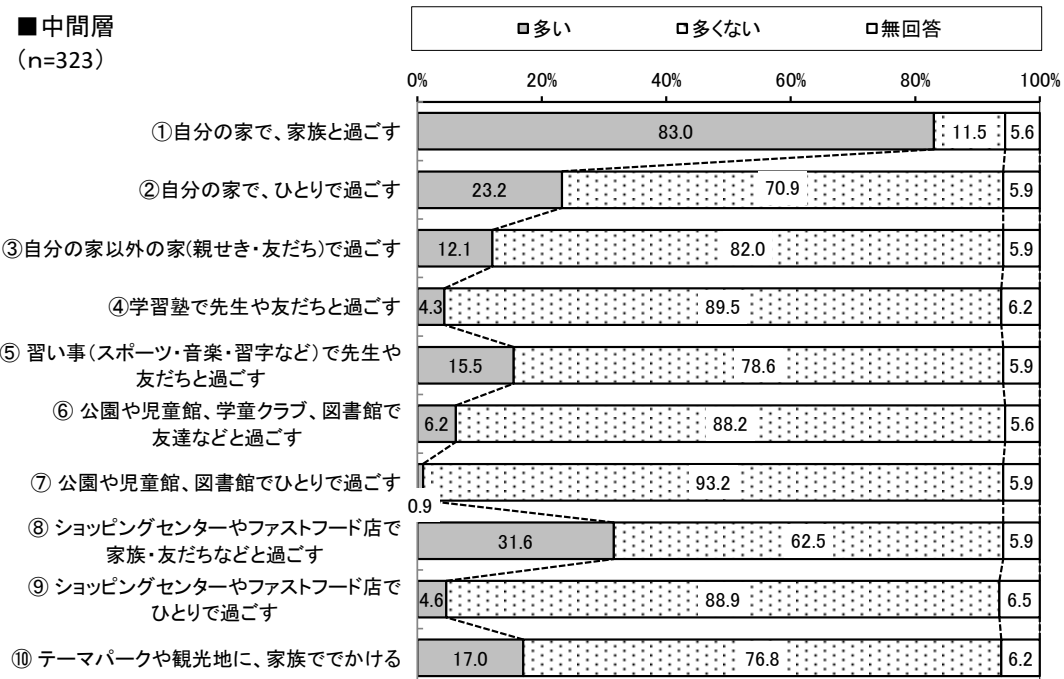


生活状況別でみると、「多い」との回答は、いずれの層も「① 自分の家で、家族と過ごす」が高く、他の項目を大きく上回る。次いで「⑧ ショッピングセンターやファストフード店で家族・友だちなどと過ごす」が2割台後半から3割程度となっている。非該当層で「⑤ 習い事（スポーツ・音楽・習字など）で先生や友だちと過ごす」割合が高い他は、生活状況による大きな差は見られない。

【生活状況別・生活困難層】休日に過ごす人、場所

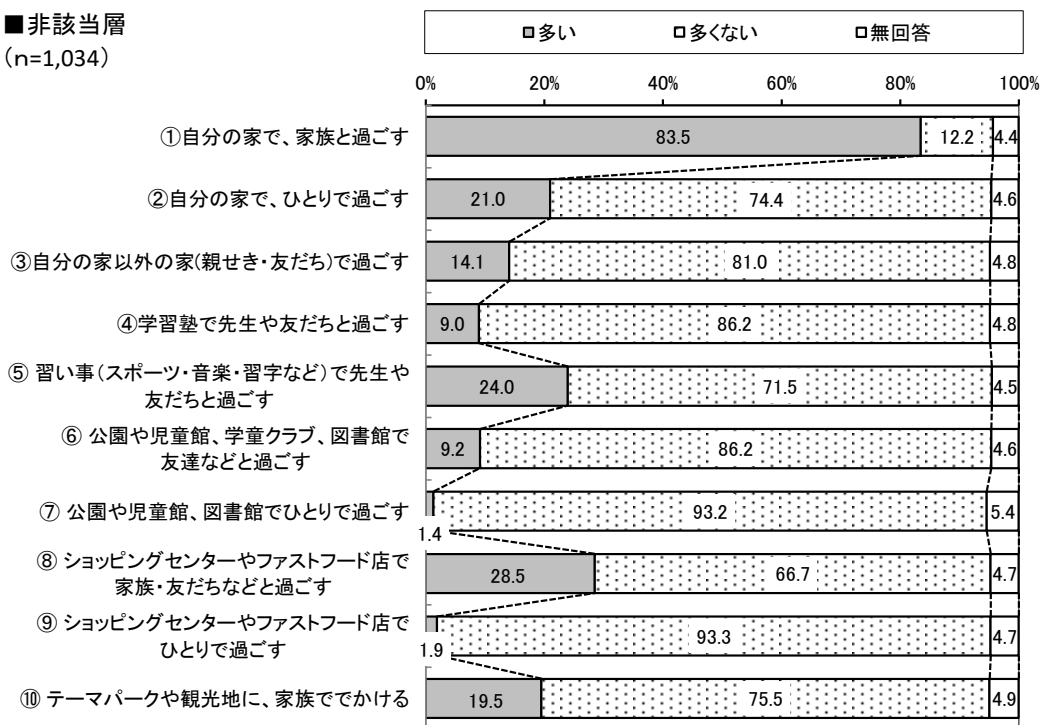


【生活状況別・中間層】休日に過ごす人、場所



【生活状況別・非該当層】休日に過ごす人、場所

■非該当層
(n=1,034)



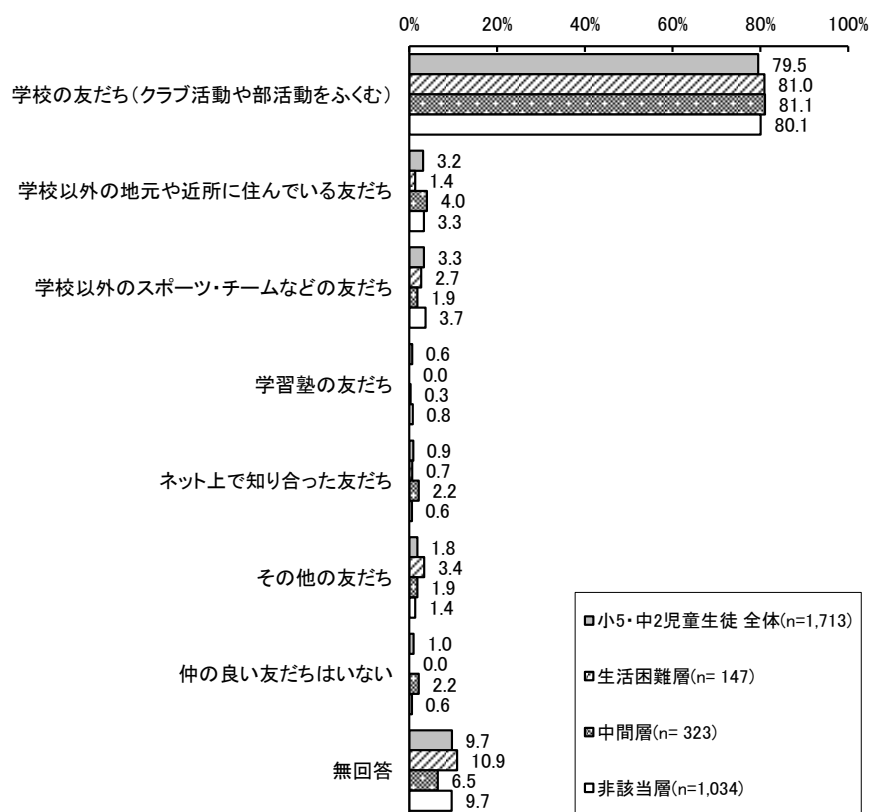
3. 人とのかかわりについて

(1) 一番仲の良い友達

問6 あなたの一番仲が良い友だちは、どのような友だちですか。(○は1つだけ)

一番仲の良い友達について、全体では、「学校の友だち(クラブ活動をふくむ)」が79.5%と大半を占める。生活状況別にみると、いずれの層も「学校の友だち(クラブ活動や部活動をふくむ)」が8割台で最も高く、生活状況による大きな差は見られない。

【生活状況別】一番仲の良い友達



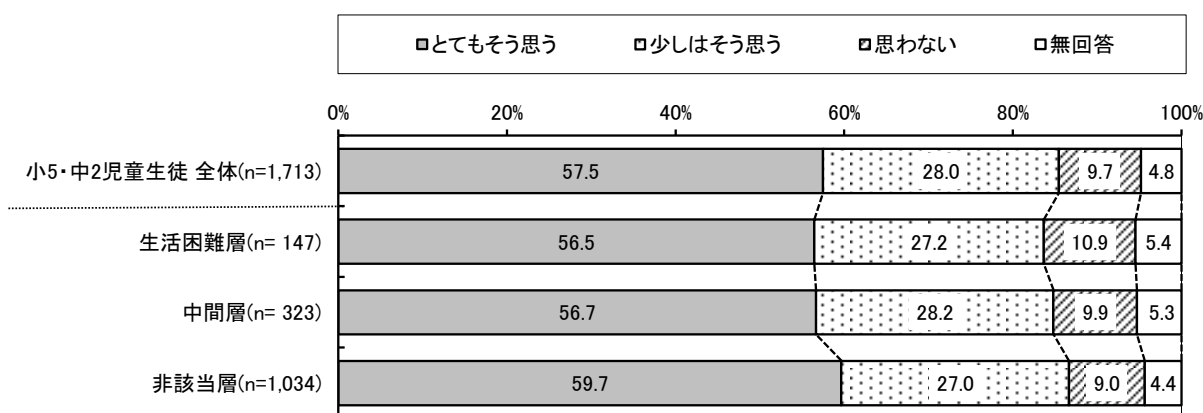
(2) 友人や先生との関係

問7 人のかかわりについて、ふだんどのように思っていますか。
 ①から⑤まで、それぞれについて、1～3からあなたの気持ちに近いもの1つを選んで○をつけてください。

① 自分は友だちとよく遊んでいると思う

全体では、「とてもそう思う」が57.5%で最も高く、次いで「少しはそう思う」が28.0%となっている。生活状況別にみると、いずれの層でも「とてもそう思う」が5割台で最も高くなっている。

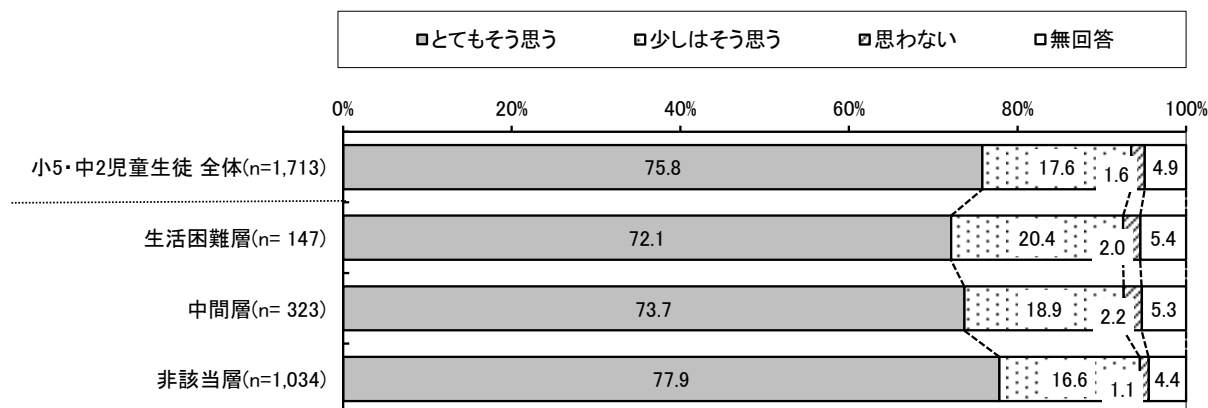
【生活状況別】友達とよく遊んでいると思う



② 自分は友だちと仲良くしていると思う

全体では、「とてもそう思う」が75.8%と最も高く、次いで「少しはそう思う」が17.6%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「とてもそう思う」が7割台で最も高くなっている。

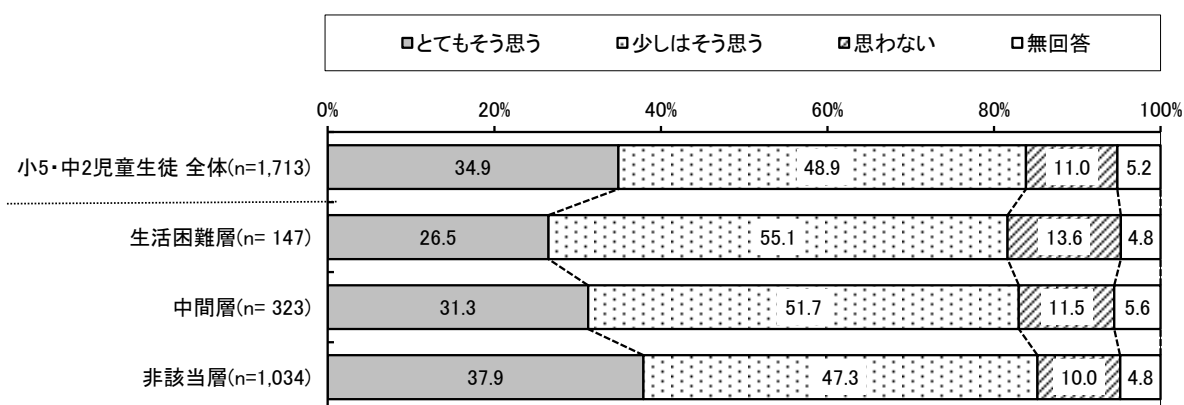
【生活状況別】友達と仲良くしていると思う



③ 自分は友だちに好かれていると思う

全体では、「少しはそう思う」が48.9%と最も高く、次いで「とてもそう思う」が34.9%となっている。生活状況別にみると、生活困難層ほど「とてもそう思う」割合が低く、「少しはそう思う」「思わない」割合が他の層より高い傾向にある。

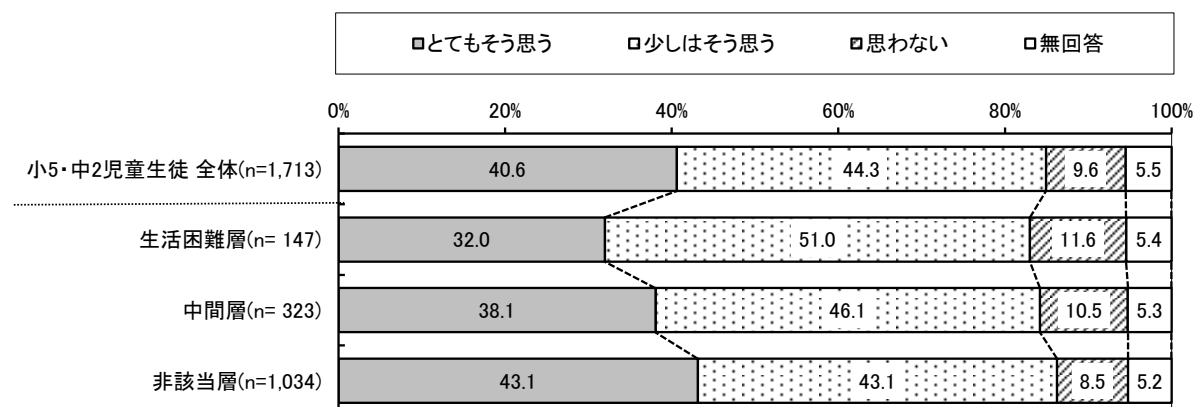
【生活状況別】友達に好かれていると思う



④ 自分は学校の先生からよいところを認められていると思う

全体では、「少しはそう思う」が44.3%、次いで「とてもそう思う」40.6%となっている。生活状況別にみると、生活困難層ほど「とてもそう思う」割合が低く、「少しはそう思う」「思わない」割合が他の層より高い傾向にある。

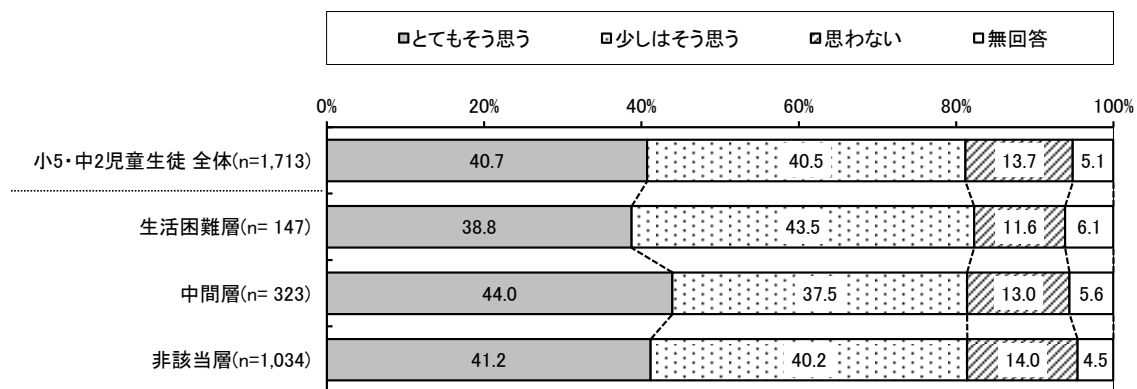
【生活状況別】学校の先生から良いところを認められていると思う



⑤ 学校の先生と話すのはうれしい

全体では、「とてもそう思う」が40.7%、「少しはそう思う」が40.5%となっている。生活状況別でみると、生活困難層では「思わない」割合が11.6%と他の層をやや下回る。

【生活状況別】学校の先生と話すのはうれしい



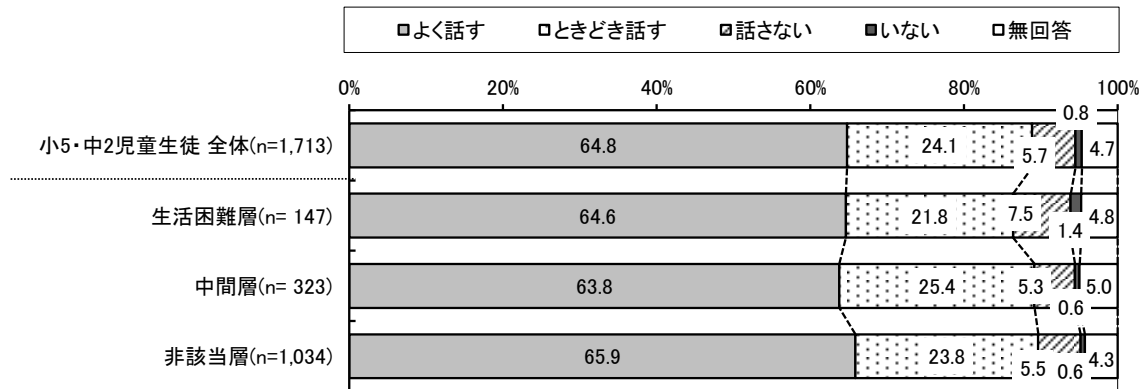
(3) 家族や周りの人との会話

問8 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、誰にどれくらい話しますか。よく話す場合は1に○をつけてください。
 ときどき話す場合は2に○をつけてください。
 話さない場合は3に○をつけてください。
 習い事に行っていない、兄弟姉妹がいないなど、いないから話さない場合は4に○をつけてください。

① 母親

全体では、「よく話す」が64.8%で最も高く、次いで「ときどき話す」が24.1%、「話さない」が5.7%となっている。生活状況別にみると、生活困難層では「話さない」と「いない」割合がそれぞれ7.5%、1.4%で他の層をわずかに上回る。

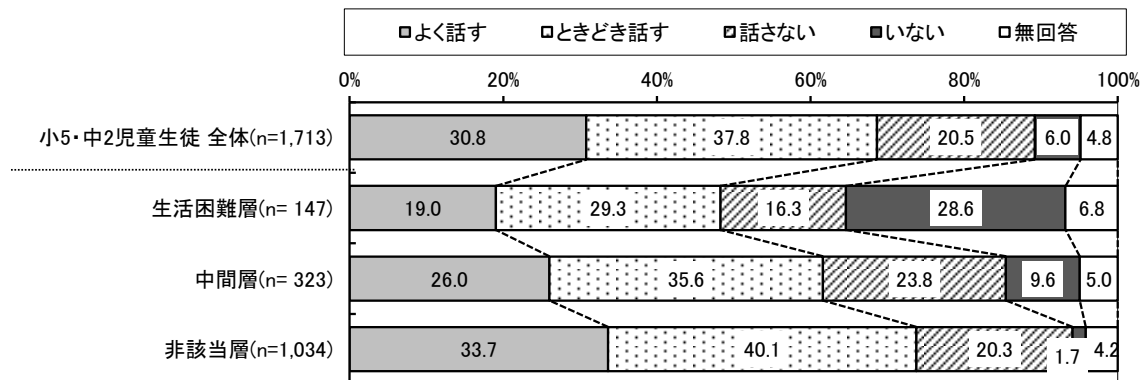
【生活状況別】母親と話す頻度



② 父親

全体では、「ときどき話す」が37.8%で最も高く、次いで「よく話す」30.8%、「話さない」20.5%となっている。生活状況別にみると、生活困難層では「いない」割合が28.6%と他の層を大きく上回る。

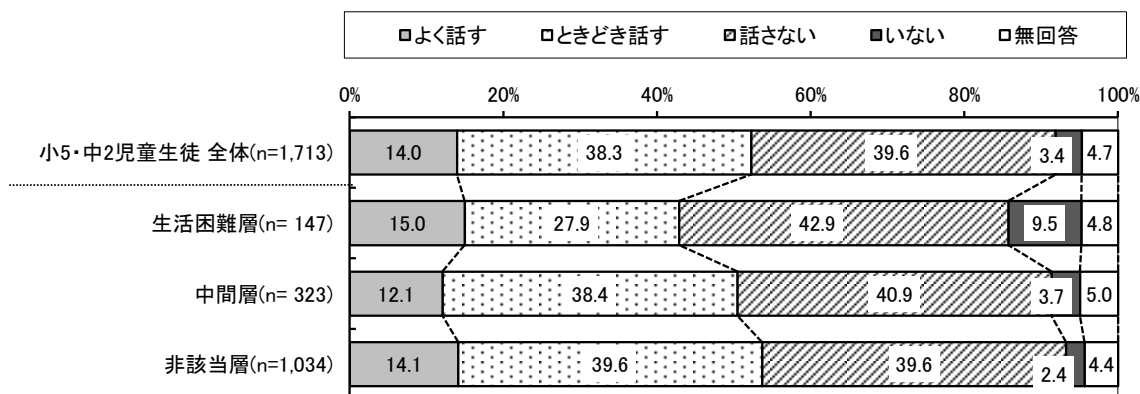
【生活状況別】父親と話す頻度



③ 祖父母・親戚

全体では、「話さない」が39.6%で最も高く、次いで「ときどき話す」が38.3%となっている。生活状況別にみると、生活困難層では、「いない」割合が9.5%と他の層を上回る。

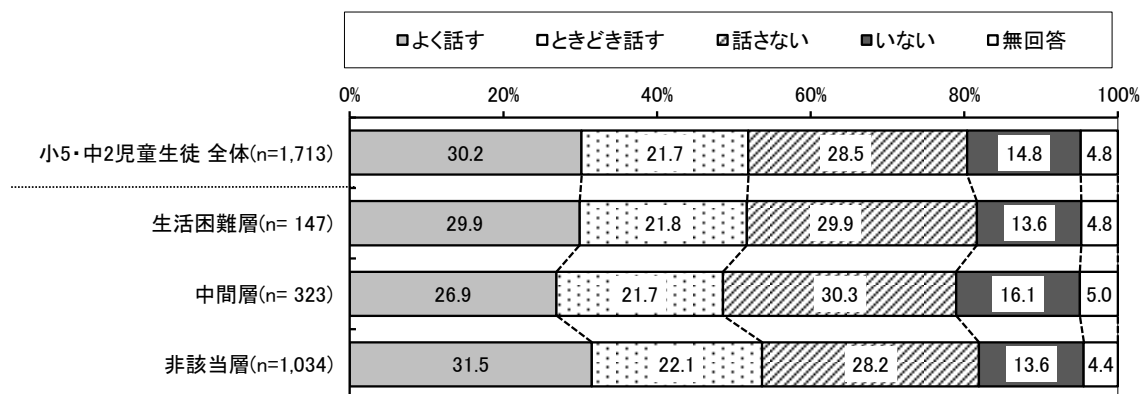
【生活状況別】祖父母・親戚と話す頻度



④ 兄弟姉妹

全体では、「よく話す」が30.2%で最も高く、次いで「話さない」が28.5%となっている。生活状況別にみると、生活困難層、非該当層では「よく話す」（生活困難層は「話さない」も同率）、中間層では「話さない」がそれぞれ高くなっている。

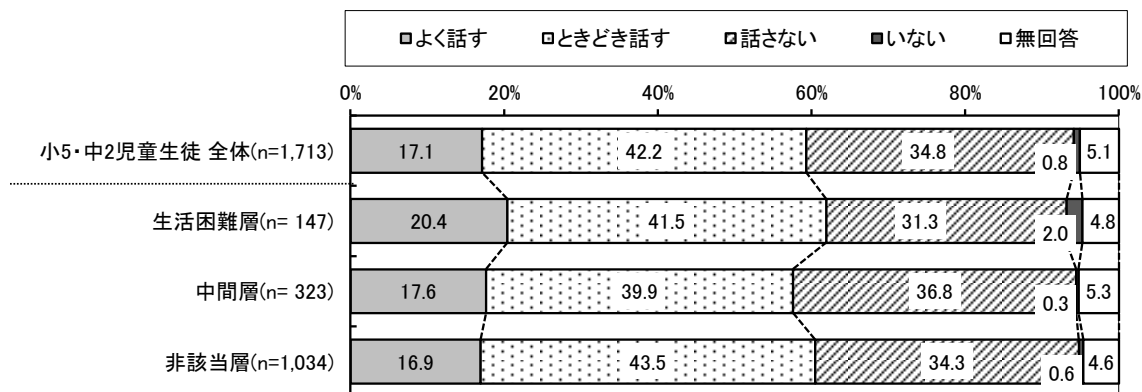
【生活状況別】兄弟姉妹と話す頻度



⑤ 学校の先生

全体では、「ときどき話す」が42.2%で最も高く、次いで「話さない」が34.8%となっている。生活状況別にみると、生活困難層ほど「よく話す」割合が高い傾向にある。

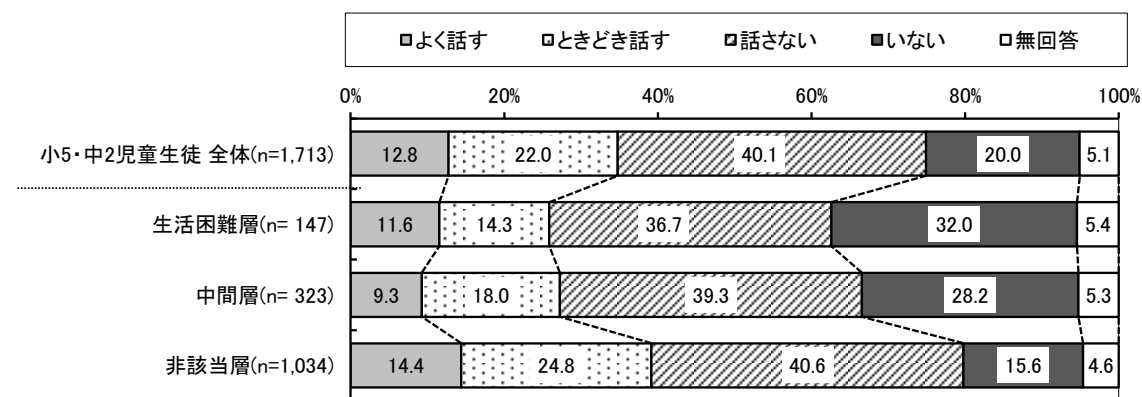
【生活状況別】学校の先生と話す頻度



⑥ スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生

全体では、「話さない」が40.1%で最も高く、次いで「ときどき話す」が22.0%、「いない」が20.0%となっている。生活状況別にみると、生活困難層では、「いない」割合が他の層よりも高い傾向にある。

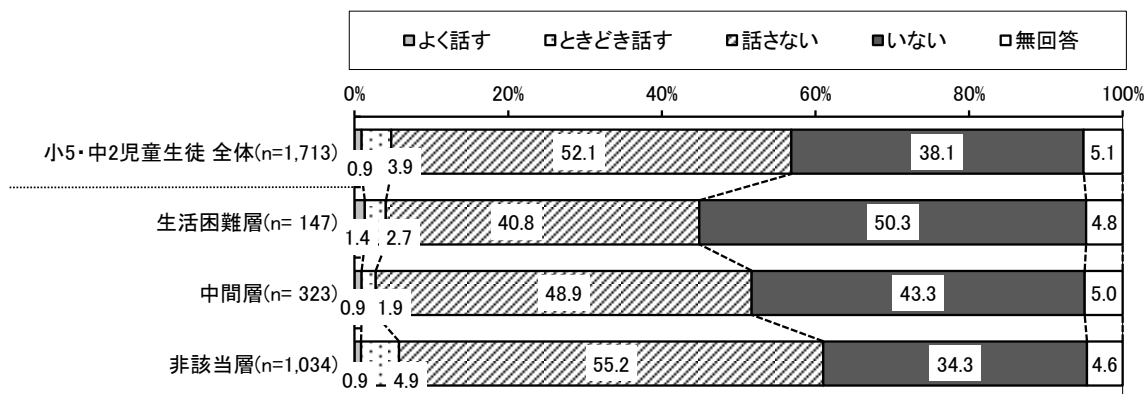
【生活状況別】スポーツクラブのコーチや塾・習い事の先生と話す頻度



⑦ スクールカウンセラー

全体では、「話さない」が52.1%で最も高く、次いで「いない」が38.1%となっている。生活状況別にみると、生活困難層ほど「いない」割合が高くなっている。

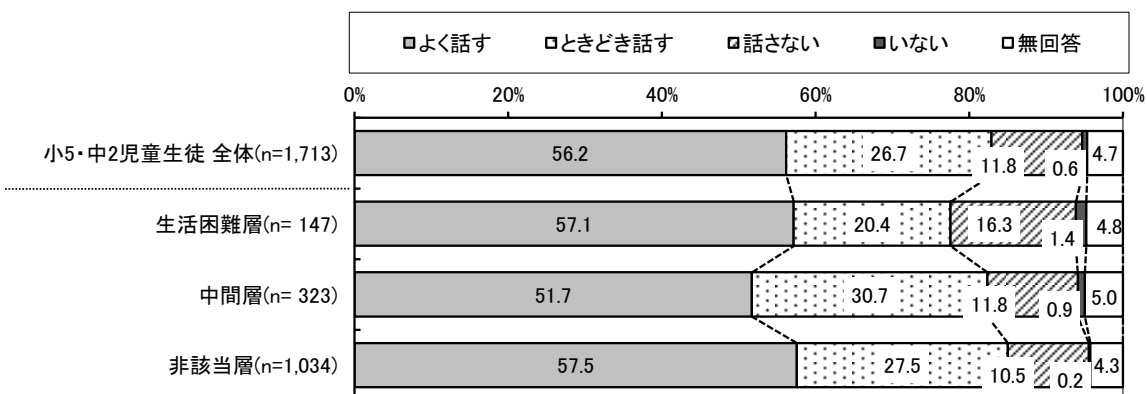
【生活状況別】スクールカウンセラーと話す頻度



⑧ 友達

全体では、「よく話す」が56.2%で最も高く、次いで「ときどき話す」が26.7%、「話さない」が11.8%となっている。生活状況別にみると、「よく話す」割合に大きな差は見られないが、生活困難層ほど「話さない」割合が高くなっている。

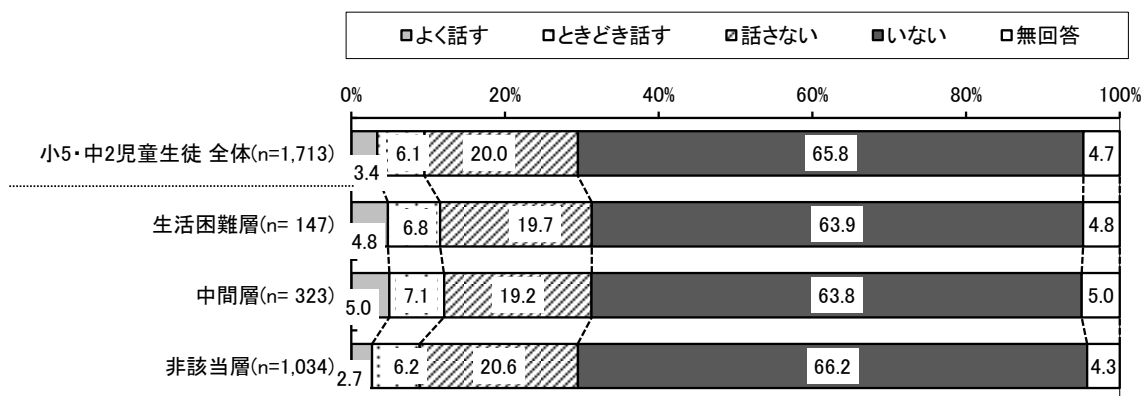
【生活状況別】友達と話す頻度



⑨ インターネットで知り合った人

全体では、「いない」が65.8%で最も高く、次いで「話さない」が20.0%となっている。生活状況別では、いずれの層も「いない」が6割台であり、生活状況別による差はみられない。

【生活状況別】インターネットで知り合った人と話す頻度



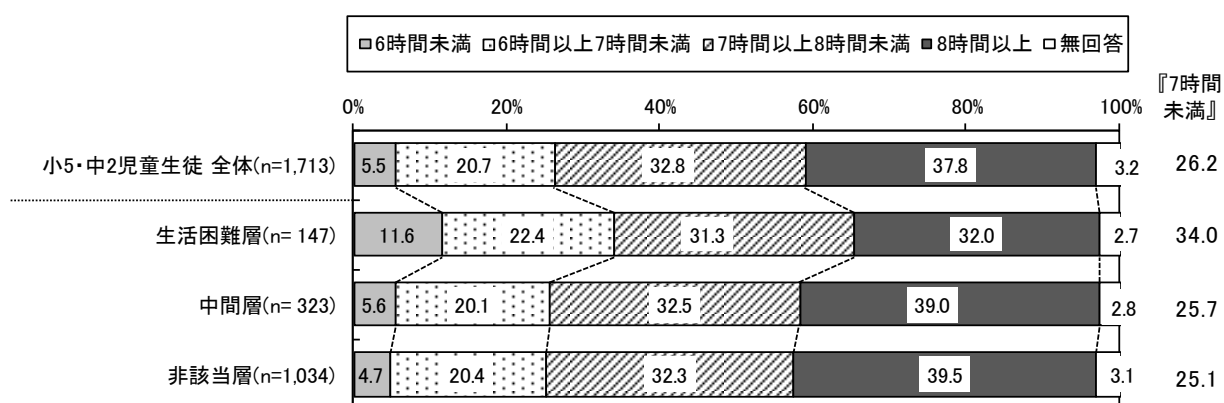
4. 食事や健康のことについて

(1) 平日の睡眠時間

問9 学校に行く日の睡眠時間を教えてください。(○は1つだけ)

学校に行く日の睡眠時間については、全体では「8時間以上」が最も高く37.8%、次いで「7時間以上8時間未満」が32.8%、「6時間以上7時間未満」が20.7%となっている。生活状況別では、いずれの層も「8時間以上」との回答が3割台で最も高くなっているが、生活困難層では「6時間未満」が11.6%と他の層を上回る。「6時間未満」と「6時間以上7時間未満」を合わせた『7時間未満』は生活困難層のみ3割を超える。

【生活状況別】学校に行く日の睡眠時間

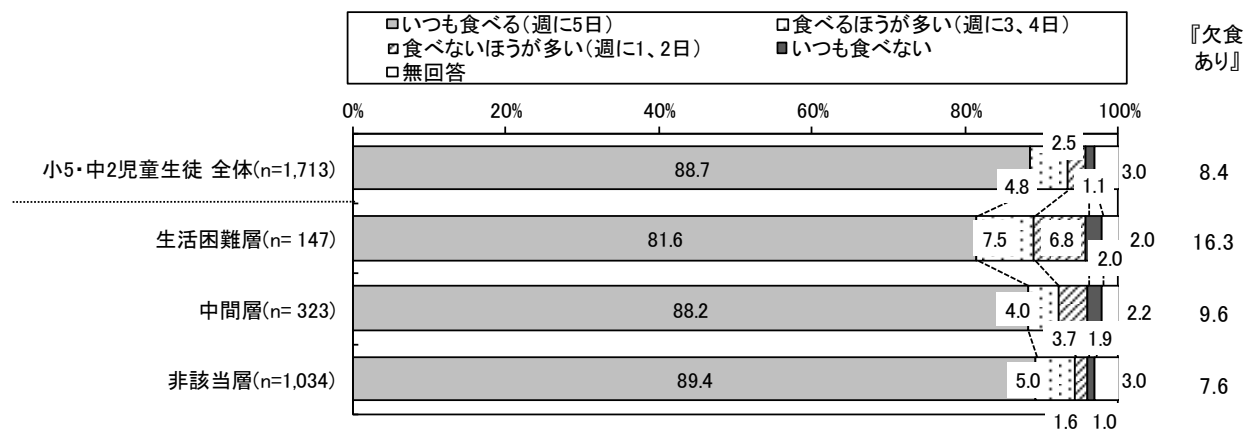


(2) 平日の朝食の摂取

問10 あなたは、平日（学校に行く日）に朝ごはんを食べますか。(○は1つだけ)

朝食の摂取について、全体では、「いつも食べる（週に5日）」が88.7%と大半を占める。生活状況別にみると、いずれの層も「いつも食べる（週に5日）」が8割台で最も高くなっているが、「食べるほうが多い（週に3、4日）」、「食べないことが多い（週に1、2日）」、「いつも食べない」を合わせた『欠食あり』は生活困難層ほど高くなっている。

【生活状況別】平日の朝食の摂取

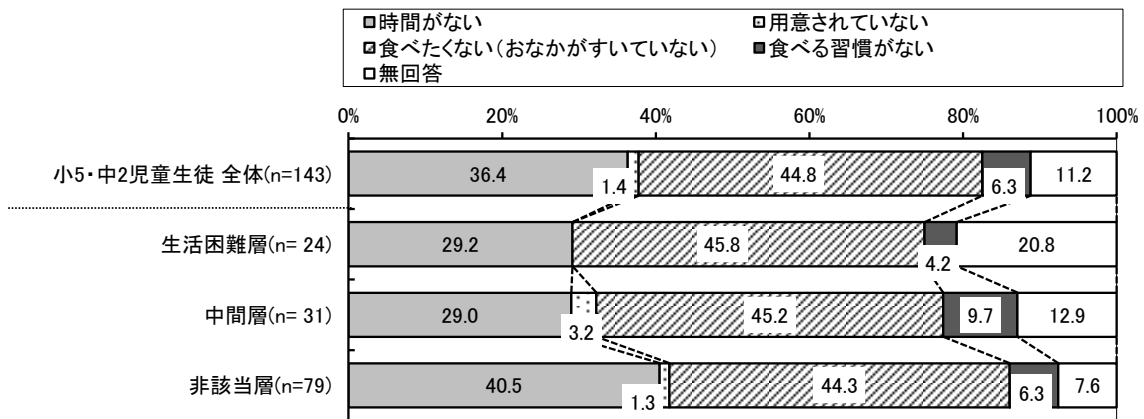


(3) 朝食を食べない理由

問 10-1 【問 10 で「1. いつも食べる」以外を回答した人におたずねします。
あなたが朝ごはんを食べないとき、その理由は何ですか。(○は1つだけ)

朝食を食べない理由について、全体では、「食べたくない(おなかがすいていない)」が44.8%、次いで「時間がない」が36.4%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「食べたくない(おなかがすいていない)」が4割台で最も高くなっている。また、非該当層では「時間がない」が40.5%と他の層を大きく上回る。

【生活状況別】朝食を食べない理由



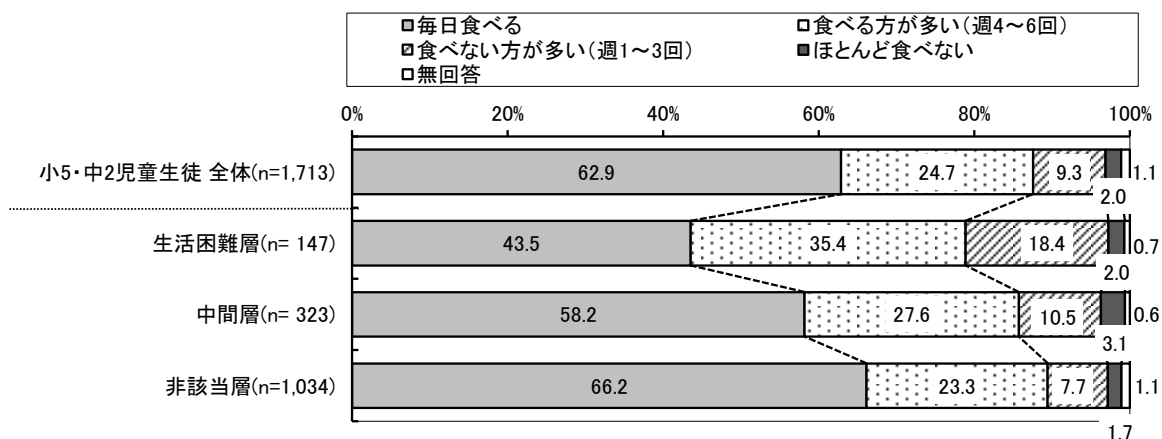
(4) 給食を除く食品の摂取状況

問 11 あなたは、ふだん、学校給食をのぞいて、つぎの食べ物をどれくらい食べますか。
 (①～⑥それぞれについて、○は1つだけ)

① 野菜

全体では、「毎日食べる」が62.9%、次いで「食べる方が多い」が24.7%となっている。生活状況別にみると、生活困難層ほど「毎日食べる」割合が低く、野菜を食べる頻度が低い傾向にある。

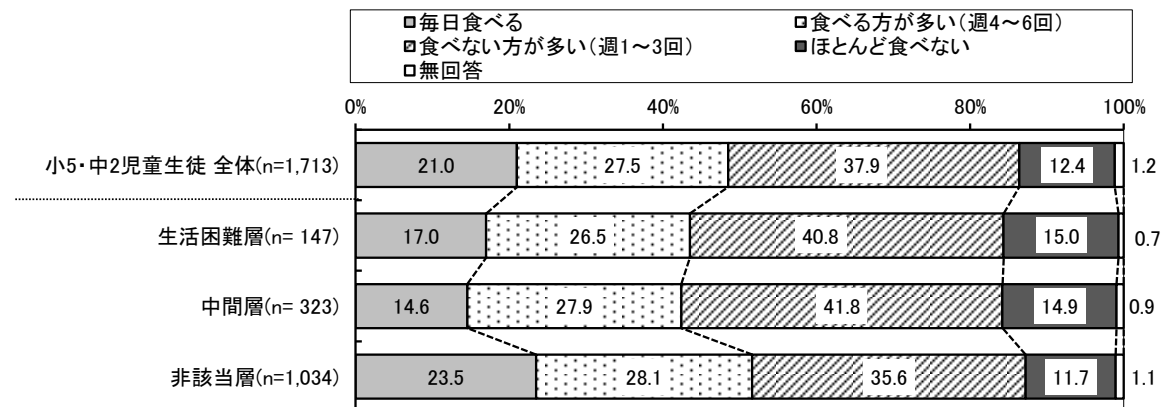
【生活状況別】野菜を食べる頻度



② 果物

全体では、「食べない方が多い(週1～3回)」が37.9%で最も多く、次いで「食べる方が多い(週4～6回)」が27.5%、「毎日食べる」が21.0%となっている。生活状況別にみると、非該当層で「毎日食べる」割合が他の層を上回るなど、果物を食べる頻度が高い傾向にある。

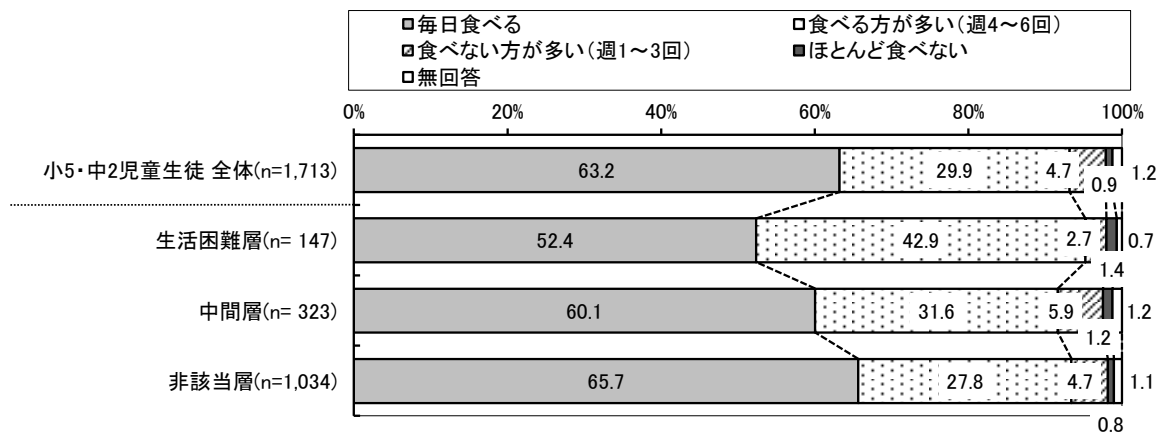
【生活状況別】果物を食べる頻度



③ 肉か魚

全体では、「毎日食べる」が63.2%、次いで「食べる方が多い(週4~6回)」が29.9%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「毎日食べる」が最も高いものの、その割合は非該当層ほど高くなっている。

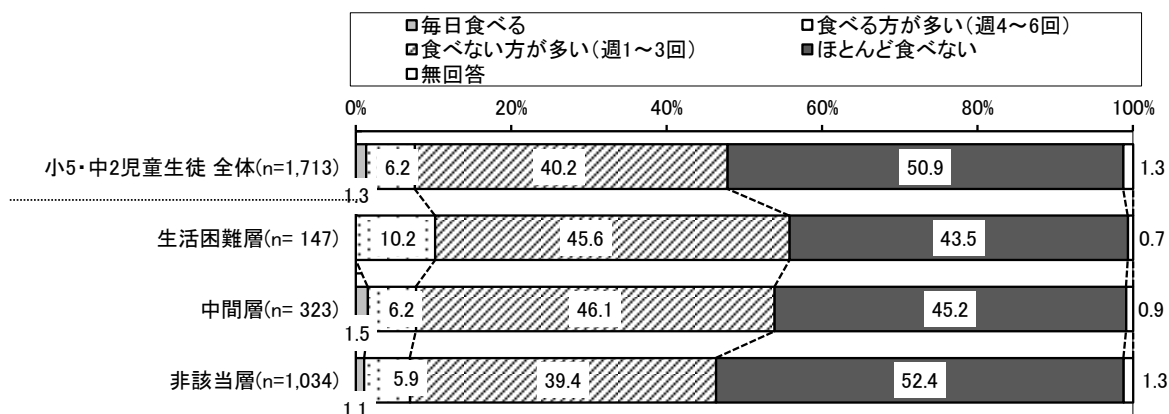
【生活状況別】肉か魚を食べる頻度



④ カップ麺・インスタント麺

全体では、「ほとんど食べない」が50.9%、次いで「食べない方が多い(週1~3回)」が40.2%となっている。生活状況別にみると、生活困難層では、「毎日食べる」との回答はないものの、「食べる方が多い(週4~6回)」が他の層を上回る。また、「ほとんど食べない」割合も他の層に比べて低いなど、生活困難層ほどカップ麺等を食べる頻度が高い傾向にある。

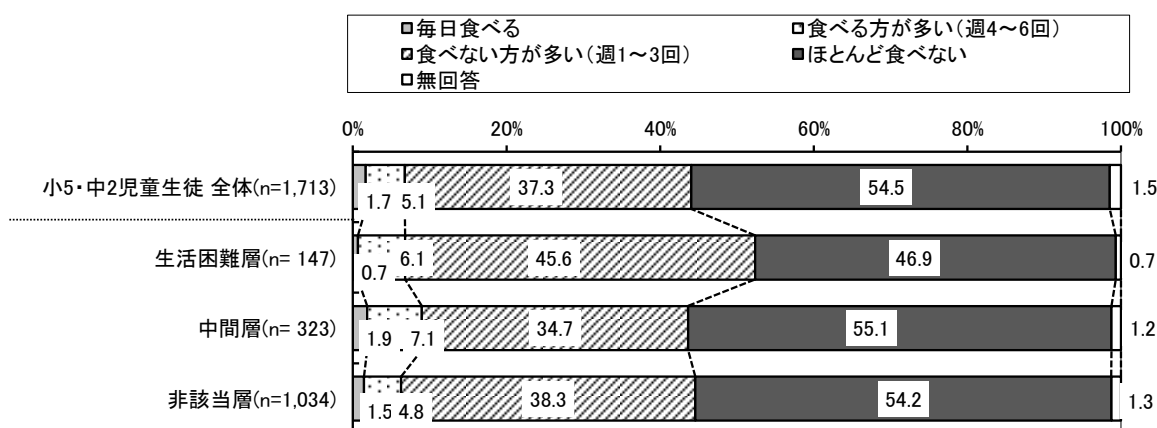
【生活状況別】カップ麺・インスタント麺を食べる頻度



⑤ コンビニのおにぎり・お弁当

全体では、「ほとんど食べない」が54.5%、「食べない方が多い(週1～3回)」が37.3%となっている。生活状況別にみると、生活困難層では、「ほとんど食べない」割合が他の層を下回る。

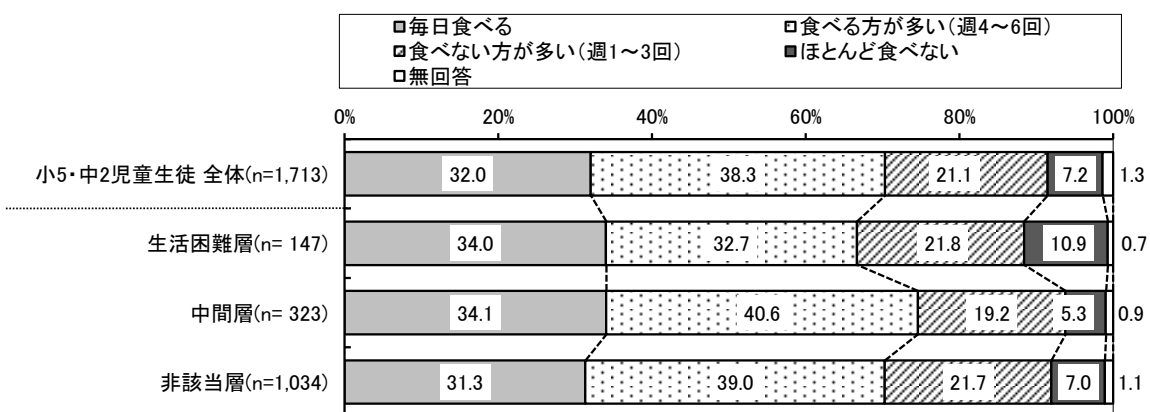
【生活状況別】コンビニのおにぎり・お弁当を食べる頻度



⑥ お菓子

全体では、「食べる方が多い(週4～6回)」が38.3%、「毎日食べる」が32.0%、「食べない方が多い(週1～3回)」が21.1%となっている。生活状況別にみると、生活困難層で、「ほとんど食べない」割合が他の層を上回る。

【生活状況別】お菓子を食べる頻度

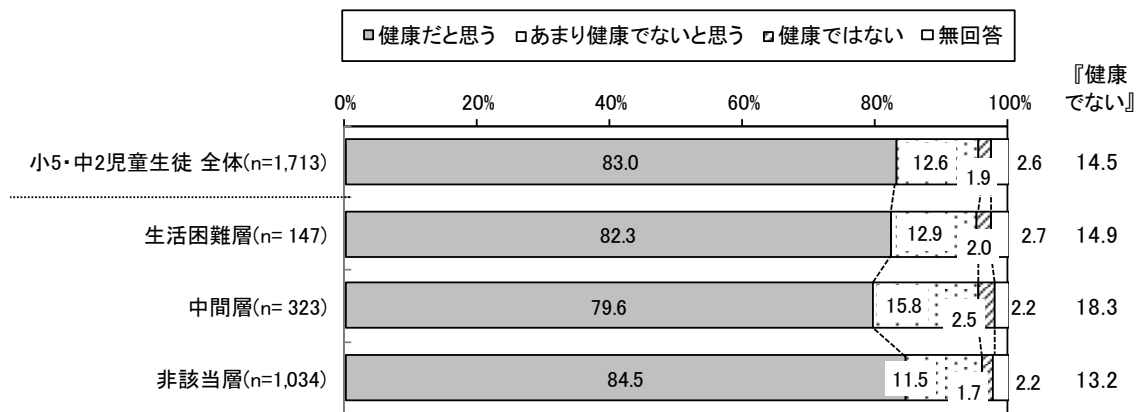


(5) 回答者の健康状態

問12 あなたは、今健康ですか。(○は1つだけ)

現在自分を健康だと思うかについては、全体では、「健康だと思う」が83.0%、「あまり健康ではないと思う」が12.6%、「健康ではない」が1.9%となっている。生活状況別では、いずれの層も「健康だと思う」が約8割を占めて最も高く、生活状況別で大きな差は見られない。

【生活状況別】回答者の健康状態

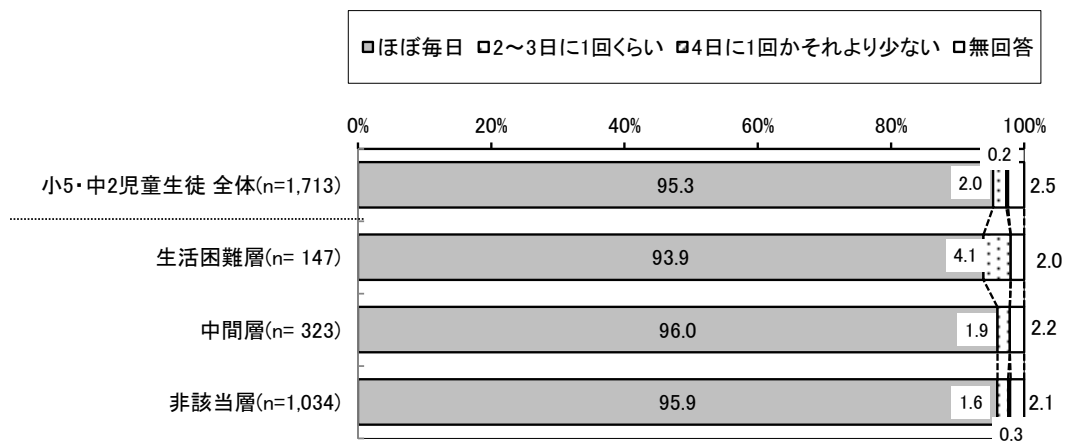


(6) お風呂に入る頻度

問13 お風呂（または、シャワー）に入る回数はどのくらいですか。(○は1つだけ)

全体では、「ほぼ毎日」が95.3%で大半を占めて最も高く、次いで「2～3日に1回くらい」が2.0%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「ほぼ毎日」が9割台で最も高くなっているが、生活困難層では「2～3日に1回くらい」が4.1%と他の層を上回る。

【生活状況別】お風呂に入る頻度



(7) 体調について

問14 あなたは、つぎのことがどれくらいありますか。

「よくある」場合は1に○をつけてください。

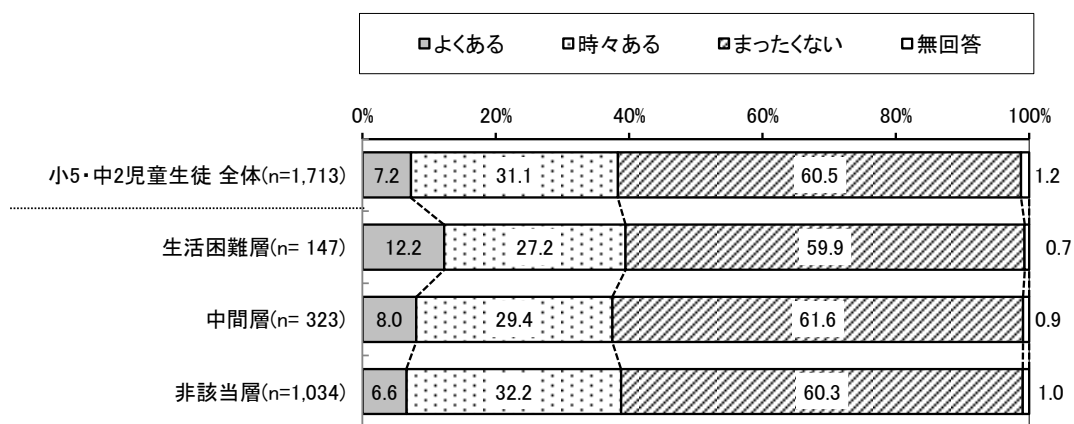
「時々ある」場合は2に○をつけてください。

「まったくない」場合は3に○をつけてください。

① 昼間の居眠り

全体では「まったくない」が最も高く 60.5%、次いで「時々ある」が 31.1%、「よくある」は 7.2%となっている。生活状況別では、いずれの層も「まったくない」が約6割で最も高くなっているが、生活困難層では「よくある」が 12.2%と他の層を大きく上回っている。

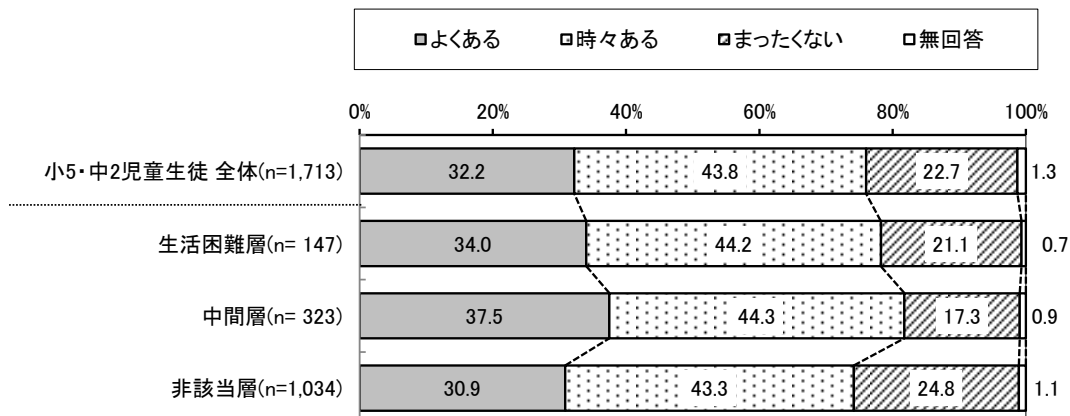
【生活状況別】昼間の居眠り



② 疲れやすい

全体では「時々ある」が 43.8%、「よくある」が 32.2%、「まったくない」は 22.7%となっている。生活状況別では、いずれの層も「時々ある」が4割台で最も高くなっている。

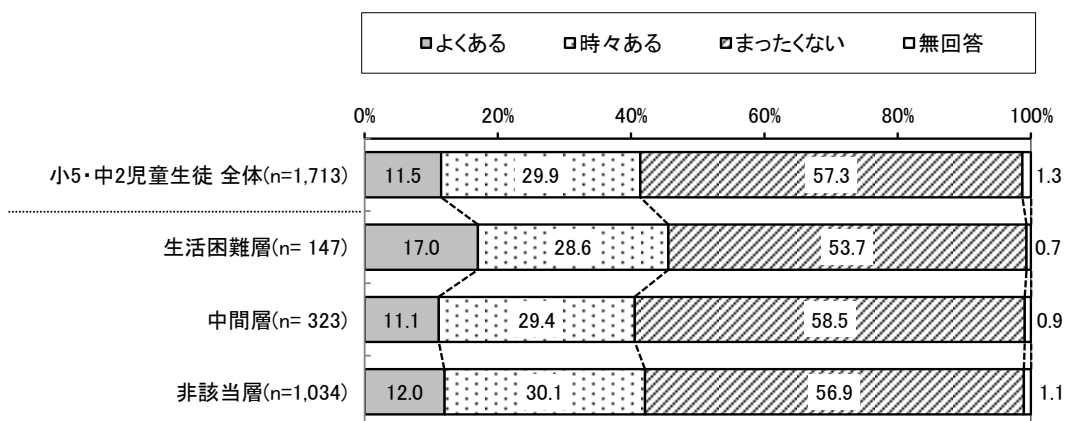
【生活状況別】疲れやすい



③ 朝、食欲がない

全体では「まったくない」が57.3%と最も高く、次いで「時々ある」が29.9%、「よくある」は11.5%となっている。生活状況別では、生活困難層で「よくある」が17.0%と他の層を上回る。

【生活状況別】朝、食欲がない

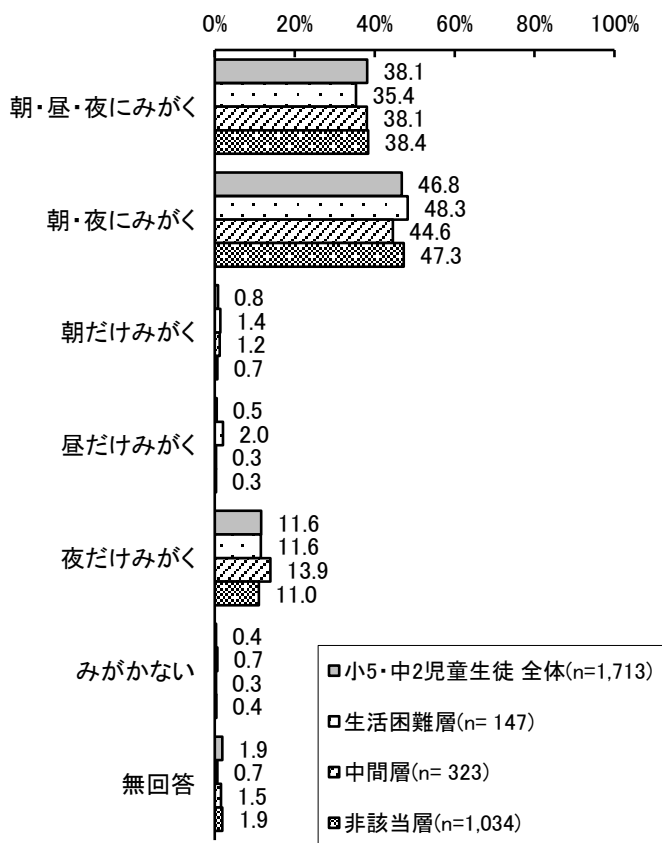


(8) はみがきの頻度

問 15 あなたはいつ、はみがきをしますか。(○は1つだけ)

全体では、「朝・夜にみがく」が 46.8%で最も高く、次いで「朝・昼・夜にみがく」が 38.1%、「夜だけみがく」が 11.6%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「朝・夜にみがく」が4割台で最も高く、生活状況別で大きな差はない。

【生活状況別】はみがきの頻度

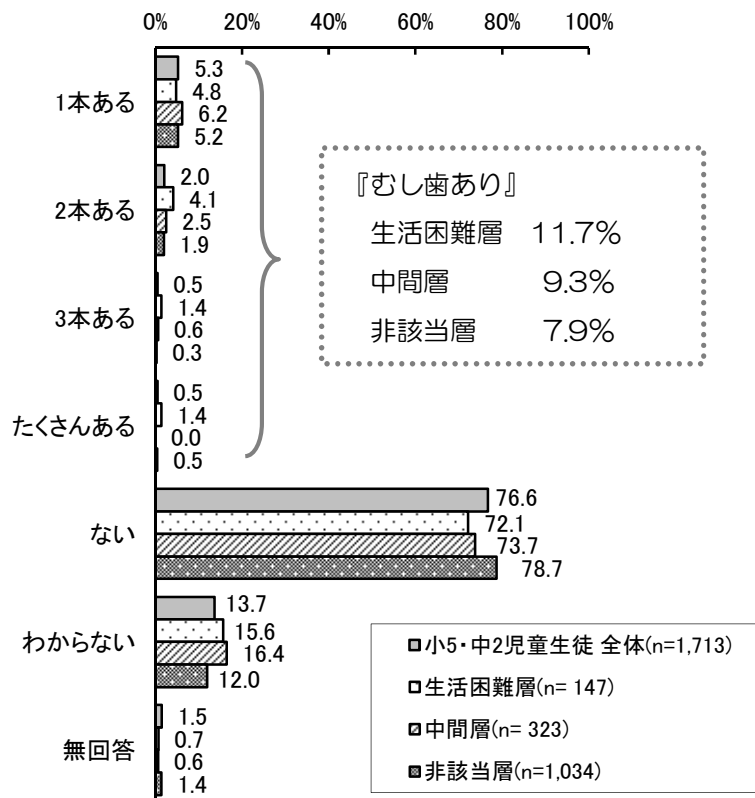


(9) 歯の健康状況

問16 今、いたい歯はやむし歯はありますか。(○は1つだけ)

全体では、「ない」が76.6%と大半を占めて最も高く、次いで「わからない」が13.7%となっている。生活状況別にみると、いずれの層も「ない」が7割台で最も高くなっているものの、『むし歯あり』の割合は生活困難層が他の層を上回る。

【生活状況別】歯の健康状況



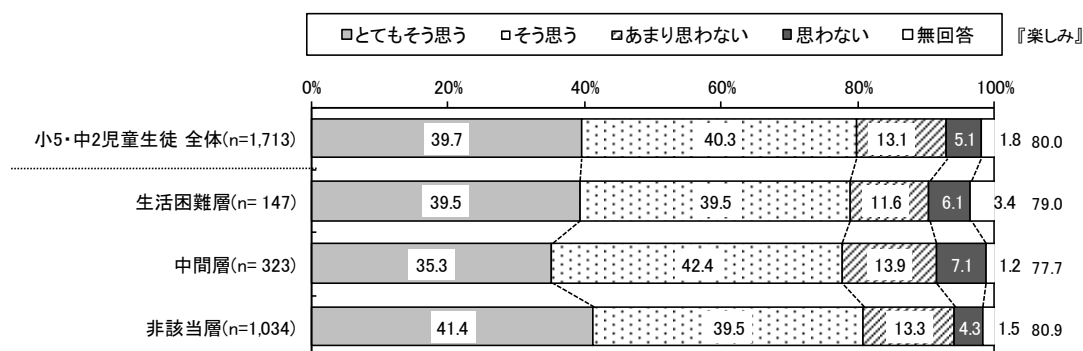
5. 学校生活や勉強について

(1) 学校に行くのは楽しみか

問 17 学校に行くのは楽しみですか。(○は1つだけ)

学校に行くのは楽しみかについて、全体では「とてもそう思う」39.7%と「そう思う」40.3%を合計した『楽しみ』は80.0%となっている。生活状況別では大きな差は見られない。

【生活状況別】学校に行くのは楽しみか

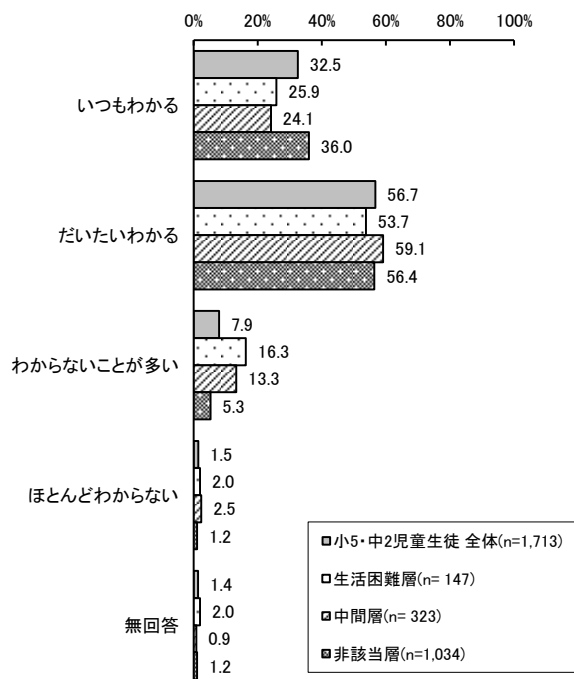


(2) 学校の授業の理解度

問 18 あなたは、学校の授業がわかりますか。(○は1つだけ)

学校の授業の理解度について、全体では「だいたいわかる」が56.7%と最も高く、次いで「いつもわかる」が32.5%、「わからないことが多い」が7.9%となっている。生活状況別でみると、生活困難層では「いつもわかる」割合は中間層を上回っているものの、「わからないことが多い」は16.3%と他の層を上回る。

【生活状況別】学校の勉強の理解度

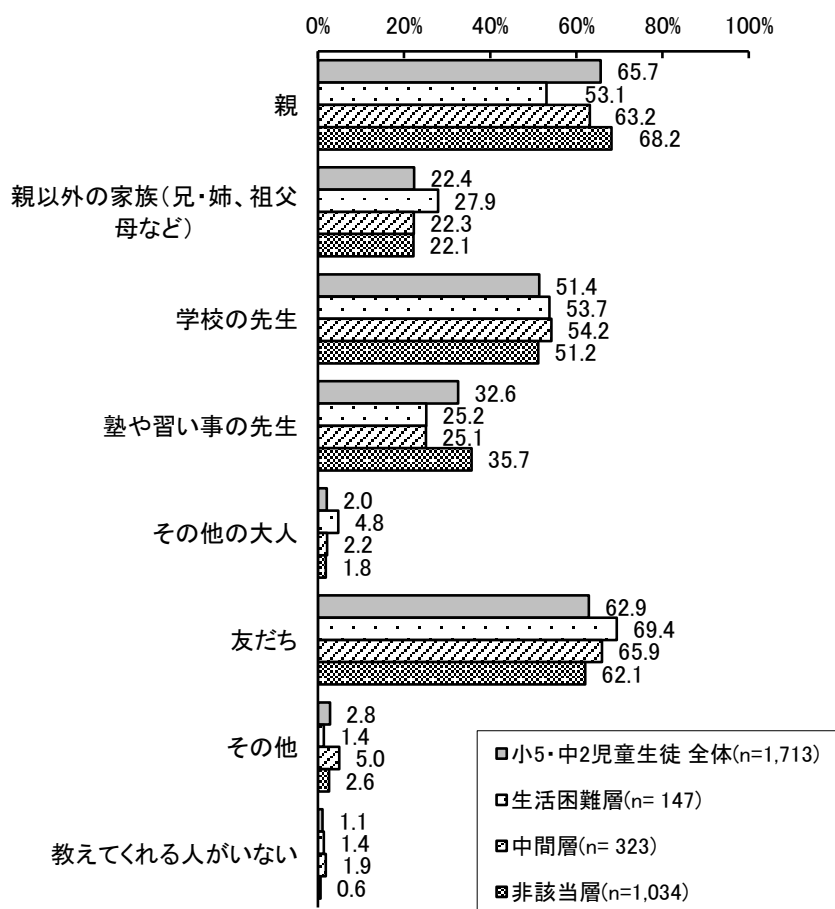


(3) 勉強がわからないときに質問する相手

問 19 勉強がわからない時は、だれに教えてもらいますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「親」が65.7%と最も多く、次いで「友だち」が62.9%、「学校の先生」が51.4%などの順となっている。生活状況別でみると、生活困難層では「親」が53.1%と、中間層の63.2%と非該当層の68.2%を大きく下回る。反対に、「親以外の家族(兄・姉、祖父母)」27.9%、「その他の大人」4.8%、「友だち」69.4%などがいずれも中間層、生活困難層を上回る。

【生活状況別】勉強がわからないときに質問する相手

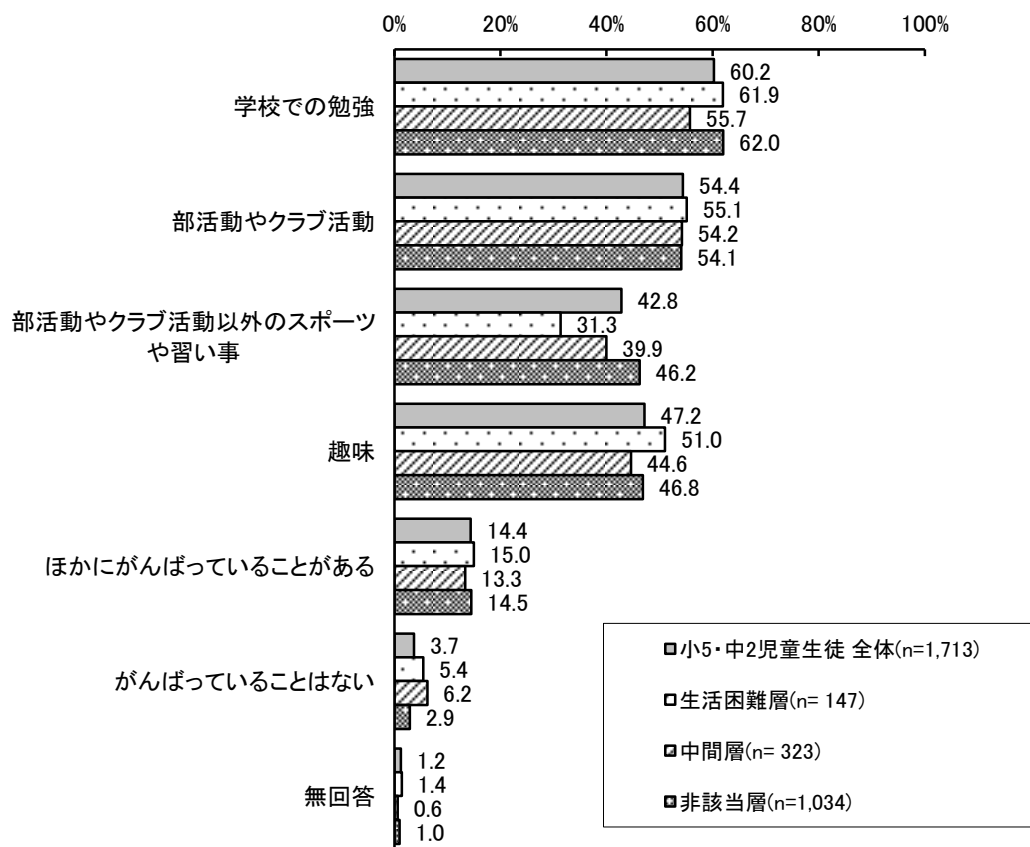


(4) 頑張っていること

問 20 あなたががんばっていることは何ですか。(あてはまるものすべてに○)

頑張っていることについて、全体では「学校の勉強」が60.2%と最も高く、次いで「部活動やクラブ活動」が54.4%、「趣味」が47.2%、「部活動やクラブ活動以外のスポーツや習い事」42.8%などの順となっている。生活状況別にみると、生活困難層では「部活動やクラブ活動以外のスポーツや習い事」が31.3%と他の層を下回る。

【生活状況別】頑張っていること

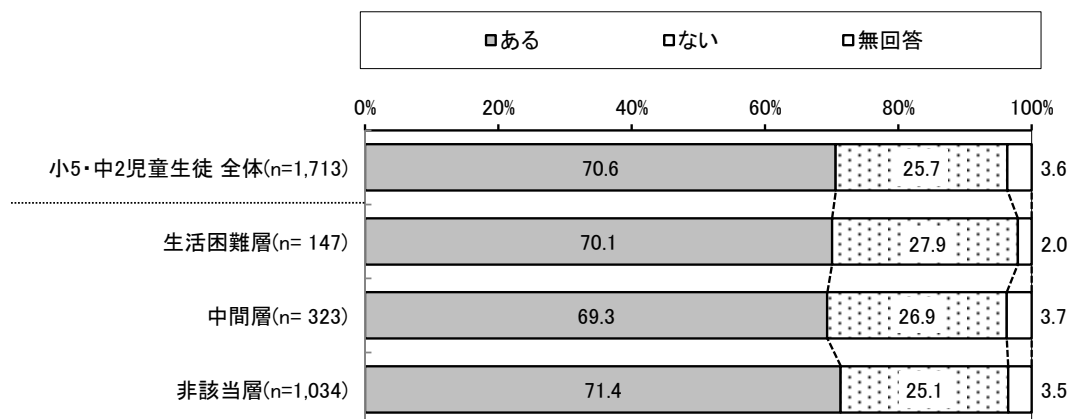


(5) なりたい職業や夢の有無

問 21 将来、なりたい職業や夢はありますか。(○は1つだけ)

なりたい職業や夢について、全体では「ある」70.6%、「ない」25.7%となっている。生活状況別にみても大きな差はみられない。

【生活状況別】なりたい職業や夢の有無

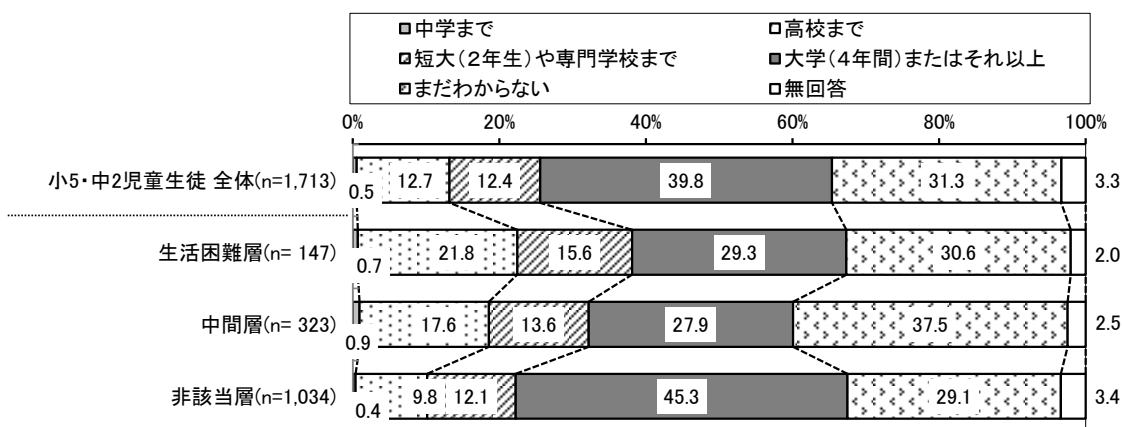


(6) 進学希望

問 22 どの段階まで進学したいですか。(○は1つだけ)

進学希望について、全体では「大学（4年間）またはそれ以上」が39.8%で最も高く、次いで「まだわからない」が31.3%、「高校まで」が12.7%、「短大（2年生）や専門学校まで」が12.4%となっている。生活状況別では、生活困難層と中間層では「まだわからない」がそれぞれ30.6%、37.5%で最も高くなっているが、非該当層では「大学（4年間）またはそれ以上」が45.3%で最も高くなっている。

【生活状況別】進学希望



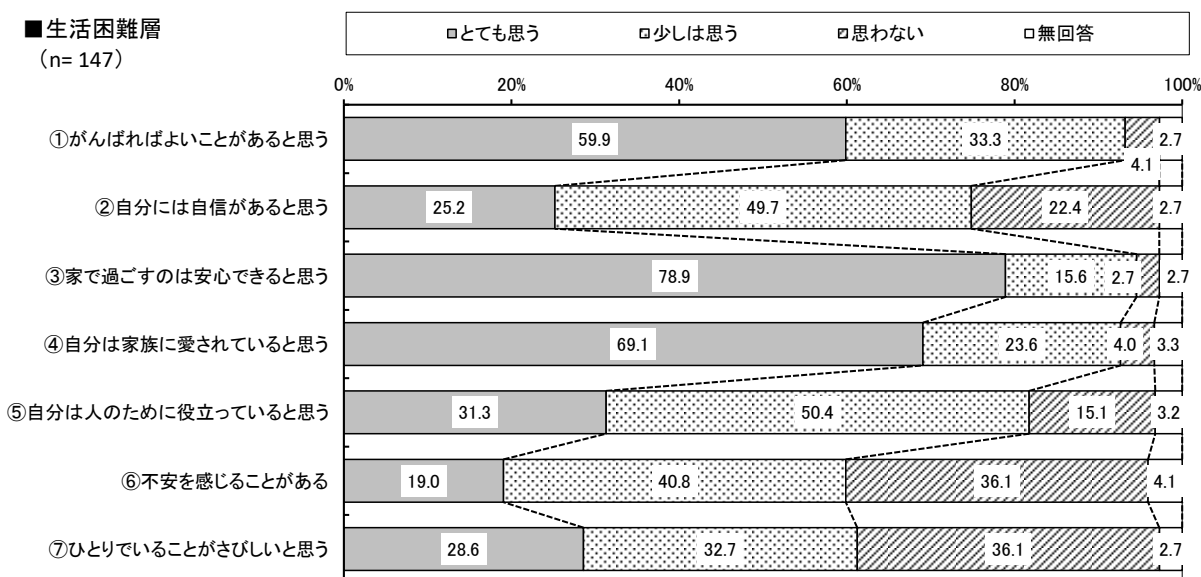
6. こころの状態について

(1) こころの状態や自己肯定感等

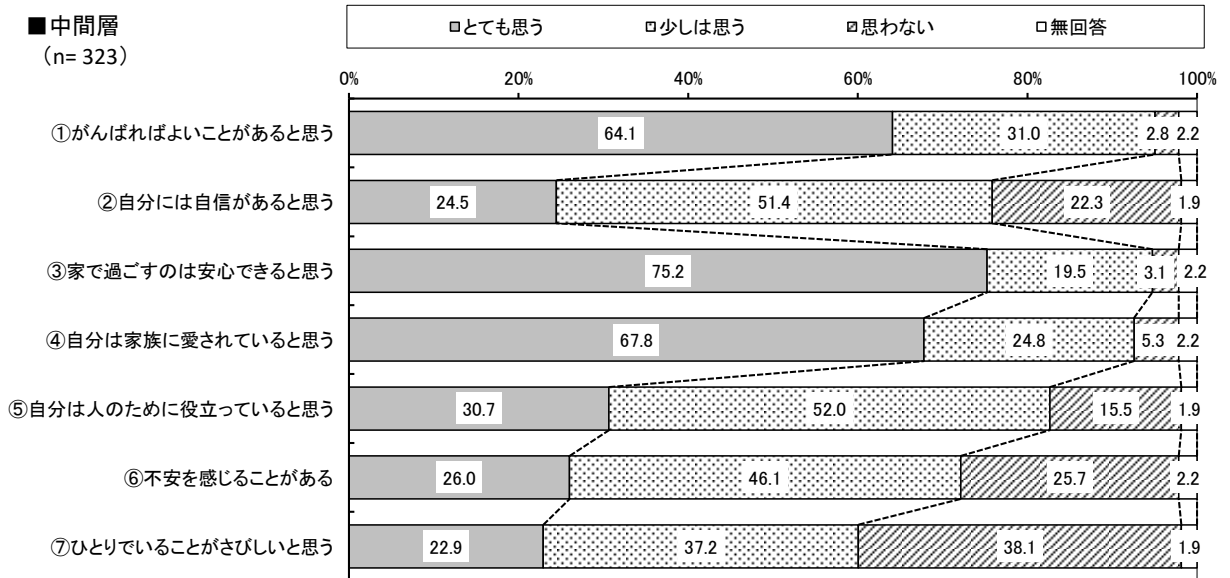
問 23 あなたは、次の①から⑦のことについて、どのように思いますか。(①～⑦それぞれについて、○は1つだけ)

こころの状態や自己肯定感等について、生活状況別で大きな差は見られないが、「とてもそう思う」割合は、「①がんばればよいことがあると思う」や「②自分には自信があると思う」については非該当層ほど、「⑦ひとりであることがさびしいと思う」については生活困難層ほど高い傾向にある。

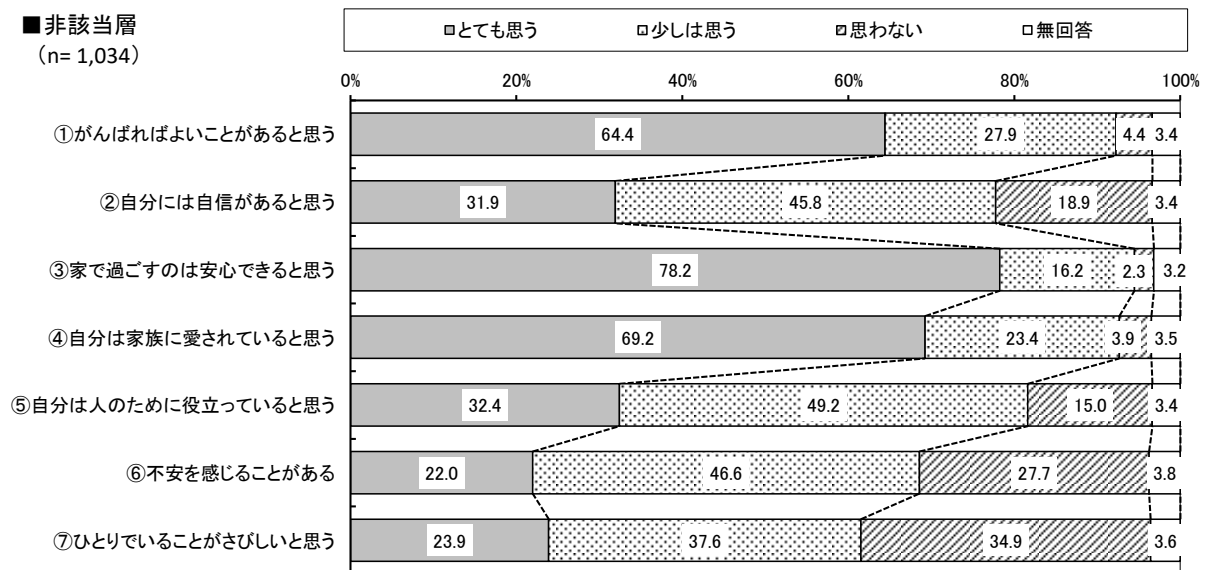
【生活状況別・生活困難層】こころの状態や自己肯定感等



【生活状況別・中間層】こころの状態や自己肯定感等



【生活状況別・非該当層】こころの状態や自己肯定感等



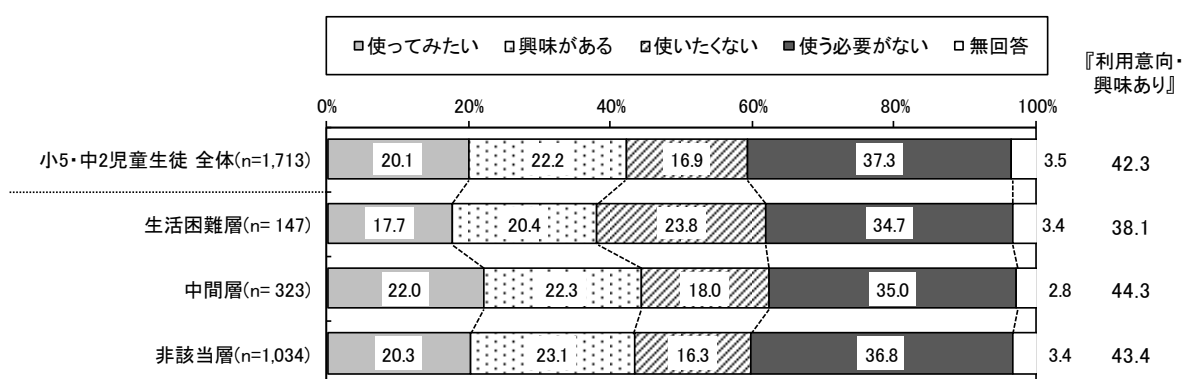
(2) 支援やサービスの利用意向

問 24 あなたは、次のような場所があれば使ってみたいと思いますか。(①～⑥それぞれについて、○は1つだけ)

① 平日の放課後に夜までいることのできる場所

全体では、「使わない必要がない」が37.3%で最も高く、次いで「興味がある」が22.2%、「使ってみたい」が20.1%、「使いたくない」が16.9%の順となっている。生活状況別にみると、生活が苦しい層では、「使いたくない」が23.8%と他の層を上回る。『利用意向・興味あり』の割合は生活状況別で大きな差は見られない。

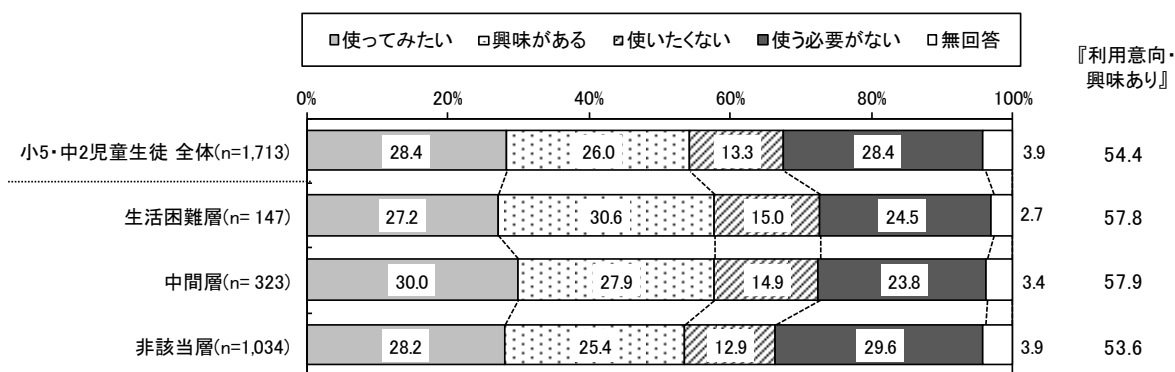
【生活状況別】平日放課後に夜までいることのできる場所の利用意向



② 休日にいることのできる場所

全体では、「使ってみたい」と「使わない必要がない」がともに28.4%となっている。生活状況別では、生活困難層では「興味がある」30.6%、中間層では「使ってみたい」30.0%、非該当層では「使わない必要がない」29.6%がそれぞれ最も高くなっており、非該当層ほど、休日にいることのできる場所を不要とする傾向にある。『利用意向・興味あり』の割合は、生活状況別で大きな差は見られない。

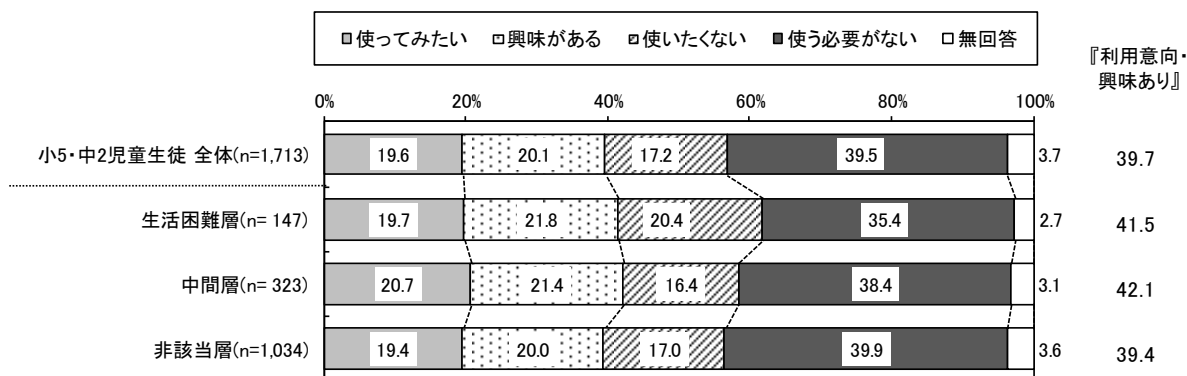
【生活状況別】休日にいることのできる場所の利用意向



③ 子ども食堂

全体では、「使う必要がない」が39.5%で最も高く、次いで「興味がある」が20.1%となっている。生活状況別でも大きな差は見られない。

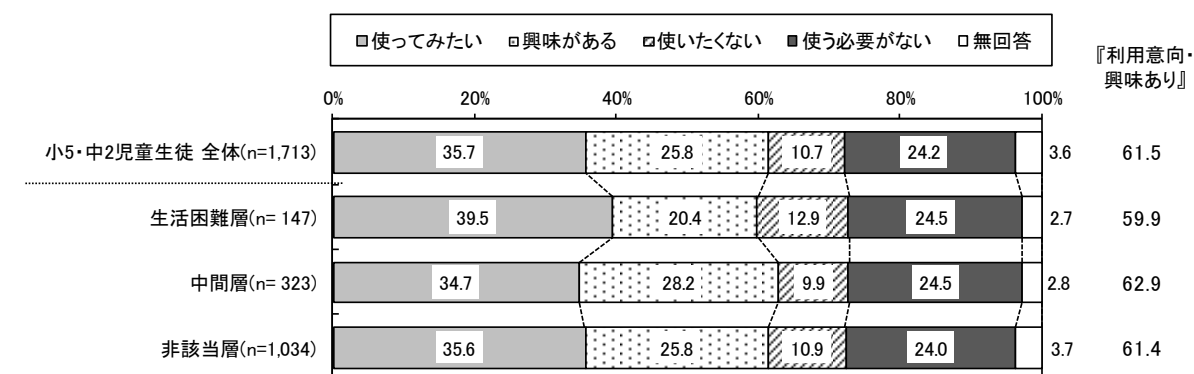
【生活状況別】子ども食堂の利用意向



④ 家で勉強できない時、静かに勉強できる場所

全体では、「使ってみたい」が35.7%で最も高く、次いで「興味がある」が25.8%、「使う必要がない」24.2%となっている。生活状況別にみると、生活困難層では「使ってみたい」が39.5%と他の層よりも高い一方で、「使いたくない」割合も他の層を上回る。『利用意向・興味あり』の割合は生活状況別で大きな差は見られない。

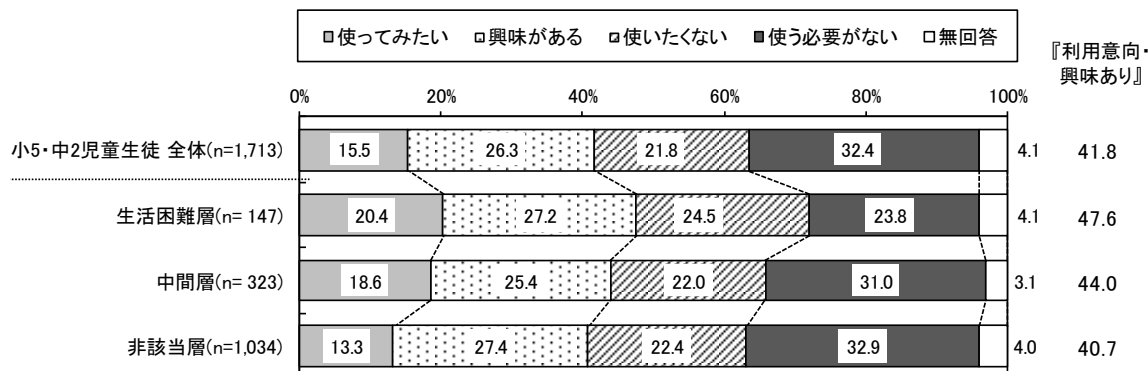
【生活状況別】家で勉強できない時、静かに勉強できる場所の利用意向



⑤ 学習支援教室

全体では、「使う必要がない」が32.4%で最も高く、次いで「興味がある」が26.3%、「使いたくない」が21.8%となっている。生活状況別にみると、「使ってみたい」は生活困難層の20.4%が最も高く、『利用意向・興味あり』の割合についても生活困難層ほど高くなっている。

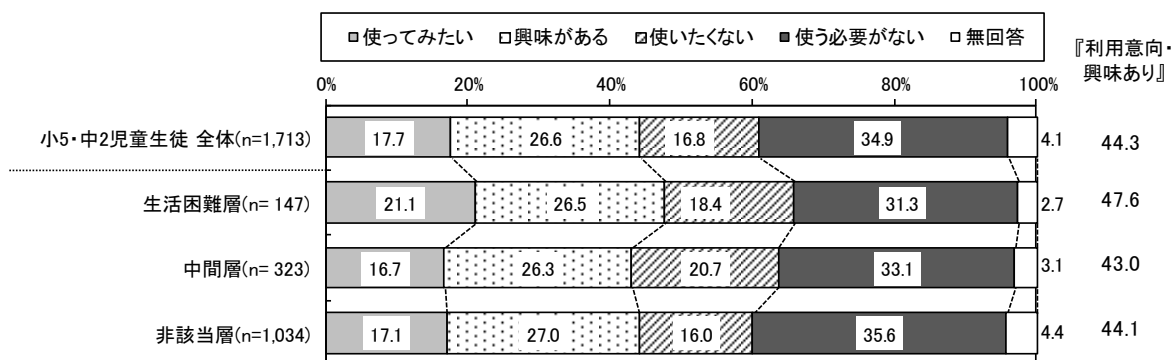
【生活状況別】学習支援教室の利用意向



⑥ 進路や勉強、家族のことなどなんでも相談できる場所

全体では、「使う必要がない」が34.9%と最も高く、次いで「興味がある」が26.6%、「使ってみたい」が17.7%の順となっている。生活状況別にみると、生活困難層で「使ってみたい」が他の層を上回る。また、『利用意向・興味あり』の割合は、生活困難層が他の層をやや上回るが、いずれの層も4割台となっている。

【生活状況別】なんでも相談できる場所の利用意向



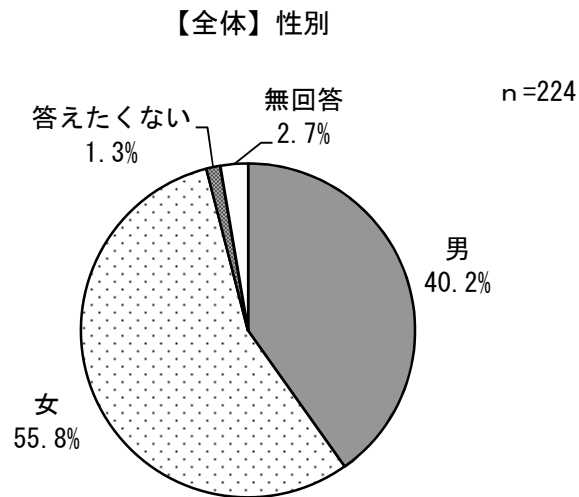
III 中学卒業以降子ども調査

1. 回答者自身について

(1) 性別

問1 あなたの性別を教えてください。(○は1つ)

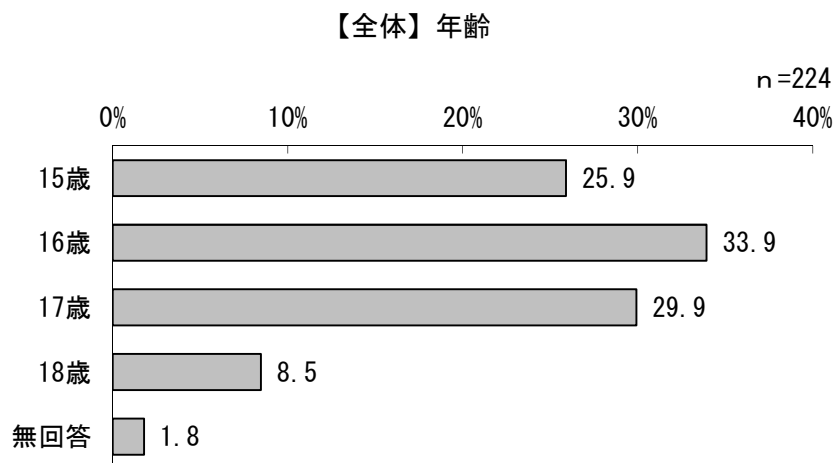
性別について、「女」55.8%が「男」40.2%を上回る。



(2) 年齢

問2 あなたの年齢を教えてください。(○は1つ)

年齢について、「16歳」が33.9%と最も多く、次いで「17歳」29.9%、「15歳」25.9%となっている。



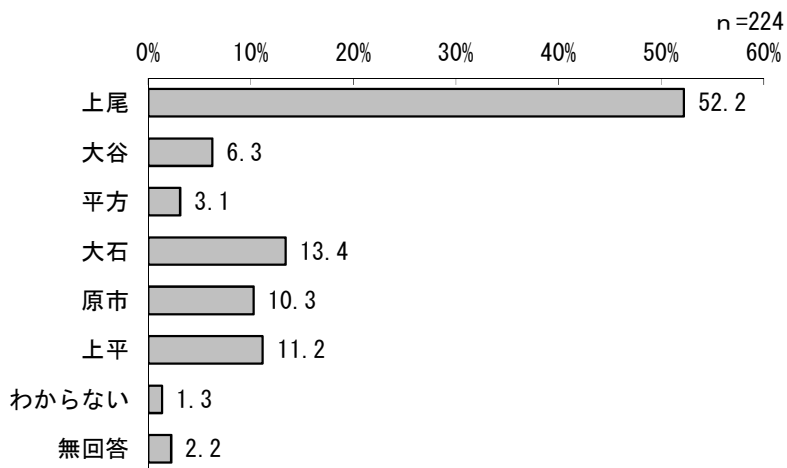
(3) 居住地区

問3 お住まいの地区を教えてください。(○は1つ)

※地区名が分からない場合は、「7. わからない」を選択し、() 内に町名をご記入ください。

居住地区について、「上尾」の52.2%が圧倒的に多く、やや差があり「大石」13.4%、「上平」11.2%、「原市」10.3%などの順となっている。

【全体】居住地区

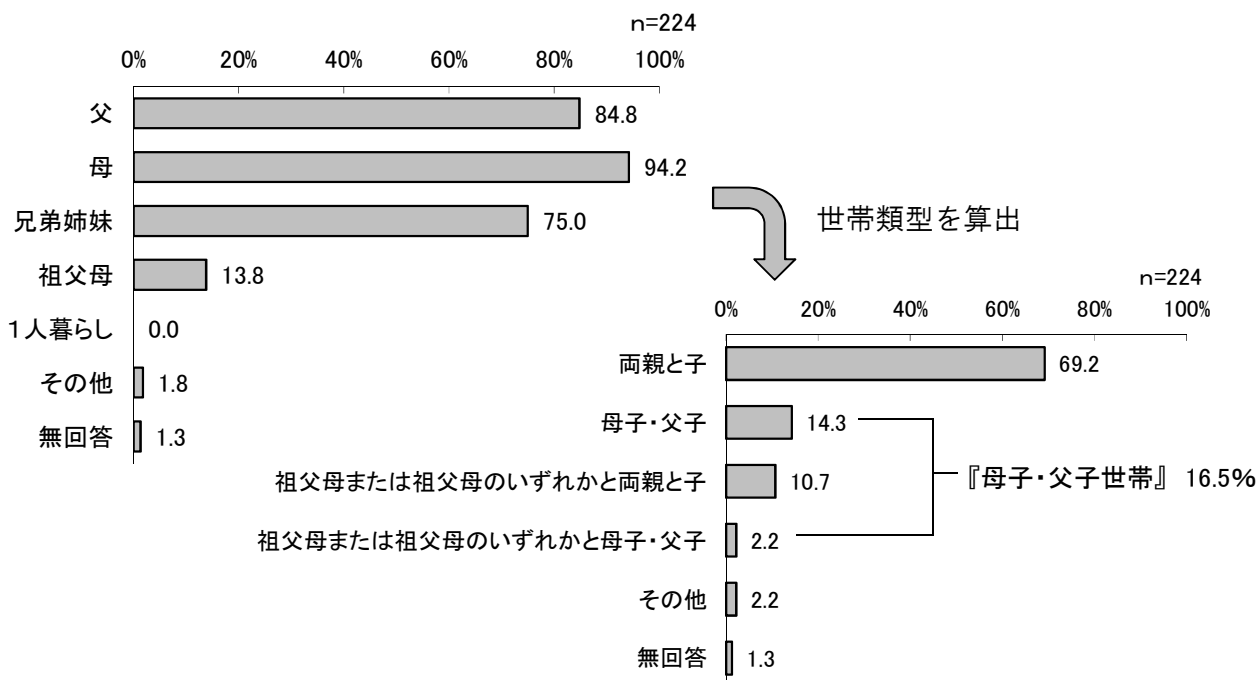


(4) 同居家族

問4 あなたは、現在どなたと一緒に住んでいますか。(あてはまるものすべてに○)

「母」94.2%、「父」84.8%、「兄弟姉妹」75.0%、「祖父母」13.8%などの順となっている。同居家族から世帯類型を算出した結果、「両親と子」69.2%が最も多いが、「母子・父子」と「祖父母または祖父母のいずれかと母子・父子」を合わせた『母子・父子世帯』は16.5%である。

【全体】同居家族と世帯類型

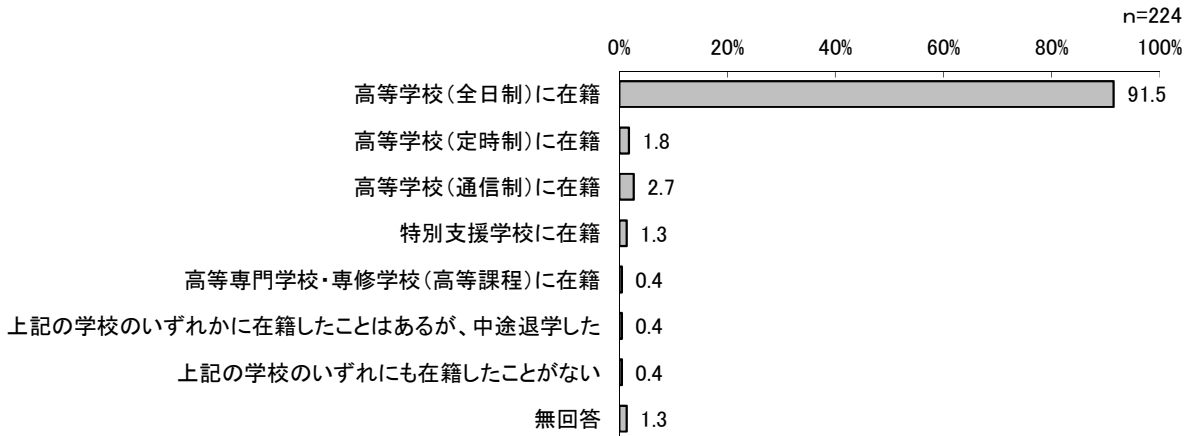


(5) 学校の在籍状況

問5 あなたは、現在、学校に在籍していますか。以下の中から、最もあてはまるものに○をしてください。(○は1つ)

学校の在籍状況について、「高等学校（全日制）に在籍」が91.5%と大半を占める。

【全体】学校の在籍状況

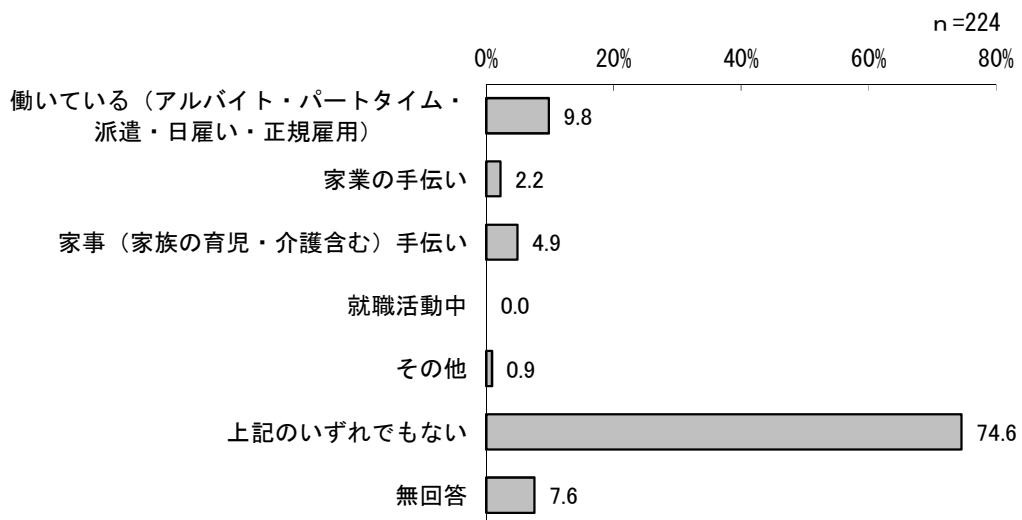


(6) 就労状況

問6 あなたは、現在、働いていますか。以下の中から、最もあてはまるものに○をしてください。(○は1つ)

就労状況については、「上記のいずれでもない」が74.6%と大半を占める。やや差があり「働いている（アルバイト・パートタイム・派遣・日雇い・正規雇用）」が9.8%、「家事（家族の育児・介護含む）手伝い」が4.9%、「家業の手伝い」が2.2%となっている。

【全体】就労状況

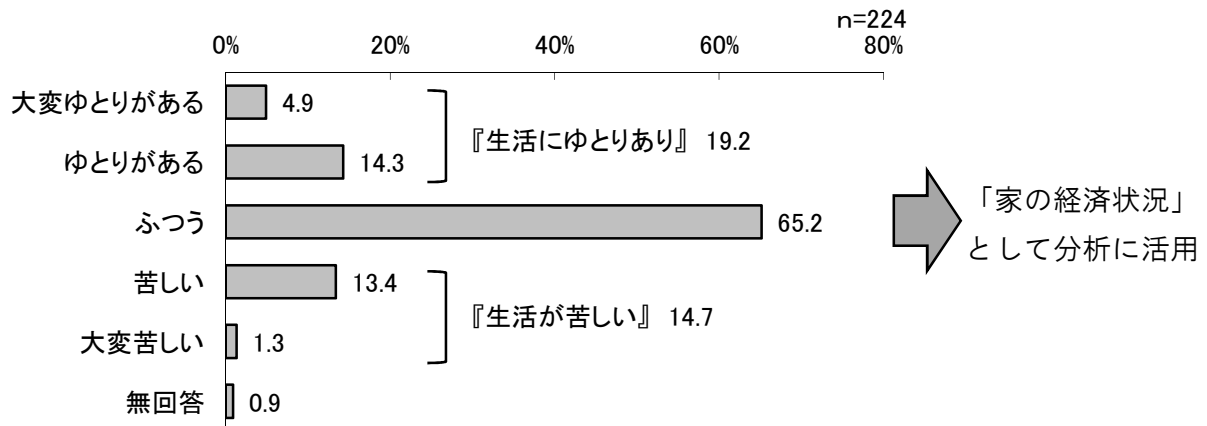


(7) 現在の家の経済状況

問7 経済的に（お金に関して）は、あなたの家の暮らしは、次のどれにあたると思いますか。
（○は1つ）

現在の暮らしの状況について、「ふつう」65.2%が最も多い。「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」を合計した『生活にゆとりあり』は19.2%、「大変苦しい」と「苦しい」を合計した『生活が苦しい』は14.7%となっている。

【全体】現在の家の経済状況



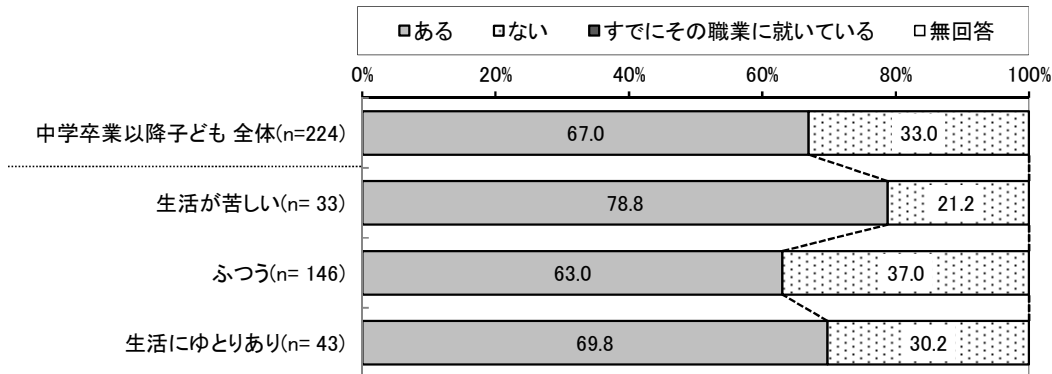
2. 将来のことについて

(1) なりたい職業や夢の有無

問8 将来、なりたい職業や夢はありますか。(○は1つ)

なりたい職業について、全体では「ある」67.0%が「ない」33.0%を上回る。家の経済状況別でみると、生活が苦しい層では「ある」が78.8%であり、他の層を大きく上回る。

【家の経済状況別】なりたい職業や夢の有無



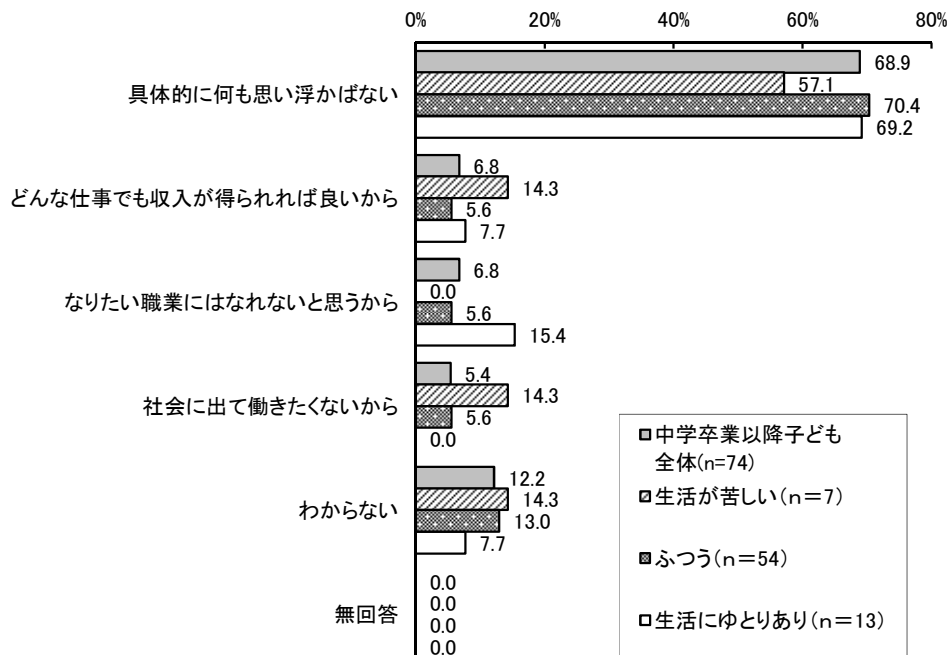
(2) なりたい職業がない理由

【問8で将来なりたい職業が「2. ない」と回答した方におうかがいします。】

問8-1 なりたい職業がない理由は何ですか。(○は1つ)

なりたい職業がない理由について、「具体的に何も思い浮かばない」が68.9%と最も多く、次いで「わからない」12.2%となっている。家の経済状況別にみると、いずれの層でも「具体的に何も思い浮かばない」が最も高くなっている。生活が苦しい層では「どんな仕事でも収入が得られれば良いから」、「社会に出て働きたくないから」がともに14.3%であり、他の層を上回る。

【家の経済状況別】なりたい職業がない理由

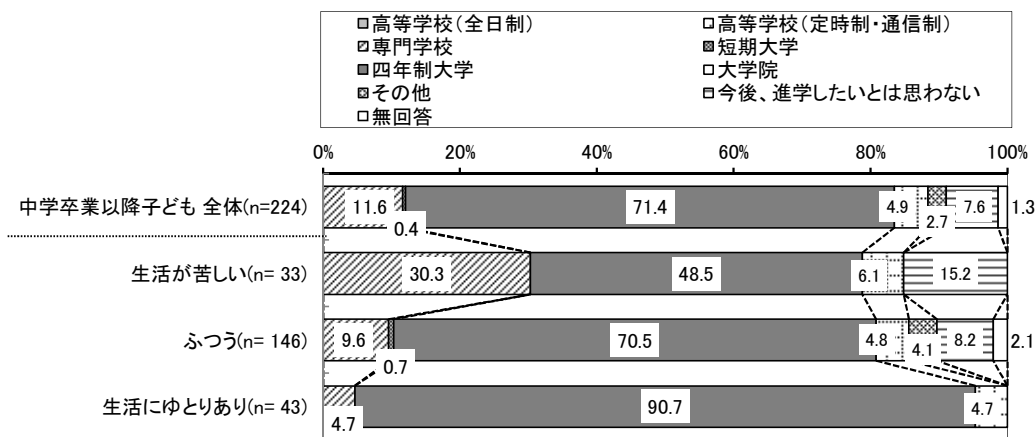


(3) 進学希望

問9 【すべての方におうかがいします。】あなたは、今後、通いたいと希望する学校がありますか。あてはまる学校にすべて○をつけてください。(○は1つ)

進学希望について、全体では「四年制大学」が71.4%、次いで「専門学校」11.6%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層ほど「専門学校」「今後、進学したいとは思わない」の割合が高くなっている。反対に、生活にゆとりがある層ほど「四年制大学」の割合が高い傾向にある。

【家の経済状況別】進学希望



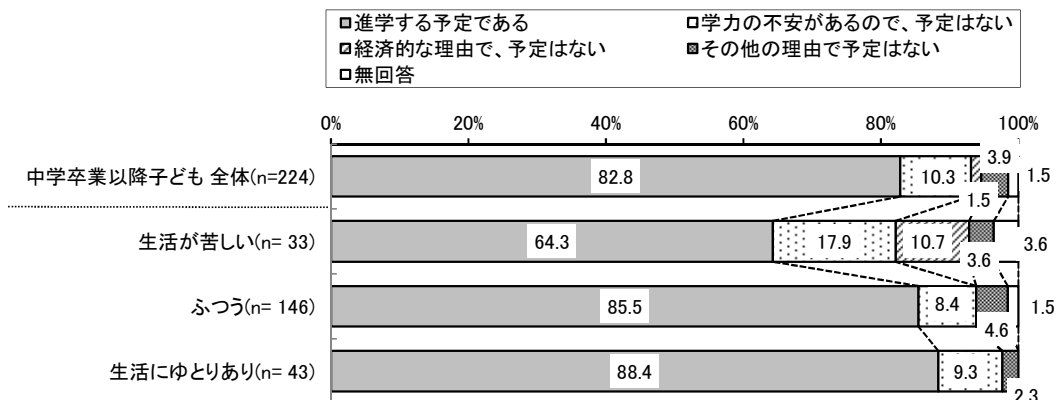
(4) 進学予定

問9-1 【今後の進学を希望する方(問9で1~7を選択)にお聞きします。】

希望する学校に進学する予定はありますか。いまの時点での見込みでかまいませんので、最もあてはまるものをお選びください。(○は1つ)

進学予定について、全体では「進学する予定である」が82.8%と最も多く、次いで「学力の不安があるので、予定はない」10.3%となっている。家の経済状況別にみると、いずれの層でも「進学する予定である」が最も高くなっているが、ふつうの層、生活にゆとりがある層では8割台後半であるのに対し、生活が苦しい層では6割台にとどまっている。また、生活が苦しい層では「学力の不安があるので、予定はない」が17.9%と他の層を大きく上回る。

【家の経済状況別】進学予定



3. 普段の生活について

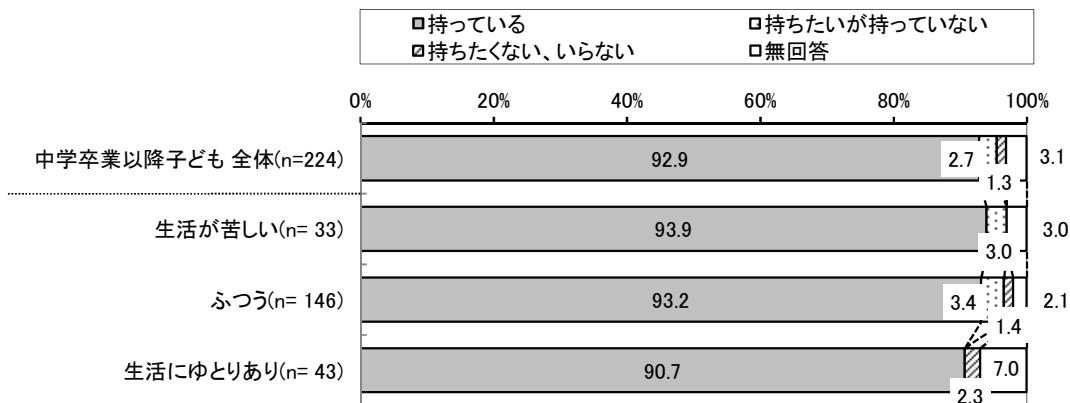
(1) 物品の所有状況

問 10 あなたは、次の①～⑩の物品を持っていますか。それぞれ、あなたの状況に最も近いものに○をつけてください。(①～⑩それぞれについて、○は1つ)

① 新しい(誰かのお古でない)洋服

新しい洋服の所有状況について、全体では、「持っている」が92.9%と大半を占める。家の経済状況別でも差は見られない。

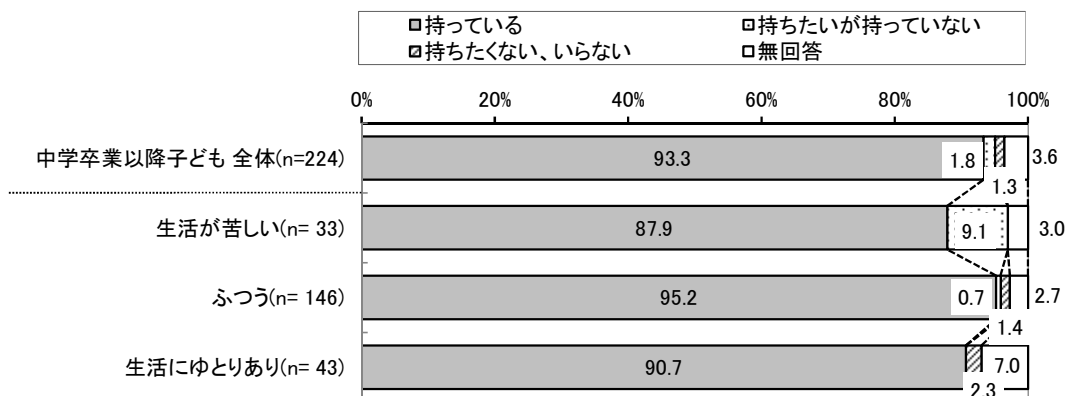
【家の経済状況別】新しい洋服の所有状況



② 最低2足のサイズの合った靴

最低2足のサイズの合った靴の所有状況について、全体では、「持っている」が93.3%と大半を占める。家の経済状況別にみても、いずれの層も「持っている」が最も高くなっているが、生活が苦しい層では、「持ちたいが持っていない」が9.1%と他の層を上回る。

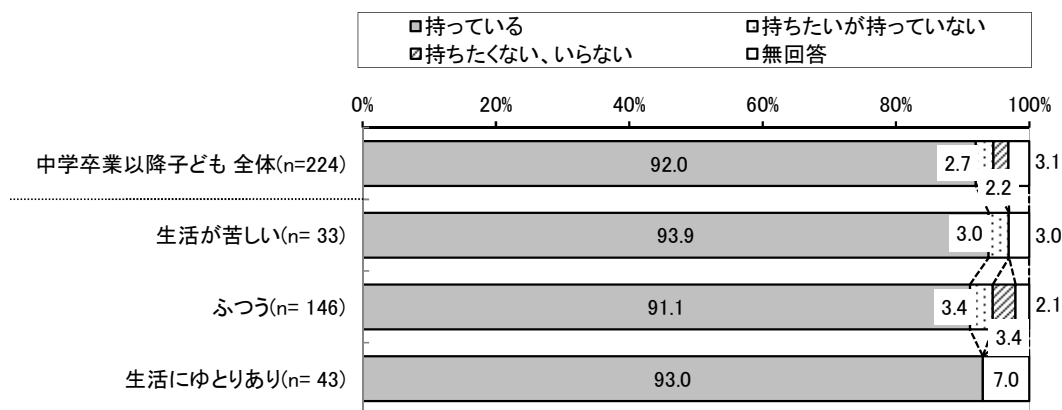
【家の経済状況別】最低2足のサイズの合った靴の所有状況



③ 冬用のコートやダウンジャケット

冬用のコートやダウンジャケットの所有状況について、全体では、「持っている」が92.0%であり、主な回答となっている。家の経済状況別にみても差は見られない。

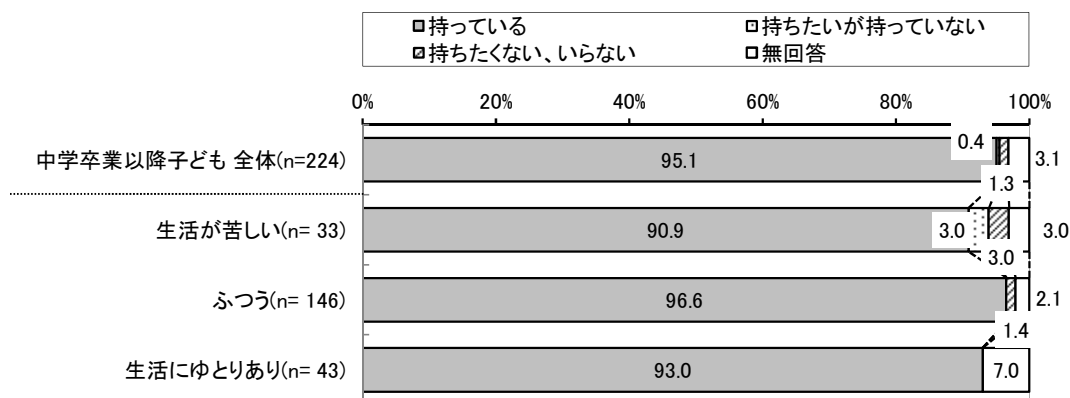
【家の経済状況別】冬用のコートやジャケットの所有状況



④ 自分専用のふとん又はベッド

自分専用のふとん又はベッドの所有状況について、全体では、「持っている」が95.1%と大半を占める。家の経済状況別にみても、いずれの層も「持っている」が9割以上を占め、大きな差は見られない。

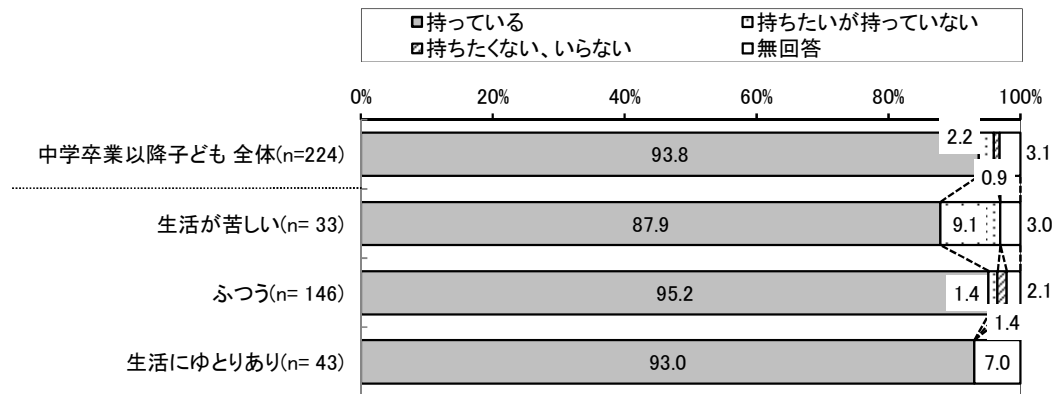
【家の経済状況別】自分専用のふとん又はベッドの所有状況



⑤ 家の中で勉強ができる場所

勉強ができる場所について、全体では、「持っている」が93.8%と大半を占める。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「持ちたいが持っていない」割合が9.1%であり、他の層を上回る。

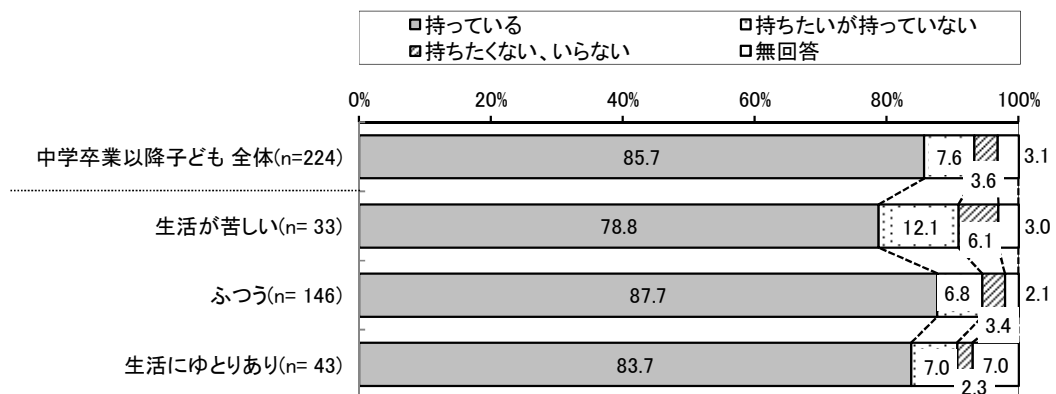
【家の経済状況別】家の中で勉強ができる場所の所有状況



⑥ インターネットにつながるパソコンやタブレット

インターネットにつながるパソコンやタブレットの所有状況について、全体では、「持っている」が85.7%で最も高く、やや差があり「持ちたいが持っていない」が7.6%、「持ちたくない、いない」が3.6%などの順である。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「持っている」割合は他の層に比べ低く、「持ちたいが持っていない」は12.1%と他の層を上回る。

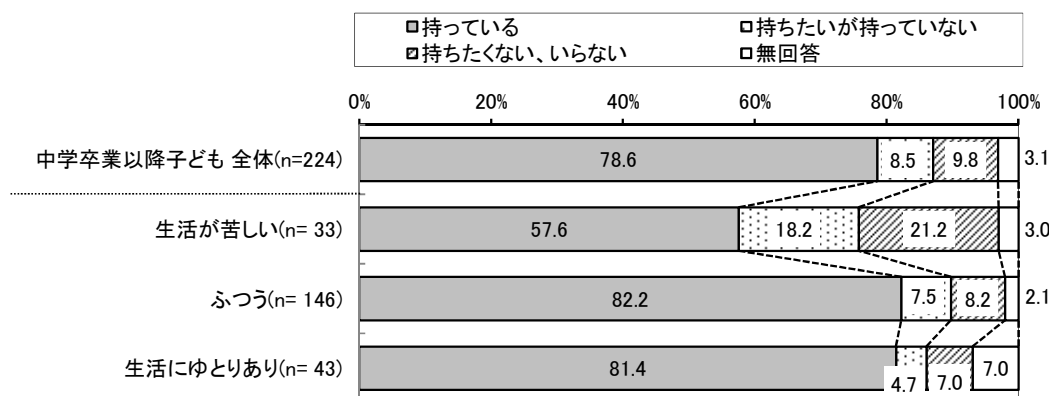
【家の経済状況別】インターネットにつながるパソコンやタブレットの所有状況



⑦ 電子辞書

電子辞書の所有状況について、全体では、「持っている」が78.6%で最も高く、次いでやや差があり「持ちたくない、いらぬ」が9.8%、「持ちたいが持っていない」が8.5%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「持っている」が57.6%と他の層を大きく下回り、「持ちたいが持っていない」が18.2%で他の層を上回る。一方で、「持ちたくない、いらぬ」についても21.2%と他の層を大きく上回っており、生活が苦しい層では、電子辞書の所持率が低いものの、必要としていない割合も高い傾向にある。

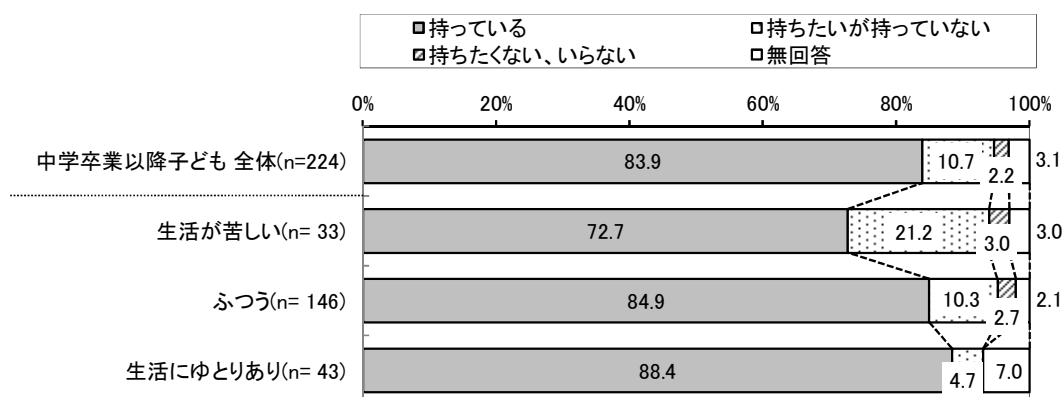
【家の経済状況別】電子辞書の所有状況



⑧ 自分の部屋

自分の部屋の所持状況について、全体では、「持っている」が83.9%と最も高く、次いで「持ちたいが持っていない」が10.7%、「持ちたくないし、いらぬ」が2.2%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「持ちたいが持っていない」が21.2%と他の層を大きく上回り、生活が苦しい層ほど自分の部屋を持っていない傾向にある。

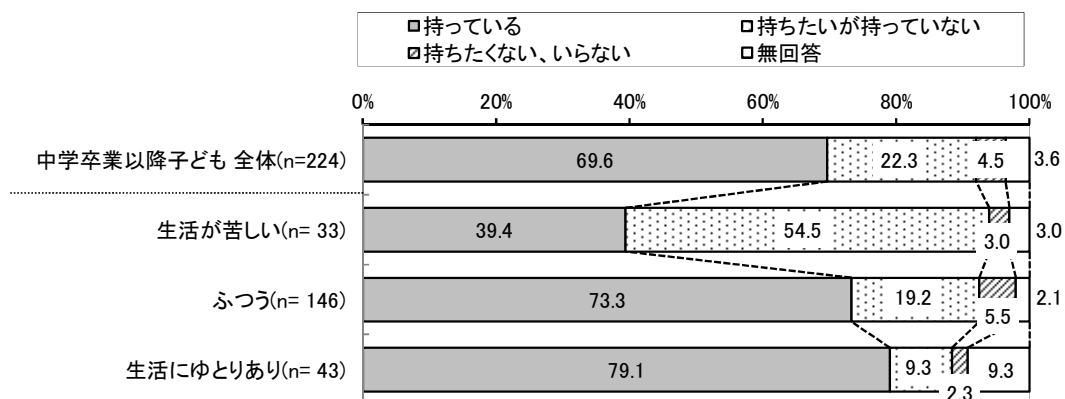
【家の経済状況別】自分の部屋の所有状況



⑨ 月5,000円ほどの自分で自由に使えるお金

自分で自由に使えるお金について、全体では、「持っている」が69.6%と最も高く、次いで「持ちたいが持っていない」が22.3%、「持ちたくない、いらない」が4.5%となっている。家の経済状況別にみると、ふつうの層、生活にゆとりがある層では「持っている」が7割を超え、最も高くなっているのに対し、生活が苦しい層では「持ちたいが持っていない」が半数以上を占める。生活が苦しい層ほど、自分で自由に使えるお金の所持率が低い状況がうかがえる。

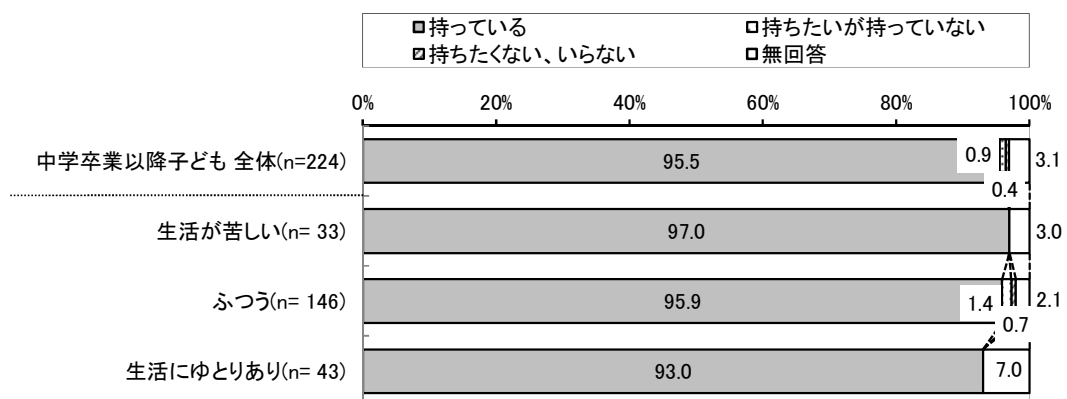
【家の経済状況別】月5,000円ほどの自分で自由に使えるお金の所有状況



⑩ スマートフォン

スマートフォンの所持状況について、全体では、「持っている」が95.5%と大半を占める。家の経済状況別にみても、いずれの層も「持っている」が9割以上を占め、大きな差は見られない。

【家の経済状況別】スマートフォンの所有状況



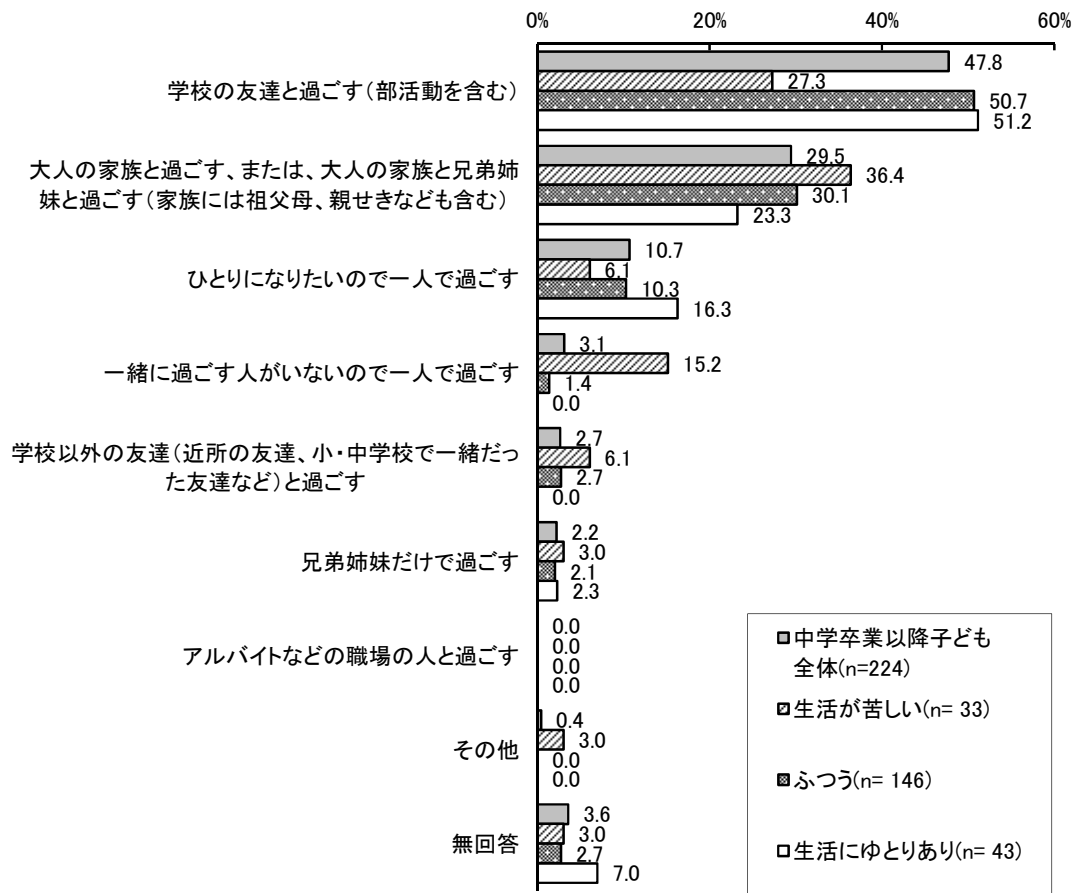
(2) 平日の放課後や自由時間に過ごす人

問 11 あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。（○は1つ）

平日の放課後や自由時間を過ごす人について、「学校の友達と過ごす（部活動を含む）」が47.8%で最も高く、次いで「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす（家族には祖父母、親せきなども含む）」29.5%、「ひとりになりたいので一人で過ごす」10.7%となっている。

家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では「学校の友達と過ごす（部活動を含む）」が27.3%で他の層を大きく下回る。反対に、「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす（家族には祖父母、親せきなども含む）」「一緒に過ごす人がいないので一人で過ごす」で他の層を上回っている。

【家の経済状況別】平日の放課後や自由時間に過ごす人

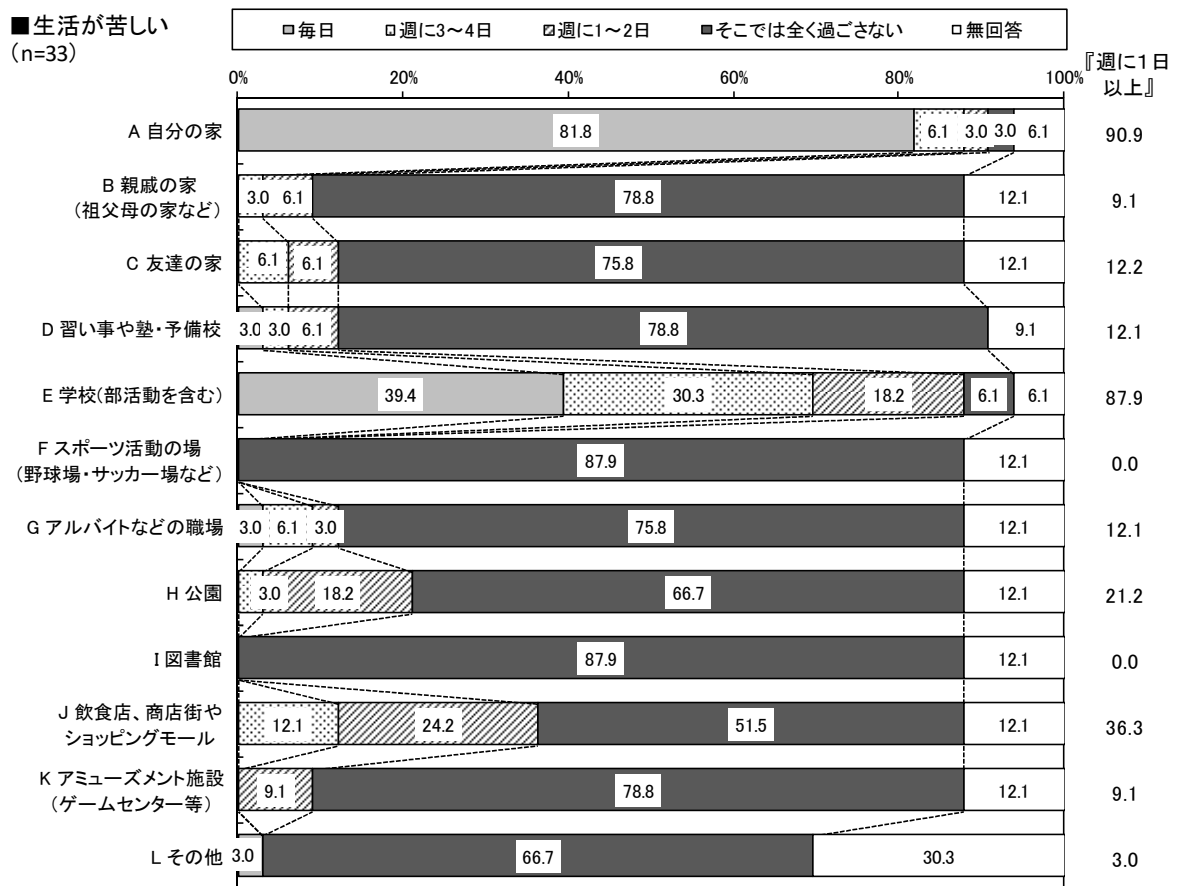


(3) 平日の放課後や自由時間に過ごす場所

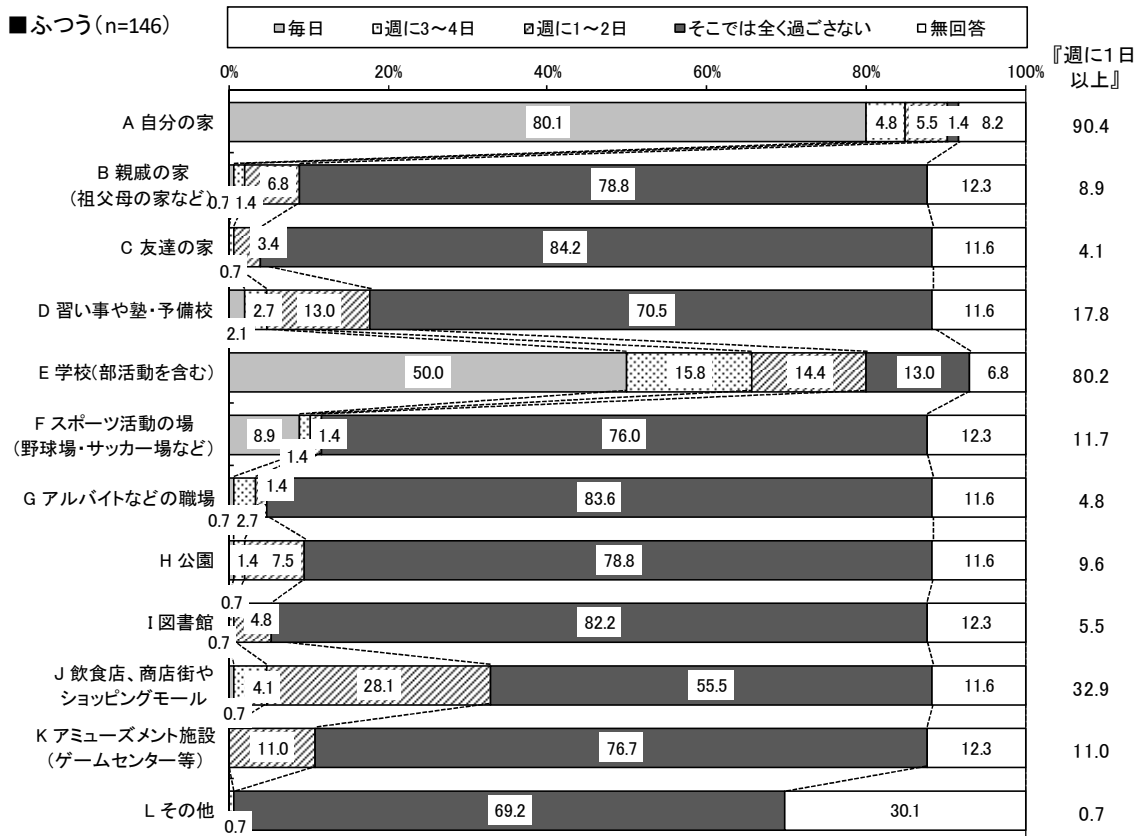
問 12 あなたは、平日（学校や仕事に行く日）の放課後や自由時間は、どこで過ごしていますか。1週間のうち、そこで過ごすおおよその日数に○をつけてください。（A～Lそれぞれについて、○は1つ）※自由時間がない場合は、すべて「4そこでは全く過ごさない」に○をつけてください。

平日の放課後等に過ごす場所について、家の経済状況別にみると、「毎日」の割合は「A 自分の家」「E 学校（部活動を含む）」で高くなっている。「毎日」「週に3～4日」「週に1～2日」を合計した『週に1日以上』と比較すると、生活が苦しい層ほど「A 自分の家」「E 学校（部活動を含む）」割合が高くなっている。生活にゆとりがある層では、「D 習い事や塾・予備校」が3割を超えるなど、他の層を大きく上回る。そのほか、生活が苦しい層では「H 公園」「C 友達の家」「G アルバイトなどの職場」の割合が他の層を上回っている。

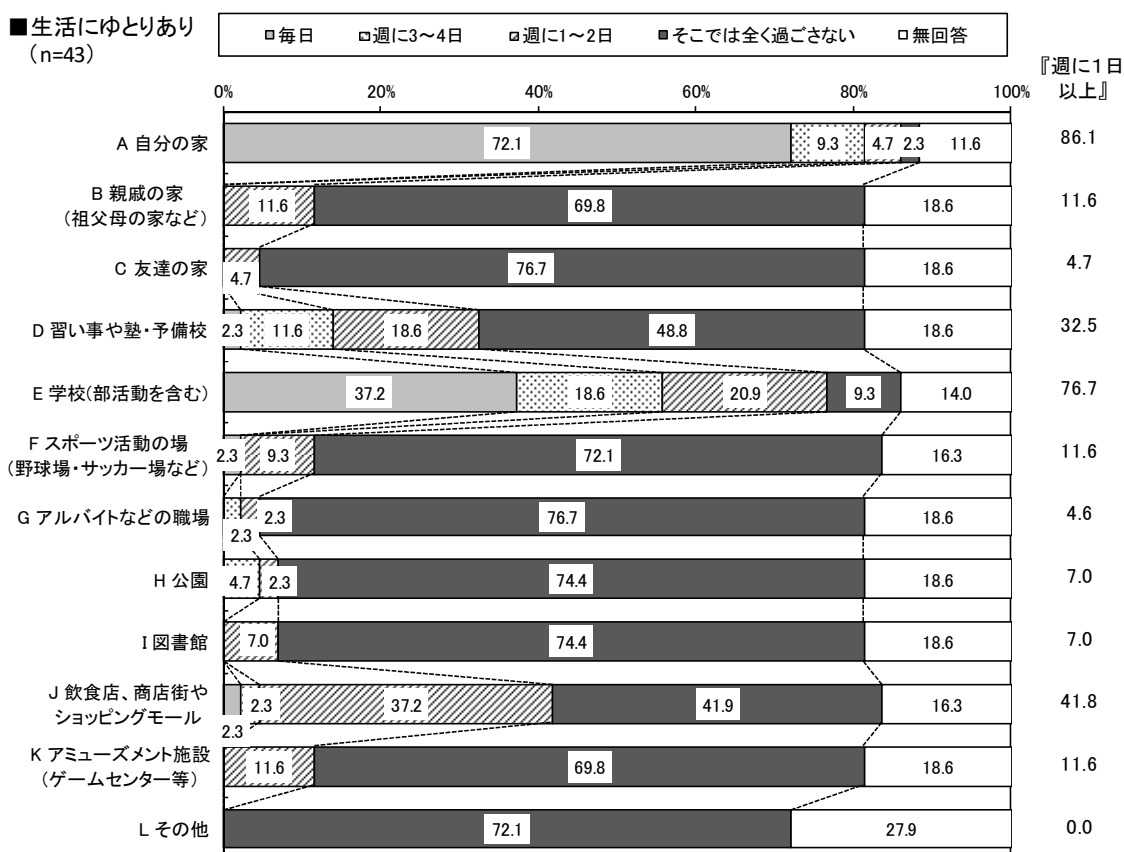
【家の経済状況別・生活が苦しい】平日の放課後等に過ごす場所



【家の経済状況別・ふつう】平日の放課後等に過ごす場所



【家の経済状況別・生活にゆとりあり】平日の放課後等に過ごす場所



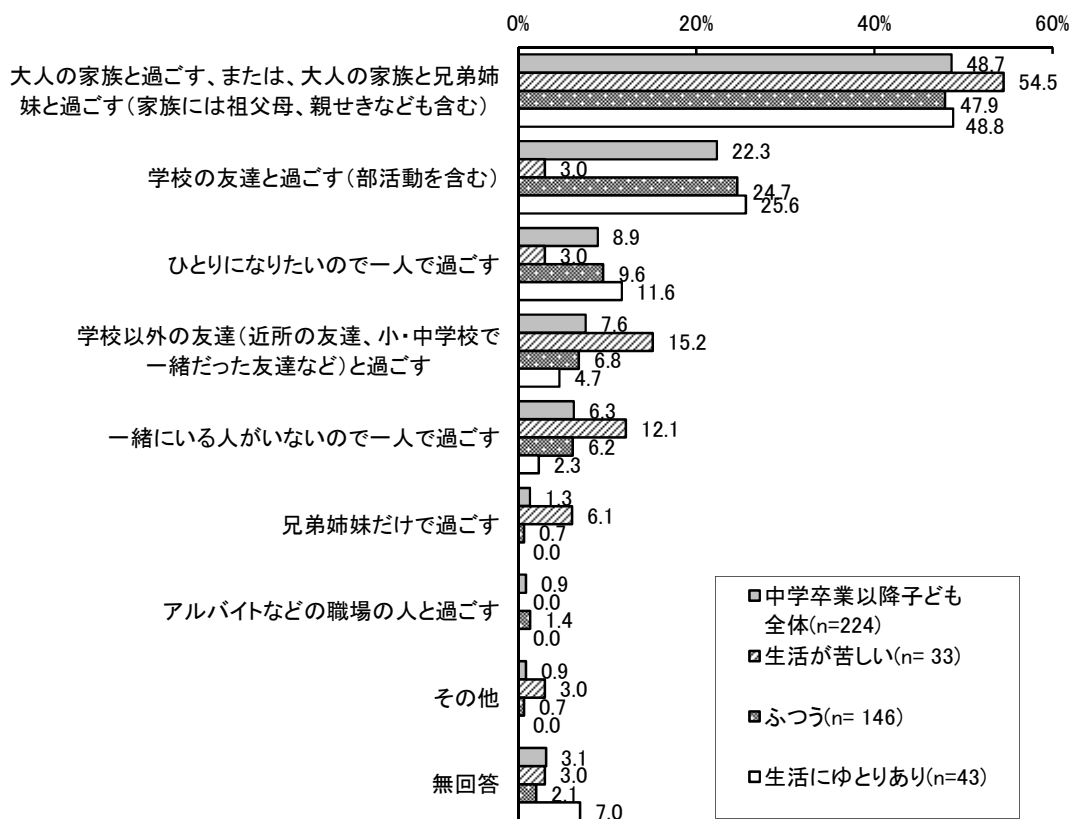
(4) 休日の午後過ごす人

問 13 あなたは、休日の午後は、だれと一緒に過ごすことが一番多いですか。(○は1つ)

休日の午後過ごす人について、全体では「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす（家族には祖父母、親せきなども含む）」が48.7%と最も多く、次いで「学校の友達と過ごす（部活動を含む）」22.3%となっている。

家の経済状況別にみると、いずれの層も「大人の家族と過ごす、または、大人の家族と兄弟姉妹と過ごす（家族には祖父母、親せきなども含む）」が最も高くなっており、生活が苦しい層で特にその割合が高い。そのほか、生活が苦しい層では「学校の友達と過ごす（部活動を含む）」が他の層を大きく下回り、「学校以外の友達（近所の友達、小・中学校で一緒だった友達など）と過ごす」「一緒にいる人がいないので一人で過ごす」などの回答が多くなっている。

【家の経済状況別】 休日の放課後等に過ごす人



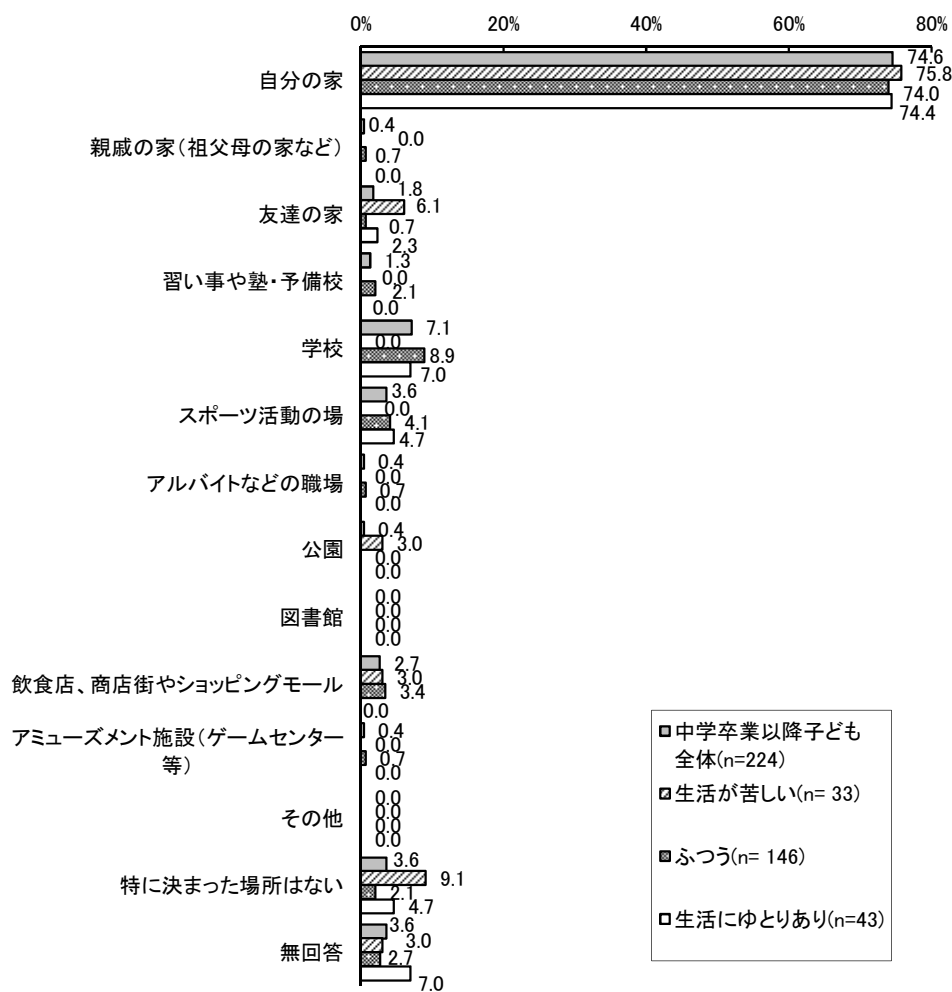
(5) 休日の午後過ごす場所

問 14 あなたは、休日の午後は、どこで過ごすことが一番多いですか。(○は1つ)

休日の午後過ごす人について、全体では「自分の家」が74.6%と最も多く、次いで「学校」7.1%となっている。

家の経済状況別にみると、いずれの層も「自分の家」が大半を占める。生活が苦しい層では「学校」との回答はなく、他の層を大きく下回る。一方で、「友達の家」や「特に決まった場所はない」との回答が多くなっている。

【全体】 休日の午後過ごす場所

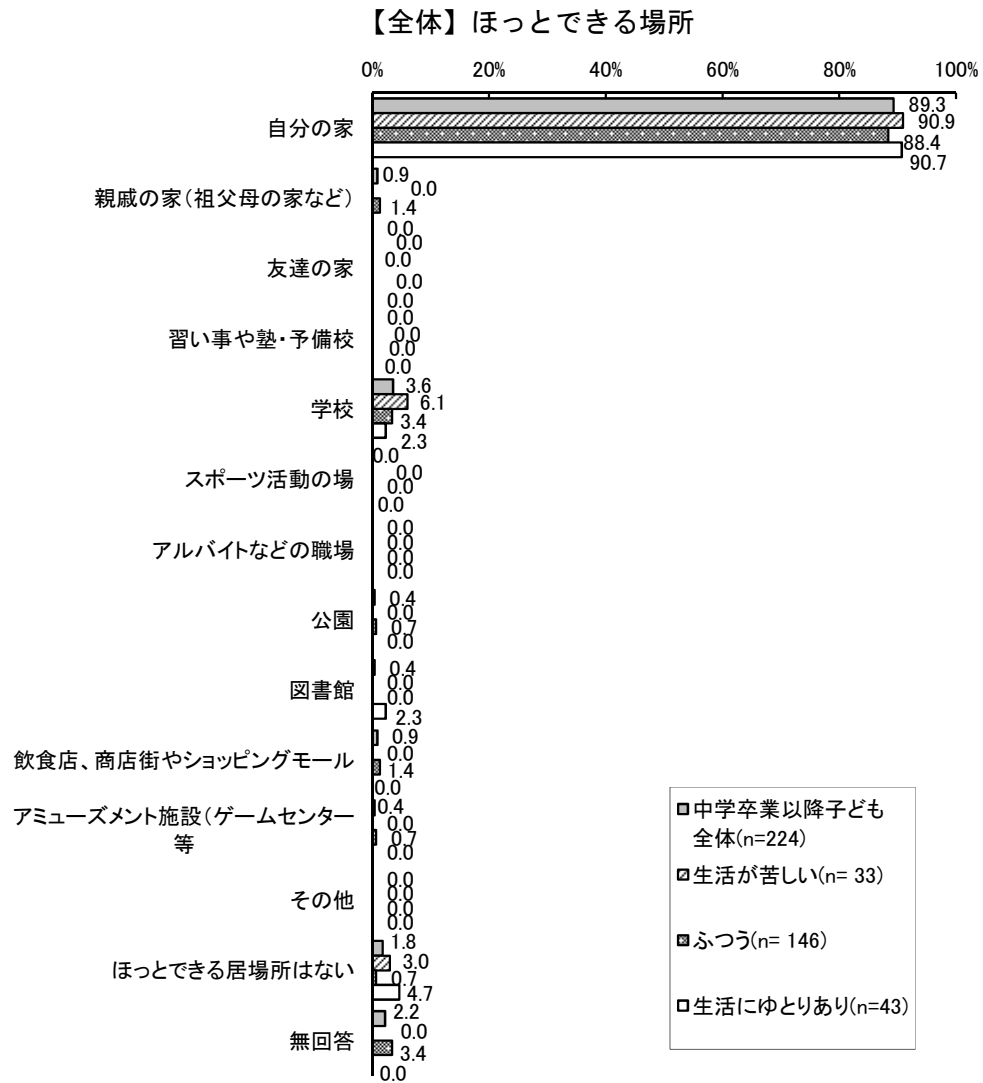


(6) ほっとできる場所

問 15 あなたにとって、一番ほっとできる居場所はどこですか。(○は1つ)

ほっとできる居場所について、全体では「自分の家」が89.3%と大半を占める。次いで大きく差があり「学校」3.6%となっている。

家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「友達の家」が他の層を僅かに上回る。



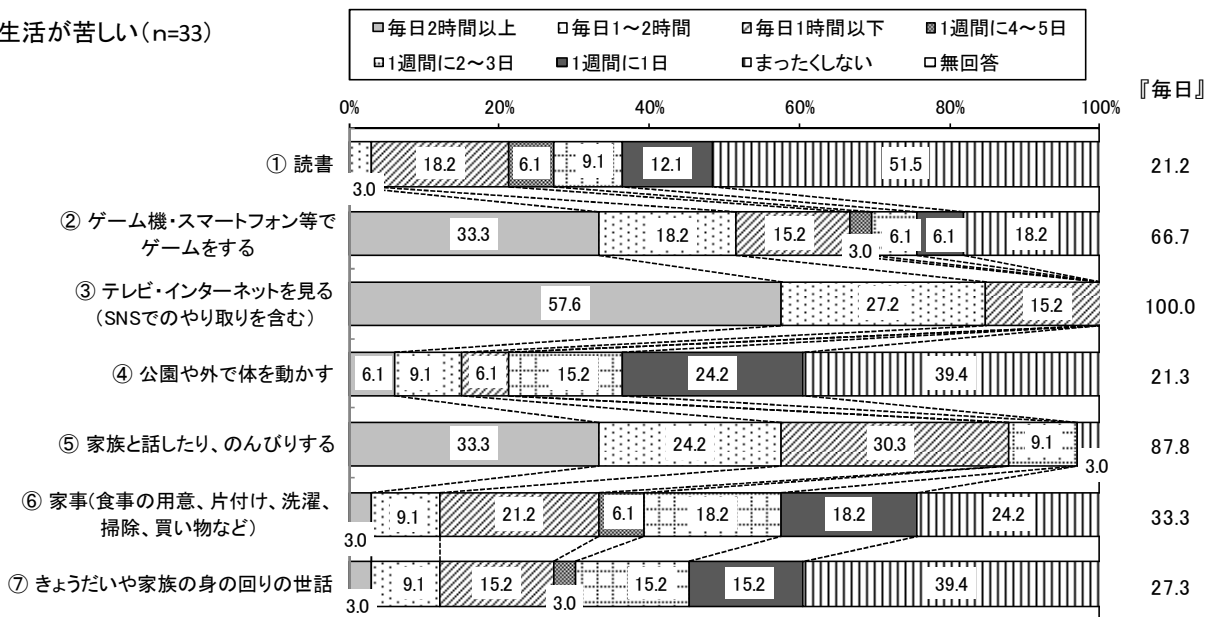
(7) 各活動にかかる時間

問 16 あなたは、以下の活動を、ふだんどれくらいしますか。(①～⑦それぞれについて、○は1つ)

各活動にかかる時間について、家の経済状況別でみると、読書を「まったくしない」割合、ゲームやテレビ・インターネットを「毎日2時間以上」する割合は、生活が苦しい層ほど高い。「毎日2時間以上」「毎日1～2時間以上」「毎日1時間以下」を合計した『毎日』の割合で比較すると、きょうだいや家族の身の回りの世話については、生活が苦しい層ほど高くなっている。

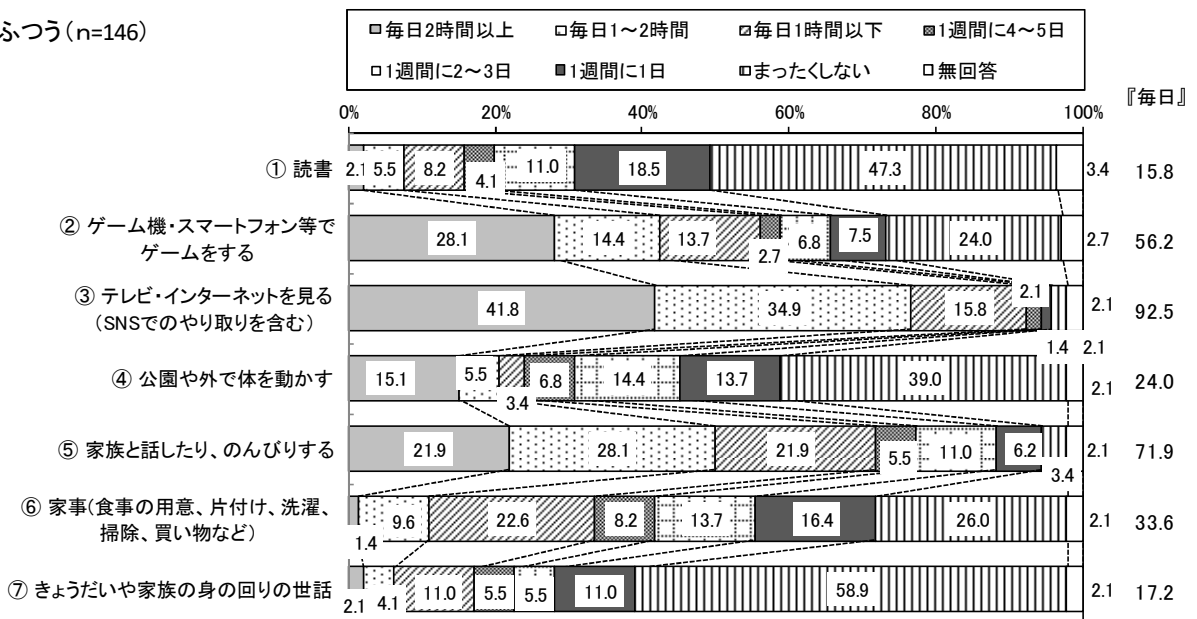
【家の経済状況別・生活が苦しい】各活動にかかる時間

■生活が苦しい(n=33)

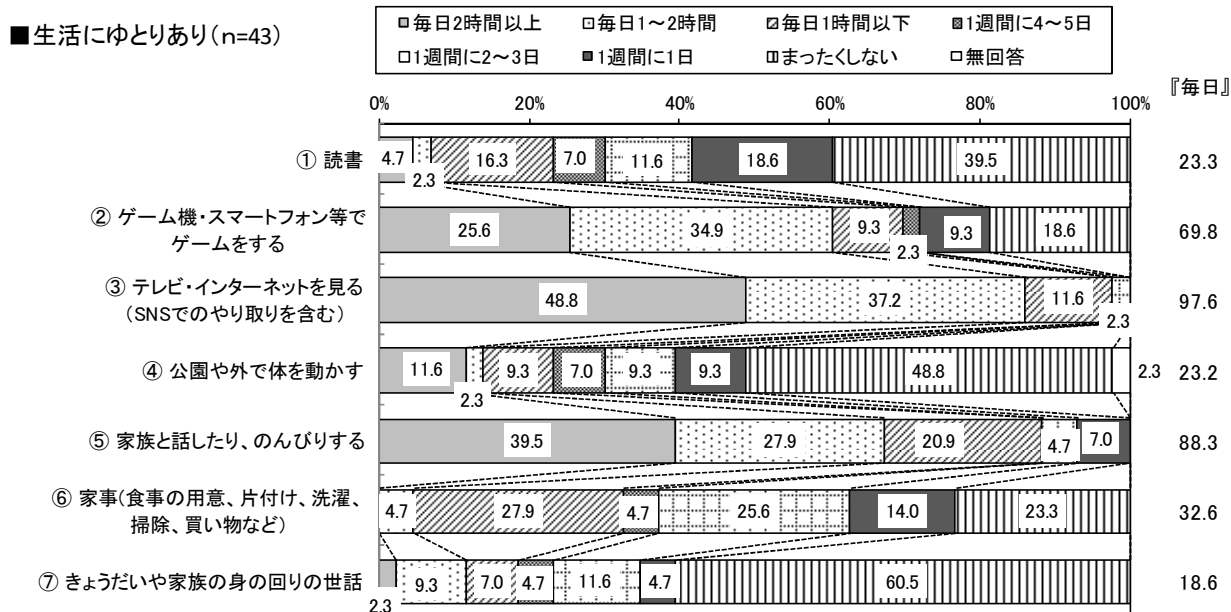


【家の経済状況別・ふつう】各活動にかかる時間

■ふつう(n=146)



【家の経済状況別・生活にゆとりあり】各活動にかかる時間



4. 人とのかかわりについて

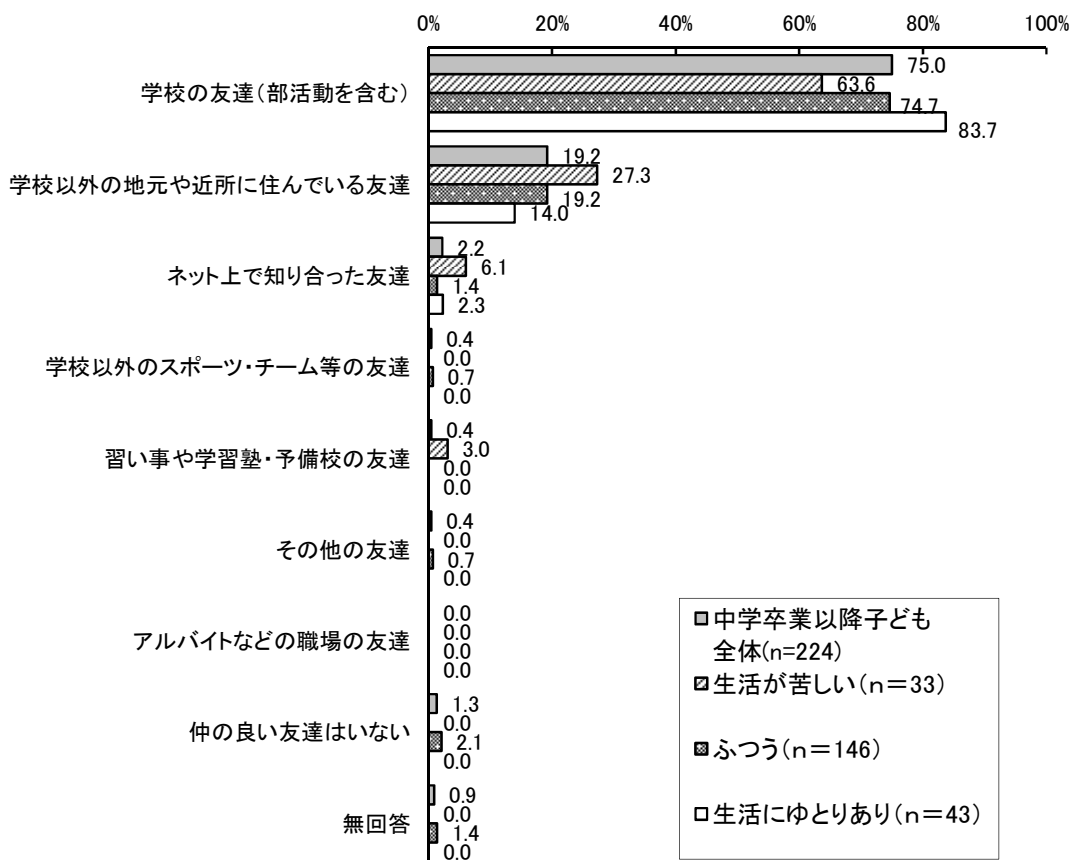
(1) 一番仲の良い友達

問 17 あなたの一番仲が良い友達は、どのような友達ですか。(○は1つ)

一番仲の良い友達について、全体では「学校の友達(部活動を含む)」が75.0%と最も多く、次いで「学校以外の地元や近所に住んでいる友達」19.2%となっている。

家の経済状況別にみると、いずれの層も「学校の友達(部活動を含む)」が最も高くなっているが、生活が苦しい層ほどその割合は低い。反対に、「学校以外の地元や近所に住んでいる友達」割合は、生活が苦しい層ほど高くなっている。

【家の経済状況別】一番仲の良い友達



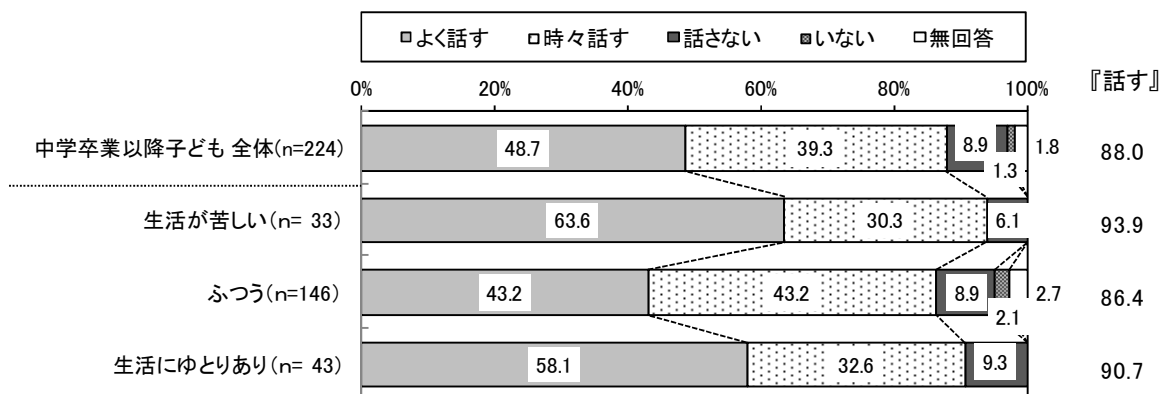
(2) 話す相手と頻度

問 18 あなたは困っていることや悩みごと、楽しいことや悲しいことを、他の人にどれくらい話しますか。それぞれについて、電話、メール、LINEなどのSNSも含めて、最も近いものに○をつけてください。(①～⑦それぞれについて、○は1つ)

① 家族（親）

家族（親）と話す頻度について、全体では、「よく話す」が48.7%、次いで「時々話す」が39.3%となっている。家の経済状況別でみると、「よく話す」と「時々話す」を合わせた『話す』割合は、生活が苦しい層で93.9%であり、他の層を上回る。特に、「よく話す」との回答は生活が苦しい層で63.6%となっており、生活が苦しい層ほど家族（親）とよく会話をする傾向が見られる。

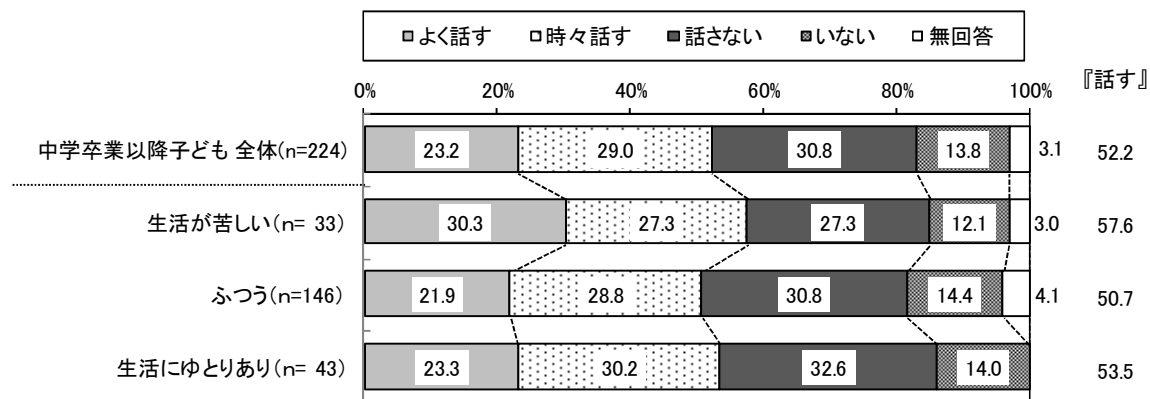
【家の経済状況別】家族（親）と話す頻度



② 家族（兄弟姉妹）

家族（兄弟姉妹）と話す頻度について、全体では、「話さない」30.8%、「時々話す」29.0%、「よく話す」23.2%などの順となっている。家の経済状況別にみると、『話す』割合は生活が苦しい層が最も高い。

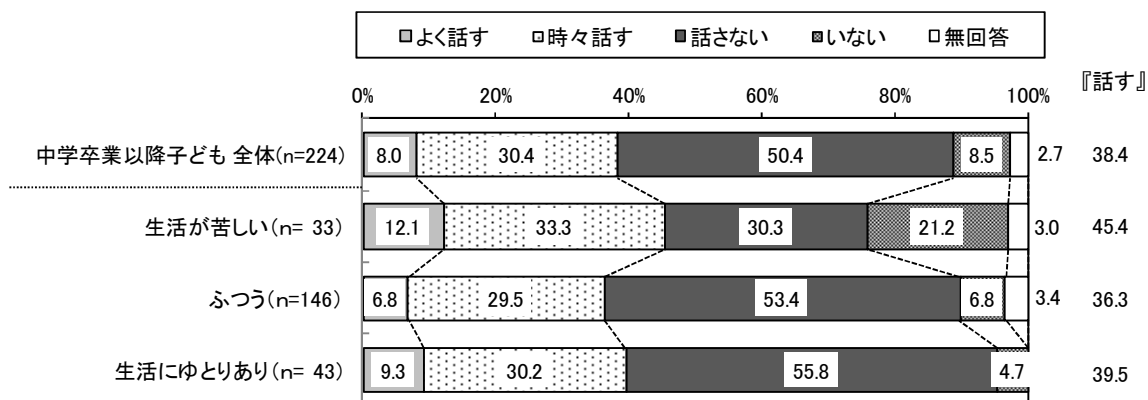
【家の経済状況別】家族（兄弟姉妹）と話す頻度



③ 家族・親戚（祖父母など）

家族・親戚（祖父母など）と話す頻度について、全体では、「話さない」が50.4%と半数以上を占める。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では「いない」が21.2%と他の層を大きく上回るものの、『話す』割合は45.4%と他の層に比べ高くなっている。

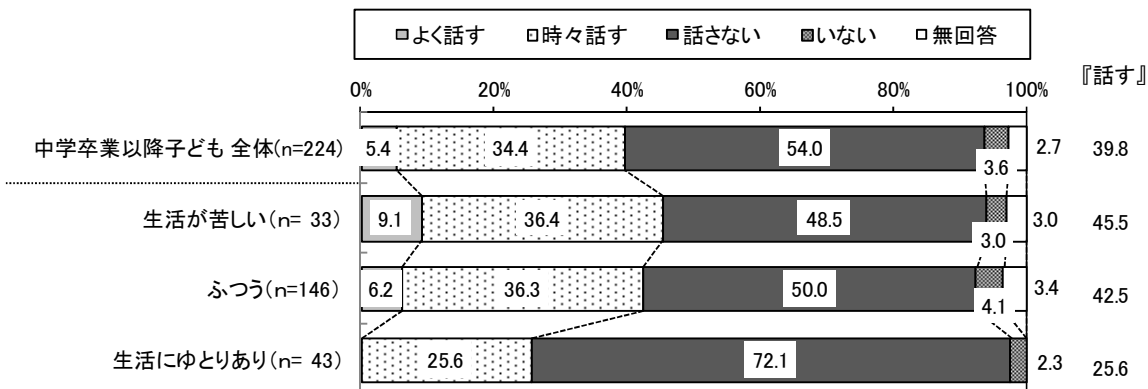
【家の経済状況別】家族・親戚（祖父母など）と話す頻度



④ 学校の先生

学校の先生と話す頻度について、全体では、「話さない」が54.0%と最も高く、次いで、「時々話す」が34.4%となっている。家の経済状況別でみると、『話す』割合は、生活が苦しい層が最も高い。一方で、生活にゆとりがある層では、「話さない」が72.1%と大半を占めており、生活にゆとりがある層ほど、学校の先生との会話の頻度が低いことがうかがえる。

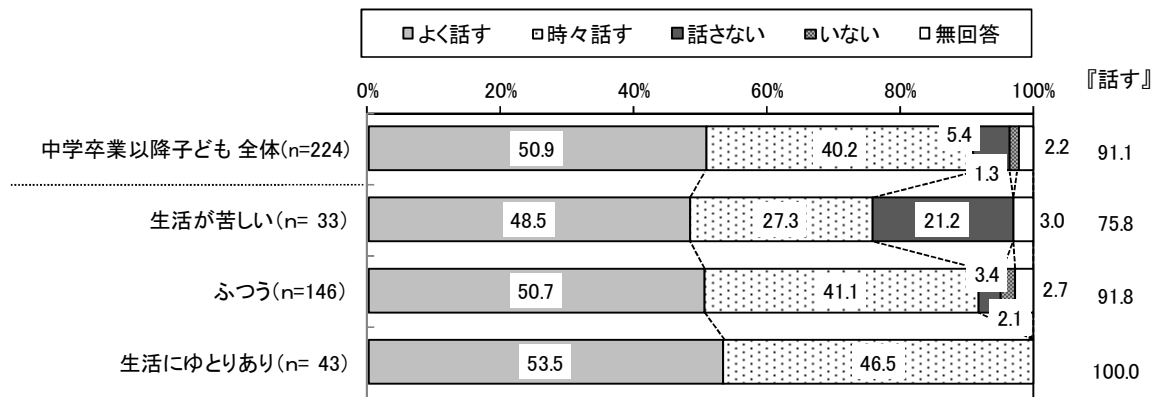
【家の経済状況別】学校の先生と話す頻度



⑤ 友達

友達と話す頻度について、全体では、「よく話す」が50.9%と最も高く、次いで、「時々話す」が40.2%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「話さない」割合が他の層を大きく上回るなど、生活が苦しい層ほど友達と話す頻度が低い傾向にある。

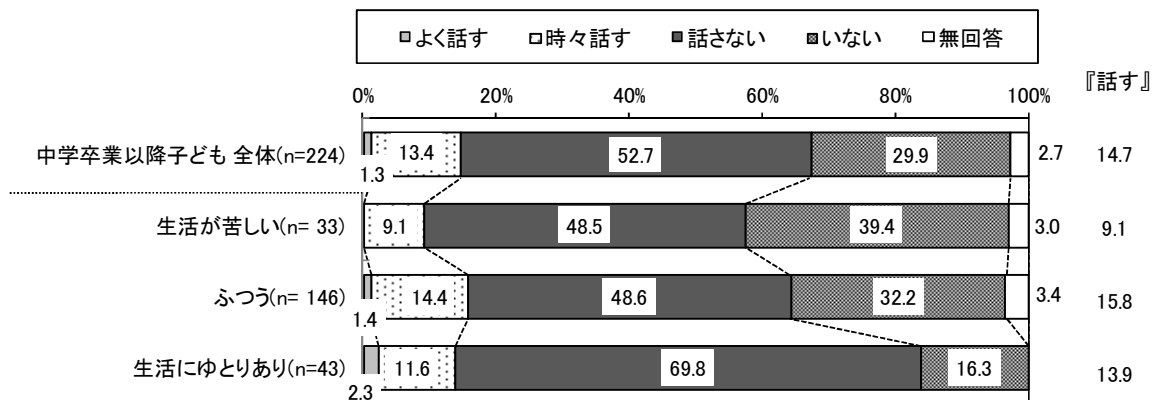
【家の経済状況別】友達と話す頻度



⑥ 家族・学校の先生以外の大人

家族・学校の先生以外の大人と話す頻度について、全体では、「話さない」が52.7%と最も高く、次いで「いない」が29.9%となっている。家の経済状況別にみると、いずれの層も「話さない」が最も高く、生活が苦しい層では「いない」との回答も多くなっている。

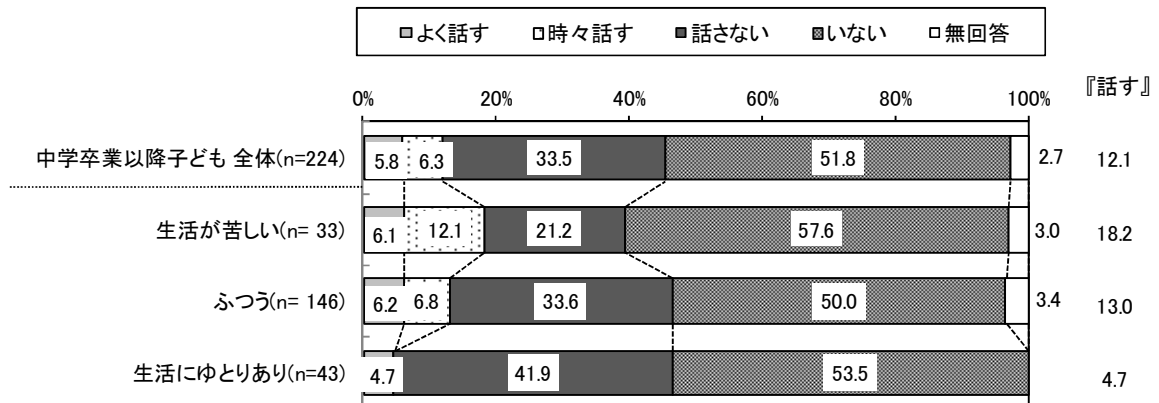
【家の経済状況別】家族・学校の先生以外の大人と話す頻度



⑦ インターネットで知り合った人

インターネットで知り合った人と話す頻度について、全体では、「いない」が51.8%で最も高く、次いで「話さない」が33.5%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「いない」が57.6%で他の層を上回るものの、『話す』割合は生活が苦しい層ほど高くなっている。

【家の経済状況別】インターネットで知り合った人と話す頻度



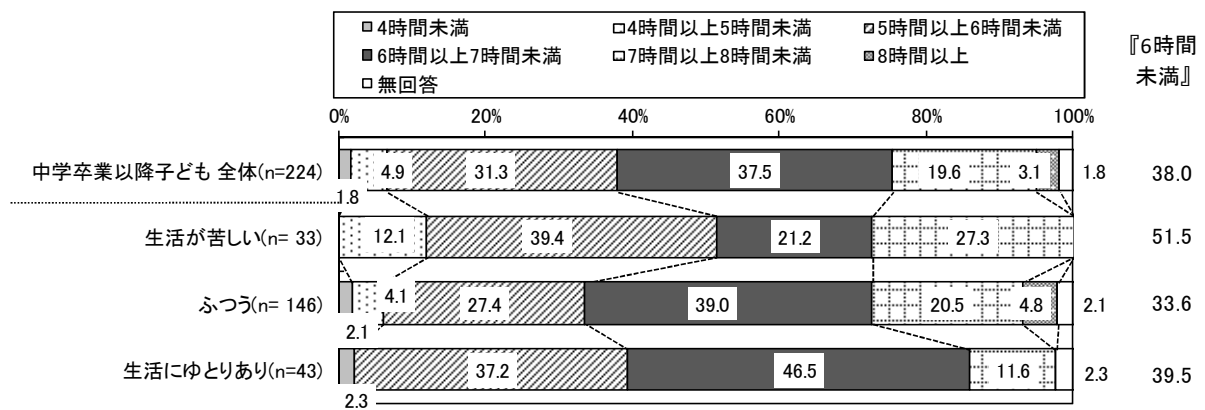
5. 食事や健康のことについて

(1) 平日の睡眠時間

問 19 あなたは、平均して、平日（学校や仕事に行く日）の睡眠時間はどのくらいですか。（○は1つ）

睡眠時間について、全体では、「6時間以上7時間未満」が37.5%と最も高く、次いで「5時間以上6時間未満」31.3%、「7時間以上8時間未満」19.6%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、『6時間未満』の割合が半数を占め、他の層を大きく上回る。

【家の経済状況別】平日の睡眠時間



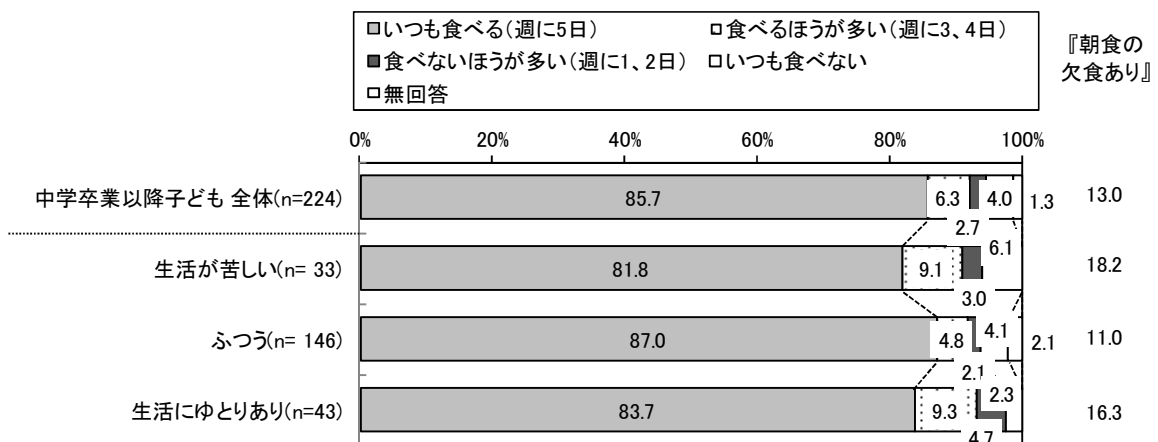
(2) 朝食の摂取状況

問 20 あなたは、平日（学校や仕事に行く日）に朝ごはんを食べますか。（○は1つ）

朝食の摂取について、全体では、「いつも食べる（週に5日）」85.7%が最も高く、次いで大きく差があり「食べる方が多い（週3、4日）」6.3%となっている。

家の経済状況別にみると、「食べる方が多い（週に3、4日）」「食べない方が多い（週に1、2日）」「いつも食べない」を合計した『朝食の欠食あり』の割合は、生活が苦しい層でやや多いものの、大きな差は見られない。

【家の経済状況別】朝食の摂取状況



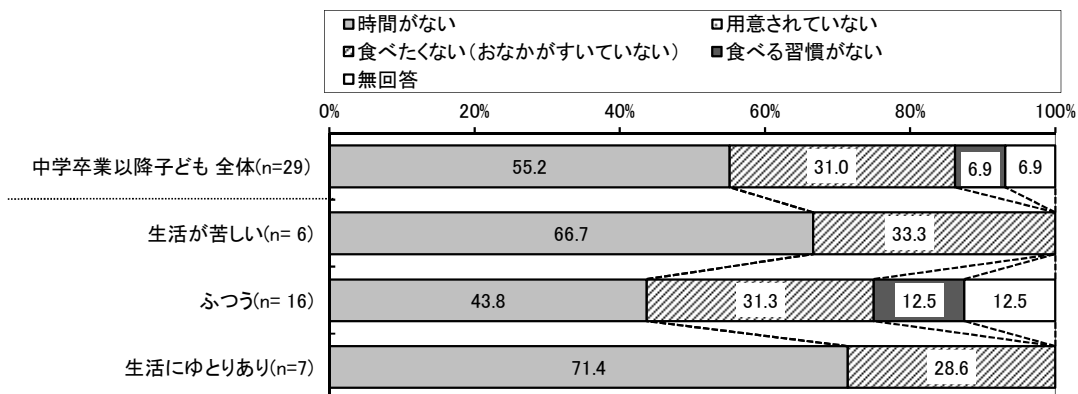
(3) 朝食を取らない理由

【問20で「1. いつも食べる」以外を回答した方におうかがいします。】

問20-1 あなたが朝ごはんを食べないとき、その理由は何ですか。(○は1つ)

朝食を取らない理由について、全体では、「時間がない」が55.2%で最も高く、次いで「食べたくない(おなかがすいていない)」31.0%となっている。家の経済状況別にみると、いずれの層も「時間がない」が最も高く、「用意されていない」という理由は0%となっている。

【家の経済状況別】朝食を食べない理由



(4) 食品の摂取状況

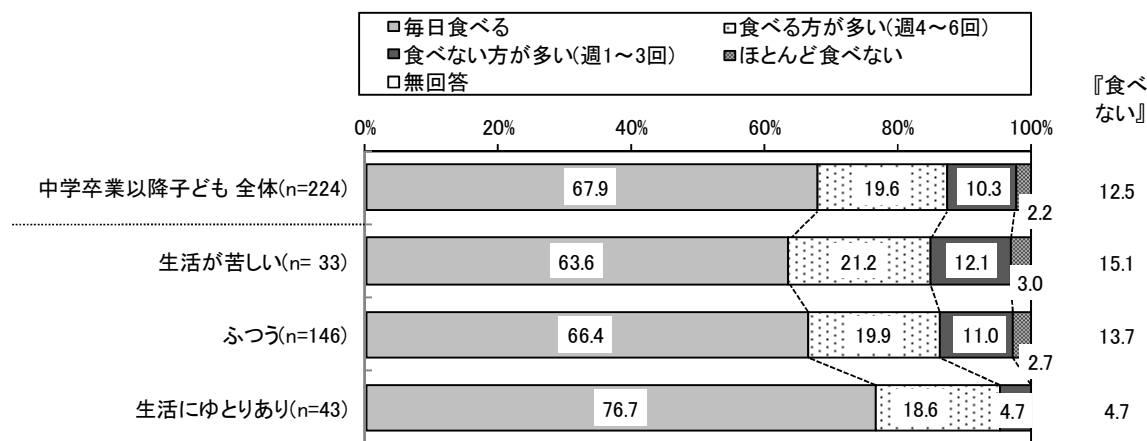
【すべての方におうかがいします。】

問 21 あなたは、普段、つぎの食べ物をどれくらい食べますか。(①～⑥それぞれについて、○は1つ)

① 野菜

野菜の摂取状況について、全体では、「毎日食べる」が67.9%、次いで「食べる方が多い(週4～6回)」が19.6%となっている。家の経済状況別でみると、生活が苦しい層では「食べない方が多い(週1～3回)」と「ほとんど食べない」を合わせた『食べない』割合が他の層を上回る。一方、生活にゆとりがある層では、「毎日食べる」が76.7%と他の層を上回るなど、生活にゆとりがある層ほど野菜を食べる頻度が高い傾向にある。

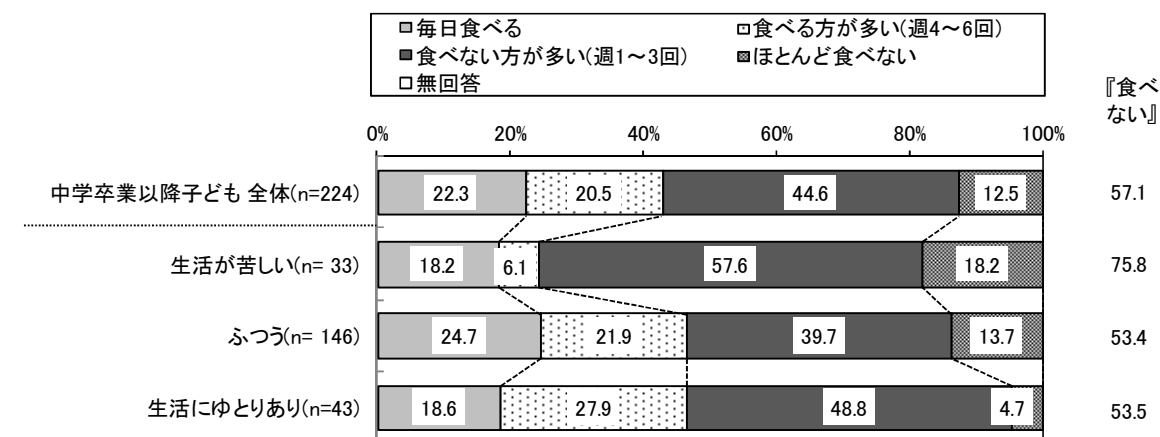
【家の経済状況別】野菜を食べる頻度



② 果物

果物の摂取状況について、全体では「食べない方が多い」が44.6%と最も高く、次いで「毎日食べる」22.3%となっている。家の経済状況別でみると、生活が苦しい層では、『食べない』が75.8%と他の層を大きく上回る。

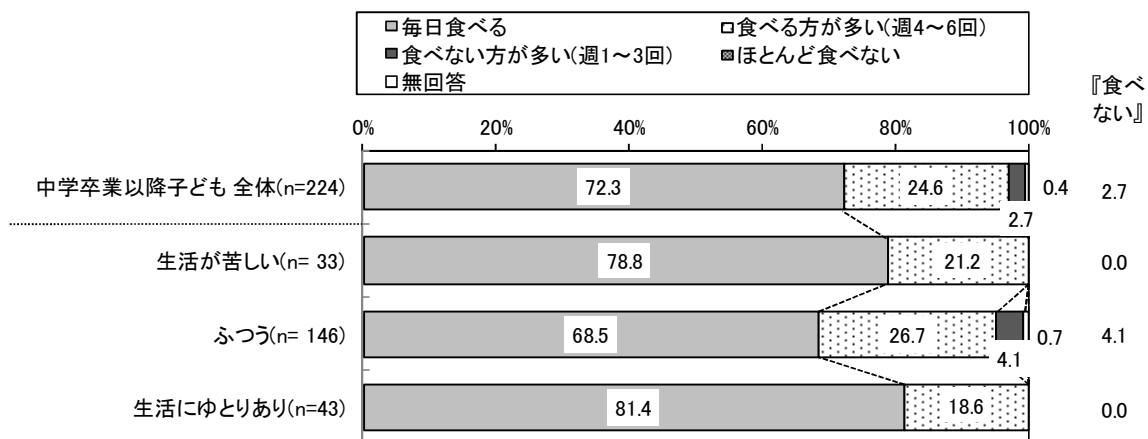
【家の経済状況別】果物を食べる頻度



③ 肉か魚

肉か魚の摂取状況について、全体では「毎日食べる」が72.3%と大半を占め、次いで「食べる方が多い(週4～6回)」が24.6%となっている。家の経済状況別にみると、いずれの層も「毎日食べる」が最も高くなっているが、ふつうの層では「毎日食べる」割合が低くなっている。

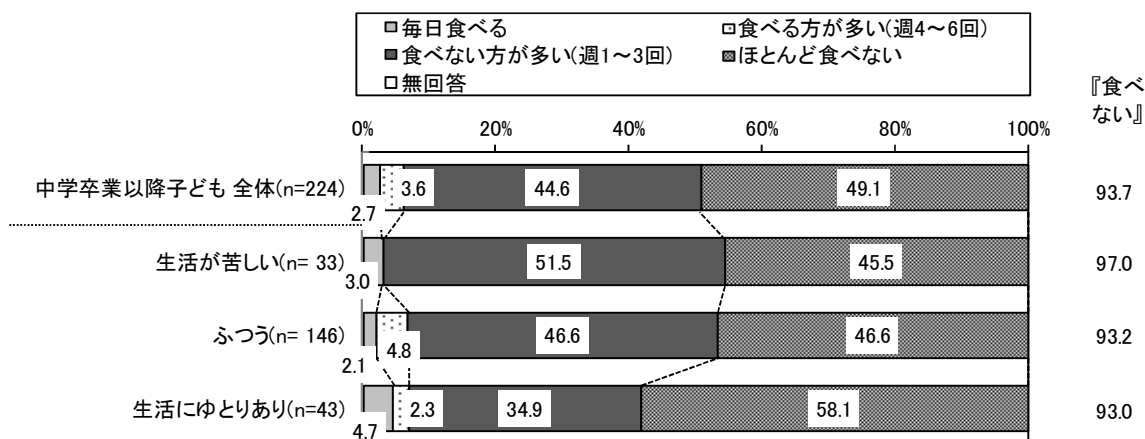
【家の経済状況別】肉か魚を食べる頻度



④ カップ麺・インスタント麺

カップ麺・インスタント麺の摂取状況について、全体では、「ほとんど食べない」49.1%、「食べない方が多い(週1～3回)」44.6%となっている。家の経済状況別にみると、『食べない』割合はいずれの層もが9割を超えている。その一方で、「毎日食べる」との回答は、生活が苦しい層では3.0%、ふつうの層で2.1%、生活にゆとりのある層で4.7%と、家の経済状況に限らず一定数存在する。

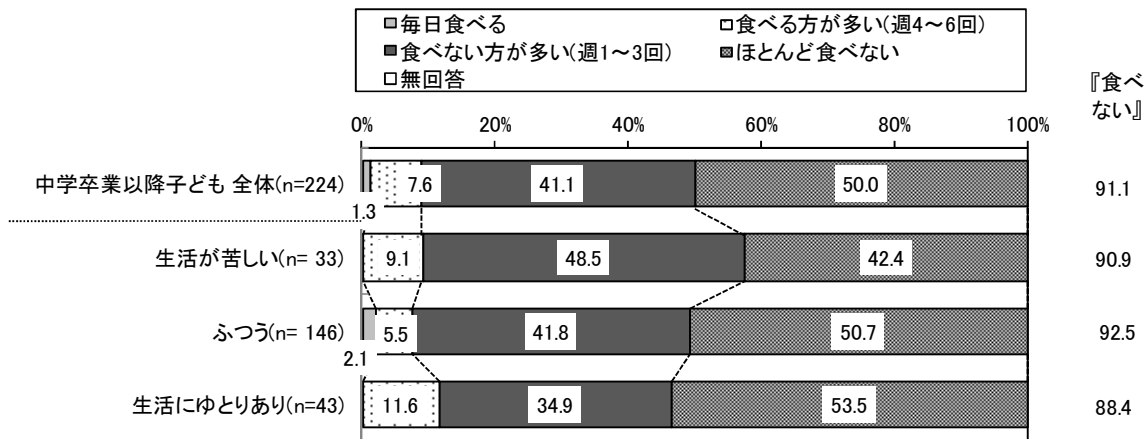
【家の経済状況別】カップ麺・インスタント麺を食べる頻度



⑤ コンビニのおにぎり・お弁当

コンビニのおにぎり・お弁当の摂取状況は、全体では「ほとんど食べない」が50.0%、「食べない方が多い(週1~3回)」が41.1%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、『食べない』は90.9%と他の層を上回るが、「ほとんど食べない」は42.4%と、他の層を大きく下回る。

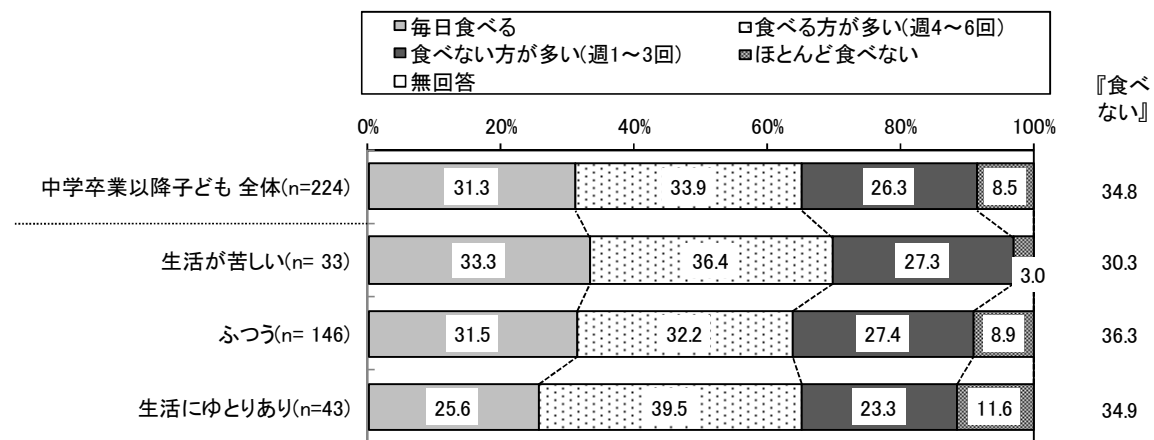
【家の経済状況別】コンビニのおにぎり・お弁当を食べる頻度



⑥ お菓子

お菓子の摂取状況について、全体では、「食べる方が多い(週4~6回)」が33.9%で最も高く、次いで「毎日食べる」が31.3%となっている。一方で、『食べない』割合は34.8%となっている。家の経済状況別にみると、『毎日食べる』回答は、生活が苦しい層の33.3%が他の層を上回る。反対に、「ほとんど食べない」は3.0%と、ふつうの層の8.9%と、生活にゆとりがある層の11.6%を大きく下回り、生活が苦しい層ほどお菓子の摂取頻度が高い傾向にある。

【家の経済状況別】お菓子を食べる頻度

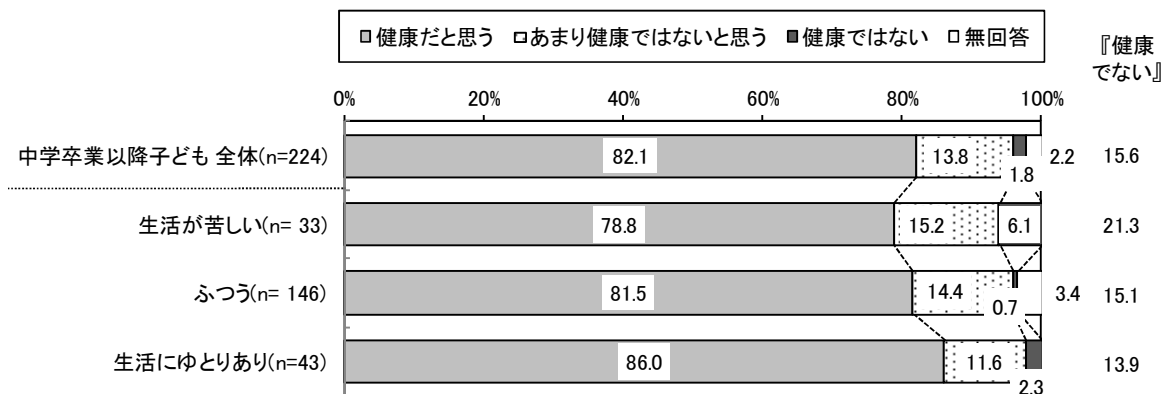


(5) 回答者の健康状態

問 22 あなたは今、健康ですか。(○は1つ)

健康状態について、全体では、「健康だと思う」が82.1%で、「あまり健康ではないと思う」と「健康ではない」を合わせた『健康でない』15.6%を大きく上回る。家の経済状況別にみると、『健康でない』は、生活が苦しい層で21.3%と最も高く、生活が苦しい層ほど健康状態が良くない傾向がみられる。

【家の経済状況別】回答者の健康状態



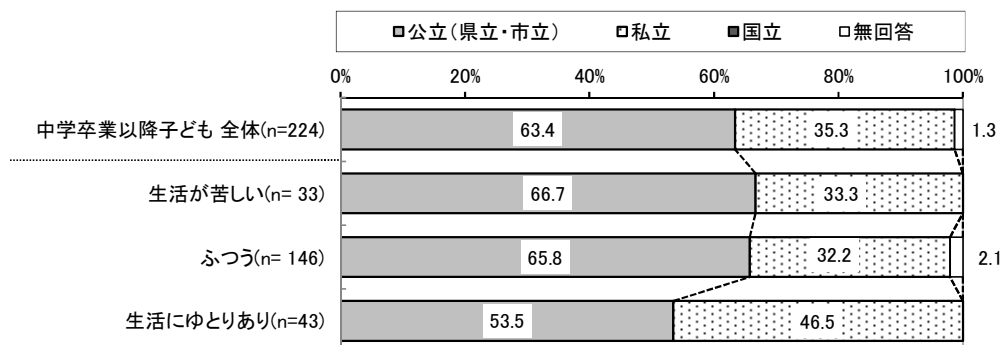
6. 学校のことや勉強について

(1) 在籍する学校の種類

問 23 あなたの在籍する（在籍していた）学校の種類を教えてください。（○は1つ）

在籍する学校について、全体では「公立（県立・市立）」63.4%が「私立」35.3%を上回る。家の経済状況別にみると、生活にゆとりがある層で「私立」の割合が高くなっている。

【家の経済状況別】在籍する学校の種類



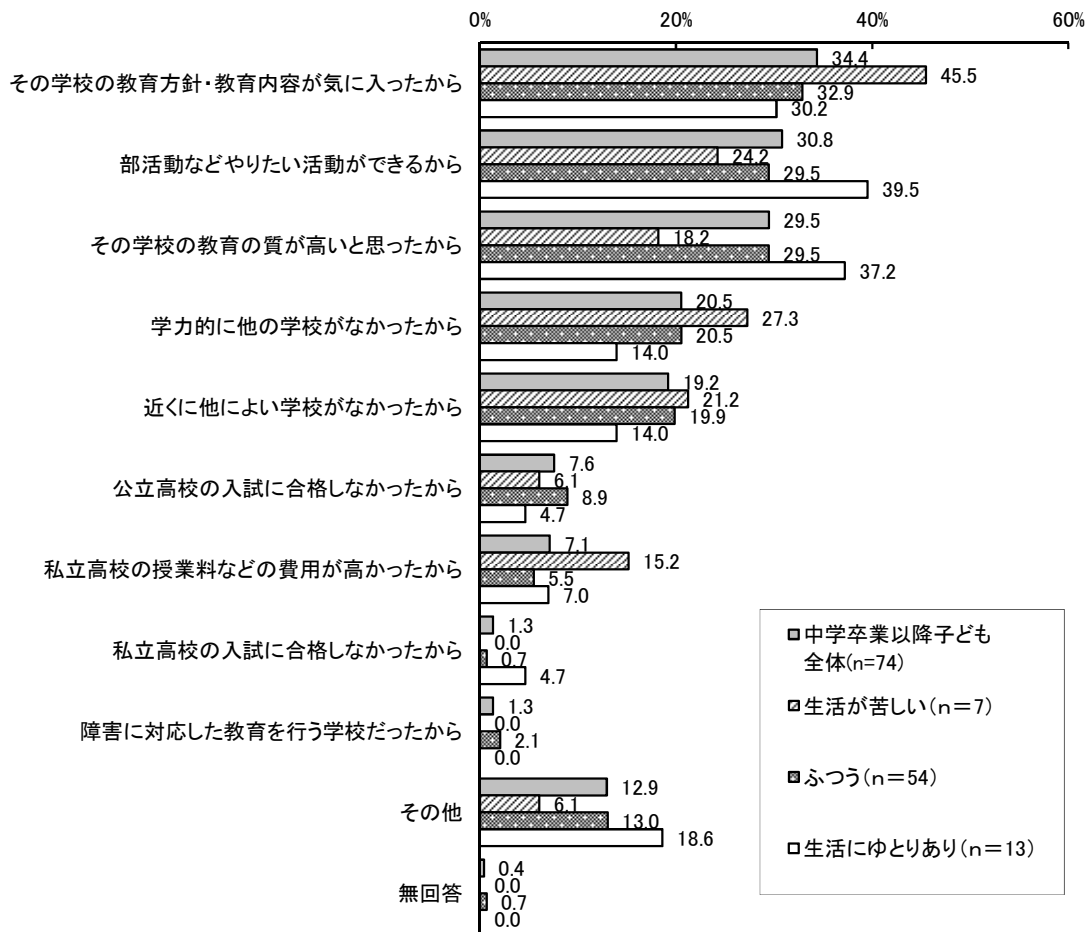
(2) 在籍する学校に進学した理由

問 23-1 その学校に進学したのはなぜですか。（あてはまるものすべてに○）

進学した理由について、全体では「その学校の教育方針・教育内容が気に入ったから」34.4%が最も多く、次いで「部活動などやりたい活動はできるから」30.8%、「その学校の教育の質が高いと思ったから」29.5%の順となっている。

家の経済状況別にみると、生活が苦しい層で「その学校の教育方針・教育内容が気に入ったから」「学力的に他の学校がなかったから」「私立高校の授業料などの費用が高かったから」などの回答が他の層を上回る。一方で、生活にゆとりがある層では、「部活動などやりたい活動ができるから」「その学校の教育の質が高いと思ったから」との回答が多くなっている。

【家の経済状況別】在籍する学校に進学した理由

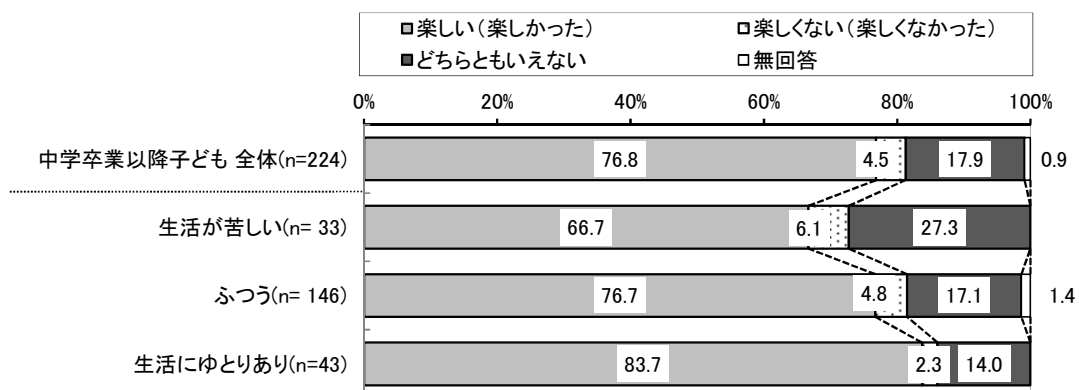


(3) 学校生活は楽しいか

問 24 あなたは、学校生活が楽しい(楽しかった)ですか。(○は1つ)

学校生活について、全体では「楽しい(楽しかった)」76.8%が「楽しくない(楽しなかった)」4.5%を上回る。家の経済状況別では、生活にゆとりがある層ほど「楽しい(楽しかった)」、生活が苦しい層ほど「どちらともいえない」との回答がそれぞれ多くなっている。

【家の経済状況別】学校生活は楽しいか

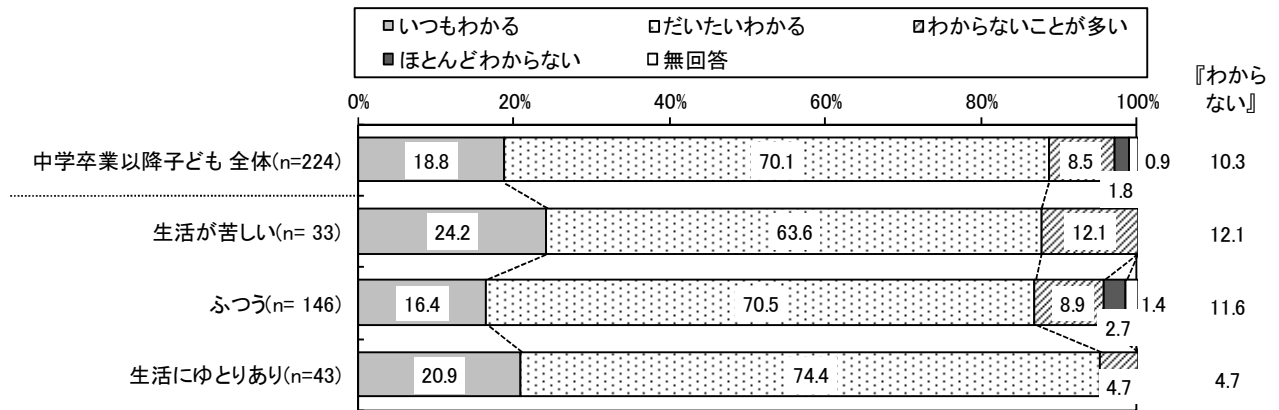


(4) 学校の授業の理解度

問 25 あなたは、学校の授業がわかりますか（わかりましたか）。（○は1つ）

学校の授業について、全体では「だいたいわかる」70.1%が最も多い。家の経済状況別では、「ほとんどわからない」と「わからないことが多い」を合わせた『わからない』割合は、生活が苦しい層ほど高い傾向にある。

【家の経済状況別】学校の授業の理解度



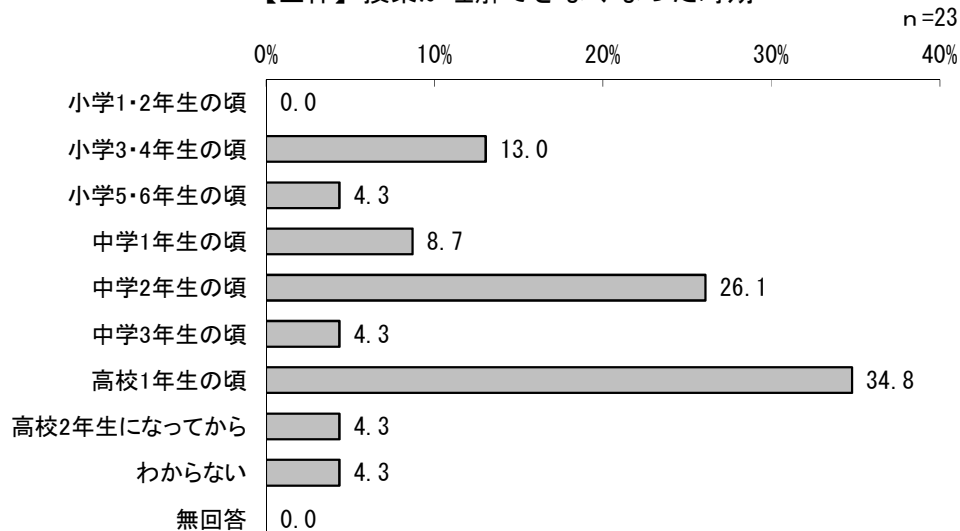
(5) 授業が理解できなくなった時期

【問 25 で「3 わからないことが多い」、「4 ほとんどわからない」と回答した方におうかがいします。】

問 25-1 izzごろから、授業がわからなくなりましたか。（○は1つ）

授業が理解できなくなった時期について、「高校1年生の頃」が34.8%と最も多く、次いで「中学2年生の頃」26.1%、「小学3・4年生の頃」13.0%の順となっている。

【全体】授業が理解できなくなった時期

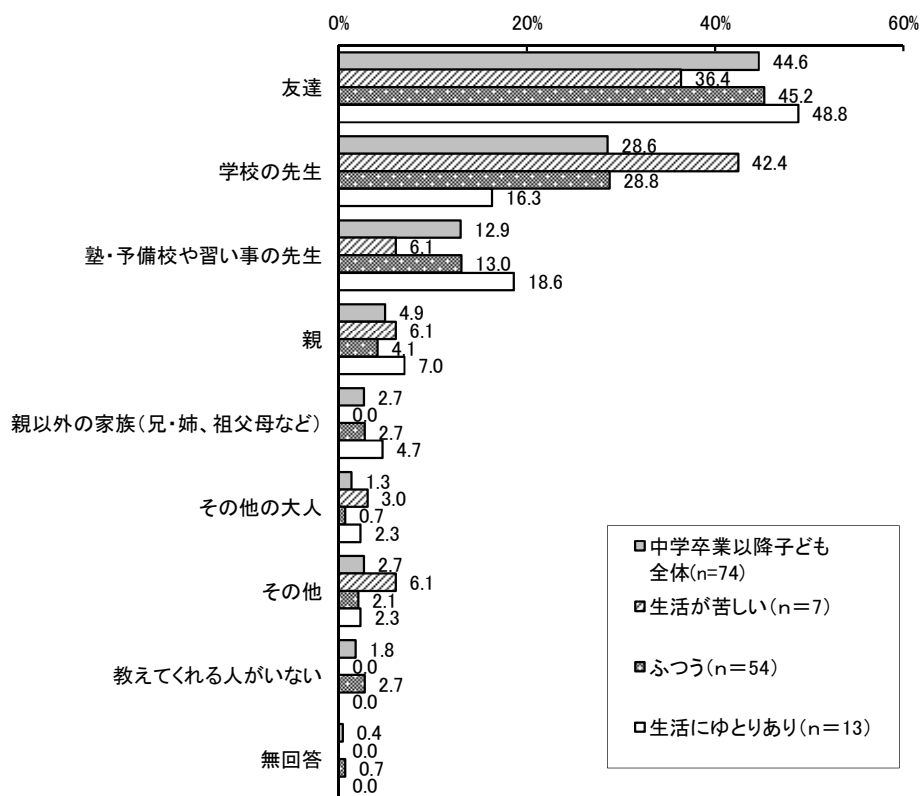


(6) 勉強がわからない時に質問する相手

問 26 勉強がわからない時は、だれに教えてもらいますか（教えてもらいましたか）。
 (○は1つ)

勉強がわからない時に質問する相手について、全体では「友達」が44.6%で最も高く、次いで「学校の先生」28.6%となっている。家の経済状況別にみると、生活にゆとりがある層ほど「友達」「塾・予備校や習い事の先生」の割合が高くなっている。一方、生活が苦しい層では「学校の先生」との回答が他の層を大きく上回る。

【家の経済状況別】勉強がわからない時に質問する相手

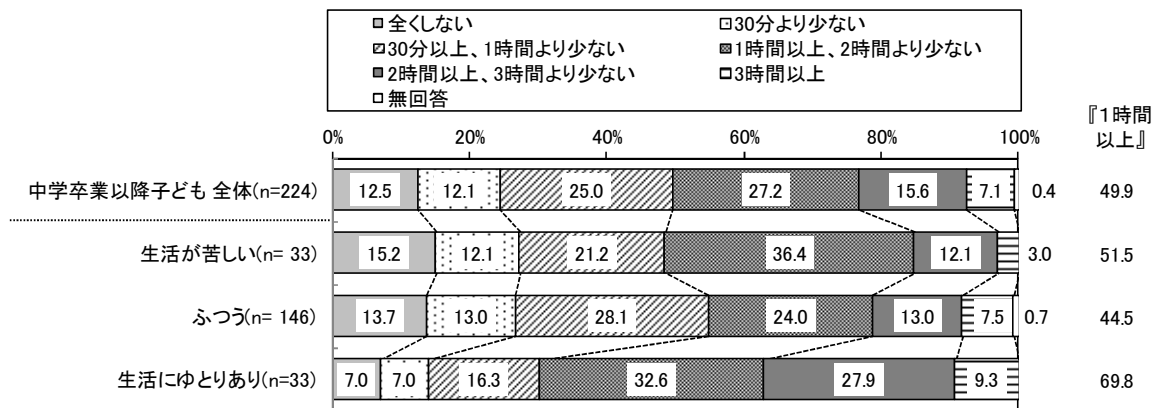


(7) 授業以外の学習時間

問 27 あなたは、ふだん(月～金曜日)学校の授業以外にどれくらいの時間、勉強をしますか。
1日あたりの勉強時間を教えてください。(○は1つ) ※塾などでの時間も含まれます。

授業以外の学習時間について、全体では「1時間以上、2時間より少ない」が27.2%、「30分以上、1時間より少ない」が25.0%となっている。家の経済状況別にみると、「1時間以上、2時間より少ない」から「3時間以上」までを合わせた『1時間以上』は、生活にゆとりがある層で約7割と他の層を大きく上回る。

【家の経済状況別】授業以外の学習時間

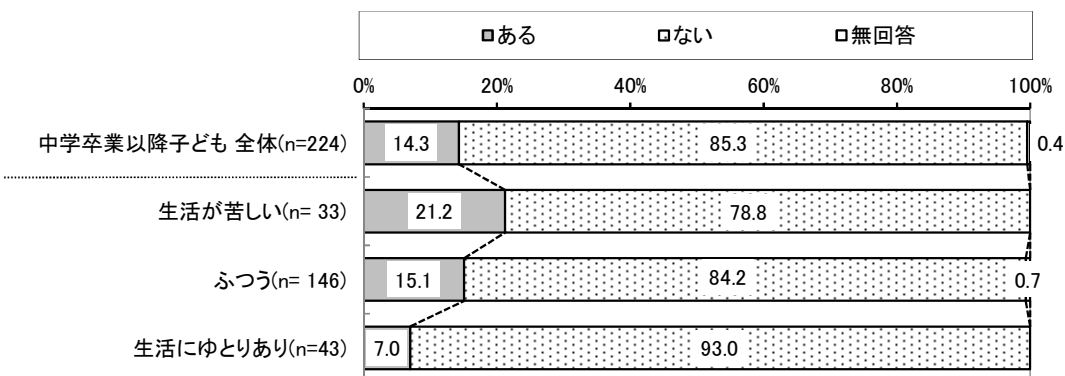


(8) 学校をやめたくなくなるほど悩んだ経験

問 28 あなたは、これまでに学校をやめたくなくなるほど、悩んだことがありますか。
(○は1つ)

学校をやめたくなくなるほど悩んだ経験について、全体では「ない」85.3%が「ある」14.3%を上回る。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層ほど「ある」割合が高くなっている。

【家の経済状況別】学校をやめたくなくなるほど悩んだ経験



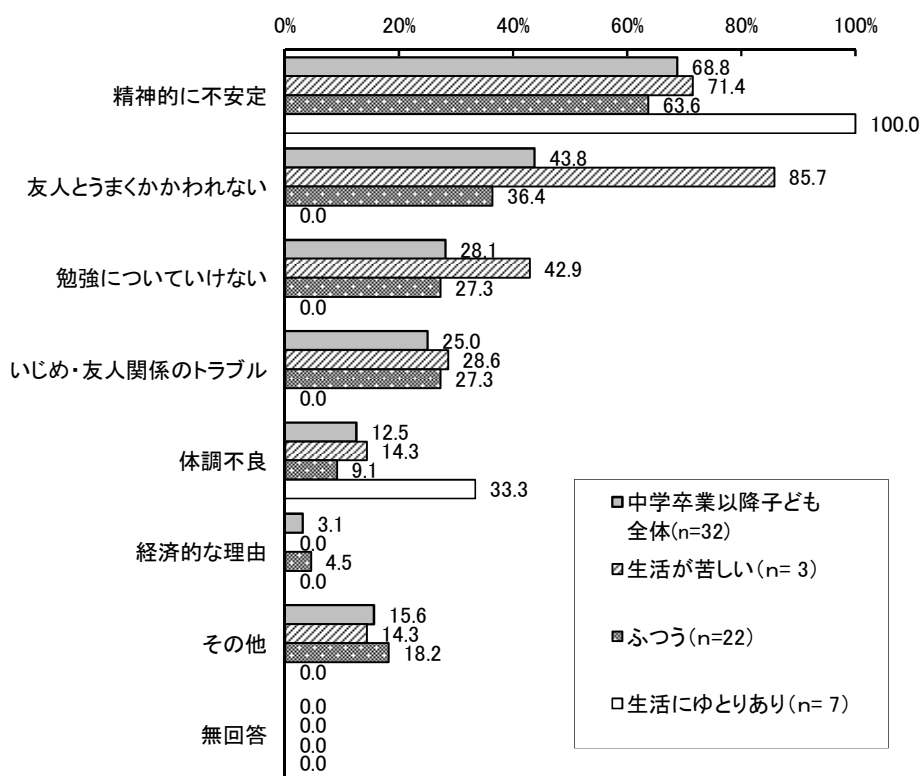
(9) 学校をやめたくなるほど悩んだ理由

【問28で「1. ある」と回答した方におうかがいします。】

問28-1 その理由にあてはまるものがあればお答えください。(あてはまるものすべてに○)

学校をやめたくなるほど悩んだ理由について、全体では「精神的に不安定」が68.8%で最も高く、次いで「友人とうまくかかわれない」43.8%、「勉強についていけない」28.1%、「いじめ・友人関係のトラブル」25.0%などの順となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層で「友人とうまくかかわれない」、生活にゆとりがある層で「精神的に不安定」の割合が高くなっている。

【家の経済状況別】学校をやめたくなるほど悩んだ理由



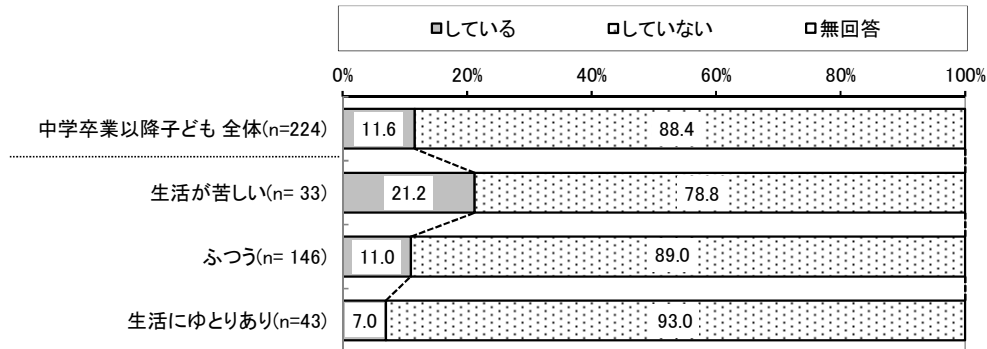
7. アルバイトなど仕事について

(1) 収入を伴う仕事の有無

問 29 あなたは、収入を伴う仕事（学生のアルバイト含む）をしていますか。（○は1つ）

収入を伴う就労の有無について、全体では「していない」88.4%が「している」11.6%を大きく上回る。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層ほど「している」割合が高くなっている。

【家の経済状況別】収入を伴う仕事の有無

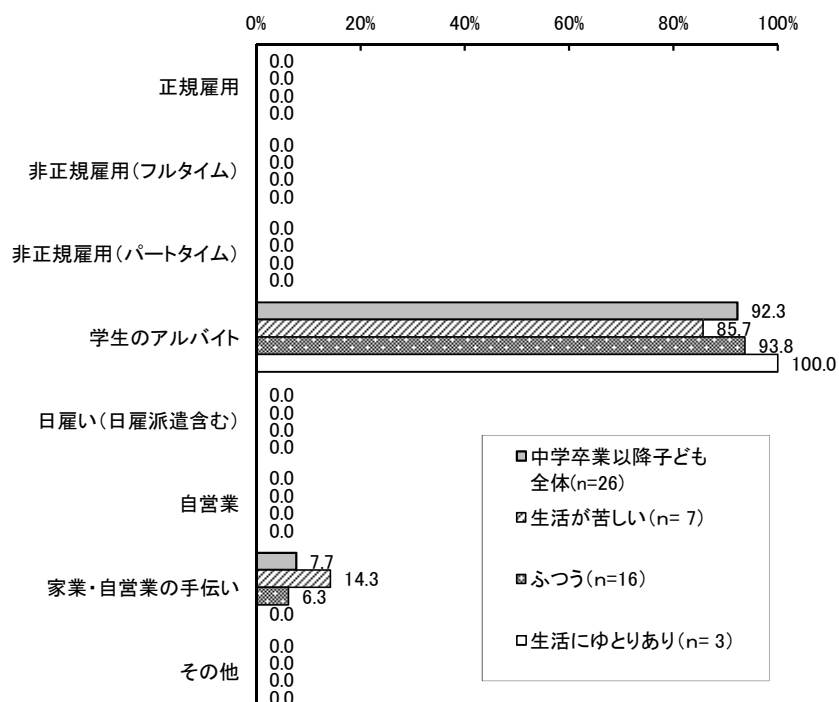


(2) 雇用形態

問 29-1 【収入を伴う仕事（学生のアルバイトを含む）をしている方にお聞きします。】
あなたの現在のお仕事の雇用形態を教えてください。複数のお仕事をお持ちの場合は、主な仕事についてお答えください。（○は1つ）

雇用形態について、全体では、「学生のアルバイト」が92.3%、「家業・自営業の手伝い」7.7%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層で「家業・自営業の手伝い」の割合が他の層を上回る。

【家の経済状況別】雇用形態

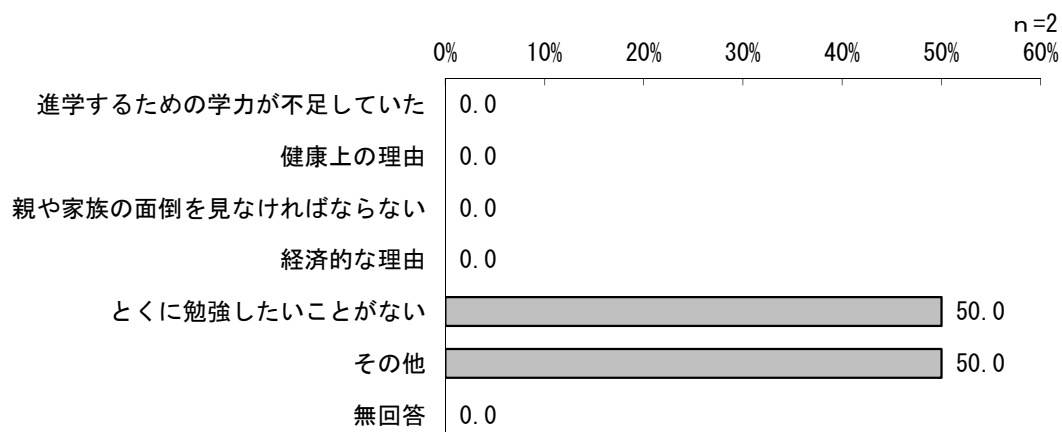


(3) 進学を選択しなかった理由

問 29-2 【問 29-1 で「4. 学生のアルバイト」以外を選択した方にお聞きします。
あなたが進学を選ばなかった最も主な理由は何ですか。(○は1つ)

進学を選択しなかった理由について、該当者はふつうの層に1人、生活が苦しい層に1人であるが、ふつうの層では「とくに勉強したいことがない」が50.0%（1人）、生活が苦しい層で「その他」50.0%（1人）となっている。

【全体】進学を選択しなかった理由

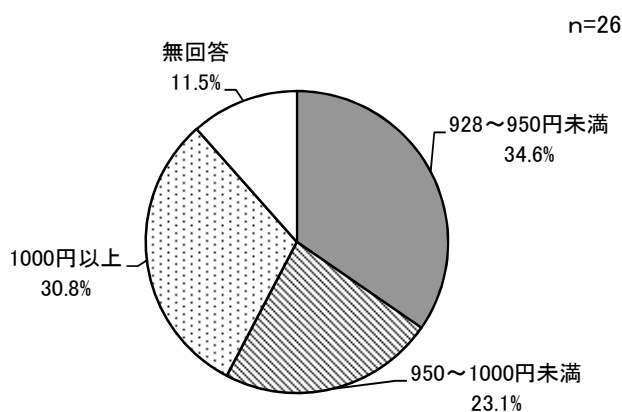


(4) 時給

問 29-3 時給にするとどのくらいになりますか。(数字を記入)

時給について、全体では「928～950円未満」が34.6%、「1,000円以上」30.8%、「950円～1,000円未満」23.1%の順となっている。

【全体】時給

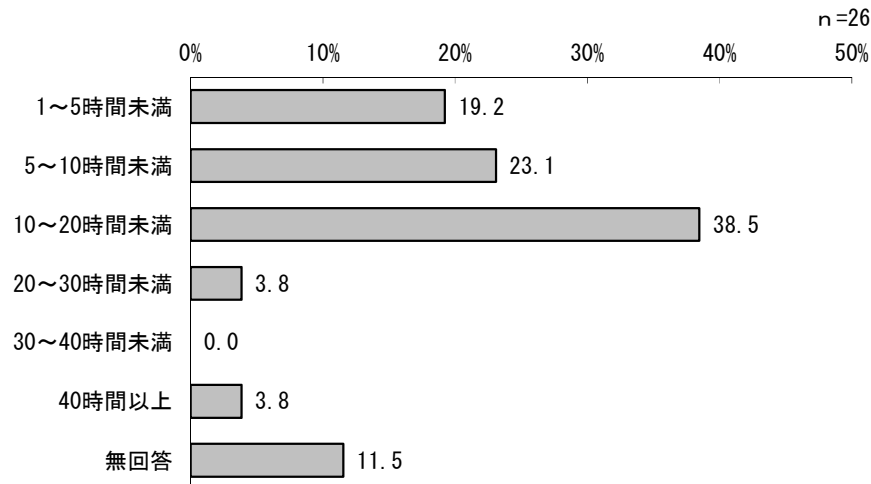


(5) 1週間あたりの勤務時間

問 29-4 現在、1週間あたり、平均何時間程度働いていますか。(数字を記入)

1週間あたりの勤務時間について、全体では「10～20時間未満」38.5%と最も多く、次いで「5～10時間未満」23.1%、「1～5時間未満」19.2%の順となっている。

【全体】1週間あたりの勤務時間

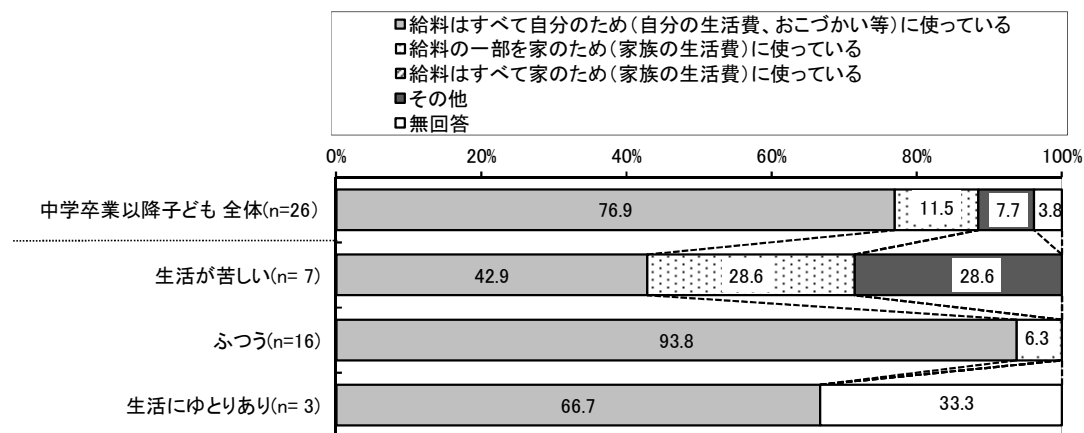


(6) 給料の使い途

問 30 給料（アルバイト代）を何に使っていますか。(○は1つ)

給料の使い途について、全体では「給料はすべて自分のため(自分の生活費、おこづかい等)に使っている」が76.9%と最も多く、次いで「給料の一部を家のため(家族の生活費)に使っている」11.5%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層で、「給料の一部を家のため(家族の生活費)に使っている」が28.6%と他の層を上回る。

【家の経済状況別】給料の使い途



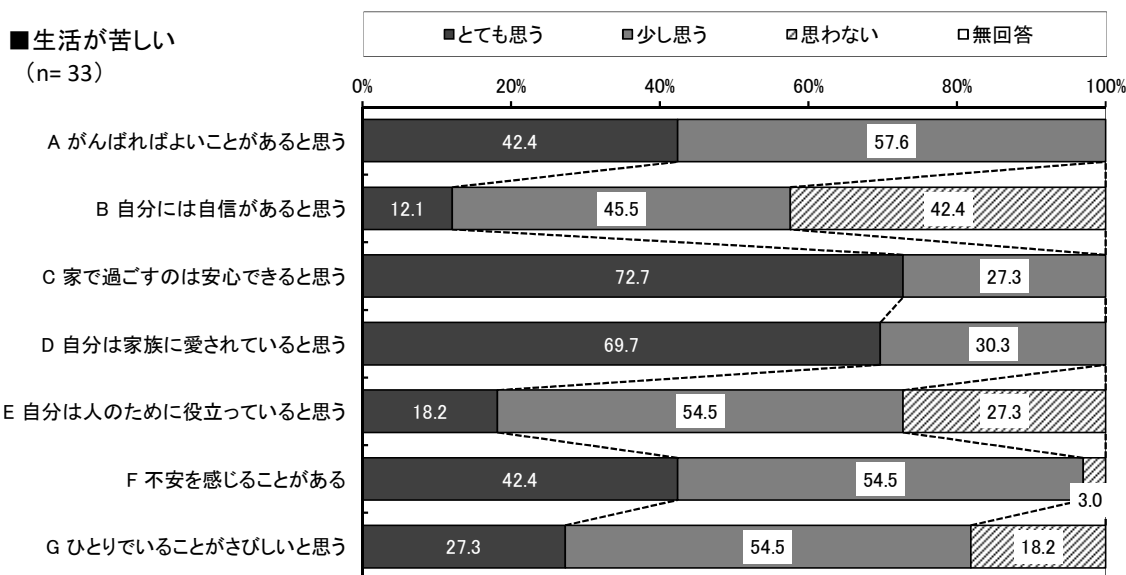
8. 回答者自身の気持ちや考えについて

(1) こころの状況や自己肯定感等

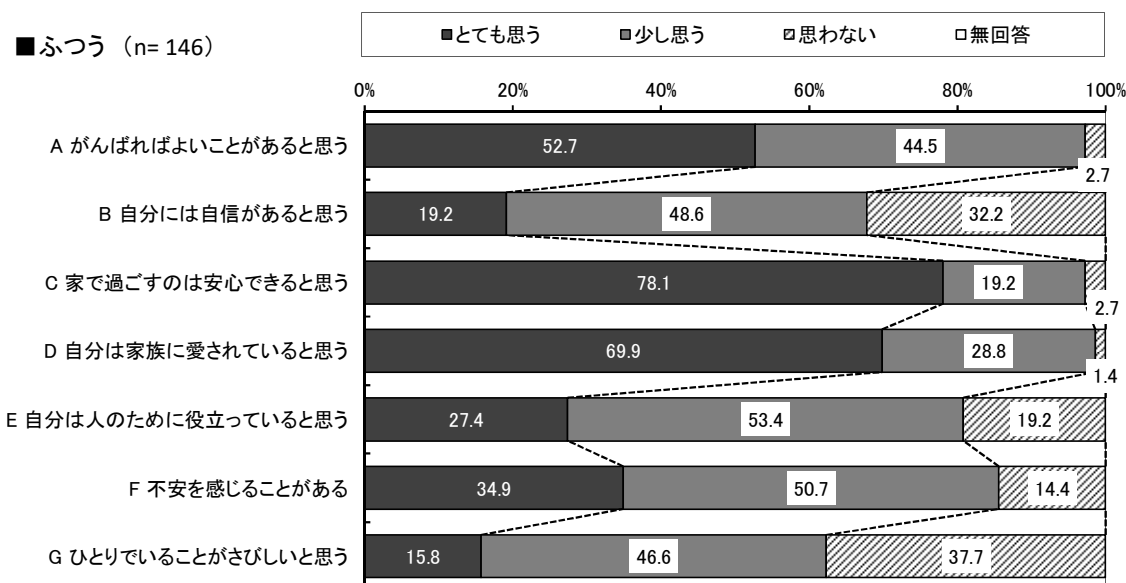
問31 あなたは、次のA～Gの質問について、どのように思いますか。(A～Gそれぞれについて、○は1つ)

家の経済状況別では、「A がんばればよいことがあると思う」「C 家で過ごすのは安心できると思う」「D 自分は家族に愛されていると思う」などのポジティブな内容では、生活にゆとりがある層ほど「とても思う」割合が多くなっている。一方で、「F 不安を感じることもある」「G ひとりであることがさびしいと思う」などのネガティブな内容では、生活が苦しい層で「とても思う」割合が他の層を上回る。

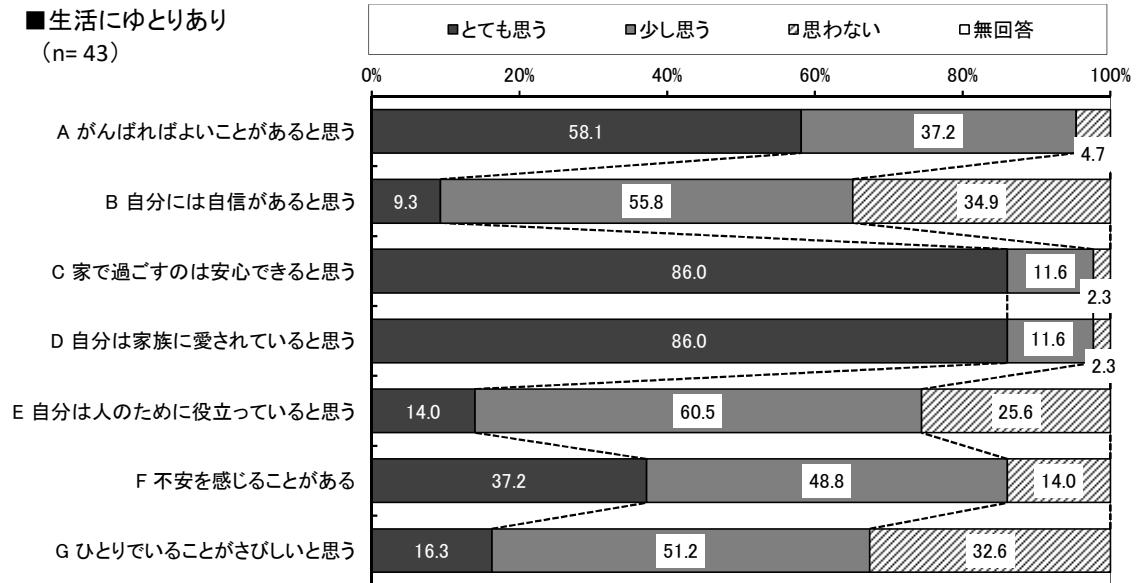
【家の経済状況別・生活が苦しい】こころの状況や自己肯定感



【家の経済状況別・ふつう】こころの状況や自己肯定感



【家の経済状況別・生活にゆとりあり】こころの状況や自己肯定感



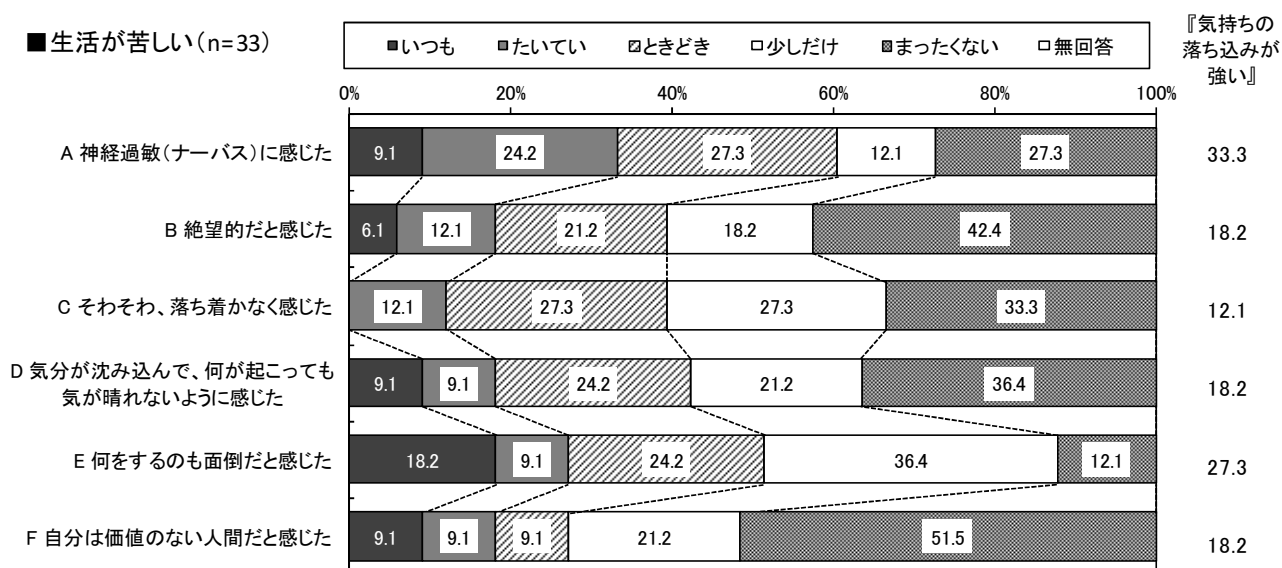
(2) 回答者自身の気持ちについて

問 32 次のA～Fの質問について、この1か月間のあなたの気持ちはどのようでしたか。(A～Fそれぞれについて、○は1つ)

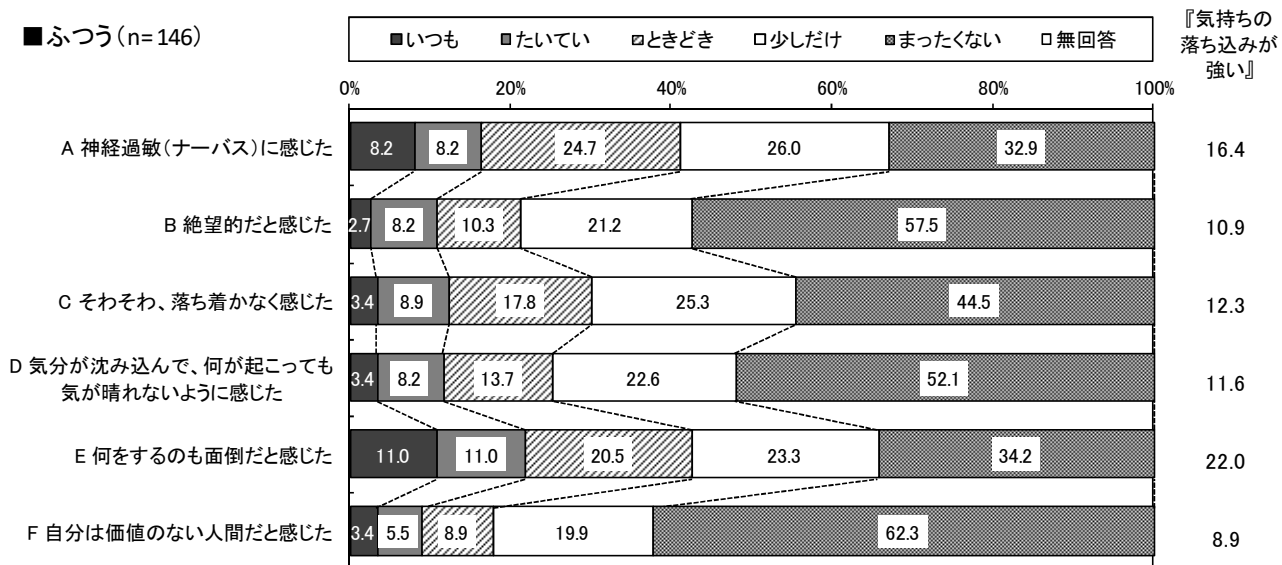
回答者の気持ちについて、家の経済状況別にみると「A 神経過敏(ナーバス)に感じた」「B 絶望的だと感じた」「D 気分が沈み込んで、何が起ころても気が晴れないように感じた」「F 自分は価値のない人間だと感じた」など多くの項目で、生活が苦しい層で「いつも」「たいてい」を合わせた『気持ちの落ち込みが強い』割合が高くなっている。

反対に、「E 何をするのも面倒だと感じた」「C そわそわ、落ち着かなく感じた」は、生活にゆとりがある層で高くなっている。

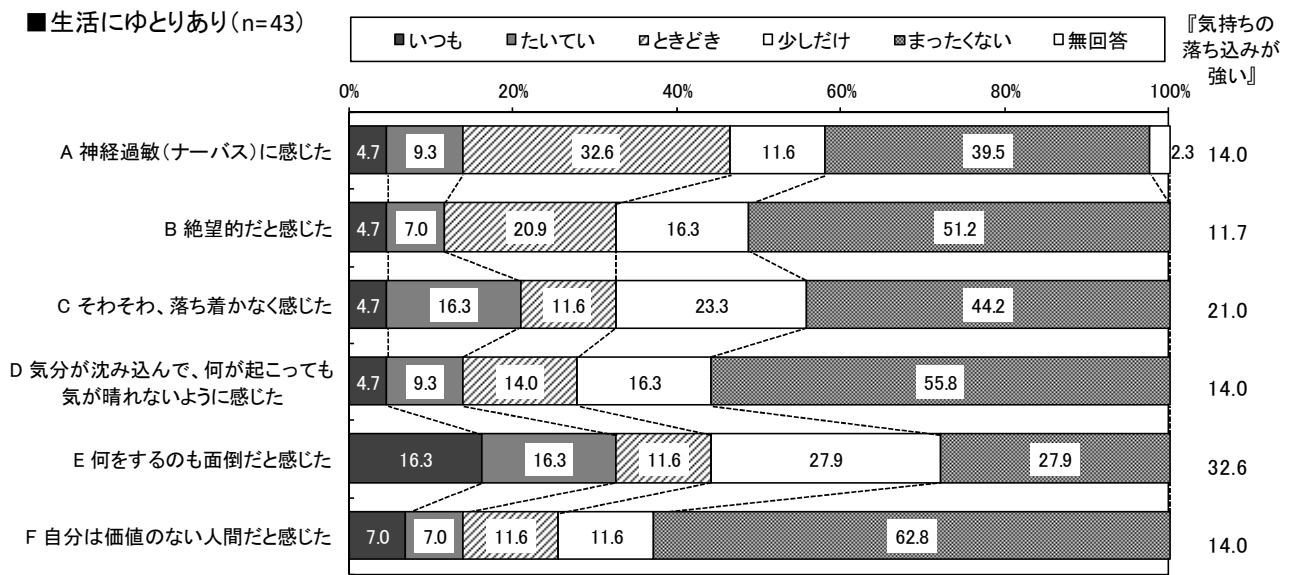
【家の経済状況別・生活が苦しい】回答者自身の気持ちについて



【家の経済状況別・ふつう】回答者自身の気持ちについて



【家の経済状況別・生活にゆとりあり】回答者自身の気持ちについて



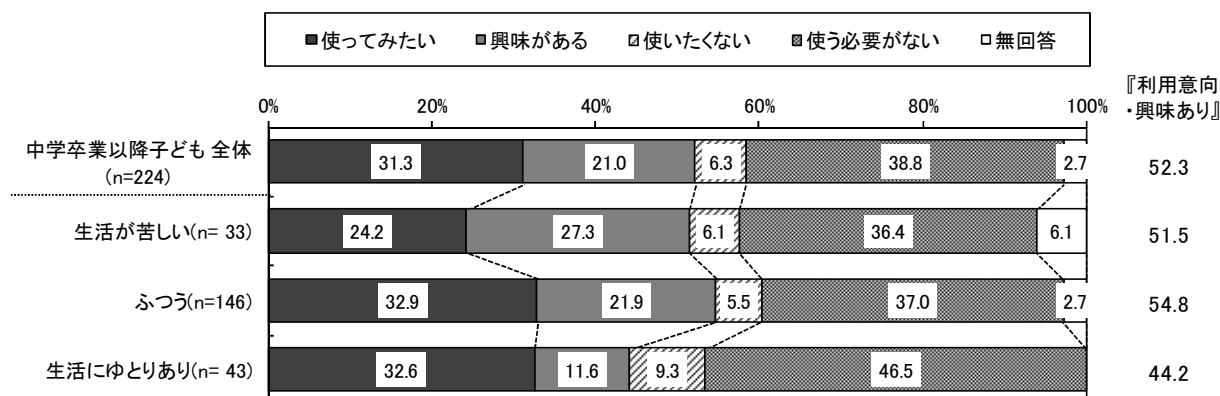
(3) サービス等の利用意向

問 33 以下のような場所やサービスがあれば使ってみたいと思いますか。(①～⑨それぞれについて、○は1つ)

① 平日の放課後に夜までいることができる場所

平日の放課後に夜までいることができる場所について、全体では「使わない必要がない」が38.8%、「使ってみたい」が31.3%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「使ってみたい」が24.2%と他の層よりも低くなっている。「使ってみたい」と「興味がある」を合わせた『利用意向・興味あり』は、ふつう層の54.8%が最も高い。

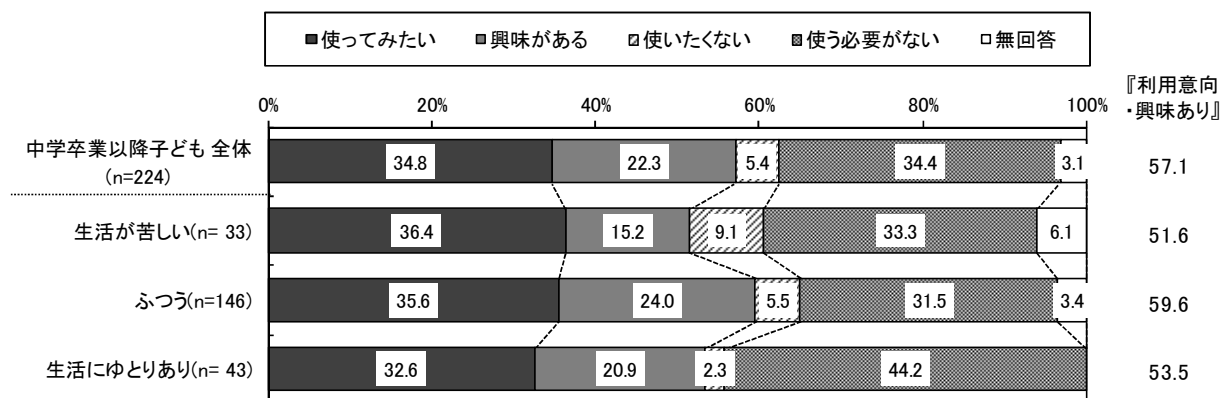
【家の経済状況別】平日放課後に夜までいることができる場所の利用意向



② (家以外で) 休日にいることができる場所

休日にいることができる場所について、全体では「使ってみたい」が34.8%、「使う必要がない」が34.4%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「使ってみたい」が他の層をやや上回るが、『利用意向・興味あり』はふつう層の59.6%が最も高い。

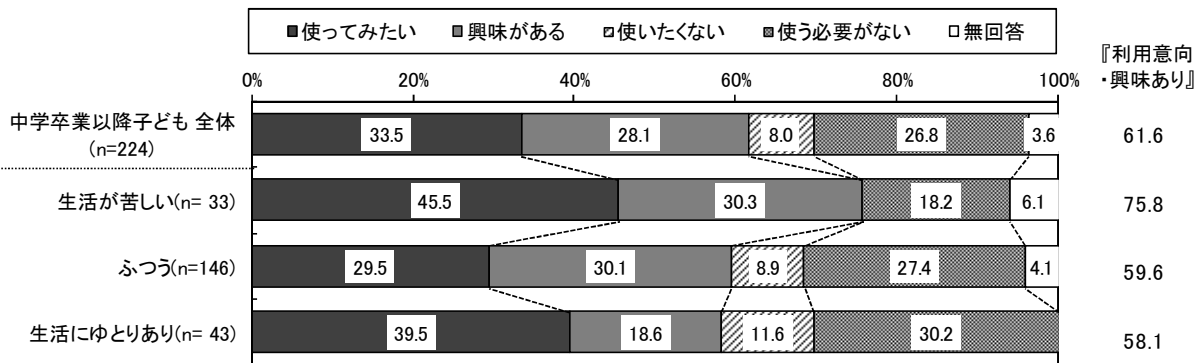
【家の経済状況別】休日にいることができる場所の利用意向



③ 学校における無料の給食サービス

学校における無料の給食サービスについて、全体では、「使ってみたい」が33.5%、「興味がある」が28.1%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「使ってみたい」が45.5%と他の層を大きく上回り、『利用意向・興味あり』の割合についても、生活が苦しい層で7割を超え、他の層に比べ高くなっている。

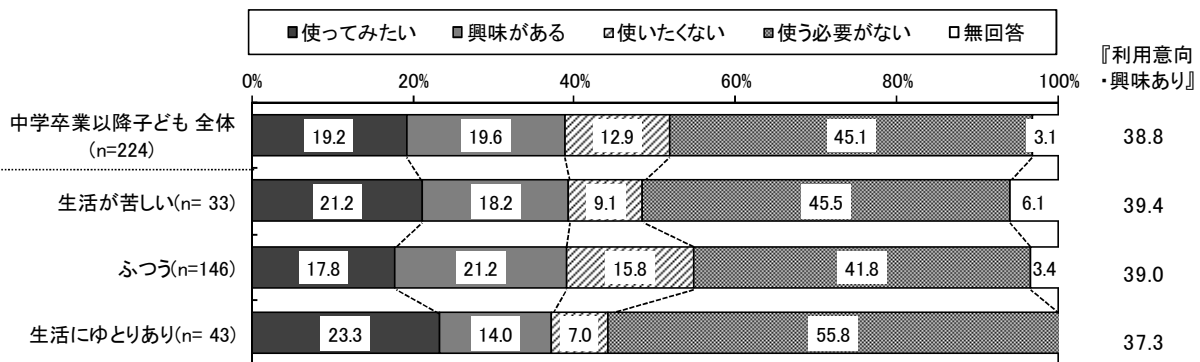
【家の経済状況別】学校における無料の給食サービスの利用意向



④ (家以外で) 家の人がいないうち、低額・無料で夕ごはんを他の人と食べることができる場所

低額・無料で夕飯を食べることができる場所について、全体では、「使う必要がない」が45.1%、次いでやや差があり「興味がある」19.6%、「使ってみたい」19.2%となっている。家の経済状況別にみても、大きな差はみられない。

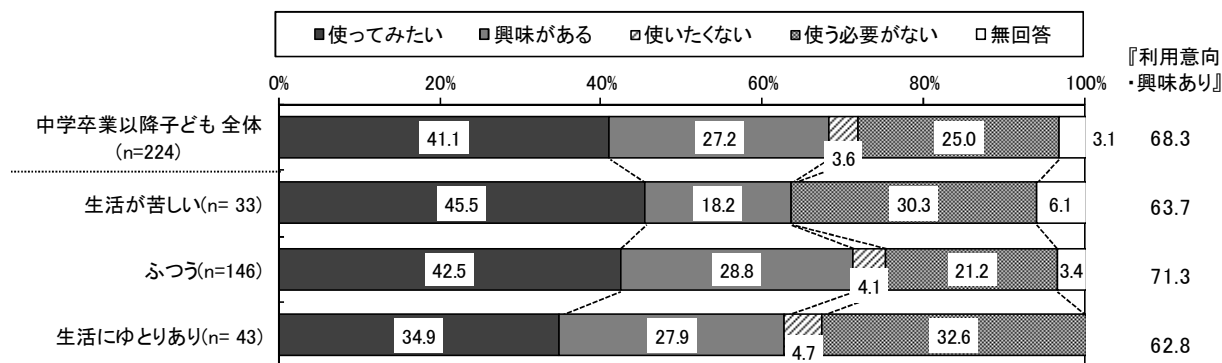
【家の経済状況別】低額・無料で夕飯を食べることができる場所の利用意向



⑤ 家で勉強できない時、静かに勉強できる場所

家で勉強できない時、静かに勉強できる場所については、全体では、「利用してみたい」が41.1%で最も高く、次いで「興味がある」が27.7%、「使わない必要がない」が25.0%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では『利用意向・興味あり』の割合はふつうの層を下回るものの、「使ってみたい」割合は他の層を上回る。

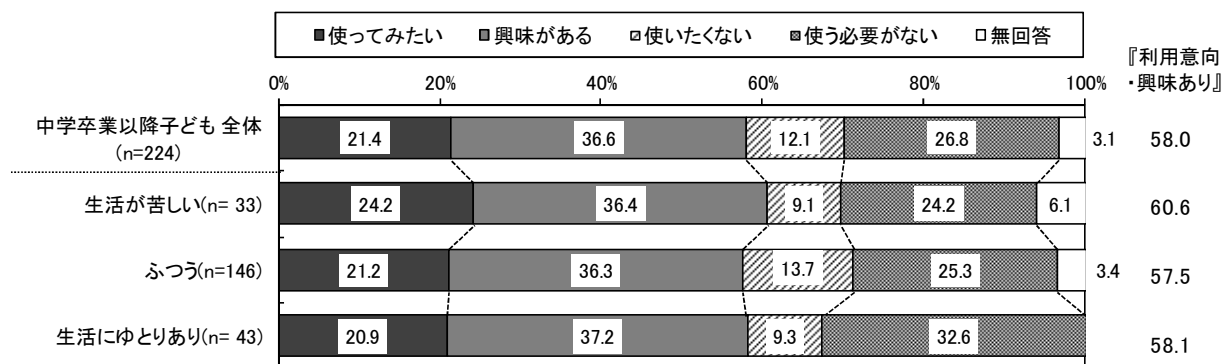
【家の経済状況別】家で勉強できない時、静かに勉強できる場所の利用意向



⑥ 大学生のボランティアなどが勉強をみてる場所

大学生のボランティアなどが勉強をみてる場所について、全体では、「興味がある」が36.6%で最も高く、次いで「使わない必要がない」が26.8%となっている。家の経済状況別にみると、『利用意向・興味あり』の割合は、生活が苦しい層が他の層を上回る。

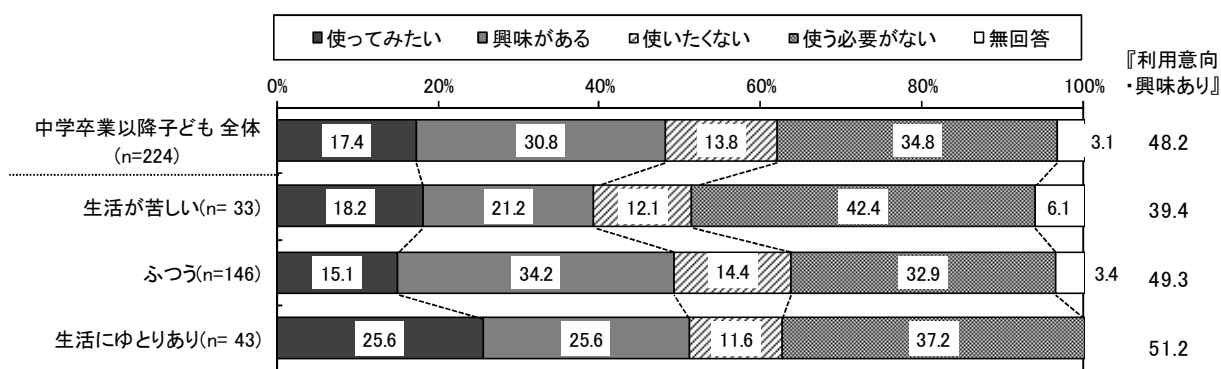
【家の経済状況別】大学生のボランティアなどが勉強をみてる場所の利用意向



⑦ (学校以外で) 進路や勉強、家族のことなどなんでも相談できる場

進路や勉強、家族のことなどなんでも相談できる場について、全体では、「使う必要がない」が34.8%、「興味がある」が30.8%となっている。家の経済状況別にみると、『利用意向・興味あり』の割合は、生活にゆとりがある層ほど高くなっている。

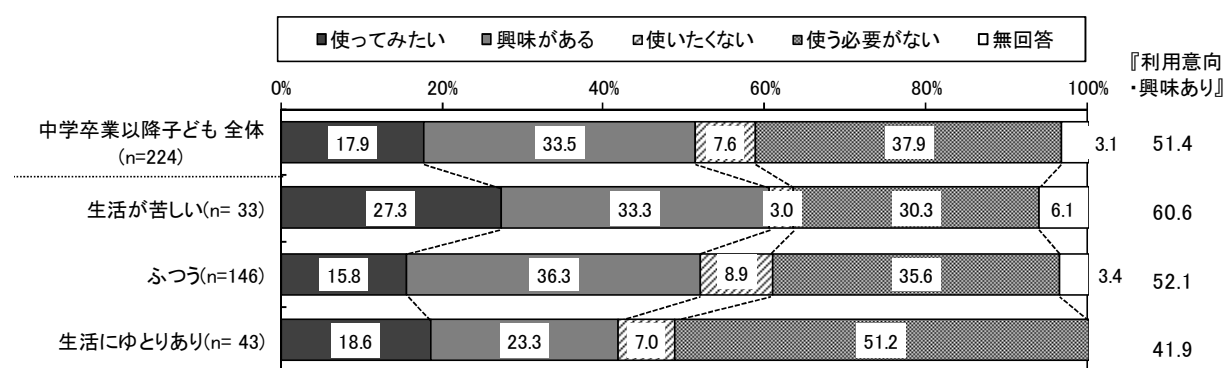
【家の経済状況別】なんでも相談できる場の利用意向



⑧ 低額・無料で通信教育が受けられるサービス

低額・無料で通信教育が受けられるサービスについて、全体では、「使う必要がない」が37.9%、「興味がある」が33.5%となっている。家の経済状況別にみると、生活が苦しい層では、「使ってみたい」が他の層を大きく上回り、『利用意向・興味あり』の割合についても、他の層に比べ高くなっている。

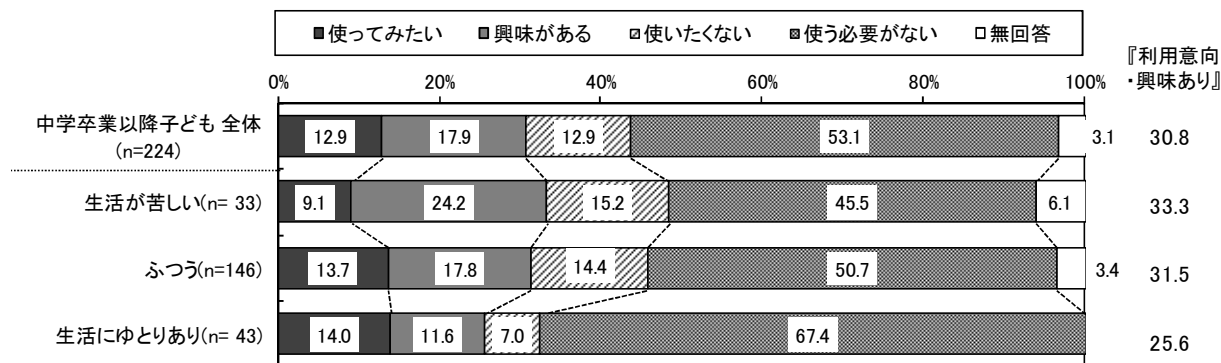
【家の経済状況別】低額・無料で通信教育が受けられるサービスの利用意向



◎ 家から出て学校に通うことのできる低額・無料の寮

家から出て学校に通うことのできる低額・無料の寮について、全体では、「使う必要がない」が53.1%と大半を占める。家の経済状況別にみると、いずれの層も「使う必要がない」が最も高くなっている。特に、生活にゆとりがある層では、「使う必要がない」が67.4%と他の層を大きく上回る。『利用意向・興味あり』は生活が苦しい層ほど高いが、3割台にとどまる。

【家の経済状況別】家から出て学校に通うことのできる低額・無料の寮の利用意向



9. 自由回答

いま悩んでいることや心配なこと、困っていること、誰かに相談したいこと、市への要望などについて、自由記入方式でたずねたところ、34件のご意見を頂いた。以下の表はその内容を分類したものである。

	項目	件数（件）
1	学校、学習面・進路について	18
2	友人・人間関係について	6
3	生活習慣等の悩み	4
4	家庭のことについて	3
5	安全な環境	2
6	その他	1
	合 計	34

【回答の内容】

学校、学習面・進路について（18件）

- ・部活と勉強を両立するのがとても大変です。部活が大変で勉強も内容が難しくペースが早いのでとてもしんどいです。まだ入学して2か月しかたっていないのでこの生活にまだ慣れません。
- ・これからの進路が不安。具体的にどうしていけばいいのかわからない。
- ・大学進学時の奨学金制度はどのようなものがあるか知りたい。
- ・勉強出来る場所等は図書館以外にあっていいと思う。

友人・人間関係について（6件）

- ・友人関係。クラスが仲が悪い。高校入学からコロナで、文化祭・体育祭・球技大会・宿泊等全てが中止で残念。修学旅行で海外が国内になった。それすらも行けるかわからない。
- ・中学時代のいじめの影響で街を歩くのが未だにこわい。セクシュアル・マイノリティの当事者であることを相談する場所、出来る場所がほしい。
- ・とても寂しくて辛いです。友だちがほしいです。

生活習慣等の悩み（4件）

- ・朝起きられない。
- ・朝、お腹が空くけれど食べると腹痛を起こす。
- ・すぐ飽きてしまったり、寝てしまったりする。
- ・時間を守ることが出来ない。計画をうまく立てられない。

家庭のことについて（3件）

- ・家の経済状況が厳しい。まだ小さい兄弟が多いため、上尾の育児に対するサービスが良くないのでさらに大変。進路に悩んでいる。卒業出来るかわからない。
- ・たまにですが、母や父に暴言を吐かれたり殴られたり（暴力）します。我が家の当たり前ですが、他の家庭でも同じでしょうか。
- ・父が個人事業主になり今のところ安定した収入は母からしかありません。ですが家が崩壊したり虐待を受けたりなどはありません。ほとんど父が個人事業主になる前と変わらない生活をしています。必要なものはちゃんと買ってくれるし欲しいものも普通に買ってくれます。ただ父も母もお客様が高齢者が多い接客を伴う仕事なので二人ともとても疲れている。コロナの影響で収入が減ったりしないか心配。倒れないようにちゃんと休んでほしいです。

■ 第1部 アンケート調査 ■

安全な環境について（2件）

- ・これまで以上に街の治安を守ってください。夜公園などでお酒を飲んでいる人がいて少し怖いです。感染対策の面でもですが、治安を守るためにもよろしくお願いします。夜外出すると不安に感じることもあります。
- ・自転車で通学しているが、道路の舗装が悪く穴があいている。避けようとする車に接触してしまいそうになり命の危険を感じて毎朝登校が憂鬱です。

その他（1件）

- ・アンケートを書いたので、報酬として図書カード5,000円分ほしいです。

第2部

関係団体等支援者調査

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

生活困難な状態にある子どものいる世帯の課題や支援ニーズを把握するとともに、アンケート調査だけでは見えにくい実態を把握するため、現場でこのような世帯と接する機会のある関係団体、NPO法人、市の保育・教育機関に対し、ヒアリング調査等を実施した。

2. 調査対象及び調査方法・調査期間

区 分	調査対象
①グループヒアリング	市内の子育て支援（主任児童委員含む）、子どもの学習支援、子ども食堂、フードパントリー、外国人市民への支援に関連する各団体・グループ 計 10 団体
②ヒアリングシートによる意見聴取	公立保育所（12 園）、市立小学校（22 校）・市立中学校（11 校）、放課後児童クラブ（40 箇所） 計 85 団体

■調査方法

- ①事前調査票「子どもの貧困対策計画策定のためのグループヒアリングシート調査票」を配布後、複数団体がともに意見を出し合う座談会形式によるヒアリングを実施した。
- ②事前調査票をメールにより配布・回収し、意見聴取を実施した。

■調査期間

- ①令和3年7月28日（水）～30日（金）
- ②令和3年7月中旬～7月30日（金）

3. 調査項目

- ・生活困難な状況を抱えている子ども・家庭との関わりの程度について
- ・子どもや家庭の特徴・状況について
- ・ヤングケアラーとしての役割を担う子どもの事例について
- ・子どもや保護者に対し組織的に行っている支援策とその具体的内容・課題について
- ・連携している行政関係機関、連携の具体的内容・課題について
- ・子どもの貧困や子育て全般に対する支援策について
- ・各教育・保育機関が行うべき支援、果たすべき役割と考えることについて 等

第2章 調査の結果

I グループヒアリング

1. 保護者や子どもの状況について

(1) 生活困難を抱える子どもや家庭との関わり

問1 「子どもの貧困」が社会問題化する中、経済面での困窮をはじめ、生活困難な状況（貧困の状況）を抱えている子どもや家庭とどの程度関わることがありますか。

○グループヒアリングにおいては、多くの団体で生活困難な状況を抱える子どもや家庭との関わりがあることが確認された。また、支援を必要とする人・家庭ほど支援につながりにくいこと、コロナ禍にあつて、話を聞くなどの直接的な支援の機会が奪われ状況を把握しにくいなど、支援の難しさについても意見があげられた。

① 関わりを持つきっかけや活動内容

項目	内容
民生委員・主任児童委員	・活動内容は、子育て支援、子育てサロン、見守り、小中学校との連携、不登校やその他の相談への対応。
子育て支援団体	・主に0～3歳の子どもを持つ家庭を対象とした子育て支援。子どもの貧困は見えづらく、コロナ禍ということもあり、個々に話しをする機会もないため、家庭の細かい状況までは把握できない。 ・子育て支援拠点である「つどいの広場」を1か所運営し、生後1ヶ月～3歳くらいまでの子を対象にしている。このなかで毎月シングルマザーズサロンを行っていた。市内のお寺による子ども食堂とも連携をしている。月に一度、子ども服の交換会も実施している。貧困層だけを対象とせず、ファッションを楽しむ場となるよう心がけている。
学習支援団体	・行政との連携により、生活困窮世帯を中心に支援を広げている。学習支援を通して、子どもの学習への関心や親以外の大人との信頼関係の構築を目指す。「勉強」というアプローチでドアを開けていただき、生活状況を確認することで必要な支援につなげている。 ・小学生から高校生までの生徒約10名に向け学習支援教室を開催している。支援の対象は、母子家庭や生活困窮家庭、外国籍の方であり、学習教室は週3～5回実施。
子ども食堂・フードパントリー	・市内で5年前より子ども食堂の活動を行っており、当時は上尾市内で初めての取組だった。利用者は、貧困ではあるが、明らかにお金に困っているといった様子ではない。ひとり親家庭であることや親の失業、子どもの不登校など背景が徐々に見えてくる。子ども食堂は、「つながり」をつくる・孤立させないことが重要と考えている。 ・児童扶養手当受給者、ひとり親家庭医療費受給者を対象に2ヶ月に1回食料を提供している。食料を手渡し程度の関わりはあるが、深い関わりはないのが現状。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2か月に一度食料品の提供を行っている。セカンドハーベスト（フードバンク）から頂いたものを45～50世帯に配布している。また、食料に限らず、服や家具、家電のマッチングをひとり親家庭の方を中心に取り組んでいる。 ・ 一軒家で活動を行っており、家にいられない方のシェルターの役割も果たしている。パントリーは訪問して家に届けることもあるため、家庭や経済状態を把握することができる。
外国人市民支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生活困難な状況を抱える子どもとの関わりはほとんどない。そもそも子どもと接する機会が少ない。会費が2,000円ほどかかることから、経済的に多少のゆとりがないと、入会しないものと思われる。このため、普段接している利用者においては、貧困の状況にある家庭はあまりいないように感じている。 ・ 日本語教室（週2回）は独身の技能実習生の利用が多く、子どもがいる人や子ども利用は少ない。コロナの影響でオンラインのみの対応となっているが、参加者は現在7名程度。 ・ 子ども教室（子どもを対象とした日本語教室）や幼保勉強会（離婚や相続といったトピックについて、専門家や税理士を招いての講義）、各国サロン、ワールドフェア等のイベントを開催。 ・ 小学校就学時の手続きの支援など、必要に応じて支援を行っている。

② コロナ禍における対応等

項目	内容
コロナの影響や対応の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナの影響で、食材とお弁当配布だけのためつながることができない。コロナにより、益々生活が困難になり、子ども食堂に来なくなる家庭もあり、自身でつながりを絶ってしまう。民生委員の方に「困った人は自ら出てこない」と言われたことがあるが、まさにその状況にある。 ・ 本来フードパントリーとは買い物をするように自分で食品を選んでもらうことが基本だが、コロナにより人を集めて実施することができない。そのため、現在は深く接点を持つことが難しい。
対応の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍においては、公共施設が休館となり広場事業が開催できないなどの影響があったが、希望者へ埼玉フードバンクから頂いた支援物資の送付、LINE電話等のオンラインで相談を実施している。 ・ 市の集会所で子ども食堂を開いていたが、コロナ禍で実施が難しいため、現在はお弁当の配布を行っている。 ・ さまざまなイベントがコロナの影響で未実施、オンラインでの開催となっている。

(2) 子どもの抱える困難等

問2 日ごろ接している、貧困の状況にあると思われる子どもはどのような面で困難を抱えていると思いますか。わかる範囲でお聞かせください。(例：基本的な生活習慣、親子・家族関係、学校での過ごし方、通学・進学への意欲、対人関係、心や体の健康状態など)

○子どもの抱える困難としては、学力やさまざまな体験の不足、基本的な生活習慣が確立されていないこと、不登校の子どもが存在などが指摘された。

項目	内容
子どもの生活習慣・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・明らかに貧困という感じではないが、生活習慣が身につけていない ・基本的な生活習慣、マナーが身につけていない(配膳時に箸を投げて置く…等)、非認知能力が涵養されていないと感じる。 ・成長期においてレトルト食品が中心になっており、他の子達と体力の差がでてしまっている。 ・親のネグレクトで朝食を食べる習慣がない、親の手料理を食べたことがない ・食に対する知識が乏しく経験が不足している ・訪問した際に室内の臭いが気になった
子どもの心身の状況	<ul style="list-style-type: none"> ・怠け癖があり、支援につながらない ・大人と会話する機会が少なく、知識の不足や、褒めてもらうこともないので、意欲が低下している。 ・親や先生をはじめとする大人を頼りにしていない ・文化的貧困(浴衣やお正月の過ごし方等の季節の行事・伝統に触れる機会・体験の不足)が存在する。 ・自分が貧困であることを認識していないが、周囲との違いに違和感を覚え、生きづらさを抱えている。
学校生活・学習状況	<ul style="list-style-type: none"> ・兄弟揃って不登校となっているなど、不登校の子や経済的な理由で塾に通えない子どもなどもいる。 ・就学前に幼稚園・保育所に未就園だと、小学1年生の段階で、時計が読めないなど既に格差が生じており、大体小学2年生の後半あたりから学校の勉強についていけなくなるケースが多い。小学3年生になると、掛け算の九九でつまづいている状態であるのに割り算が出てくる。それ以降の授業はただ聞いているだけの状態になってしまう。授業について行けず、持ち物の準備もされていないため、学校が怒られるだけの場所になり、学校に行きたくなってしまふ。 ・周囲に大学卒がいなかったことや、絵本の読み聞かせをされたことがないなど、ひとり親家庭の子で経験不足が見られる。 ・発達障害と思われる子で親のネグレクトが疑われる事例もあった。学校でもいじめ受け、ナイフを所持するなどが見られた。 ・教室に通っている外国籍の生徒と教員と保護者とで四者面談を行ったが、その際には、卒業後の就職先は介護か力仕事しかないと言われた。上尾市は卒業後の支援が全くなく、外国人児童生徒は12~13歳でその後の人生が決まってしまう。

	<ul style="list-style-type: none"> ・（貧困の状況にある子どもに限らず）外国籍の子どもの場合、学校での言葉を理解するのに6年かかると言われており、日常的なコミュニケーションに支障がなくても、勉強面での言語理解に時間がかかってしまい、結果的に勉強への意欲・姿勢が消極的になりがちな傾向がある。
--	---

（3）家庭や保護者の抱える困難・課題等

問3 日ごろ接している、貧困の状況にあると思われる子どもの保護者はどのような面で困難を抱えていると思いますか。わかる範囲でお聞かせください。（例：生活習慣、子どもの養育、親子・家族関係、就労、経済状況、対人関係、心や体の健康状態など）

○家庭や保護者の抱える困難としては、ひとり親世帯、子どもや親自身の障害、外国籍、DV等複合的な問題を抱えていることが多いことなどが確認された。

項目	内容
生活困難世帯の特徴や課題等	<ul style="list-style-type: none"> ・困っている人ほど困難な状況にあることを隠す傾向にある。例えば、生活保護を受給していることを隠す、シングルになったことを職場にも言っていない等。 ・核家族の増加に伴い、誰にも頼ることのできない家庭も増えている。それに加えて地域で子どもを育てる時代ではなくなり、地域のつながりが希薄化している。 ・妻に障害があり、夫が仕事も子どもの世話も全て行っている家庭や多子世帯やコロナによる失業により支援を求める家庭もある。 ・通信料を払えず電話が止められてしまい、最初に聞いた電話番号ではつながらないこともある。 ・支援を受けられる状況にあるのに、受けに来ない家庭は、家庭内に問題を抱えていたり、仕事が忙しかったり、母親自身の健康状態が良くない状況にあることが多い。 ・食べるものを節約してもスマートフォンにお金を使っていたり、子どもの身なりが整っていないくても、豪華な車に乗っていたりと、バランスが悪いと感じる。
ひとり親世帯	<ul style="list-style-type: none"> ・シングルマザーで雇用がままならない家庭や、家事ができず、居酒屋で食事をとっている父子家庭の方もいる。 ・ひとり親世帯の保護者は仕事で忙しく、「関わりの貧困」「情報の貧困」などの状況も感じる。 ・貧困と思われる状況の子どもはひとり親家庭が多く、親が仕事のため、子どもが家にひとりである。訪問しても出てきてくれないため、保護者に会えないことも多い。 ・ひとり親で夜勤の仕事の時は、子どもが1人で夜を過ごさなければならないが、保護者が大丈夫だと思っているケースがある。

項目	内容
外国籍の 保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・パントリー利用登録世帯が約 70 世帯ある中で、54 世帯が外国籍の方である。外国籍の方の場合は行政に助けを求める方法を知らないので、支援につながらないことも多い。 ・同国籍の友人が多く、訪問すると、友人が出てきたこともあった。友人同士で助け合って生きているようだ。子どもは学校の件等で訪問することができるが、親の支援は同じようにはいかない。 ・言語の関係で、問題が難しくなっている。外国籍で孤立していない方は、近所に同じ母国語の家庭があり、横のつながりでコミュニケーションをお互いに補っている。孤立している家庭は、コミュニケーションを子どもに頼るしかない。 ・(貧困の状況にある保護者ではないが、) 宗教上等の理由により、給食のメニューで食べられないものがある場合、お弁当を手作りしなければならず手間がかかっている。また、小学校就学時の手続きが煩雑であるため、支援を要するご家庭もある。
複数の困難、 複雑化	<ul style="list-style-type: none"> ・障害を持つ方の貧困の連鎖、ひとり親家庭の生活の困難等が見られる。 ・外国籍やDV、子どもや親自身の障害・疾患など複合的な問題が存在するケースが多い。
保護者と学 校との関係、 学習に関連 した課題	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者自身が中学卒で、学校でご自身の抱える困難を相談できず、学校に対して苦手意識がある。そのため、「学校からの電話は怒られるから出ない」と決めている方もいる。 ・子どもが学校に通うには、①宿題が終わっていること、②学校の持ち物の準備が終わっていること、③朝ご飯を食べていること、④身だしなみが整っていること等の条件が必要。また、保護者自身が教わってもいない上に経験していないことである場合、子どもにしてあげることができない。 ・小学5年生頃から学力に明確な差がでてくるが、親の手が回らずフォローすることができない。 ・自分も学校に通わなかったため、子ども学校に通う必要がないと考える保護者もいる。子がお店の手伝いをさせられていたり、労働者として搾取されている。親自身もそう育ってきたから問題ないという意識がある。

(4) 生活困難とヤングケアラーとの関係

問4 日ごろ接している、貧困の状況にあると思われる子どもの中で、家族のケア（家族に代わり家事、幼いきょうだいの世話、障がいや病気の家族の世話・看病、高齢の家族の介護、外国人の保護者への通訳など）をしているのではないかと感じた子どもはいましたか。

○生活困難とヤングケアラーの関係については、深い関わりがあるとの意見があった。また、その背景として保護者の疾患や障害、多子世帯、外国籍等との関連も指摘されている。

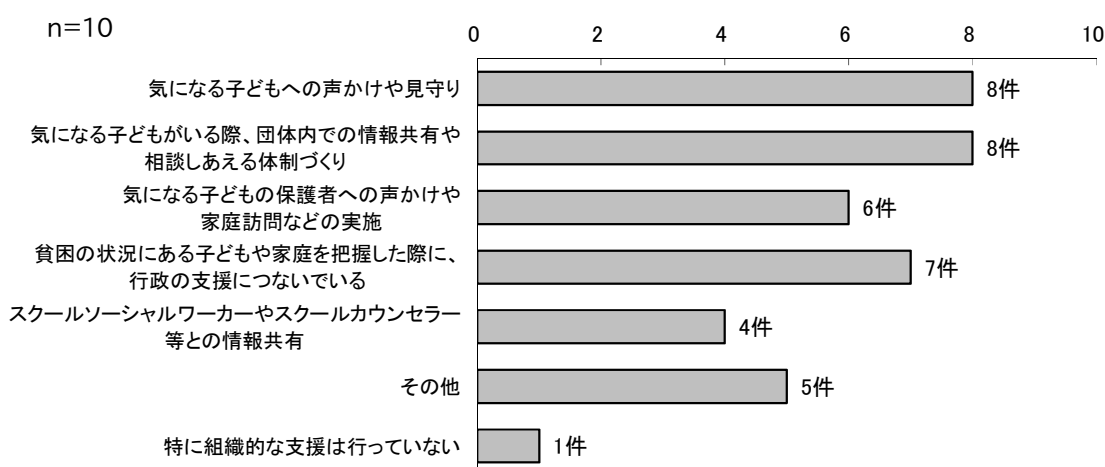
項目	内容
生活困難家庭とヤングケアラー	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困難世帯の子どもが多くがヤングケアラーにあたるのではないか。ただ、そのレベルがお手伝いの範囲なのか、ヤングケアラーなのか線引きは難しいが、やらざるを得ない状況にある。 ・保護者が精神疾患や発達障害であるか、きょうだいが多い場合は、その面倒を見なければならない。大人がしてあげなければならないことができていないために、子どもがヤングケアラーになっている。 ・子どもだから、悩みを言い出せないが、そうした悩みが伝わらないとヤングケアラーは「いない」ことになってしまう。相談相手になる人がいないことが問題ではないか。 ・親のことを相談できる場がない。誰にも相談できない状況が最も辛い。自分の言葉で状況を整理しながら相談できる人の存在が大事であるように思う。
子どもが担っているケアの内容	<ul style="list-style-type: none"> ・母親が動けないために、障害を持つきょうだいのご飯を食べさせたり面倒を見ている子がいた。 ・フードパントリーにも子ども食堂にも顔を出している高校生の男の子がいるが、きょうだいのおむつを替えるのがとても上手だった。母親はその子を頼りきっている様子。 ・中国籍の家族の通訳を小学1年生くらいの子どもが行っていた。

2. 支援・連携の内容や課題

(1) 子どもの貧困に対する組織的な支援

問5 あなたの所属する団体では、貧困の状況にある子どもや保護者に組織的に行っている支援策がありますか。(あてはまるものすべてに○)

○多くの団体で、見守り、団体内での情報共有、家庭訪問、行政支援や学校へつなぐ役割をはじめ、子どもの貧困に対する組織的な支援を行っていることが確認できた。一方で、行政支援につなぐ際の窓口がわからない、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等との情報共有の場がほしい、学校により対応に差がある等の指摘があった。また課題として、支援者に求められる知識や専門性の高さや支援者自身の相談先、ボランティアの確保の難しさ等があげられた。



※ヒアリングの内容より、実施していると考えられる項目を1件とカウントした団体もある。

問6 【問5で1～6とお答えの方におたずねします。】

支援の具体的な内容について教えてください。また、その中で感じる課題もあれば教えてください。(自由記入)

① 具体的な支援の内容

項目	内容
民生委員・主任児童委員	・主任児童委員で0歳から小学校入学前の親子を対象に子育てサロンを開いている。保健師や相談支援員も参加してくれるため、サロンが保護者の相談や情報交換の場になっている。
子育て支援団体	・子ども服の交換会を主催しているが、そのなかで気になる子どもへの声かけを行っている。自分よりも大きいサイズのコートをもらっていく子がいて、話を聞くと子どもの成長は早いため、親から大きいサイズを貰ってくるように言われていた。
学習支援団体	・学習教室を開いて待っているだけでは参加できない生徒もいるため、家庭訪問し、一緒に散歩やゲームをして関係を構築することから始める。 ・生活困難を抱える家庭、子どもが抱える生きづらさに対し、まず、親子の声を聞き、理解することが具体的な支援の第一歩である。

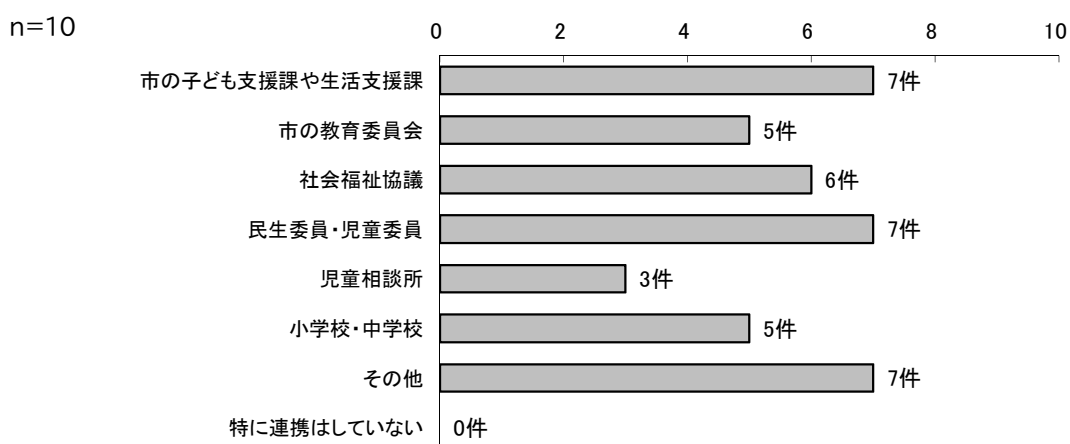
② 支援をする中で感じる課題

項目	内容
民生委員・主任児童委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困や障害等の複雑な問題が絡み合った家庭と向き合っており、幅広い知識や様々な支援への道筋が必要。民生委員同士で連携し、ネットワークを築きながら解決策を見つけなければ、民生委員自身が耐え切れない状況になってしまう。
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ プロジェクトごとにボランティアが入れ替わるが、特に力仕事をできる方や洋服のコーディネートができるボランティアがいると良い。
学習支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動はボランティアとともにやっているが、支援者を探すことには苦労している。活動を広げようにもボランティアが集まらない。 ・ 親や子どもから聞いた悩みや課題について、団体として相談できる場所がない。
子ども食堂・フードパントリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ 「相対的貧困」が理解できていない人には、貧困の子は「いない」と映ってしまう。貧困にはそういった局面も持っていることをもっと大勢の方に理解してほしい。 ・ 「つながり」が非常に重要。様々な状況があると思うが、つながる選択ができるようつながっていただける場所をもっと増やしてほしい。多くの市民が子どもの貧困を意識することで、つながりも楽になり、ボランティアも広がるのではないかと考えている。 ・ ボランティアから専門家につなげるのは行政の仕事だと思っている。 ・ 市より利用者の紹介があるが、いつまで支援を継続するのか不明なケースも多く、フードパントリーの利用者は増え続けている。そのため、新規の方を受け入れることが難しい。 ・ 県の児童虐待防止サポーターとしても活動をしているが、その際の行政側のつなぐ先や情報共有の場がない。

(2) 子どもの貧困に対する関係機関との連携

問7 あなたの所属する団体で連携している行政等の関係者や関係機関はどこですか。
(あてはまるものすべてに○)

○すべての団体で、市をはじめとするさまざまな主体と連携していることが確認できた。特に、民生委員・主任児童委員や学習支援教室ではすべての主体と連携していると回答するなど、一部で連携・協力体制が構築されていることがうかがえる。課題として、市以外のネットワークとは連携しているが、行政との連携がないという声や双方向の関係性、守秘義務のある者同士の連携強化を求める声もある。



※ヒアリングの内容より、連携していると考えられる項目を1件とカウントした団体もある。

【その他回答】

- ・自治会や町会
- ・学習支援教室（アスポート）
- ・市民協働推進課、ハローワーク
- ・こども食堂ネットワーク
- ・セカンドハーベストジャパン、
埼玉フードパントリーネットワーク
- ・市内4か所のフードパントリー同士の連携 等

問8 【問7で1～7とお答えの方におたずねします。】

連携の具体的な内容について教えてください。また、その中で感じる課題もあればお答えください。

① 具体的な連携の内容

項目	内容
民生委員・主任児童委員	・ 民生委員は自治会ともつながりが強い。
子育て支援団体	・ 子ども食堂や子育て支援拠点を主催するスタッフもボランティアに参加しているため、連携することもある。行政への相談だけでなく、地域とのつながりを求めて、相談に来る方もいらっしゃる。 ・ 市の教育委員会とは、チラシの配布や講演会でお世話になっており、民生委員の会合にも参加するなど、さまざまな機関との連携がある。

項目	内容
学習支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者自立支援法の支援調整会議があるため、会議の場が結果的に情報共有の場となっている。 ・全機関と連携している。県の社会福祉協議会から4,600食のカレーをいただき、訪問するきっかけとして使わせて頂いた。 ・学校との連携は取るようにしている。保護者とも週に1回は連絡を取っている。 ・市社協を中心に主任児童委員との話し合いの場を作る予定である。待っていても困難な状況にある子を認識してくれる人は増えないので、連携先を増やしていく活動を積極的に行っている。 ・学習支援員を子ども食堂に派遣する事業も行っている。学習だけでは限界があるので、地域の顔の見える関係を広げている。 ・町内会と連携している。公民館を教室として利用しているが、施設利用料の減免を受けている。
子ども食堂・フードパントリー	<ul style="list-style-type: none"> ・メンバー6人中4人が民生委員で構成されている。そのため、町会とのつながりが強く、活動場所として公民館を利用することができる。
外国人市民支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・離婚や夫の事故等の要因により、就労に悩みを持つ方の相談を受けたことがあり、ハローワーク等につなげたことがある。 ・小学校就学時の手続き支援を行うこととなり、学校関係者同席のもと、通訳を行いながら書類作成支援を行ったことがある。

② 連携をする中で感じる課題

項目	内容
民生委員・主任児童委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの情報を持っていても他団体とのつながり方がわからないので、集まりがあると良いと思う。 ・上尾市は子どもに関わる支援団体が多いと思うが、そうした団体とどう連携を取るべきなのかわからない。 ・ネットサーク会議がさまざまところで開催されるが、タテのつながりが無い。 ・市との連携についても、状況が深刻な場合、子ども若者相談センター（現 子ども家庭総合支援センター）につなげるが、その後どうなったか連絡がない。詳細な情報でなくとも、その後の状況を教えてもらえないと連携は難しい。行政で連携を取れる形を作ってほしい。状況把握だけでなく、その後の行動に移せる場が必要だと思う。行政から情報提供や見回り等の指示はもらうが、その後のフィードバックがない。情報が一方通行である。
子育て支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・性的虐待の疑い等センシティブな内容の相談については、市につなぐ段階の被害なのか、また、つないだために児童相談所が動くなど大事になってしまい、相談した子自身がいたたまれなくなることも。少しでも方向を誤るとその子の生涯に関わり、家庭崩壊につながるケースもある。 ・懐疑心のある子は、特に信頼を得る以前に、自分のことを話すのに時間がかかる。やっと話してくれたのに、対応を誤ると信頼関係を失う。

項目	内容
学習支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習支援に参加している生徒に性的虐待の疑いや本人からの相談があった場合、どの機関に相談すべきかわからない。生活保護を受けている場合、ソーシャルワーカーに相談すればいいが、どこにもつながっていない子や世帯の相談先がわからない。 ・ 守秘義務があることから、支援者が気軽に相談する相手がいない。守秘義務がある者同士の連携協力、相談ができるとよい。 ・ 学習支援教室は、小・中・高校生が対象だが、問題が見つかった場合に、学校へ相談したいが、敷居が高いと感じる。 ・ 虐待については程度の差はあれ、困難な状態の子を見守り「あの子ね」と把握する支援者が増えてほしい。
子ども食堂・フードパントリー	<ul style="list-style-type: none"> ・ フードバンクのセカンドハーベストからの食料が少なくなっており、厳しい状況にある。そのため、市内のフードパントリー同士やフードパントリーに関連するさまざまな主体と連携している。助成金に関する情報があるとよい。 ・ フードパントリーについては、市以外のネットワークとの連携が中心で、行政や市内の関係機関との横の連携がなく困っている。 ・ 学校に子ども食堂にチラシ配布をお願いしたことはあるが、校長の方針次第でチラシ配布の可否が変わってくる。 ・ 児童虐待のサポーターも行っているが、どのように行政に繋がればいいのかわからなかった。情報共有の場があるといい。 ・ 関係機関で波及していけば活動もしやすくなる。
外国人市民支援団体	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校就学時の手続き支援については、組織的な支援ではなく個人的なつながりのなかで支援に至ったケースであった。

(3) 子どもの貧困対策として必要な取組

問9 市では子どもの貧困対策として、生活困窮世帯の子どもの学習支援、子ども食堂やフードパントリー（食料支援）などを行うボランティアの支援を行っていますが、このほかに、どのようなことに取り組むとよいと思われますか。

○子どもの貧困対策として市に望む取組については、就労支援をはじめ保護者への支援の強化、公共施設を活用した子どもが“何をしなくてもいられる”居場所や子ども食堂の充実、就学手続き書類の多言語化、支援者間の連携・つながりの強化や情報共有の場、生まれてから青年期も含めた切れ目のない支援、子どもに関する情報の一元化などさまざまな提案があった。

① 市に希望する取組

項目	内容
保護者の支援について	<ul style="list-style-type: none"> ・親の支援が1番だと思う。子どもは親を見て育つので、母親の心が安らかだと子どもの精神が安定する。親が相談できる場所と情報交換できる場所があればいいと思う。子は学校や児童委員等見てくれる人がいるが、親はそうではない。子育てで、安定した就労に就けない方もいらっしゃると思うので、親への支援が重要に思う。 ・少し言葉を交わすだけでも楽になる保護者を見てきたが、対面し、信頼を得るまでにも時間と根気が必要である。一步踏み出してもらうための支援策がほしい。 ・外国人市民に対して支援を行うにあたり、周知等を行う場合があると思うが、その際は各種書類や案内通知等について「やさしい日本語」での表記を心掛けることが望ましい。
子どもの生活支援（居場所、食）について	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の子どもたちこそ、自分の居場所（スペース）がない。土曜日の学校や公民館・児童館の開放等、何もしなくてもいられる場所が必要。そういった場所の確保は民間ではできないことなので、市にお願いしたい。 ・居場所について、住んでいる地域の公民館では、困っている状況であると周りに悟られてしまうので、受け入れる子を地域で定めず、対象を広げてもいいと思う。 ・親子や家族でいることももちろん大事だが、子どもだけの場所も必要である。 ・子ども食堂はまさに対象を限定せずに受け入れているため、優先して場所を提供していただきたい。子ども食堂は、対象をどうするか運営者の方針とスペース、提供可能な食事の数次第である。子ども食堂がたくさんあることで、生まれるつながりも増える。 ・子ども食堂を公的な場（公共施設等）で運営できるような仕組みづくりをお願いしたい。そうすることで子ども食堂をもっと開きやすくなると思う。 ・他市の事例として、学校の空き教室を活用して朝食を提供する取組があるようだ。

項目	内容
子どもの学習支援、教育について	<ul style="list-style-type: none"> ・学習支援教室＝生活困窮世帯のように思われることを嫌がる子もいたため、カモフラージュがあると良い。場所の提供を柔軟にさせていただくと、通いやすくなると思う。 ・大阪市立生野南小学校では、国語教育と性教育の2本立てで行い、暴力ではなく言葉で伝えられるようになる教育プログラムを展開している。そうした取組を参考に市でも性教育が実施できるとよい。貧困対策の続きとして、そういった取組を進めてほしい。 ・子どもの未来は自分の将来の問題でもある。市としてボランティアに留まらず独自に対策ができると良い。市が主体となって子ども達をどう育てていくのか考えてほしい。 ・小学校就学時の手続きについては、手続き内容が煩雑であり、親にかかる負担が大きいため、各種書類の外国語版もあった方がよいと考える。
支援者間の連携、情報共有について	<ul style="list-style-type: none"> ・支援側の情報交換の場として、横の関係を広げる場が必要に思う。 ・市内の中学においてケース会議に参加したことがあるが、精神医療センター、児童相談所、民生委員、担任、学年主任、保健の先生で建設的な話し合いができた。ぜひそういった話し合いができるような環境になってほしい。必要があればケース会議への出席も可能。 ・それぞれの団体が壁をなくして、それぞれのできることを発揮し、横断的に援助を行える仕組みをつくってほしい。
若者支援	<ul style="list-style-type: none"> ・高校生の中には、「大人から性的な誘いを受けている」といった内容の相談をしてくる子どももいる。 ・高校生を対象とした学習支援教室に参加する子が少ないため、参加しやすい条件を整えてもよいのではないか。 ・高校生になると、学校生活だけでなく、就職等大人に近い悩みや問題が絡んでくる。中退や就職ができなかった子を捉える支援ができるとよい。
子どもの貧困対策全般について	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもは一日のほとんどを学校で過ごしているため、学校のプラットフォームを進めてほしい。また、行政や学校、病院等の持っているデータを一元化して、困っている子どもを見つけてほしい。子どもの貧困は命に関わる問題である。 ・他市で行っている事例があるが、子どもが生まれてから成人の年齢くらいまでの情報が一元化、行政や支援のなかで共有され、子どもに対し、切れ目のない支援ができるとよい。 ・ひきこもりの状態にある人に対し、もう一步踏み込んだ支援ができるような条例があると良いと思う。 ・本当に困っている人が支援につながっていないと感じる。支援を知らない人もまいるので、市が情報を発信し、支援につなげてほしい。(市内のフードパントリーのリーフレット等) ・ニーズが増えているため、食材を購入して配布することも増えている。資金援助があるとよい。

② 他市の事例

項目	内容
子どもに関する情報の一元化	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪府枚方市では、「子ども見守りシステム」として、子どもの出生から成人になるまで、市の持つ保健福祉、教育、住基データ、相談情報等を一元化することで、切れ目のない子どもへの支援の実現を目指している。（大阪府箕面市においても同様の取組を実施。）
子どもの教育	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪市立生野南小学校では「学校における生命の安全教育推進事業」として、心を育てる「国語教育」と命や体の大切さを伝える「性教育」の教育プログラムを実施し、子どもが落ち着き、学力が向上するなどの成果が上がっている。
子どもの生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・栃木県栃木市では、栃木市要支援児童健全育成事業として、17歳までの要支援児童に対し、子ども食堂と連携し、食事や入浴、学習等ができる居場所を提供し、大人との交流を図りながら、健全な育成と自立を促す取組を実施している。

Ⅱ ヒアリングシートによる意見聴取

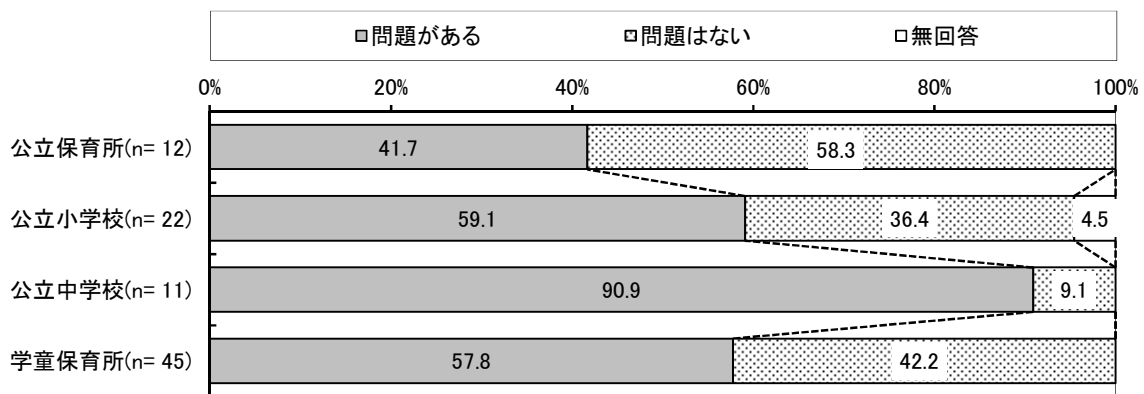
1. 保護者や子どもの状況について

(1) 生活困難を抱える子どもや家庭との関わり

問1 「子どもの貧困」が社会問題化する中、貴保育所（貴校／貴学童保育所）では以下のような経済面での困窮をはじめ、生活困難な状況（貧困の状況）を抱えている、またはそれが疑われる子どもや家庭についての問題がありますか。問題がある場合は、以下の当てはまる項目を選択してください。

生活困難な状況を抱えている、またはそれが疑われる子どもや家庭についての「問題がある」割合は、関わる子どもの年代が上がるほど高い傾向が見られ、中学校では約9割となっている。

【関係機関別】生活困難な状況を抱える子どもや家庭の問題の有無

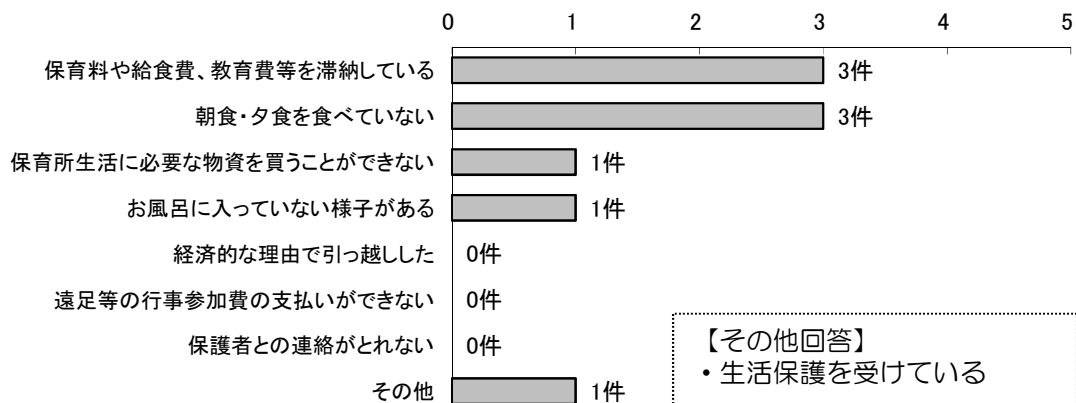


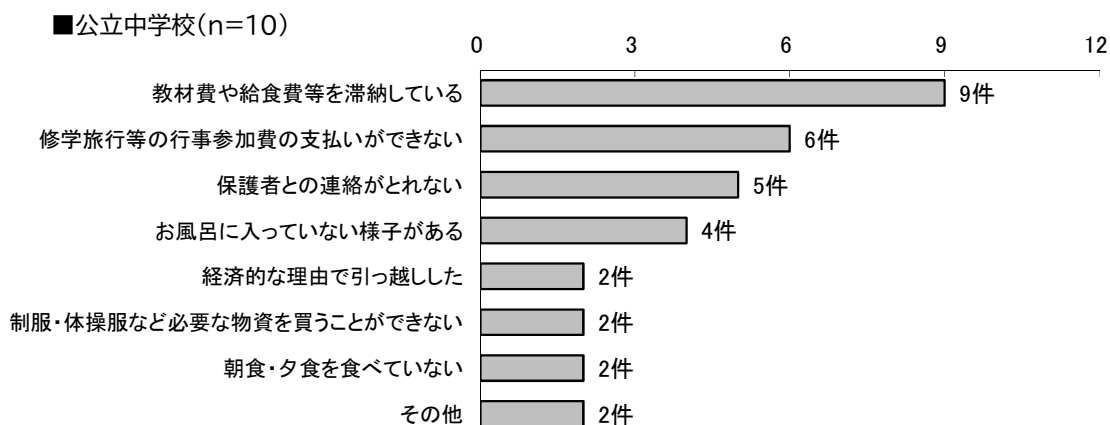
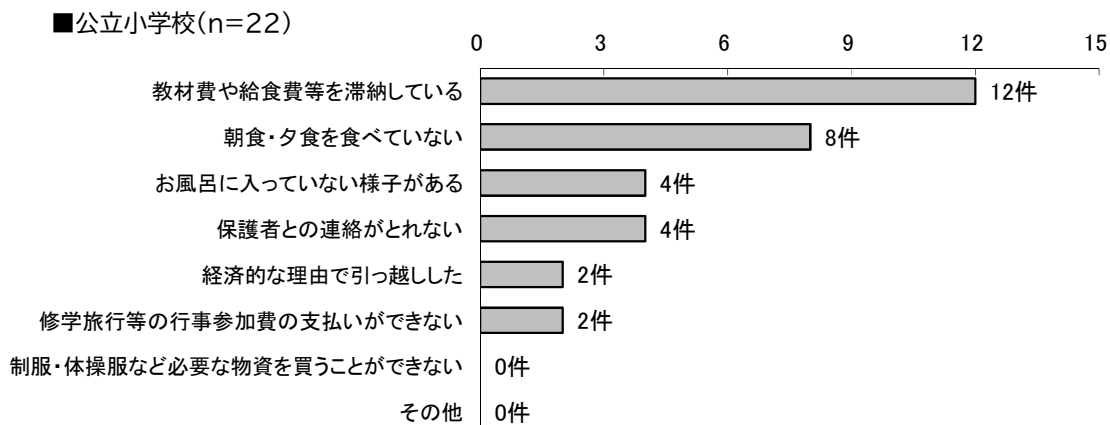
→（問題がある場合）当てはまる項目を選択してください。【複数選択可】

「問題がある」とした場合に、子どもや家庭に当てはまる内容についてたずねたところ、保育所、小中学校、学童保育所ともに、保育料や教材費や給食費等を「滞納している」、中学校では「修学旅行等の行事参加費の支払いができない」が多くあげられている。また、「朝食・夕食を食べていない」や「お風呂に入っていない様子がある」など、子どもの基本的な生活習慣に関する回答や、小中学校では「保護者との連絡がとれない」との回答も多くなっている。

【関係機関別】生活困難な状況を抱える子どもや家庭にあてはまる内容

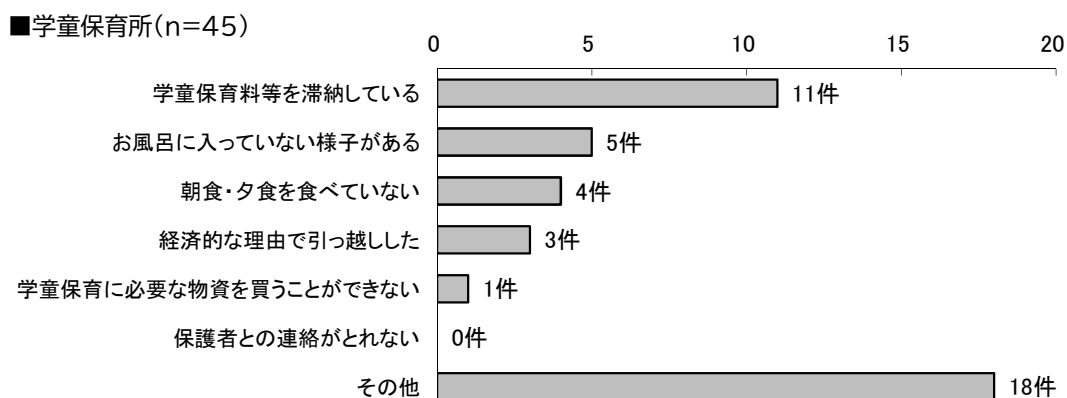
■公立保育所(n=5)





【その他回答】

- ・母子家庭で母親が病気のため仕事ができず、生活保護を受けている。



【その他回答】

- ・体の大きさに合わない服を着ている。壊れたものをそのまま使っている。
- ・保護者の方が精神疾患であり、生活に必要な家事などに困難な状況を抱えている。
- ・ひとり親家庭が多く所得に限界がある。また親子のコミュニケーションも十分に取る生活の余裕が少ない。等

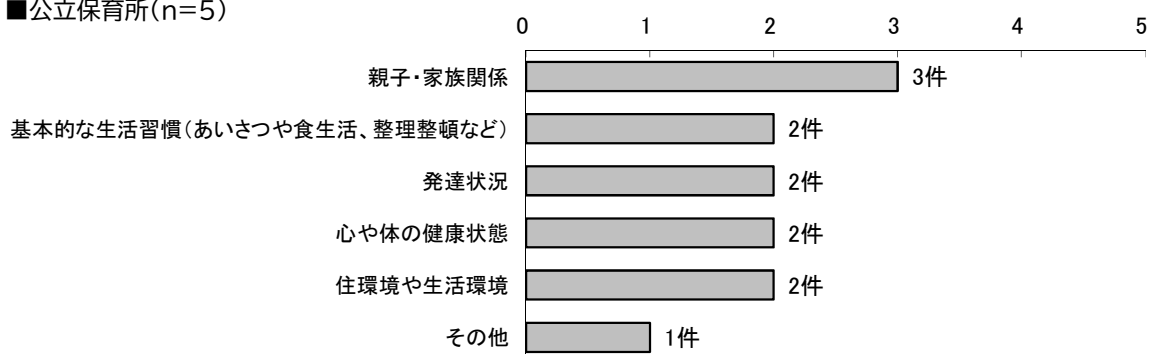
(2) 子どもの抱える困難の内容

問2 現在在籍している児童生徒のうち、貧困の状況にあると思われる子どもはどのような面で困難を抱えていると思いますか。当てはまる項目のうち、特に顕著に見られるもの上位2つに○をし、その状況について特筆すべきことがあれば、具体的に記述してください。
 ※該当する子どもが複数いる場合は、主に共通していると感じる項目を選択してください。

子どもの抱える問題の内容については、いずれの関係機関においても「基本的な生活習慣(あいさつや食生活、整理整頓など)」「親子・家族関係」「心や体の健康状態」「住環境や生活環境」などが多くあげられ、多岐にわたる問題を抱えていることがわかる。

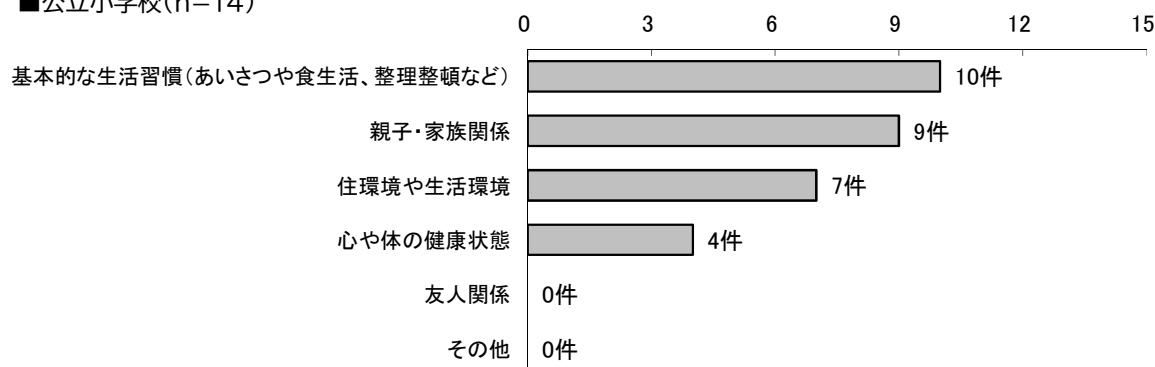
【公立保育所】子どもの抱える困難の内容

■公立保育所(n=5)



【公立小学校】子どもの抱える困難の内容

■公立小学校(n=14)



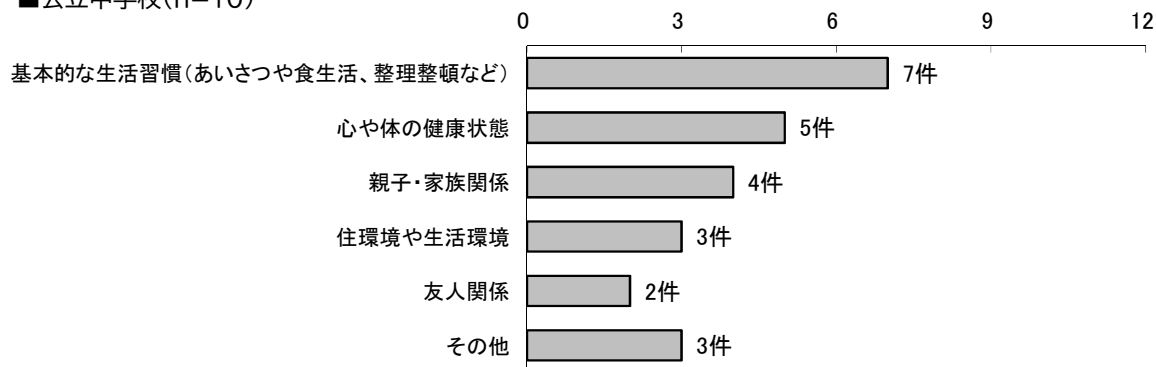
【自由記述の内容】

- 基本的な生活習慣が整わないことで、学校生活へのリズムがつきにくい。それらのことが、負の連鎖となり、学習への意欲がわかないことがある。
- 子どもが母親(父親はいない)から愛情を感じている様子が見られない。朝食を食べてこないと訴えてくることがたびたびあり、授業等に集中できていない様子がうかがえる。
- 学習習慣の定着が難しい。
- 保護者が仕事のため、登校時に送り出せない。
- 食生活の偏りがある。

- 就寝時刻が遅く、睡眠が不足している児童が見られる。
- 罰によるしつけが見られる。
- 親子げんかが学校生活に影響することがある。

【公立中学校】子どもの抱える困難の内容

■公立中学校(n=10)

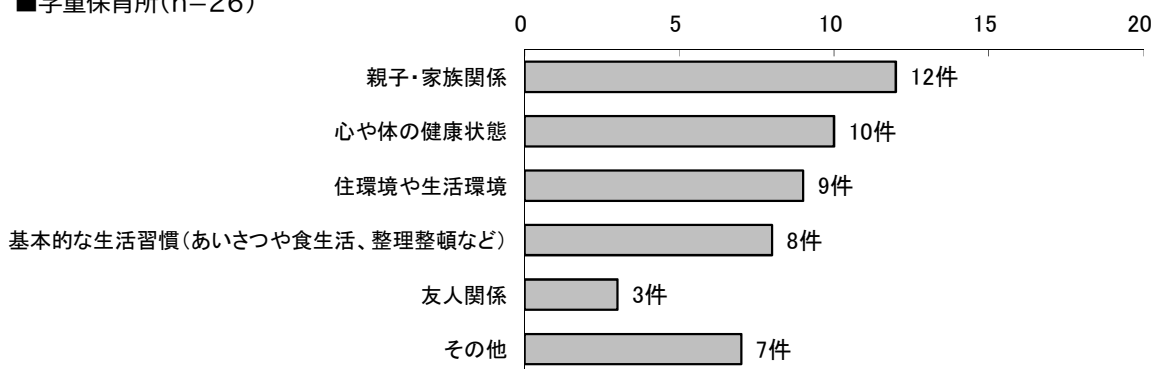


【自由記述の内容】

- 生徒が病気の母親の看病や家事を日常的に行っている。
- 家のゴミが多い。
- 住環境が劣悪で、雨漏りや不衛生なトイレ、洗濯していない衣服を子どもが着用している状況が見られた。

【学童保育所】子どもの抱える困難の内容

■学童保育所(n=26)



【その他回答】

- ・頻繁に体の不調を訴えている
- ・学習面の遅れ
- ・持ち物が不衛生、壊れたものを使い続けている
- ・1年生であるが、経済的事情で学童保育所の在籍を継続することが出来ない。
- ・保護者が仕事をしていない、また仕事をしていても長続きしない 等

【自由記述の内容】

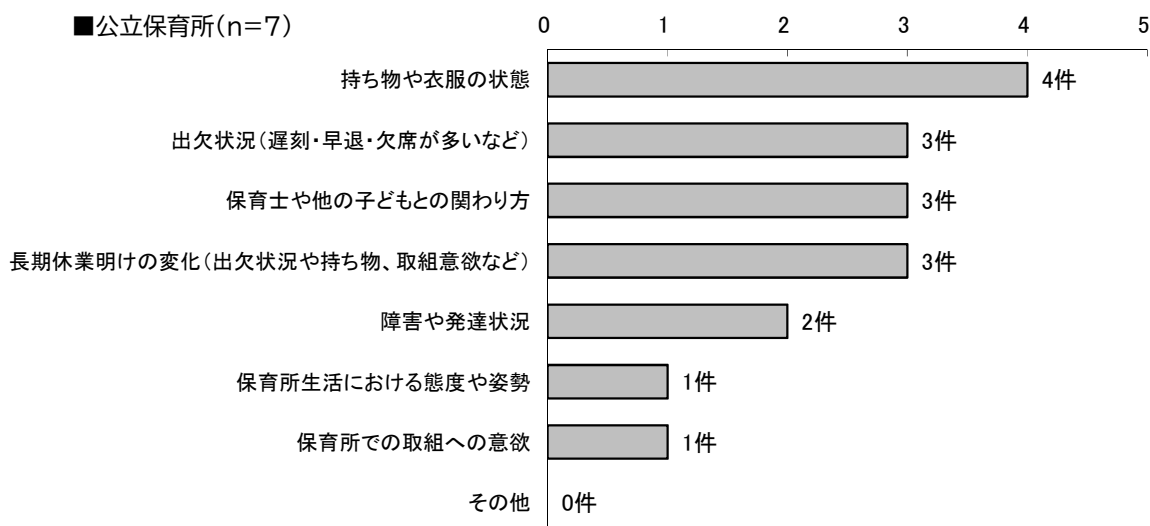
- 給与所得の低下は保護者に休みなく長時間での労働を余儀なくさせ、それにより保護者が子どもと過ごす時間が減る。その結果、子どもに愛情不足が原因と思われる問題行動が増えていく傾向がある。学童での問題行動を伝えても、家庭においては、保護者は家事もあるようで忙しく、じっくり向き合う時間も取れないのか、次の日に「どうでしたか？」と状況を伺っても、「話を聞いている時間はありませんでした」と流されてしまう傾向がみられる。
- 貧困が疑われる世帯では家庭で親子のコミュニケーションに充てる時間が少ないことが感じ取れる。その結果、子どもが親の愛情を十分に受け取って育っているとは思えず、子どもの側に愛着障害とおぼしき現象がみられ、感情のコントロールが難しくなったり、ささいなことで怒り出したりと、周囲の子どもとのコミュニケーションが上手に取れないケースがある。
- 子どもに合わせた生活時間になっていない、子どもを見切れないので夜更かしや朝食を食べない時があるなど生活リズムが安定しない。学用品の準備など親がしなければならないサポートが不十分となりがち。
- ひとり親家庭のなかには、満足な住環境ではない状況がある。また、水筒・ハンカチなど忘れ物が多い傾向があり、衣服もおさがりが多いようだ。中学生以上のきょうだいがいる家では上の子がサポートしてくれる様子があるが、同年代のきょうだいの家庭では、歯が何本か痛くなってから歯医者に行くなど、個々の子に手が回らない様子がある。
- 金銭面から習い事等もやりたいこともできず、もどかしさを感じる様子が見られる。
- 衣類の色あせや、夏の季節にそぐわない服を着ていることが多い。真夏でも長袖を着ていて、汗の吸収が上手く出来ずに風邪を引いたこともある。また、空腹である事が多く（朝食を食べていない、夕飯の量が不足）、気力もなく、外遊びもほぼしない。 等

(3) 子どもの生活上の様子や特徴・課題

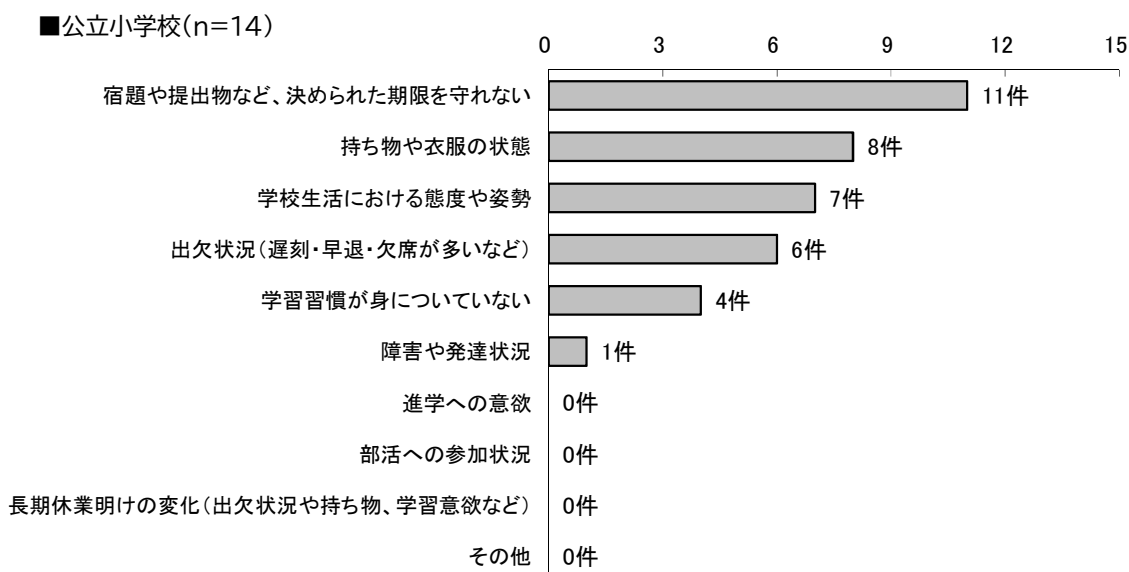
問3 現在在籍している児童生徒のうち、貧困の状況にあると思われる子どもの保育所で過ごす上（学校生活上／学童保育所で過ごす上）での様子や特徴に気付くことはありますか。また、どのような課題があると感じていますか。当てはまる項目のうち、特に顕著に見られるもの上位3つに○をし、その状況について特筆すべきことがあれば、具体的に記述してください。
※該当する子どもが複数いる場合は、主に共通していると感じる項目を選択してください。

子どもの各機関での生活上の様子や特徴・課題については、保育所では「持ち物や衣服の状態」、小学校では「宿題や提出物など、決められた期限を守れない」、中学校では「出欠状況（遅刻・早退・欠席が多いなど）」「学習習慣が身につけていない」との回答が多くあげられている。学年が上がるにつれ、生活習慣に加え学習習慣にも課題が生じている状況が見受けられる。

【公立保育所】子どもの生活上の様子や特徴・課題



【公立小学校】子どもの生活上の様子や特徴・課題

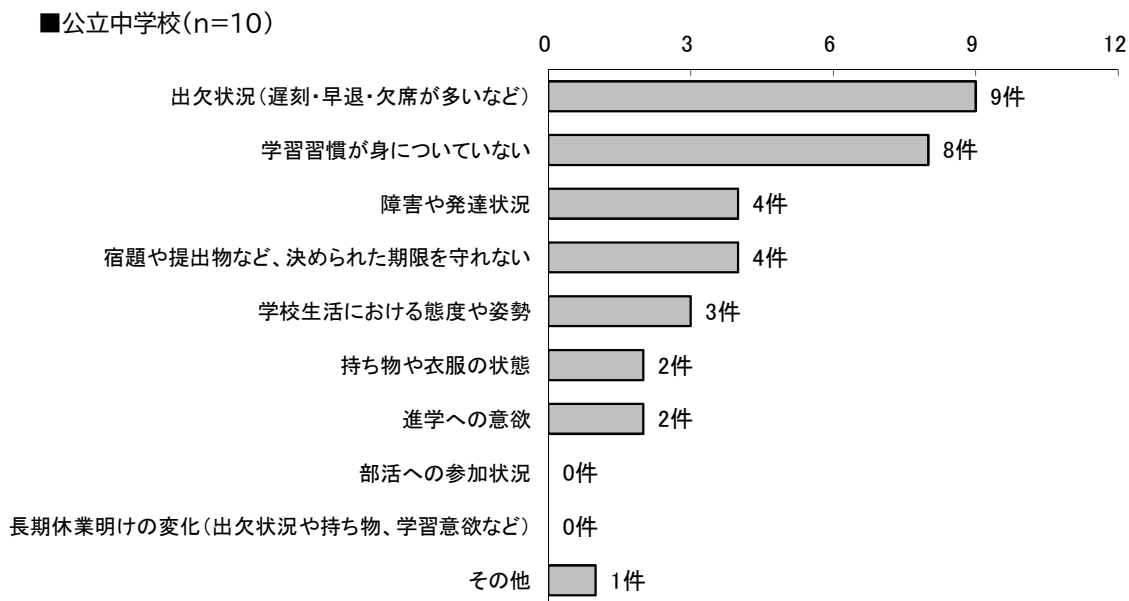


■ 第2部 関係団体等支援者調査 ■

【自由記述の内容】

- 朝元気がない。
- 学習習慣の定着が難しい。
- 保護者が仕事のため、登校時間に送り出せない。
- 就寝時刻が遅く、睡眠が不足している児童が見られる。
- 保護者が連絡帳を確認しておらず、学級での状況や持ち物などの情報が共有しづらい。

【公立中学校】子どもの生活上の様子や特徴・課題



【自由記述の内容】

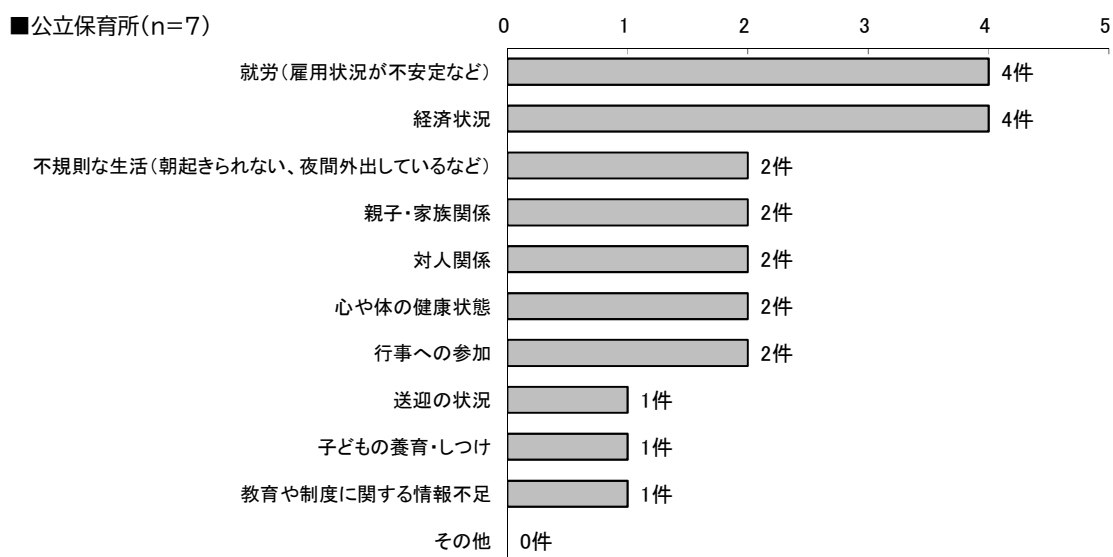
- 家庭の悩みを同世代の友達に打ち明けられず、同級生と円滑なコミュニケーションが取れない。
- 将来の引きこもり予備軍になっている。

(4) 保護者の抱える困難の内容

問4 現在在籍している児童生徒のうち、貧困の状況にあると思われる子どもの保護者は、子どもを養育するにあたりどのような面で困難を抱えていると思いますか。当てはまる項目のうち、特に顕著に見られるもの上位3つに○をし、その状況について特筆すべきことがあれば、具体的に記述してください。※該当する保護者が複数いる場合は、主に共通していると感じる項目を選択してください。

保護者の抱える困難の内容については、保育所では「就労」や「経済状況」、小中学校では「子どもの養育・しつけ」「不規則な生活」が多くあげられている。学童保育所では、「子どもの養育・しつけ」「就労」「経済状況」のほか、多くの項目があげられている。

【公立保育所】保護者の抱える困難

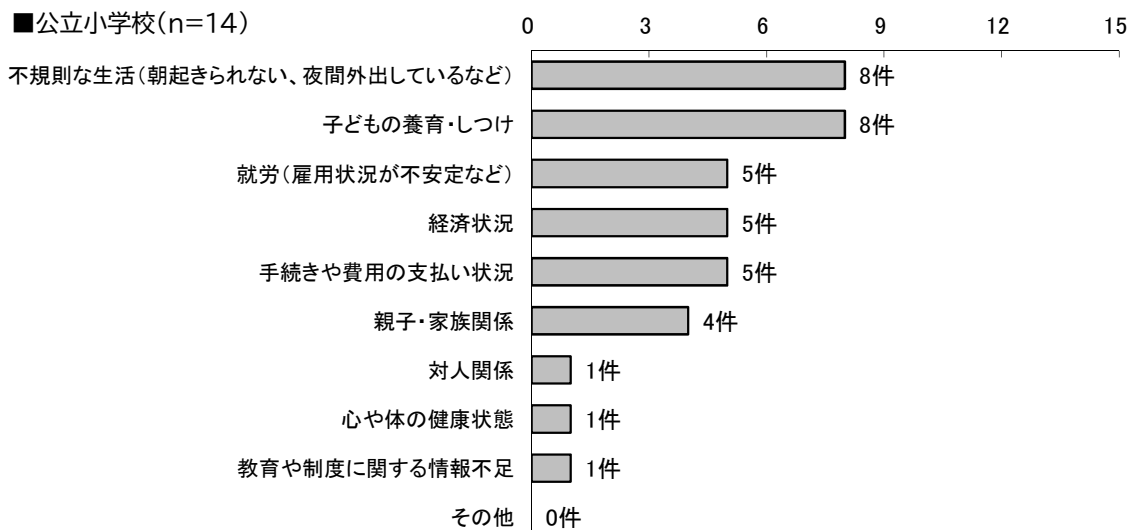


【自由記述の内容】

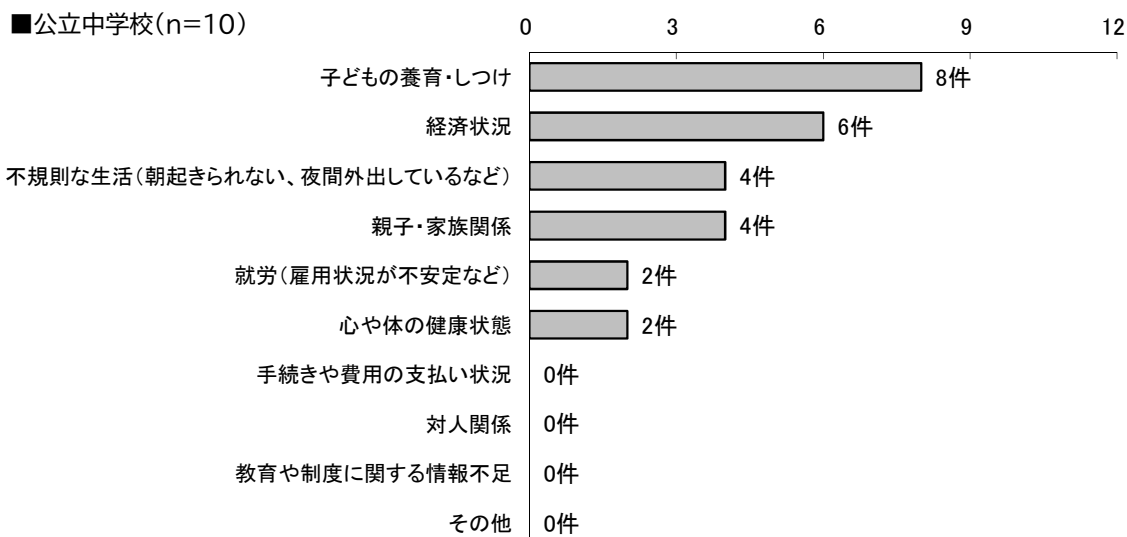
○子どもに障害があり休みがちのため、母は仕事をするのもままならず、精神的も不安定な状態。現在は、他市の病院へ通院のため乳児医療費を一度立て替えなければならない事が、経済的に厳しいとのこと。

○診断は出ていないが両親共に障害を抱えている可能性がある。(父親は診断有り)。

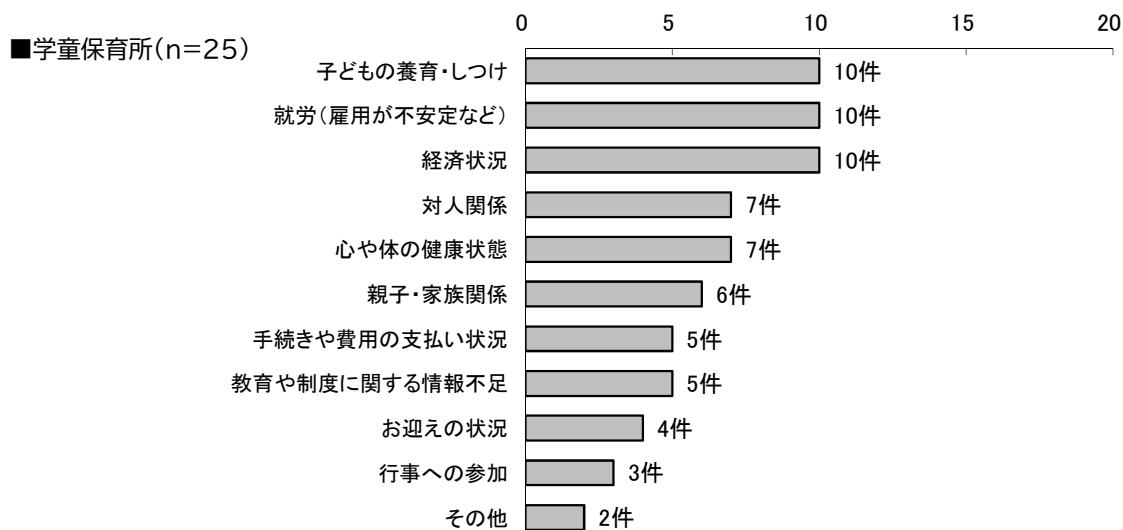
【公立小学校】保護者の抱える困難



【公立中学校】保護者の抱える困難



【学童保育所】保護者の抱える困難

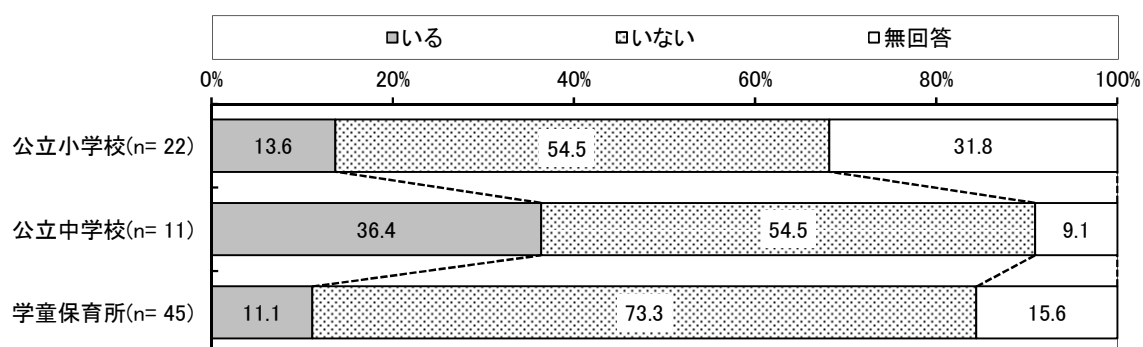


(5) 生活困難とヤングケアラーとの関係

問5 現在在籍している児童生徒のうち、貧困の状況にあると思われる子どもの中で、家族のケア（家族に代わり家事、幼いきょうだいの世話、障がいや病気の家族の世話・看病、高齢の家族の介護、外国人の保護者への通訳など）をしているのではないかと感じた児童生徒はいますか。

ヤングケアラーと思われる児童生徒の有無について、「いる」との回答は、関わる子どもの年代が上がるほど高い傾向が見られ、中学校では3割代半ばとなっている。また、自由記述の内容からは、具体的な子どもの状況が明らかとなった。

【関係機関別】ヤングケアラーと思われる児童生徒の有無



【自由記述の内容】

① 公立小学校

- 保護者が、夜仕事に行っている間、未就学児の面倒をきょうだいでみている。
- 幼い兄弟の予防接種のために、ほかの兄弟の面倒をみななければならないので学校を休む。家事の手伝いをするために学校を休むという状況。
- 本人にとっては普通のことになっているので、本人が気にしている様子はなかったが、本人の話から、手伝いではなく、児童が主となり料理や掃除などを行っている様子が感じられました。

② 公立中学校

- 母親がリウマチを患っており、母に代わって家事を行っている様子がうかがえる。
- 家を出て1人でほっとする時間が必要で、朝、遅刻してくることが多かった。
- 実母と再婚相手の間の子どもの面倒や家事手伝いをしている

③ 学童保育所

- 保護者が障害などによって十分なコミュニケーションが取れない中で、子どもが両親に対して第三者との会話のやり取りを代わりに行っている。子どもとしては、やりたくないようだがやむを得ずやっている状況がうかがえる。
- 保護者が出張の際に子ども2人を一緒に連れて行き、ホテルに子どもだけで待たせている状況がある。
- 親のお迎えも遅く、家での家事は子どもと手分けをしてやらないと家が片付かない状況。末弟の面倒を子どもが代わりに見なくてはいけない時があったり、学校の準備は子どもの自己責任になってしまったりすることもある。

- 父親が精神疾患のため就労ができない状態であり、子どもが父親を気遣い、会話をしたり、心のケアのために家庭内で気を配っている様子があった。母親からは、経済的に厳しいとの話があり、就学援助を受けていた。子どもとの会話のなかで、母親の家事を手伝っている状況がうかがえた。
- 母親が入院中で父親が仕事で遅くなるため、食事の支度や風呂掃除、妹の世話、朝の支度などをしたという話を聞いたことがある。

(6) 生活困難家庭との関係

問6 現在在籍している児童生徒のうち、貧困の状況にあると思われる家庭・保護者と保育所(学校/学童保育所)との関係についてどのように感じていますか。

① 公立保育所

項目	内容
対応の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時やクラスの懇談会等で個別に声掛けをし、連絡ノートで伝えるなど家庭との連携を密にするように心がけている。 ・子どもの成長発達についての情報共有、子育て支援
保護者が相談をためらう	<ul style="list-style-type: none"> ・こちらから、話しかけると素直に応じていろいろ話してくれるが、保護者からの自発的な相談などはなく、休みの連絡が来た時など、励ましの言葉をかけたり様子を確認したりしている。 ・関係は良好で話しやすい雰囲気もあり、聞いたことには答えてくれる信頼関係は築けているが、本当の困り感や本音の部分は聞くことが難しい。
関係は良好	<ul style="list-style-type: none"> ・何年か担任として関わっている職員に対しては、心を開いて、保育所からの話や要求も比較的聞いてくれる。 ・ほどほどに良好な関係であると思われる。 ・担任は、声をかけたり目をかけたりして、なるべく毎朝明るく寄り添い声をかけていて、関係は良好である。
保護者の精神が不安定	<ul style="list-style-type: none"> ・時間をとって、話をよく聞くようにしている。しかし、子どもの発達が遅れていることで嫌がられていると感じる、など母親が精神的に不安定なことがある。

② 公立小学校

項目	内容
保護者と連絡が取れない	<ul style="list-style-type: none"> ・父親と連絡が取れにくいことに困難を抱えている。再婚した母親には連絡がつくが、お金のことは父親任せのため、進まない現状がある。 ・関係は良好であるが、連絡がつきにくい状況である。 ・比較的、協力的なので、さほど苦労はしていない。しかし、家族の精神的状況(浮き沈みが激しいなど)により、連絡が取れないときや、外国籍のために伝わらないことがある。 ・仕事が忙しいためか連絡がつきづらい。 ・学校としては、子どもが学習や生活で困らないようにできる限りの支援をしたい

	<p>とと思っているが、連絡が取れないために意思疎通が図れない、その家庭で何が問題なのか把握できないため、支援策も講じられないでいる。</p>
保護者の 関心の薄さ	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者があまり学校（子ども）に関心をもっていないように感じる。 ・保護者が学校との関わりを積極的に持とうとしていない。
対応の工夫	<ul style="list-style-type: none"> ・各家庭の状況によるが、保護者へ寄り添った対応を心がけることで、協力的な話し合いができる場面もあった。しかし、その反面、連絡をしても、協力をいただけないこともあった。今後も、粘り強く、子どもの将来を第一に考え、保護者との信頼関係を作っていきたい。 ・保護者の頑張り認めつつ、児童の状況を把握し心配な場面があれば話ができるようにしておく。
学校に非協力的、不信感	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に対して非協力的、不信感をもっている家庭もある。学校に助けて欲しいという考えは見られない。 ・保護者の養育能力が不足しており、学校の教育活動について十分な理解がされていないと感じる。 ・お願い（再集金等）することが多くなってしまうので、「また学校から連絡が来た」と嫌悪感をもたれてしまう。 ・学習、生活（医療面含む）について支援が得られず、学校や他者に対して攻撃的な家庭もある。 ・生活をしていくため、保護者も忙しいのだろうと想像しているが、親としての最低限の義務（集金や提出物等）を果たせていないように感じる。しかし、本当の理由は分からない。貧困（経済的に困難）であるのか不明である。
把握の難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの保護者は学校に経済状況を知られたくないと考えており、学校もよほどのことがない限り、各家庭の経済状況まで立ち入ることはないのが現状である。 ・集金等の滞納者には連絡をするが、子どものためを思い、お金を工面して支払う保護者も多く、どの程度の貧困状態にあるのかは、学校では把握することが難しい。

③ 公立中学校

項目	内容
保護者と連絡が取れない	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの具合が悪くなったとき等、家庭との連絡はなかなかつかない。 ・学校では連絡が取りにくいので、学校以外の支援が必要。 ・連絡が取れないことが多い
状況把握が負担	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭の状況の把握が難しく非常に労力を費やす。通常業務にかなりの影響が生じる。
生徒・保護者との関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・担任と保護者、生徒本人とはスムーズに連絡を取り合えるが、一步踏み込んで行政のサービスを提案するまでには至っていない。また、生徒本人が安心して家庭の悩みを話せる教師が限られており、本人の希望を尊重しながら、家庭とも連携を深めていく必要性を感じている。 ・保護者の学校に対する対応については、特に問題はないが、義父の対応が厳しい

	面が見られる。
費用の滞納	・支払いの滞納等に苦慮している。
把握の難しさ	・現在、貧困と疑われる家庭は把握していないが、学校として対応できることは限られているので、どこまでサポートできるか難しいと感じる。 ・貧困とは一概に言えないが、実態がわかりにくい。関係を築きにくい。
保護者の関心の薄さ	・本人も含め、登校への意識が低く、欠席が続く傾向が見られる。

④ 学童保育所

項目	内容
保護者に支援しやすい立場・関係にある	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育所へのお迎えの時に日常的に直接保護者と話す機会があるので、対話を重ねる中で保護者の悩み等を聞いたり、育児や子どもの状況について助言したりすることができる。 ・心のケアやサポートがとても重要だと感じている。保護者には、話を聞いてほしいという方も多いと思うため傾聴の姿勢で今の状態や悩みなどをよく聞き取り、寄り添う支援が必要ではないかと思う。 ・職員としては、日ごろ子どもとのやり取りで出てくる家庭の様子や、保護者とのやり取りの際の表情や会話から、何か異変が起こっていないかを注視する必要があると感じている。 ・子どもの様子が見られるのと、保護者と直接話ができる点では学童保育所は保護者にとって一番近いところだと思う。家庭状況を把握できるので次の支援に繋げ、ケアすることが出来る、なくてはならない関係だと思う。 ・子どもの生活に対して家庭に代わって一定限度、関わるができることで、学童保育所側が困難を抱える家庭に必要な情報を伝えることができる立場にある。 ・貧困を疑われる家庭に対しては、注意深く観察し、保護者とも密に接するべきで、そこから信頼関係が作れる。学童保育所への信頼が持てれば、家庭の悩みなども話せると思う。 ・これまでも、保護者との会話から家庭の状況を知ることが多いため、保護者が悩み事を相談したり、気軽に話したりできる関係であると感じている。 ・保護者同士の繋がりがなく子育てや仕事の面での悩みが相談できる相手がない。その悩みや相談の窓口に学童保育所の職員が位置付けられていると思う。それは他の機関と比べて学童保育所が家庭、世帯に近い位置にあるからだと思う。学童保育所は、職員が、子どもの様子だけではなくお迎え時の保護者の様子を察知し声を掛けることが必須業務のひとつと位置付けていることで、保護者にとっても安心する場になっていると感じる。 ・信頼関係を早期に確立できるよう、小さなことでも話すようにしている。困っているときに話をしてもらえような関係作りをしていく必要がある。 ・生活の上で困っていることがあればその問題に関する情報を共有できる関係。 ・貧困が疑われる家庭の子どもは特に非認知能力が低いように感じている。そのた

	<p>め、子どもの現状をとらえ、子ども自身何に困っているのかを保護者と共に考え、必要であれば他機関へ繋いでいくことのできる、子育ての伴走者のような関係だと感じている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どものことについては学童保育所での様子と家庭での様子を共有し合うことができしており、保護者も一緒に考えるという姿勢で話をしてくれている。
<p>保護者が相談をためらう</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭環境について深いところまでの話ができない。保護者が自分の境遇を他者に知られることを良しとしないため、困ったことを相談するまでに至らない。保護者の方が距離を置いてしまい、話す内容についても躊躇していることがうかがえる。 ・保護者に対しては話を聞いたりする、一緒に考える以上のことは、保護者の生活状況（時間がない、他人との交流を望まない等）から、なかなか広げることが難しいように感じている。
<p>関係構築に不安</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・心配な家庭としっかり関係を築けているかどうか不安に思う。情報共有をしていきたいが、迎えが保護者ではなく祖父母なので、必要と思って話したアドバイスや依頼事が、しっかりと保護者に伝わっているのか心配な時がある。

2. 子どもの貧困への支援について

(1) 必要だと思う支援策

問7 子どもの貧困対策や子育て全般において必要だと思う支援策は何だと思いますか。

① 公立保育所

項目	内容
保護者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・家賃補助等、経済的な支援。 ・保護者に子育てのしやすい就労の場を確保すること。そのうえで母（父）から子どもに貧困の連鎖が起きないようにすること。子どもに等しく教育の権利を与えること。（進学したくてもできない等をなくす。） ・生活環境の改善が第一だと感じている。保護者の就労、収入が安定することにより、経済的にも精神的にも気持ちの余裕をもてるようになるのではないかと。 ・子どもを安心して預けられる場所があれば、集団の中で生活習慣の獲得や教育環境の提供もできると思う。そこから保護者との信頼関係が生まれ、送迎時等にご家庭の様子や困りごと等のお話を伺うこともできるようになってくるのではないかと考える。
気になる家庭の見守り・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・身近で家庭の様子を知る人がいること。見守る人がいること。 ・子どもの心のケアが必要だと思う。また、家族状況が複雑な事が多いので、虐待などのサインを見逃さない事が大切だと思う。 ・気づいたこと、現場の声を拾い上げていくこと。 ・定期的な家庭訪問等による実態の把握。 ・子どもを中心とした現状把握、状況の見守りを行うことで関係機関との連携に繋がっていくのではないかと考える。
相談・支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ひとり親家庭や家庭のみに閉じこもっている方の対応が難しいのではないかと考える。保育所や子育て支援センターなど子育て機関に関わることにより、救済が必要な方々に早期に手立て等を導いてあげられるのではないかと考える。まずは相談できる機関と安心できる関係づくりが大切だと思う。 ・見守りや相談のしやすいセンター（行きやすいもの）。また、子どもを安心して預けられる施設。保育所をさらに充実させて、日々子どもを預ける中でこれらの機能的役割を果たすことが出来ると良いのではないかと考える。
必要な人に支援が届く	<ul style="list-style-type: none"> ・本当に支援が必要な家庭へ支援が届くと良いと思う。
手当の適正利用	<ul style="list-style-type: none"> ・手当が出ても、子どものために使わず親が使ってしまう状況の改善ができるとうい。
連携の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもに直接かかわることは現場で対応できるが、保護者への大きな支援が必要となる場合は連携する課とのつながりが大切だと思う。

② 公立小学校

項目	内容
保護者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政による金銭面での援助及び子育ての支援 ・ 学校が介入しにくい部分(両親の就労について等・様々な手続き等)への支援、またその状況を学校とも共有すること。 ・ 手厚い就労支援 ・ 保護者に対しては、学校としていつでも相談し合える体制を整え、連携を図っていくことが必要だと考える。 ・ ひとり親家庭などで収入のため仕事に行かなければならず食事をつくるのが困難なお宅への食事の提供、日常生活の手伝い、話し相手(相談)等をする。親子への心理的、物理的支援。 ・ ひとり親家庭への経済的な支援 ・ 就学援助は、多くの保護者が活用しており、有効な支援策だと思う。 ・ 福祉部局による訪問、保護者の就労支援、補助金等の手続きの支援と金銭の使い方等の見届け。 ・ 保護者の生活を安定させる為の支援が必要だと思う。安定した収入を得るための就労支援、また、得た収入の計画的な使用の仕方なども教える必要があると思う。
子どもの生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校がある日の朝ごはんや昼食(給食がない日や校外学習でのお弁当を準備しなくてはならない日)を支援機関で準備できる制度ができないか。 ・ 朝食・夕食いつでも無料で食べられる子ども食堂(学区内にあるとよい) ・ 放課後の児童生徒の居場所作り(子ども食堂や無料の学習教室など) ・ 学校にある程度自由に使える予算をいただき、貧困に起因するような気になることがあれば、文房具や洋服、朝食等を購入して児童に与えることができるようになると救われる児童もいるように感じる。 ・ 本校においては、ひとり親家庭が多く、日々の生活をするのが精一杯であり、家庭での学習環境が整わないため、それが児童の学力の定着に影響を与えてしまうことがある。そういった家庭に見守り指導、親の相談等、積極的に行える支援の工夫ができればよいのではないかと考える。
子どもの教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校ができることは、どの子にも平等に学習を受ける機会を保障することだと考える。
相談・支援体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ 児童相談所等に相談をすることもあるが、もっと気軽に内容が軽微なうちに相談ができる機関があると良い ・ 保護者の未納が続くなど貧困の可能性を感じたら、市の方へ連絡し、対応していただきたい。また、貧困によって子どもの生活が不利益を講じていると分かった場合、ファミリーサポートスタッフやSSWなど、生活の手助けをしてくれる制度を紹介、導入していただけるとよいと思った。 ・ 家庭が経済的な不安を生じている場合に相談できる、誰もが分かりやすいワンストップ窓口の設置及び学校での専門の相談窓口の設置が必要である。学校に行政の出先機関としての専門窓口(学校職員以外が担当)があれば、保護者は助かると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学校以外の相談先がない保護者が多くなってきているように感じる。子育てのこと、学校のことなど気軽に相談できる場所があるとよい。
連携の必要性	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的に生活基盤を整えるための支援が必要だと感じている。現在だと子ども家庭総合支援センターと連携することができ、助かっている。 ・学校と行政、地域との連携体制づくりが必要である。 ・教育、福祉等、子どもに関する部署が連携して子育て支援を行っていくことが必要だと思う。

③ 公立中学校

項目	内容
保護者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者のメンタル・フォロー ・親の養育能力を高めることが必要。 ・兄弟・姉妹が多い世帯への子育て支援の充実 ・経済的な支援 ・住居の提供など、行政による経済的な支援 ・コロナ禍もあり就労、特に飲食業に携わっていた保護者の解雇を耳にする。こうした方々への金銭的支援は欠かせないと思う。 ・市からの補助金を直接学校に支払ってもらう。(保護者の了解がとれず、話がなかなか進まない現状がある。) ・外国籍の生徒・保護者が近年増加しているが、就学援助等、書類の記入の仕方が分からなかったり、言葉が通じないことで書類の不備があったりして認定が遅れることがある。必要なことが速やかに連絡できるような言葉の壁に対する対応策が必要であると感じる。
子どもの生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・最低限の生活習慣の確保(食事・衣類等) ・ひとり家庭の子どもへの生活支援の充実(生活習慣が身に付いていない子どもが多い。) ・子どもを一時的に保護するなどの措置が必要。
子どもの教育	<ul style="list-style-type: none"> ・貧困の連鎖を止めるために、学力を子どもに身に付けさせる。
気になる家庭の見守り・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の民生委員や主任児童委員が、より積極的に家庭訪問を行うなど、困っている家庭の状況を把握し、行政のサービスと結び付ける体制を整える。 ・ネグレクト等が疑われる家庭については、児童相談所との連携が必要。 ・福祉からのアプローチ、ケースワーカー等の介入 ・該当家庭の親に関係機関(児童相談所等)が積極的に関わり、子どもの状況を把握し、親に対し適切な対応を行う。

④ 学童保育所

項目	内容
相談・支援体制、情報提供の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者が周囲の人に助けを求めやすい環境を作り、相談事を聞いて少しでも、気持ちを楽に出来るようにしたり、共に今後について考えたりする場を作る。 ・相談がしやすいような関係づくりをする。 ・相談の窓口を積極的にPRすること。貧困世帯には進んで支援の情報を求めようという余裕がないことが多いため、プッシュ型の情報提供が必要。 ・日頃から子どもの話をたくさんして、相談ができる関係を作ること ・子育ての悩みや貧困に関する相談を受け付けている子育て支援の組織や機関の情報を、できる限り多くの場所で紹介する。 ・経済的な支援に加えて、カウンセラーや相談員の充実が望ましい。家庭からの相談を待つのではなくて、ひとり親家庭や低所得家庭には、行政機関が連携して、家庭訪問等をする制度が整備されたらよいのではないか。 ・子育てに関する相談や悩みを、24時間受け付けて相談できる相談窓口の開設が必要。 ・気軽に、相談することのできる場の提供 ・子育てに寄り添い、保護者の不安や悩みを聞く相談員を充実させていくこと。 ・仕事・家事・育児に追われる保護者にとっては、生活や子育ての大変さを共感してくれる理解者の存在が必要で、悩んだり疲れたりした時に話せる存在が必要だと思う。学童保育所の職員がその一端を担い、学校やその他の関係機関と情報共有しながら支えていけるといいと思う。 ・子育て中に孤立しがちな保護者に対して、NPOなどの組織が積極的に情報を発信し、子育てに役立つ支援策を提示、提供していく体制。 ・子どもや保護者が抱えていることを速やかに、何でも相談できる環境を作ること。 ・コミュニケーションが取れる場所の提供 ・悩みや相談事をすぐに話せる、伝えられるような窓口の存在を丁寧に細やかに伝えることが入り口だと思う。 ・子どもだけではなく、保護者の方が安心して心に抱えている相談事を話せる場、気軽に相談が出来る居場所の設置。 ・保護者が周囲の人に助けを求めやすい環境を作り、相談事を聞いて少しでも、気持ちを楽に出来るようにしたり、共に今後について考えたりする場を作る。 ・外国籍など言葉の問題でなかなか相談できない世帯への相談機関の充実。
子育て世帯のネットワークづくり	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的に余裕がなくても保護者が悩みを相談出来たり、交友できたりするネットワークの構築。 ・子育ての孤立化を防止するために、子育て世帯同士がつながれるような仕組みを考えて提供することが第一と思う。自助は大切だが、まずは共助の仕組みを整えてから。 ・話をする場を設けるべきだと思う。自分だけではなく他の人との共感を得ることで自分自身の悩み解決にも繋がる。なにより保護者同士が繋がりを持つことができるような支援も、SNSが普及してきている今だが、直接会って話を聞く、助

	<p>言を送ることこそ、このネット社会のご時世において、必要になると思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子育て相談員（のような担当者）の活発な活動により、孤立化を防ぐこと。
<p>気になる 家庭の見守り・早期発見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育所や小学校、保育所などは、家庭の様子や子どもの変化に気が付けるよう、教職員は常に子どもの状態を気に掛けること。 ・貧困が想定されるような家庭や児童を早期にキャッチすること。また、キャッチできる役割を各方面の機関に持たせること。 ・子どもの小さな変化にも気づくことのできる環境。子どもと、保護者を様々な観点から支え、サポートしていける環境。その家庭にとって、何が必要なのかをしっかりと把握すること。 ・貧困の状況にあることに気づき、適切な支援を行ったり、行える機関につないでいったりすることで、少しでもより良い状況を作ること。 ・周りの大人たちの気付きが大切であるとともに、その気付きを発信していく場所を知ることと実際に発信していく行動力が大切だと思う。公共の子育て資源が地域の子育て支援団体と連携を密にして、要配慮世帯の見守りや相談を引き受けることが必要と考える。 ・毎日子ども・保護者と対面しているからこそちょっとした変化に気付ける場なので、必要に応じて関係機関への早急な報告をする場だと理解している。 ・問題を抱えている家庭が自分から相談窓口に行くとは限らないため、小学校や保育所、幼稚園、学童保育所、スポーツクラブなど子どもと保護者が関わる施設にいる職員が、何かしら問題点がありそうと感じた世帯について情報を提供して共有する制度があった方が良い。
<p>連携の必要性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な機関との連携 ・子ども支援に関わる行政組織と民間団体が互いに連携し情報共有を行うシステム、制度の用意が必要であると思う。 ・各機関とそれぞれの家庭状況の情報共有をできるようにする。 ・関連機関が緊密に連携すること。対応する機関においては、相談者がなんでも話せるような話しやすい環境をつくること。 ・地域コミュニティーに属していない貧困世帯が多いので、学童保育所や学校などの関係機関が連携をしていくことが必要。 ・学童保育所を含め、関係機関と連携をとれる体制を常に確保しておくこと。 ・もっとスムーズに学童や学校、地域の方と連携がとれるシステムがあればいいと思う。 ・学童保育所においては、学校との連絡を密に取り、連携を図る。 ・学童保育所や小学校、児童相談所などが常に緊密に情報共有し、貧困による児童虐待や子育ての孤立化についてすぐに対応できる体制を整えること。 ・生まれ育った環境によって、子どもたちの将来が閉ざされることのない社会にするために、地域全体で支援するようなネットワークづくりをしていく。
<p>子どもの教育・体験の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習意欲の支援。貧困による教育格差の解消。 ・子どもが平等に教育を受けられるように授業料を無料にしたり、返金不要な奨学金制度を活用することができるようにしたりして、「教育の貧困」を避けるよう

	<p>に努めること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 貧困世帯の保護者には、毎日の生活をする事で手いっぱい、子どもが「やりたい」と思う事を探せない（または、気づいても取り組めない）現状がある。学童保育所での宿題の様子を見ても、低学年のうちから、学習の理解度や集中度に差が生じている。 ・ キャンプ、おでかけなど、家庭ではできないことを行うこと。 ・ 企業などと連携し、さまざまな体験ができる場をつくること。 ・ 子どもたちの使う文房具の支給
<p>子どもの生活支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食生活の改善、支援。子ども食堂の制度化（補助金による運営支援） ・ 貧困の状態の子どもにとって適切な居場所を用意すること。 ・ 無料で学習支援が出来る場と、子ども達だけでも気軽に通える子ども食堂（宅配など）が増えること。 ・ 子ども食堂の充実 ・ 子どもが安心して過ごせる場所を提供することが必要。子ども食堂など食事を満足に取れない世帯の支援を充実させること。 ・ 無料で利用できる『子ども食堂』や、比較的 low cost でサービスを受けられる『ファミリーサポート』等の充実も必要であると思う。 ・ 学用品や生活必需品の提供。学童保育所では、日頃、子どもが着衣している服や持っているもの（学習道具・靴など）などを観察し、物が古くなったり使えなくなったりしていて、なお買い直せていない状況などを把握したら、保護者会などと協力し、バザーなどのイベントとして開催し、安価で物品が手に入るような環境を作っている。
<p>保護者の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 経済的支援の充実 ・ 低所得者への手当の支給を行い、生活を安定させること。 ・ 児童手当や児童扶養手当の充実、各種費用の軽減 ・ 子育てに関して必ず掛かってくる費用については補助金を拡充する。学童保育所については毎月の費用に対する補助金を増額し低所得世帯の経済的負担を軽減する。 ・ 保護者の就労支援、マッチング支援 ・ ひとり親の方でもフルで働くことができる職場環境が増えること。 ・ 保護者が子どもと十分に過ごす時間を確保できるよう勤務先での休日の確保（とそれに伴う賃金保障、もしくは事業主に対する補助金制度の整備）が必要ではないか考える。 ・ 貧困世帯は時間に追われ、子どもが最も求める親子の触れ合いの時間を十分に確保することができない。貧困対策や子育て支援において重要なのは、いかに親子の触れ合いを確保することが子どもの成長にとって大切であるかということをしつかり伝えていくこと。必死に働いているひとり親は、「時間がない。」と話している。子育ての時間にゆとりが持てるような、保護者支援も必要だと思う。 ・ 心のケアやサポートがとても重要だと感じている。保護者には、話を聞いてほしいという方も多いと思うので、傾聴の姿勢で今の状態や悩みなどをよく聞き取り、寄り添う支援が必要ではないかと思う。

<p>支援者の子どもの貧困への理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対策に関わる施設の従事者や、施策を考える方たちは、まずは子どものことを知り、多く関わる機会を持つことが必要だと思う。関わりの機会が豊富にあることが、問題に対して多くのプランを用意できる引き出しの多さにつながると思う。 ・貧困に陥っている家庭だけの問題ではなく、社会全体や周りにいる大人が貧困への知識や支援策を知っていくこと。 ・ボランティアを募り、子ども達や大人が気軽に立ち寄れる場を多くし、他者との繋がれる場と理解者を増やす。(ネットワークを広げていく)
<p>子どもの貧困対策全般について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・対策に関する各種の施策をもっときめ細やかに実施すべきだと思う。 ・無記名のアンケートを実施し状況をきめ細やかに把握すること。 ・家庭の状況を把握できることができる機関の設置、整備。 ・保護者自身の非認知能力(自己肯定感や自己有用感など)が低いが故に、子どもに寄り添うことができず、子どもの非認知能力も低くなってしまっている現状があるのではないかと感じている。今この貧困の連鎖を止めるための支援策が必要なのではないだろうか。まずは孤独な子育てにならないよう地域で子育てをサポートし、親子共に非認知能力を向上できるような支援が必要だと思う。 ・行政主導の各種手当等金銭的な支援、一時保育、病児保育、学童保育、ショートステイなどのサービスの他、現在は個々の人および組織の善意によって行われている子ども食堂など様々な支援の窓口・場所の一本化が必要だと思う。そしてその統一された窓口が市内に複数箇所あり(徒歩で困ったときには子どもだけでも行ける小学校区ごとなど)、夜間・休日も開いていること、アプリなどで簡単に申請が出来ること、即支援につながるワンストップサービスであることが重要だと思う。 ・大人の働きかけだけでなく、子どもの訴えからだけでも対応することができる機関ができること。 ・子どもを預ける際の保育料が安い施設が増えること。

(2) 各機関で実際に行った支援・果たすべき役割と考えること

問8 貴保育所（学校／学童保育所）において、これまで実際に行った支援についてお答えください。また、実際に行った支援以外で、保育所（学校／学童保育所）が行うべき支援や果たすべき役割について、お考えがありましたらお答えください。

【実際に行った支援】

① 公立保育所

項目	内容
気づきと信頼関係の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の様子を見て子どもや保護者の変化に気づくこと。 ・保護者の方が安心して毎日登所してくれるように信頼関係を築くこと。 ・保護者の話を傾聴し、気持ちに共感しました。 ・保護者が子どもに対して愛情をもって接する事ができるよう、保護者と子どもの仲立ちとなり、子どもの頑張っている姿を伝えたり、成長と一緒に喜びあったりする。 ・母親のメンタル面や体調に寄り添った言葉かけや見守りをしている。 ・母のノートへの記入で質問などがあつたときには、担任と所長で話を聞く機会を設けたりした。 ・朝、明るく声をかけている。朝ごはんを食べてくることができた時には、母親の頑張りを認めたり褒めたりしている。 ・子どもの成長や良かったところを多く伝え、時には爪が伸びていて友だちをひっかいてしまったなど現状を伝えアドバイスをしている。
他の機関との連携と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・関連する機関があれば連絡をとり情報を伝えること。 ・児童相談所、役所、保健センターなどと問題を共有して対策を講じる。
子どもの生活支援	<ul style="list-style-type: none"> ・食事・睡眠の保証をする。 ・給食をお腹いっぱい食べられるようにした。 ・リサイクルの洋服など優先的に差し上げた。
保護者への情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な支援を受けられるように適切な場所を紹介する。
保護者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者と面談を行う。開所時間を過ぎても子どもを迎えに来ない保護者を待ち続けることもある。

② 公立小学校

項目	内容
実態の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・家庭訪問の実施 ・家庭訪問を行い、家庭の様子を確認
他の機関との連携と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所との連携 ・民生委員や児童委員との情報交換 ・市への情報提供 ・令和3年度では、児童相談所、保護者、学校の3者による面談を行った。情報を共有することで、お互いの理解を深めることができた。

■ 第2部 関係団体等支援者調査 ■

関係機関へのつなぎや情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に教育相談を行い、保護者が望まれる場合は、関係機関につなげることをサポートした。 ・就学援助の案内、男女共同参画課等への案内 ・就学援助の手続きを勧める。 ・行政のシステム等説明や行政への橋渡し ・子育てに関して、市役所や児童相談所、医療機関などを紹介し、連絡をとるよう促した。
信頼関係の構築や相談対応	<ul style="list-style-type: none"> ・養護教諭が該当児童の母親と相談をし、心のケアを行った。 ・保護者の立場に対しての寄り添い ・子どもの学習状況を伝え、(授業、宿題等の取組状況)宿題の取り組み方についての助言。

③ 公立中学校

項目	内容
保護者の支援	<ul style="list-style-type: none"> ・教材費等の分割払いを保護者と相談のうえ、個別に計画を立てて行った。
信頼関係の構築や相談対応	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールカウンセラーとの面談、進路相談 ・スクールソーシャルワーカーとの連携
実態の把握	<ul style="list-style-type: none"> ・教育相談部会の状況把握 ・学年職員による(生徒本人との)話し合い
他の機関との連携と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・行政機関との連携(上尾市教育センターや子ども家庭総合支援センター) ・民生委員・主任児童委員会議でのケース会議 ・主任児童委員への協力依頼 ・児童相談所への連絡 ・住環境に問題がある子どもについて、児童相談所と連携して改善を促した。結果、新たな住宅への転居につながった。 ・関係機関(児相、教育委員会、子ども家庭総合支援センター等)に連絡は取ったが打開はできていない。
子どもの学習や登校への対応	<ul style="list-style-type: none"> ・放課後に学校に登校させる。

④ 学童保育所

項目	内容
信頼関係の構築や相談対応	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に丁寧に話を聞こうとすること。 ・毎日忙しい保護者に向けて、お迎えの時に日々の子どもたちの様子を共有する。問題行動などについては、課題をただ伝えるだけでなく一緒に考えてもらえるように働きかける。わかりやすい保育報告やお便りなどで学童保育所全体の様子なども短い時間で知ってもらうようにする。 ・お迎えの時など、服が小さくなってしまったことや、持ち物が壊れてしまって子どもが困っている事などをそれとなく伝えた。

	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの様子を常に気にかけて保護者に伝えている。保護者が子育てに関する悩みを相談してきた際には、まず話を受け止め、聞き手になることを心掛けている。 ・生活に困った家庭、子育てに悩んでいる家庭の保護者とこれまでたくさんの交流機会があった。その際は保護者の話をじっくり聞き、相談に乗ることを心掛けてきた。話を聞くことだけでも悩みが減り、子育てに向き合う意欲を持つことができる。子育て世帯が日常的に子育ての悩みや生活の悩みを話し、打ち明けられる最も市民に身近な施設機関は学童保育所だと思う。 ・差別や偏見で見られることが無いように配慮した。 ・こまめに保護者と話をして現状を把握し、児童だけではなく母の気持ちに寄り添いながら支援している。 ・職員から見て、課題があると感じたことは保護者に伝えている。 ・離婚で父子家庭となった家庭が在籍した際は、保護者に子どもの様子を細やかに伝えたり、保護者が一人で子ども達を見ていたこともあったので学校での持ち物についてなど保護者に対して丁寧な声かけを行うよう意識し、丁寧な対応を心掛けた。 ・「生活が大変」と疲れた表情でお迎えに来る保護者に、何気ない会話でフォローをしたり、愚痴を聞いたりしている。 ・子ども、保護者の方と関係作りをしながら、少しずつ深いレベルのところまで話ができるようにしていきたいと思う。 ・保護者にどんなことでも相談してと頻繁に声をかけている。 ・日々の様子を伝えていくこと。
<p>保護者の支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自宅を訪問し、今後の出欠確認や在籍に必要な書類の作成など個別に支援した。 ・学年別の保護者交流会（保護者同士の関係性を育て、孤立化を防ぐ） ・子どもが大きくなった家庭から、洋服のおさがりが融通できるようさりげなく話や交流をつなげる。 ・他の保護者との関係づくり ・孤立しないよう保護者会でつながりを作っていた。 ・懇談会の開催 ・ひとり親の母親の就労支援をした。（職場の紹介をした） ・保護者の精神的不安を聞く。（1時間以上聞く時もあり） ・保護者の命の危険があった際、自宅まで安否確認を行った。 ・余裕がないと話す保護者さんの悩みを聞き、励ました。
<p>組織内での気づきの共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者のちょっとした変化に気付けるよう、日々の関わりを大切に、記録に残している。 ・子どもからの情報収集 ・学童保育所で楽しく過ごせるように、職員間で情報共有し、見守っている。 ・デリケートな問題については、連絡ノートなどを活用し、個別での情報共有に努めている。 ・保護者にどうアプローチしていけばいいかも職員間で話し合い、保護者との関係も良好になり、子どもの現状や困り感も共有できるようになってきている。
<p>他の機関との連携と情報共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生活困難とおぼしき家庭に対して、できる限り見守りアドバイスをした。それでも改善の様子が見られず、児童が不登校になり学童保育所への登所日数も減ったことから関係機関への連絡が必要だと感じ、小学校へ情報提供を行った。 ・貧困が疑われる家庭において適切なケア、サービスを受けることができる様に関係機関と連携して行動した。

	<ul style="list-style-type: none"> ・学童クラブの会の組織内においても情報共有をし、専門機関への連携や紹介を行っている。 ・日頃から子どもの言動や身なりを観察し、貧困が疑われるようなことがあった場合、事務局へ報告し、小学校と連携を取り情報共有をしている。 ・小学校とも情報を常に共有している。 ・相談の内容は本部事務局と相談し、必要に応じて小学校とも情報共有を行っている。 ・関連機関との情報共有 ・不登校だが学童のみ来る子ども、困難を抱えているので就労が難しい保護者に対し、生活面での支援も必要であるため、学童保育所と学校、そして各関係機関と連携を取っている。 ・非認知能力が低い子どもについて心理士巡回でみていただき、具体的なアドバイスをいただいた。 ・児童相談所等関係機関への報告
<p>関係機関へのつなぎや情報提供</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者が相談しやすい環境を作るよう心掛けている。貧困に関して相談を受けている機関や子育て支援について専門的に相談のできる機関に繋がられるようにしている。 ・保護者との会話により、他愛のない世間話から生育歴まで様々な話を聞くことができる。また、同じ地域の保護者を引き合わせて、地域につながるように心がけている。(あまりコミュニケーションは取りたくない、と思っている保護者にとっては、難しいことだが) ・保護者から相談があったときは、すぐに事務局に相談し、必要な場所を紹介している。 ・保護者からの相談を受けたときは、行政機関の相談窓口の紹介をしている。 ・教育やしつけ、関係機関等について、伝えられる情報は伝えている。 ・一人で抱え込まないよう話を聞き、相談機関につなげた。
<p>子どもの生活支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・夏休み、学童保育所で食事を提供した。 ・栄養バランスを考えた「おやつ」の提供 ・(食事をまともにつけていないと思われる子がいた時は) お腹にたまりそうなおやつメニューの作成 ・子どもが「お腹がすいた」と訴えてきたので、おやつのボリュームを増やしてあげた。 ・保護者の帰宅が遅い家庭もいるので、学童のおやつを腹持ちの良い物にし、栄養面を考慮できるだけ手作りを心掛け工夫をしている。 ・凍ったままのお弁当を温める。 ・子どもが持ってきたお弁当に冷凍食品が解凍されずに入っていたので、職員がその子の近くで昼食を食べるようにして様子を見ていた。 ・教材を使つての制作や、職員との何気ない会話、友達とケンカしても仲良く過ごせる様に子どもの居場所を作ることを実践している。体調が崩れた時の対応や、宿題への声かけ等、子どもが安心できるような支援を行ってきた。 ・学童保育所では安心して過ごせるように、主体性を大切にしながら学童生活を送れるように心がけている。 ・行事にて、参加全員向けにプレゼントや景品をあげる場面で、おもちゃやお菓子でなく鉛筆等の必需品にすることで、陰ながら支援している。 ・不安になっている子どもには、安心できるように共感や励ましの声かけをしている。

子どもの教育・体験への支援	<ul style="list-style-type: none"> ・キャンプ、おでかけなどの行事を行った際、「ひとり親家庭で、自分だけでは連れて行けないので、学童で連れて行ってもらえて助かる。」との声があった。 ・キャンプなどの行事への参加は家庭ごとの個別支出だったので、学童保育所が出店するバザー収益などを使って無償にした時期もあった。 ・みんなが参加できるように、キャンプや行事の費用を保護者会費で補填してもらった。 ・保護者と職員が一緒になって、子どもたちが喜ぶイベントを企画して実施した。
---------------	--

【果たすべき役割と考えること】

① 公立保育所

項目	内容
関係機関へのつなぎや情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・支援に繋がれるように、関係機関と連携したり紹介したりがもっとできるとよい。 ・行政と連携を密にし、貧困家庭にもう一步踏み込んだ支援を行うこと。（どこに相談したらよいかもわからない人が以前は多かったように思う。） ・子どもの安心、安全を守る施設という点から考えると、児童虐待やDVにつながる可能性のある家庭への慎重かつ細やかな観察、障害児等気になる子への配慮、保護者の就労等の支援、これらに関係機関と連携をとりながら行っていくことだと考える。
気づき・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待防止、サインを見逃さない等。
子育て支援	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に根差した子育ての交流が出来ていくとよいと思う。

② 公立小学校

項目	内容
学校が関わることの難しさ、学校が関わることへの疑問	<ul style="list-style-type: none"> ・学校としては、とてもデリケートな情報を扱うリスクもあり、子どもたちへの影響も少なからずあるように感じる。 ・学校と家庭との連携は不可欠であると考えているが、家庭内のことについて細かく学校が関与することは非常に困難であると考えている。 ・児童の経済的な問題に学校が直接支援することは、なかなか難しい。貧困状況が考えられる児童や家庭を発見できるようにアンテナを高くすることや、気付いたときに行政の支援につなげていくことが、学校の役割なのではないかと思っている。 ・全てを学校で行うことは難しく、無理がある。適切な支援者や福祉部局による家庭支援が必要である。 ・学校が担うべきことは、児童への学習に対しての支援や学校生活を円滑に行うために社会性を身に付けさせることなどの支援だと考える。
相談体制の充実や情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒や保護者の孤立化を防ぐ ・公的な情報提供 ・家庭と行政のパイプ役として、情報を共有し、相談できる場を提供していく支援。 ・学校に貧困の相談があれば、市役所に相談に行ってもらおうよう進めるが、相談に行かない保護者も少なくないと思う。学校に貧困対策を求めるのであれば、専門

■ 第2部 関係団体等支援者調査 ■

	<p>的な職員を常駐させるか、巡回で学校での相談日を設けるなどすればよいのではないか。</p>
他の機関との連携と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの変化を察知できる学校が、より迅速に関係機関と情報を共有し、連携を深め、確実な初動を心がけていきたい。 ・民生児童員との連携

③ 公立中学校

項目	内容
他の機関との連携と情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・ 関係機関との連携 ・ 問題を抱える子どもの早期発見、諸機関への早期連絡。 ・ ①子どもの変化に気づき、保護者と連携を図る。②小中連携を視野に入れ互いに情報共有を図る。③専門機関との連携 が大切だと考える。ただ、専門機関について、どこに連絡をするべきか悩むことがある。学校が行うべき支援は家庭の貧困状況に気づいたらすぐに解決に向けた取組をすること、また適切な期間への情報発信が学校の果たすべき役割と考える。
相談体制の充実や情報提供	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行政サービスに関する様々な提案と、コーディネーターの紹介 ・ 相談室や保健室と連携し、本人および保護者へのカウンセリングを実施する
学校が関わることの難しさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ プライバシーの問題もあり、難しい面がある。相談には乗っている。
子どもの学習支援	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生徒本人に対する学習支援
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学校への予算措置。

④ 学童保育所

項目	内容
保護者との関係構築	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの成長発達に関わってだけでなく、保護者の悩みや思いに寄り添いながら育成支援を行っていきけるよう、日頃から子どもや保護者の話を聞いたり、記録を残したりして、子どもが学童保育所に在籍している限りは、一番良い支援が出来るようにしたいと思う。 ・いつでも相談してもらえ関係であること。 ・子育てについて孤立しないよう、支援していくこと（親子行事等を通しての交流など） ・子ども、保護者とそれぞれ信頼関係を築き、保護者も子どもも相談してくれるような関係性を築くことが大切。家庭内で抱え込んで孤立してしまうことがないように支援すること。 ・日頃から保護者とたくさん話をして話しづらいことでも話しやすくなれるような関係作りをする。 ・貧困解消のため多忙になり時として孤立してしまうこともある保護者に寄り添い、身近で気軽に話せる相談相手になる。 ・子どもおよび保護者の心の支えになれるように常に寄り添って、日頃からよく話を聞いてあげる事がまず大切ではないかと考えている。 ・子どもや保護者の悩みに丁寧に関わり添う。 ・学童保育所は貧困対応において保護者と子どもへ働きかけができる機関の一つとして、子どもが安心して過ごせる環境と、保護者の困難を理解し寄り添っていくことが必要。子どもが健全に育ち、成長していくためには保護者の支援も含めて色々な面から支援（主に助言と感情の共有、得られた情報を関係各機関で共有）していくことが必要だと思う。 ・子ども、保護者への精神的ケア ・貧困世帯または貧困が疑われる子どもに関しては、その家庭と深く関わることで、子どものなにかしらの訴えを感じ取ることができるようになる。それを上手く保護者に知らせ、解決策があれば一緒に考えるべきだと思う。 ・子ども、保護者の表情を細やかに把握し、安心して頼れる大人（職員）となるよう、日々話をしてもらえ関係性をつくる。 ・私たちが行うべき支援は子どもに寄り添い共に考え、失敗も成功も全て含めて“自分はここに居ていい”“必要とされている”“相談できる人がいる”と子どもたちに感じてもらい、非認知能力を高めていくことだと感じている。 ・私たちの果たすべき役割は、子どもだけでなく保護者にも寄り添っていき、孤独な子育てにならないよう気を配ることなのではないかと思う
状況把握・早期発見	<ul style="list-style-type: none"> ・学童保育所は様々な観点から速やかに子どものSOSを感じ取ることが出来るし、子どもが発するかすかな助けのサインを見逃さないことが、私たち学童保育所の職員の役割でもあると考える。学童保育所の職員は、気になる家庭については子どもと保護者についてよく観察し、小さなことでも見落とさず、敏感に感じる力を身につける必要がある。 ・貧困が想定されるような家庭や児童を見つけたときに様子を見て話を聞いたりして状況を把握しておく。 ・虐待や貧困などを早期発見できる場所になること。 ・常にアンテナを張り巡らせ、子どもたちの状況を把握すること。 ・最も重要なのは、困難を抱える家庭を早期に発見し、関係機関への報告に努めること。 ・学童は子どもと一緒に生活することができる場所であり、保護者とも関わりがもてる場所。日々の変化を見逃さず、記録をする。また、保護者、子どもの話を聞

	<p>くことができる環境でありたいと思う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもや保護者との会話を通して状況を把握する。子ども、保護者の異変に気づき、共感して受け止める。言動の記録を取る。 ・保護者や子どもとの日々の会話から、家庭の状況を把握するように務める。 ・個別に面談するなどし、子育ての孤立化をなくしていく。 ・保護者と子どもの様子をしっかりとキャッチできるように、従事する職員が常に注意深く対応することが必要。子ども、保護者に一番近い存在にいる施設なので、貧困や虐待の問題を最初に認識できる機会を得られる利点を活用すべき。
<p>子どもの生活支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・長期休業時における昼食（給食センターによる完全給食が望ましいが補食給食だけでも十分）の提供。 ・栄養補給が出来るようなおやつ（手作りおやつ等）の提供 ・洋服のリサイクル、絵具セットなどのおさがり・寄付など。まだ使える日用品などを保護者会単位で譲り合う。 ・子どもの学習への取り組み方に配慮すること。（宿題を行う時間を確保すること、宿題に取り組む姿勢を育てること、学習支援を行っている機関を紹介すること、等）。 ・子どもの身につけている物や言動から、子どもや保護者が困っていることに気づくこと。 ・子どもが、安心、安全で居られる場所となること。おやつを提供すること。 ・他児との関わりの中で、自分を肯定できるような成長の手助けとなること。 ・学童保育所において、異年齢の子ども集団の中で過ごすうちに身に付けていく「非認知能力」の伸展、すなわち子どもが「生きる力」を身につけるための支援をすること。 ・子どもたちの生活の場と遊びの場として、学童保育所が発展していくこと。 ・子どもが安心して過ごせる場所を作ってあげること。 ・困難な状況の中でも安心して過ごせる居場所となること。そのうえで、人や社会とかかわる力、困難を乗り越えていこうとするたくましさも育んだり、基本的な生活習慣を身に付けていけたりするようにサポートする。 ・貧困を理由に不当な扱いを受けたり自信を失ったりしないように子どもを見守り支える。 ・子どもの心が豊かであるよう、季節の行事やおやつ・遊びを通して子どもが社会の中で育っていけるよう支援していくこと、また、子どもだけではなく保護者が安心して就労できるように子育ての共感を持ち、子どもの育ちを一緒に見ていくことも学童保育所の役割だと思っている。 ・子どもにとって、保護者以外の大人と関わり、保護者には相談できないことや抱えている悩みやストレスを、職員に話せるような居場所（心の平安を保てる場所）にすること。おやつを通じて食べることの楽しさを感じてもらうこと。 ・無料でできるワークショップやあそびの場をつくる。 ・コロナの状況などが緩和されれば、食事作りなどを行って、楽しみながら栄養補給や食の学びなどができるようにする。おやつなどの献立の内容も考える。 ・学童保育所は児童福祉事業であり教育ではないので学習支援には限界があるため、学習支援を行う施設との連携を整える。貧困は教育の格差を生む最大の要因であると思う。 ・貧困世帯に該当する子どもたちが安心して過ごせる居場所づくり。食や学習を支えてくれるところでもある。

<p>相談体制の充実と情報提供、支援へのつなぎ</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに悩む世帯と直接、触れ合える位置にあることから、子育て支援に関する窓口としての役割を持たせること。学童保育所の支援員が、子育て全般に関する相談員の役割を兼ねること。 ・保護者が子育てについて悩みなどを話した際に、市や県、国の子育て支援制度をお伝えしたり、パンフレットを渡して情報提供の窓口になったりすること。 ・学童保育所利用中の保護者だけではなく、退所した元保護者でも気楽に相談を受け付けるようにできれば良いと思う。相談があった時は、適切な関係機関に繋ぐことができる。 ・保護者が安心して、何でも相談できる場所になること。 ・保護者が信頼し相談できる場所となり、学童保育所としての就労支援をしていく。 ・こういった支援の機関があるか保護者にお知らせすることが、今できる支援。 ・貧困だと思われる家庭を関連機関に繋げる。 ・相談窓口の利用方法などについて積極的に情報提供する。 ・保護者からの相談を受け止め、助言したり必要な窓口につなげたり、保護者の困りごとに即座に対応することが必要。 ・学童保育所職員が、子育て支援の相談相手として専門性を高められるように関係機関の講義を受講する。また必要な資格取得を行政が支援する。 ・専門性のある相談員が学童保育所を巡回して保護者の相談を受ける（出張相談所のようなもの）。 ・保護者の様子を伺い、相談に乗ること。 ・保護者が困っている状況をいち早く察知することができれば“親と行政”を繋いでいくこともできる。
<p>他の機関との連携と情報共有</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの生活状況や、保護者の家庭環境をきめ細やかに観察することができる学童保育所の長所を生かすため、学童保育所が得た子育て支援に関する情報について、学校や関係機関への情報提供や情報共有を定期的実施するシステムを制度化すること。 ・小学校や児童相談所、市の子ども家庭総合支援センターと緊密に連携し、貧困が疑われる世帯や児童虐待が疑われる世帯について定期的に情報共有を行う会議体に常時、参加する。学童クラブの会事務局や市役所の学童担当部署に、そうした対応を行う仕事の連絡調整官を配置する。 ・学校や教育委員会との連携を今まで以上に深め、子どもたちの様子を共有しつつ、大きな視点で包括的な支援策を構築することが必要と思う。 ・子どもの様子がいつもと違うと感じた場合、すぐに関係機関との連携を取れるように準備しておく。 ・各関係機関との連携をしながら、家庭を支援していくこと。 ・経済的理由で学童保育に在籍できない世帯があるが、そうした世帯こそ学童保育所に入所してもらい、日常生活の様子を把握し、関係各機関と情報を共有し、子どもにとって必要な支援を提供していくことが重要。 ・学童保育所として知りえた情報を、速やかに他関係機関に繋ぐこと。 ・小学校や他の非営利団体など関係機関との緊密な連携ネットワークの構築、制度化も必要。 ・情報を得たら、関係機関とつながれるようにすぐに報告をするなど、パイプ役になれるようにする。 ・関係機関と連携をとり、情報共有していくことが必要であると思う。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者や子どもの異変に気づき、すぐに関係機関に知らせることが大事な役割だと思う。 ・ 貧困の家庭を職員で把握し、関係機関に情報提供する。 ・ 子ども、保護者の変化を敏感にキャッチし、対話をし、得た情報を専門機関につなげていく。 ・ 学童保育所の現場で見たり聞いたりした社会の実態を関係機関に伝えて共有し、今後の支援策や制度の充実に役立つための情報提供とする。 ・ 家庭の状況を把握し必要に応じて関係機関に連携を取りたいと思う。
<p>保護者同士の交流促進</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在は経済的・時間的余裕がなく保護者が孤立しがちであり、悩みを抱えたままになりがちである。そのような保護者を支援するため、保護者同士が会話したり関わったり共助できる保護者の連携組織（保護者会など）を保つ環境づくりが必要と考える。 ・ 保護者同士の繋がり場となり、子育ての悩み、相談に寄り添う場となること。 ・ 保護者が孤立しないよう職員だけでなく、保護者同士の輪を広げ、子育ての孤立化を防ぐこと。 ・ 保護者会等で保護者同士が繋がる機会を作る。 ・ 貧困問題について学び、職員だけでなく保護者にも理解を広めていく。 ・ 同じ境遇の保護者が集える場を設けることが必要だと思う。貧困を抱えながら教育やしつけ、発達状況等について同じように悩んでいる保護者同士でコミュニケーションをとり、不安を軽減させるような取り組みが必要だと思う。
<p>支援制度の改善、充実</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学童保育所の保育料の減免、負担軽減 ・ 保育料以外に保護者の金銭的負担が重くならないようにすること。 ・ 経済的な理由で退所となることがないような措置を考えていく。 ・ 社会福祉協議会などと連携して日用品や学用品の提供をする。 ・ 貧困家庭や児童の相談窓口となったり、場合によっては一時受け入れを行うことも可能とする施設を、上尾市と協働で整備できれば、より強力な支援の場とすることができると期待している。 ・ 就労支援も設置目的である学童保育所が特別支援児の家庭の支援として存在することができるよう、特別支援児を主な受け入れ対象とした学童保育所の設置が必要であると考えている。 ・ 学童保育所の福祉機能を強化すること（食事の提供、学習支援、巡回相談支援員の配置、地域の児童民生委員や関係機関との定期的な協議体常設、生活困難家庭児童の一時保護）が、市民生活の安定にも寄与するものと考えられる。 ・ 貧困世帯への対応（情報収集、相談窓口、紹介窓口、一時保護センター等の機能）には、学童保育所の機能を拡充して活用することが、貧困対策として新たな制度や設備を用意するよりも時間的および財政的なコストも抑えつつ効果的な対応を早期に実現するために必要であると認識している。 ・ 学童保育所に必要な経済的負担を早期に解消するような補助金制度の充実が間に合わない場合、放課後子供教室に貧困世帯の児童が参加するように働きかけることで、セーフティーネットにつなげることが可能であるとも考えられる。ただし、その場合の放課後子供教室は、児童の居場所提供という本来の目的に加え、児童の健全育成を事業目的として持っている組織が担うことが適切であると考えている。

第3部

調査結果のまとめ

I アンケート調査より

※○は保護者（就学前児童保護者、小5・中2児童生徒保護者）、●は子ども（小5・中2児童生徒、中学卒業以降子ども）を対象とした調査の内容を表す。

1. 生活困難層の保護者や家庭の傾向

① 生活困難層の属性や特徴

- 生活困難層の割合は、調査全体では9.4%であったが、調査対象の年齢が上がるごとに生活困難層の割合は微増し、中学2年生保護者では、全体の1割にのぼっている。県調査と比較してもほぼ同様の傾向を示している。
- 生活困難層の回答者は「母親」が圧倒的に多く、家族構成は「母子世帯・父子世帯」と「祖父母または祖父母のいずれかと母子・父子」が就学前児童保護者で3割台、小5・中2児童生徒保護者では5割を超える。
- 居住形態については、生活困難層ではいずれの調査でも「持ち家」の割合が中間層・非該当層に比べ低く、4割程度である。
- 子どもの人数で『3人以上』との回答は、就学前児童保護者では生活困難層ほど多く、小5・中2児童生徒保護者では、『3人以上』との回答は中間層が最も多いものの、生活困難層では「4人」「5人以上」などの回答比率がその他の層に比べ高いなど、生活困難層で多子の傾向が見られる。
- 家庭で使用する言語については、いずれの調査でも「日本語」との回答が9割以上を占めるが、小5・中2児童生徒保護者の生活困難層で「中国語」や「英語」「スペイン語」などの日本語以外の回答が合計で6.2%ほど見られる。
- 親の婚姻状況については、生活困難層では「離婚」が就学前児童保護者で3割、小5・中2児童生徒保護者で4割台半ばである。
- 養育費の取り決めについては、小5・中2児童生徒保護者では、『受け取っていない』人は生活困難層ほど多くなっている。

② 親の学歴や就労について

- 親の最終学歴は、いずれの調査においても母親に比べ父親で学歴が高い傾向にある。また、生活困難層はいずれの調査でも、母親、父親ともに「中学まで」「高校まで」の割合が高くなっている。
- 親の就労状況について、母親はいずれの調査においても生活困難層では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」との回答が多く「正社員、正規職員、会社役員」の割合は、1割程度である。母親の働いていない理由は、いずれの調査でも「子育てを優先したいため」が多いが、生活困難層では、「自分の病気や障害のため」「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」「求職活動をしているが、採用にいたらない」などの回答が他の層を大きく上回る。

○日中以外の勤務については、いずれの調査においても、生活困難層ほど「土曜出勤」「日曜・祝日出勤」が多い傾向が見られる。また、母親に比べ父親で「早朝」「夜勤」「深夜勤務」などの変則的な勤務時間を回答する割合が高くなっている。

③ 生活・経済状況

○世帯の年間収入は、いずれの調査も生活困難層では300万円未満までの回答が8～9割を占める。

○現在の暮らしの状況について、いずれの調査においても『生活が苦しい』（「苦しい」「大変苦しい」との回答の合計）割合は、生活困難層がその他の層を大きく上回る。（生活困難層6～8割>中間層4割>非該当層1～2割）特に、就学前児童保護者で9割近くと深刻である。

○過去1年間に経済的な理由により、食料や衣服が買えないといった状況が、「よくあった」「ときどきあった」との回答は、いずれの調査においても生活困難層がその他の層を大きく上回り、就学前児童保護者で特にその傾向が強い。

○過去1年間に経済的な理由による公共料金等の未払い経験では、「あった」との回答は、いずれの調査でもすべての項目で生活困難層がその他の層を大きく上回る。ライフラインである電話・電気・ガス・水道などの公共料金や家賃の滞納は、子どもの命にも関わるおそれがある。本調査では、県調査を参考に選択肢を、払えないことが「あった」「なかった」「払う必要がない（該当しない）」の3択としているが、今後の調査においては支払いができなかった頻度についても注視する必要があるものと考えられる。

④ 心身の健康状態、悩みや不安

○保護者の健康状態については、就学前児童保護者に比べ小5・中2児童生徒保護者で、生活状況による差が大きく見られる。『健康状態が悪い』（「あまりよくない」「よくない」との回答の合計）割合は、生活困難層ほど高く2割を超える。

○回答者（保護者）自身の気持ちについて、いずれの調査においても「何をするのも面倒だと感じた」など多くの項目で『気持ちの落ち込みが強い』（「いつも」「たいてい」との回答の合計）割合は、生活困難層ほど多い傾向にある。ただし、同じ生活困難層でも就学前児童保護者の方が『気持ちの落ち込みが強い』割合が高くなっている。

○現在の悩みや不安について、いずれの調査においても生活困難層で「経済的に困っている」「老後の生活設計について」との回答が他の層を大きく上回る。小5・中2児童生徒保護者調査では「自分の健康状態がよくない」や「仕事と子育ての両立が困難である」割合も高い。

生活困難層の保護者に見られる傾向としては、ひとり家庭の母親が多いこと、就労状況は、パートタイム等の非正規雇用が多いことがあげられる。一方で、ふたり親世帯であっても、学歴が中卒や高卒など、非該当層に比べて低いことや、子どもの数が多いほど生活困難に陥りやすい傾向が見られる。

生活困難層に多いひとり親世帯では、仕事と家事負担がひとりの保護者に集中することから、子どもとの時間が十分にとれない等、保護者にかかる身体的、精神的な負担が大きいものと考えられる。そのため、ひとり親の保護者が相談しやすい体制づくりや生活や自立に向けた支援が求められる。

また、保護者調査では、生活困難層ほど悩みや不安を多く抱え、精神的不安や健康不安を抱える割合も多くなっている。特に、就学前児童保護者の生活困難層で精神的不安や生活が苦しいとする割合が高いことから、母子健康手帳の交付時や各種の訪問指導、乳児家庭全戸訪問事業等の機会を捉え、生活困難に陥りやすい傾向のある保護者の早期の把握を行うとともに、本人の希望を尊重しながら、必要な支援制度や専門相談へとつなげることが重要である。

併せて、生活困難層で就労や仕事と家庭の両立に関する悩みを抱える保護者が多いことを受け、就労支援や多様な就労に対応した保育、企業への働きやすい環境づくりの働きかけについても取り組む必要がある。

2. 支援に対する意向や相談相手

- 無償で食料・食材を提供する支援活動であるフードパントリーの利用意向について、生活困難層で5～6割程度である。
- 子どもが食事できる居場所の利用意向について、小5・中2児童生徒保護者では、生活困難層ほど高く、4割台半ばである。
- 子どもに関する悩みや困り事の相談先は、就学前児童保護者調査では、生活困難層ほど「家族」「身近な人」等の各項目の回答の割合が低く、「相談できる人はいない」割合が他の層を上回り、約1割となっている。
- 支援制度の利用では、いずれの調査においても生活困難層で「児童扶養手当」、小5・中2保護者調査では「就学援助」の「利用したことがある」割合が高くなっている。一方で、その他の支援制度については、生活困難層ほど「支援制度を知らない」「知っているが利用の仕方が分からない」割合が高い傾向が見られる。また、「生活保護」については、いずれの層も「利用したいと思わない」割合が高くなっている。
- 必要とする支援については、いずれの調査も生活困難層で「子どもの就学・進学にかかる費用の援助」「就学に必要な制服・文具等の学用品、部活動への支援」「学校の授業以外での無料の学習支援」などの教育に関連した経済的支援のニーズが高くなっている。一方で、就学前児童保護者調査では生活困難層で「住宅を探したり、住宅費を軽減する支援が受けられること」や「離婚や養育費のことなどについて専門的な支援が受けられること」が他の生活状況に比べ突出して多くなっている。

保護者調査では、生活困難層ほどフードパントリー（食料支援）や子どもが食事できる居場所の利用意向が高くなっている。現在、NPOやボランティアを中心に子ども食堂が市内6か所、フードパントリーが市内4か所で開催されていることから、必要とする人が利用しやすい周知方法や仕組みづくりが求められる。

また、保護者調査では、生活困難層で就学援助や児童扶養手当の利用経験が多くなっているが、その他の支援制度については、知らない・利用の仕方が分からない等の回答が多い。支援制度については、その対象者や制度の内容・目的、利用方法などの情報が真に必要とする人に届き、適切な利用に結びつくよう、制度の周知方法の工夫が必要である。

生活困難（貧困）が親の世代から子どもの世代へと連鎖することは、国をはじめとするさまざまな調査からも報告されている。貧困の連鎖を断ち切るためにも、次代の子ども達が健やかに成長し、夢や進学希望を叶えることができるよう切れ目のない支援を行うとともに、ライフステージの各段階での適切な支援が求められる。

3. 子どもの教育や進学について

① 子どもとの関わり方

○子どもとの関わり方について、就学前児童保護者では、「子どもの語りかけに、じっくり耳を傾けて応じる」や「子どもと一緒に絵本を見たり、読み聞かせをする」「子どもが興味を持ったことを一緒に調べる」、小5・中2児童生徒保護者では、「子どもが小さいころ絵本の読み聞かせをしていた」などで『あてはまらない』（「どちらかといえばあてはまらない」「あてはまらない」との回答の合計）割合が生活困難層で他の層を大きく上回る。

② 学習環境や学習習慣

●小5・中2児童生徒では、生活困難層ほど「自分の使う部屋」や「勉強机」で「持っていないので欲しい」割合が高くなっている。中学卒業以降子ども調査においても、生活が苦しい層ほど「自分の部屋」「電子辞書」「インターネットにつながるパソコンやタブレット」を「持ちたいが持っていない」割合が高い。

●小5・中2児童生徒では、生活困難層ほど「ゲーム機・スマートフォン等でゲームをする」、非該当層ほど「勉強や宿題」「学習塾」「習い事」等にかかる時間が長くなっている。中学卒業以降子どもにおいても、生活にゆとりがある層ほど学校の授業以外の勉強時間は長い。

○子どもが無料で勉強を教えてもらえる場所について、小5・中2児童生徒保護者では、生活状況にかかわらず利用意向は8割前後と高くなっている。

●支援やサービスの利用意向について、小5・中2児童生徒では、生活困難層ほど「家で勉強できない時、静かに勉強できる場所」「学習支援教室」「進路や勉強、家族のことなどなんでも相談できる場所」、中学卒業以降の子どもでは、生活が苦しい層ほど「家で勉強できない時、静かに勉強できる場所」「低額・無料で通信教育が受けられるサービス」で「使ってみたい」割合が高い傾向にある。

○子どもの学習状況について、小5・中2児童生徒保護者では、『学習の遅れあり』（「やや遅れている」「かなり遅れている」との回答の合計）の割合が生活困難層ほど高く、3割台半ばとなっている。また、生活困難層では「わからない」の割合も高いなど、子どもの学習状況を把握していない保護者の存在も見受けられる。

●学校の授業の理解度について、いずれの調査も『わからない』（「わからないことが多い」「ほとんどわからない」との回答の合計）割合が生活困難層ほど高い傾向にある。

③ 教育費や塾・習い事について

○子どもの保育料や学校教育にかかる費用は、いずれの調査も「1～2万円未満」「2～4万円未満」との回答が多く、生活状況による差は見られない。一方、学習塾・習い事にかかる費用は、生活状況による差が大きく、小5・中2児童生徒保護者では月に2万円以上の費用をかけている割合は、生活困難層が2割台に対し、非該当層では6割台となっている。

○小5・中2児童生徒保護者の習い事や塾に通わせることができなかった経験について、「ある（あった）」割合は、生活困難層が6割に対し、非該当層が2割以下である。教育費の準備についても、「まったく準備できていない」割合は、生活困難層が6割に対し、非該当層

が1割程度となっている。

子どものことで悩んでいることについても「教育費のこと」が生活困難層のみ約6割と突出して多い。

④ 進学について

○子どもの将来の進学について、小5・中2児童生徒保護者では、生活困難層ほど「高校まで」との回答が多い。その理由としては「子どもがそう希望しているから」「家庭の経済的な状況から考えて」との回答が多くなっており、その割合は、生活困難層がその他の層を大きく上回る。

●児童生徒自身の進学の希望について、小5・中2児童生徒調査では、生活困難層ほど「高校まで」、非該当層ほど「大学（4年間）またはそれ以上」の割合が高くなっている。また、保護者調査と比較すると、「高校まで」との回答は児童生徒に比べ保護者で多くなっている。（児童生徒 21.8%＜保護者 27.0%）

子どもの気持ちを大事にする会話や読み聞かせ等は、子どもの非認知能力（気づく力や人と関わる力など、社会を生き抜く力）を伸ばす上で有用とされているが、保護者調査では、生活困難層ほどそうした働きかけが難しいとの回答が多くなっている。生活状況に関わらず、子どもの健やかな育ちが保障されるよう、すべての子どもが質の高い教育・保育を受けられる環境整備が求められる。

保護者調査では、生活状況にかかわらず子どもが無料で勉強を教えてもらえる場所のニーズは高い。一方で、生活困難層ほど学習の遅れや習い事・塾に通わせることができない家庭が多いことを踏まえ、学校での学習による基礎学力の定着を基本に、現在、生活困窮世帯等や一部のひとり親家庭を対象に行っている学習支援教室において、一人ひとりの理解度に合わせた寄り添い型の学習支援を今後も継続する必要がある。

また、保護者調査では、生活困難層の教育費への不安が強く表れている。児童生徒の進学の希望が経済的な理由により絶たれることがないよう、国や県をはじめとする高校進学に対する各種給付金や奨学金制度のわかりやすい情報の周知と利用促進が重要である。

4. 子どもの生活や健康について

① 心身の健康

- 子どもの主観的健康感について、小5・中2児童生徒では『健康でない』（「健康ではない」と「あまり健康ではないと思う」の合計）との回答は、中間層で多くなっている。中学卒業以降の子どもでは、生活が苦しい層ほど『健康でない』の割合が高い。
- 子ども自身の気持ちについて、中学卒業以降の子どもでは、生活が苦しい層で「神経過敏（ナーバス）に感じた」や「絶望的だと感じた」で『気持ちの落ち込みが強い』（「いつも」「たいてい」との回答の合計）割合がその他の層を上回る。
- 子どもを医療機関に連れていかなかったことについて、就学前児童保護者では生活困難層で「あった」との回答が非該当層を大きく上回る。その理由は、ほとんどが「最初は受診させようと思ったけれど、様子を見て受診の必要はないと判断したため」であるが、「医療機関が遠く、通院が困難だったため」や「忙しくて医療機関に連れて行く時間がなかったため」との回答も見られる。
- 痛む歯やむし歯の有無について、小5・中2児童生徒では『むし歯あり』（「1本ある」から「たくさんある」との回答の合計）、の割合が生活困難層ほど高くなっている。

② 子どもの生活習慣や食事

- 子どもが学校に行く日（平日）の睡眠時間について、小5・中2児童生徒では『7時間未満』、中学卒業以降の子どもでは『6時間未満』の割合が、生活困難層ほど高いなど、生活困難層で睡眠時間が短い傾向が見られる。
- 子どもの朝食摂取については、『朝食の欠食あり』（1日でも食べない日がある）の割合は、小5・中2児童生徒保護者で、生活困難層ほど高く、2割を超える。
- 子どもの平日の朝食の摂取についても、『朝食の欠食あり』の割合は、小5・中2児童生徒で、生活困難層ほど高く、1割台半ばとなっている。
- 子どもの「朝、食欲がない」ことについて、小5・中2児童生徒で、「よくある」割合が生活困難層ほど高くなっている。
- 支援やサービスの利用意向について、中学卒業以降の子どもでは、生活が苦しい層で「学校における無料の給食サービス」の「使ってみたい」割合が特に高くなっている。
- 学校に行くのは楽しみか（学校生活は楽しいか）について、小5・中2児童生徒では生活状況による差は見られない。中学卒業以降の子どもでは、「楽しい（楽しかった）」割合は、生活にゆとりがある層ほど高くなっている。

③ ヤングケアラーの可能性について

- 小5・中2児童生徒保護者では、「子どもに家事の一部を任せている」が生活困難層で6割台半ば、非該当層で5割台半ばとなっている。
- 小5・中2児童生徒、中学卒業以降の子どもともに、生活困難層（生活が苦しい層）ほど「きょうだいや家族の身の周りの世話」にかかる時間が長くなっている。

子どもの生活習慣や健康については、生活困難層ほど睡眠時間が短く、朝食の欠食の割合が高いことが確認された。そのほか、児童生徒については、生活困難層ほど痛む歯やむし歯がある割合が高く、中学卒業以降の子どもについては、生活が苦しい層ほど不健康だと感じる割合や精神的不安をもつ割合が高い傾向が見られた。

学童期に基本的な生活習慣を身に付けることができるよう、家庭への情報提供や意識啓発を通じた家庭教育の支援、また、健康状態やこころの状態の悪化から不登校などにつながることはないよう、学校、地域、スクールソーシャルワーカー、関係機関等との連携により生活困窮の可能性のある児童生徒の学校生活、家庭生活両面でのサポートが望まれる。

近年、県の条例や計画の策定によりその存在が大きく取り沙汰された「ヤングケアラー」に関連しては、子どもを対象とした調査のなかで、生活困難層ほど「きょうだいや家族の身の周りの世話」にかかる時間が長い、保護者調査からは生活困難層で「子どもに家事の一部を任せている」割合が高い傾向が見られた。それが「お手伝い」の範囲であるのか、学びや遊びなど子どもらしい生活の権利が侵害される「ヤングケアラー」の可能性を示唆するものか判別は難しいが、そうした子どもの存在をまずは教育・子育て支援の関係者が認識し、必要に応じて支援につなげる体制づくりが必要である。

II 関係団体等支援者調査より

1. 保護者や子どもの状況について

① 生活困難家庭との関わり

- ・ヒアリング調査では、多くの団体で生活困難な状況を抱える子どもや家庭との関わりがあることが確認された。保育・教育機関等においては、関わる子どもの年代が上がるほど、そうした子どもや家庭に関する問題が生じる割合が高くなっている。
- ・子どもの抱える困難では、基本的な生活習慣が身につけていない、食をはじめ多様な体験の不足や学習意欲の低下、不登校との関連性などが指摘された。
- ・家庭や保護者については、支援を必要とする人や家庭ほど支援につながりにくいことをはじめ、ひとり親世帯、子どもや保護者の障害、外国籍、DV等複合的な問題を抱えるケースが多いとの指摘があった。
- ・保育・教育機関等と保護者の関係については、保育所や学童保育所で良好な関係の構築できている、保護者に支援しやすい立場にあるとの回答が多かったが、小中学校で保護者と連絡が取れないことや保護者の関心の薄さ、生活状況の把握の難しさ等が指摘された。

② 生活困難家庭とヤングケアラーの関連性

- ・生活困難家庭において、保護者の疾患や障害、多子世帯であること、保護者が外国籍であることを背景に、家事・年下のきょうだいの面倒をみる・保護者の通訳など何らかのケア役割を担う子どもの存在が確認された。

2. 支援・連携の課題

① 支援を行うなかで感じる課題

- ・ほとんどの団体で見守り、団体内での情報共有、家庭訪問、行政支援や学校へつなぐ役割をはじめ、子どもの貧困に対する組織的な支援を行っていることが確認できた。一方で、行政支援につなぐ際の窓口がわからない、スクールソーシャルワーカーやスクールカウンセラー等との情報共有の場がほしい、学校により対応に差がある等の指摘があった。また課題として、支援者に求められる知識や専門性の高さ、支援者が気軽に相談できる場所がない、ボランティアの確保の難しさ等があげられた。

② 関係機関との連携を行うなかで感じる課題

- ・すべての団体で、市をはじめとするさまざまな主体と連携していることが確認できたが、課題として、市以外のネットワークとは連携しているが、行政との連携がないという声や双方向の関係性、守秘義務のある者同士の連携強化を求める声があげられた。

③ 子どもの貧困対策として必要な取組

- ・ 経済的支援・就労支援や相談体制の充実をはじめとする保護者支援の強化、朝食や学校がない日の子どもへの食事の提供、子どもの居場所づくり等の子どもの生活支援、子どもの教育・多様な体験への支援、気になる家庭の見守りと生活困難家庭の早期発見等に関する内容が多くあげられた。
- ・ また、支援団体、保育・教育機関等の立場からは、支援者間の連携・つながりの強化や他の機関との連携と情報共有、地域全体で子どもの貧困に対する理解を深めていく等多くの提案があった。
- ・ 外国人保護者に対する支援として、就学時の手続き支援や各種書類の「やさしい日本語」活用や多言語化の必要性も指摘された。
- ・ 保護者の就労支援としての側面が強い学童保育所で、果たすべき役割として保護者との関係構築、状況把握・早期発見、子どもの生活支援、相談体制の充実と情報提供、公的支援へのつなぎ、他の機関との連携と情報共有等について、特に多くの意見・提案を頂いた。

上尾市子どもの生活実態調査
結果報告書

令和3年12月発行

発行 上尾市 子ども未来部 子ども支援課